
玉野市 男女共同参画に関する意識調査

－ 報告書 －

令和 3 年 6 月
玉 野 市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 調査設計	1
4 回収結果	1
5 報告書の見方	2
II 回答者の属性	3
1 性別	3
2 年齢別構成	3
3 職業別構成	4
4 未既婚	5
5 共働きの状況	6
III 調査結果	7
【1】男女平等意識について	7
1 男女の地位の平等意識	7
【2】職業生活について	24
1 望ましいと思う女性の働き方	24
2 現在の社会の女性の働きやすさ	27
3 女性が働きにくい理由	29
4 育児休業の取得状況	31
5 育児休業の取得期間	32
6 育児休業を取得できなかった理由	33
7 介護休業の取得状況	34
8 介護休業を取得できなかった理由	35
9 結婚や妊娠・出産に伴う働き方の変化	36
10 結婚や妊娠・出産に伴い仕事をやめた理由	38
11 職場における男女の扱い	40
【3】ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	47
1 日常生活の理想と現実	47
2 ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なこと	50
3 地域活動への参加状況	52

【4】家庭生活と男女の役割について----- 54

- 1 結婚と家庭に関する考え方----- 54
- 2 子育てに関する考え方----- 60
- 3 家庭での役割分担----- 62

【5】人権について----- 66

- 1 セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、
パワー・ハラスメントの経験----- 66
- 2 DV（配偶者等からの暴力）の経験----- 70
- 3 デートDV（交際相手からの暴力）の経験----- 72
- 4 DVの相談状況----- 74
- 5 DVについて、だれにも相談しなかった理由----- 76
- 6 DVをなくすために必要な取組----- 78
- 7 DV被害者のために必要な支援----- 80

【6】防災への取組について----- 82

- 1 防災における男女共同参画を推進するために必要なこと----- 82

【7】LGBT など性的少数者について----- 84

- 1 LGBT など性的少数者の認知状況----- 84
- 2 LGBT など性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うか----- 85
- 3 LGBT など性的少数者が生活しやすい社会にするために必要な取組----- 86

【8】男女共同参画を推進するための取組について----- 88

- 1 玉野市男女共同参画推進センターの利用状況----- 88
- 2 玉野市男女共同参画推進センターで推進すべき取組----- 90
- 3 男女共同参画の推進に必要なと思う施策----- 92
- 4 女性に対する人権意識や女性の地位の改善状況----- 94

IV 自由意見回答結果----- 96

資料／調査票----- 107

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女の地位の平等、男女の役割分担意識やワーク・ライフ・バランスなど、市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、「第5次たまの男女共同参画プラン」策定のための基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進のための参考資料とすることを目的として実施した。

2 調査の内容

- (1) 男女平等意識
- (2) 職業生活
- (3) ワーク・ライフ・バランス
- (4) 家庭生活と男女の役割
- (5) 人権
- (6) 防災
- (7) L G B Tなど性的少数者
- (8) 男女共同参画の推進

3 調査設計

- (1) 調査地域：玉野市全域
- (2) 調査対象：本市に居住する18歳以上の男女1,500人
(女性750人・男性750人)
- (3) 対象者抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布・回収及び電子申請サービスを用いたインターネットによる調査
- (5) 調査期間：令和2年9月29日～令和2年10月20日

4 回収結果

- (1) 回収数：736件（回収率49.1%）
- (2) 内訳

	回答数				
		うち 女性	うち 男性	うち その他	うち 無回答
郵送回答	606件	345件	259件	0件	2件
インターネット回答	130件	68件	62件	0件	0件
合計	736件 (49.1%)	413件 (56.1%)	321件 (43.6%)	0件 (0.0%)	2件 (0.3%)

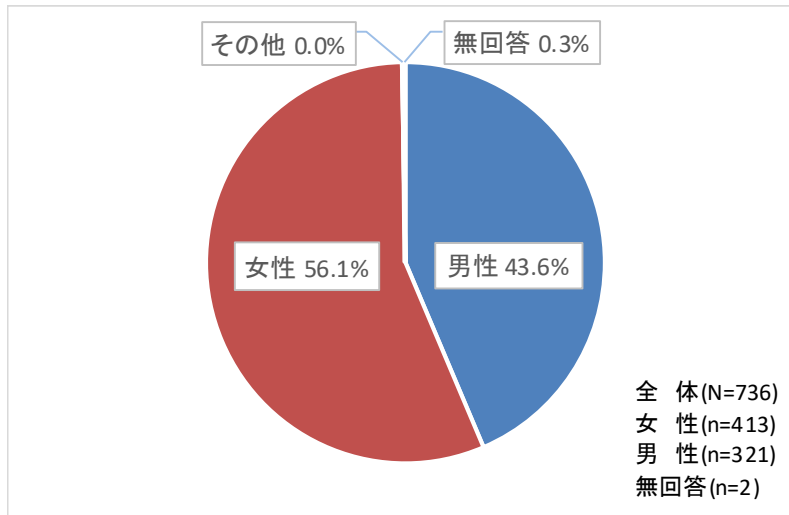
5 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出した。そのため、複数回答の設問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数*を「n」で表記している。
※（例）問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における「男性」や「30歳代」など、限定された回答者数
- (4) 図表中における年齢層別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢層別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、過去に実施した調査（平成28年9月実施、平成22年7月実施）との比較を行っている（図表中ではそれぞれ「前回調査」、「前々回調査」と表記）。
また、設問によっては、国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年9月実施）」や「女性の活躍推進に関する世論調査（平成26年8月実施）」、岡山県の「岡山県男女共同参画社会に関する県民意識調査（令和元年10月実施）」との比較を行っている（図表中ではそれぞれ「国調査」、「県調査」と表記）。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

1 性別

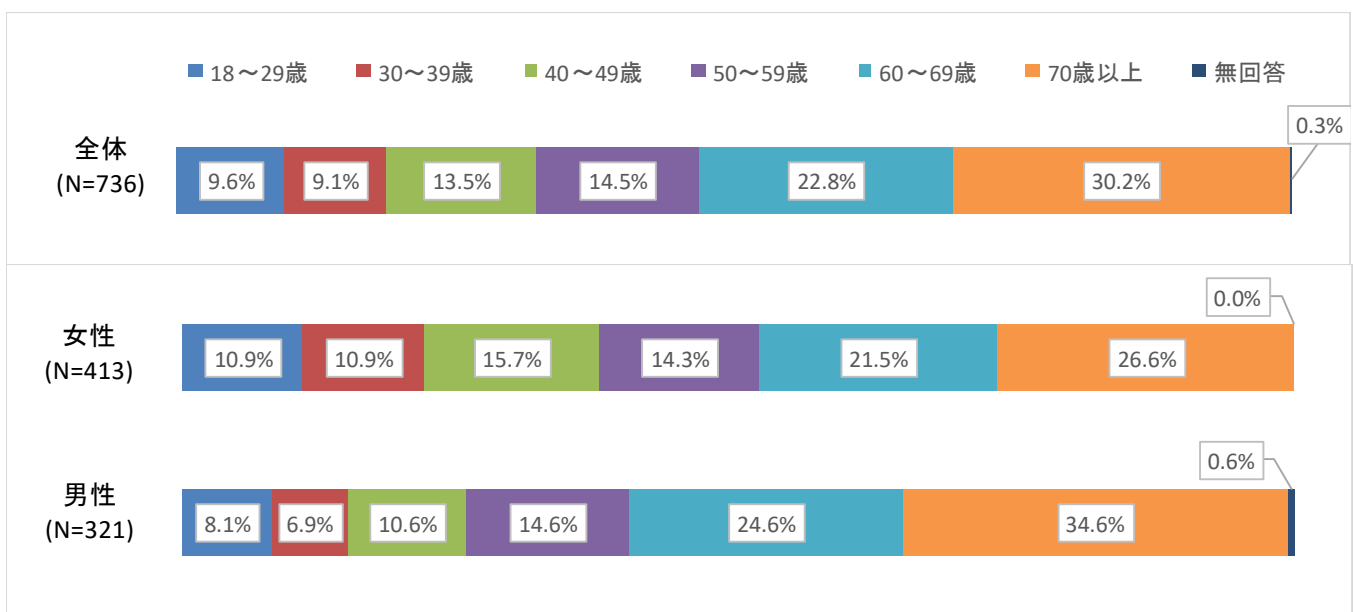
性別構成比は、「女性」56.1%、「男性」43.6%で、女性の割合がやや高い。



2 年齢別構成

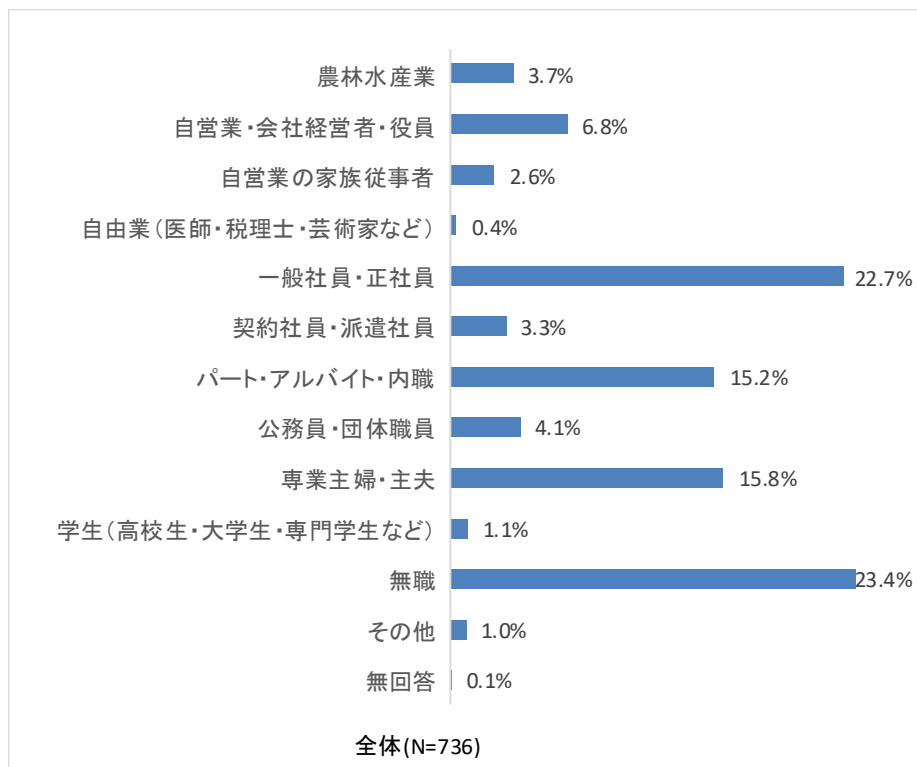
年齢別構成は、「70歳以上」が30.2%と最も高く、次いで「60～69歳」(22.8%)、「50～59歳」(14.5%)と続き、50歳以上で合計6割以上(67.5%)、60歳以上では5割以上(53.0%)を占めている。

性別にみると、女性は「18～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」の割合が男性に比べて高い。一方、男性は、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」の割合が高い。

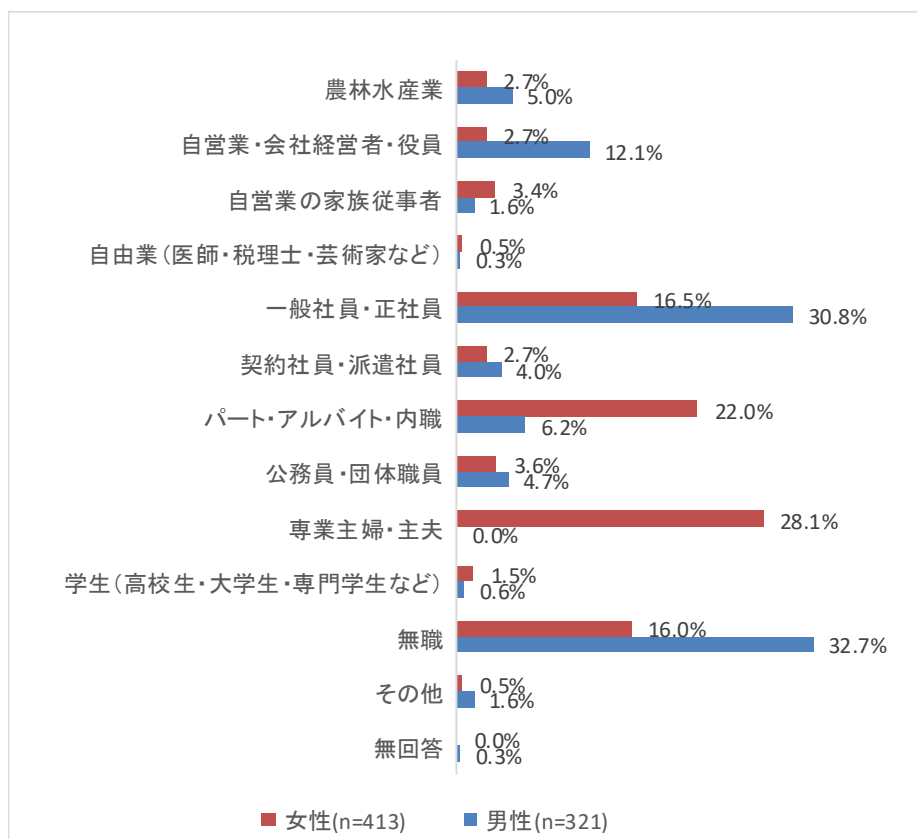


3 職業別構成

職業別構成では、「無職」(23.4%)の割合が最も高く、次いで「一般社員・正社員」(22.7%)、「専業主婦・主夫」(15.8%)、「パート・アルバイト・内職」(15.2%)の順となっている。



性別にみると、女性は「専業主婦」(28.1%)が最も高く、次いで「パート・アルバイト・内職」(22.0%)、「一般社員・正社員」(16.5%)の順となっている。一方、男性は「無職」(32.7%)、「一般社員・正社員」(30.8%)の割合が高い。

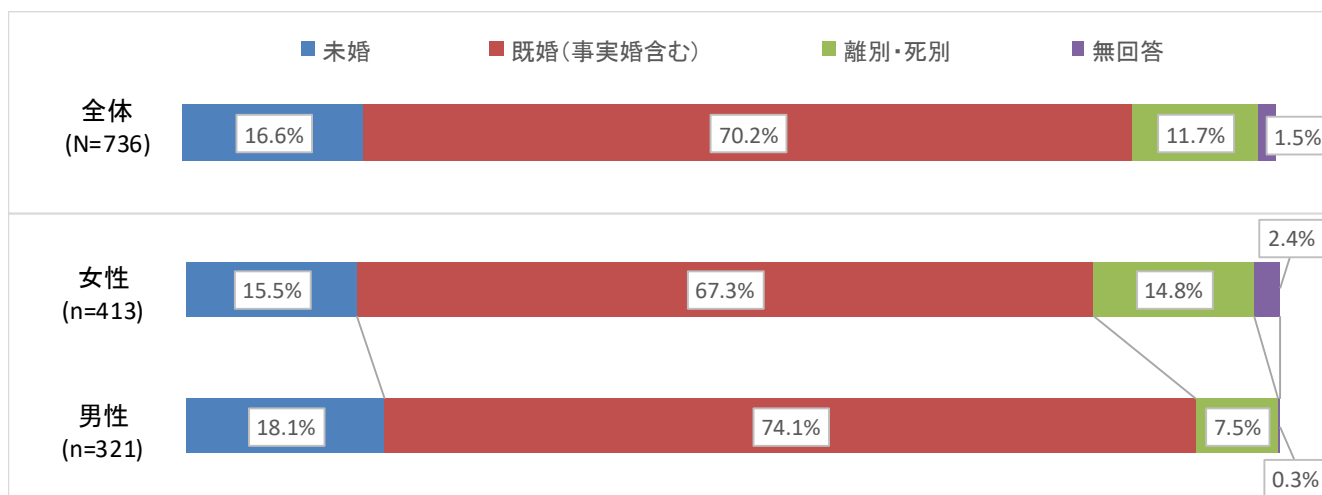


4 未既婚

未既婚については、「未婚」が16.6%、「既婚（事実婚含む）」が70.2%、「離別・死別」が11.7%となっている。

性別にみると、女性は「離別・死別」の割合が高く、男性は「既婚（事実婚含む）」の割合が高い。

性・年齢別にみると、男女とも若い年齢層ほど「未婚」が高くなる傾向にあり、29歳以下の未婚率は女性では75.0%、男性では84.6%となっている。一方、「既婚」は60歳代以上の男性で特に高くなっている。



【女性】

	未婚	既婚	離別・死別
18~29歳(n=44)	75.0%	22.7%	2.3%
30~39歳(n=44)	20.5%	72.7%	6.8%
40~49歳(n=63)	15.9%	79.4%	4.8%
50~59歳(n=58)	12.1%	77.6%	10.3%
60~69歳(n=88)	4.5%	75.0%	20.5%
70歳以上(n=106)	0.9%	70.8%	28.3%

【男性】

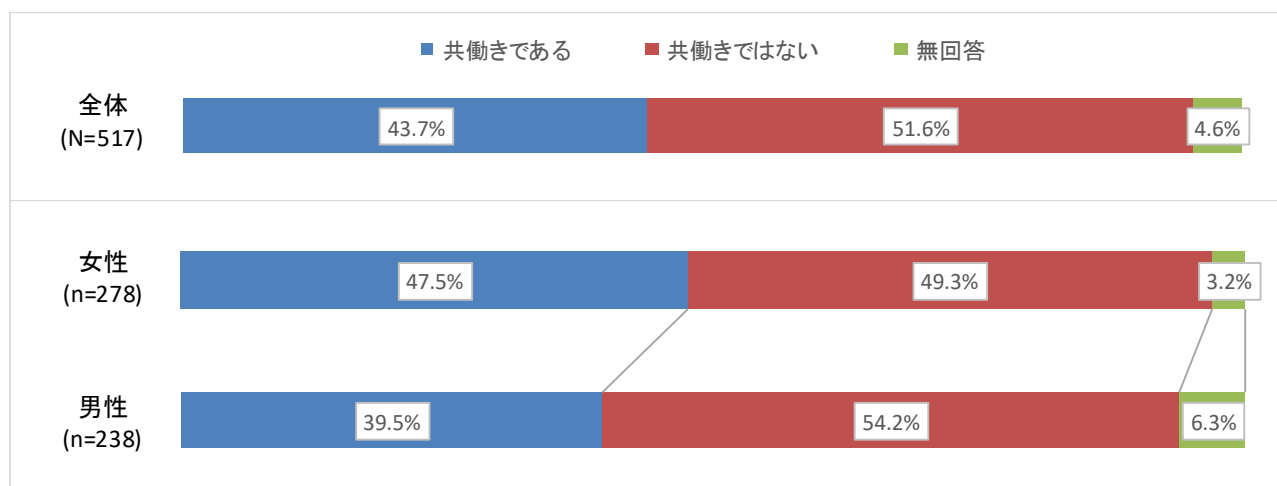
	未婚	既婚	離別・死別
18~29歳(n=26)	84.6%	11.5%	3.8%
30~39歳(n=22)	36.4%	59.1%	4.5%
40~49歳(n=34)	20.6%	79.4%	0.0%
50~59歳(n=46)	15.2%	76.1%	8.7%
60~69歳(n=79)	8.9%	86.1%	5.1%
70歳以上(n=111)	6.3%	82.0%	11.7%

5 共働きの状況

既婚者（事実婚含む）のうち、「共働きである」は43.7%、「共働きではない」は51.6%となっている。

性別にみると、女性は「共働きである」と「共働きではない」の割合がほぼ同程度となっている。一方、男性は女性に比べて「共働きではない」の割合が高い。

性・年齢別にみると、「共働きである」は女性では40歳代と50歳代が高く、男性では40歳代で特に高くなっている。



【女性】

	共働きである	共働きではない
18～29歳(n=11)	54.5%	45.5%
30～39歳(n=33)	69.7%	30.3%
40～49歳(n=51)	78.4%	21.6%
50～59歳(n=44)	77.3%	22.7%
60～69歳(n=66)	34.8%	65.2%
70歳以上(n=72)	12.5%	87.5%

【男性】

	共働きである	共働きではない
18～29歳(n=3)	66.7%	33.3%
30～39歳(n=13)	69.2%	30.8%
40～49歳(n=27)	85.2%	14.8%
50～59歳(n=36)	69.4%	30.6%
60～69歳(n=66)	36.4%	63.6%
70歳以上(n=81)	14.8%	85.2%

Ⅲ 調査結果

【1】男女平等意識について

1 男女の地位の平等意識

問2. あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①から⑧のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

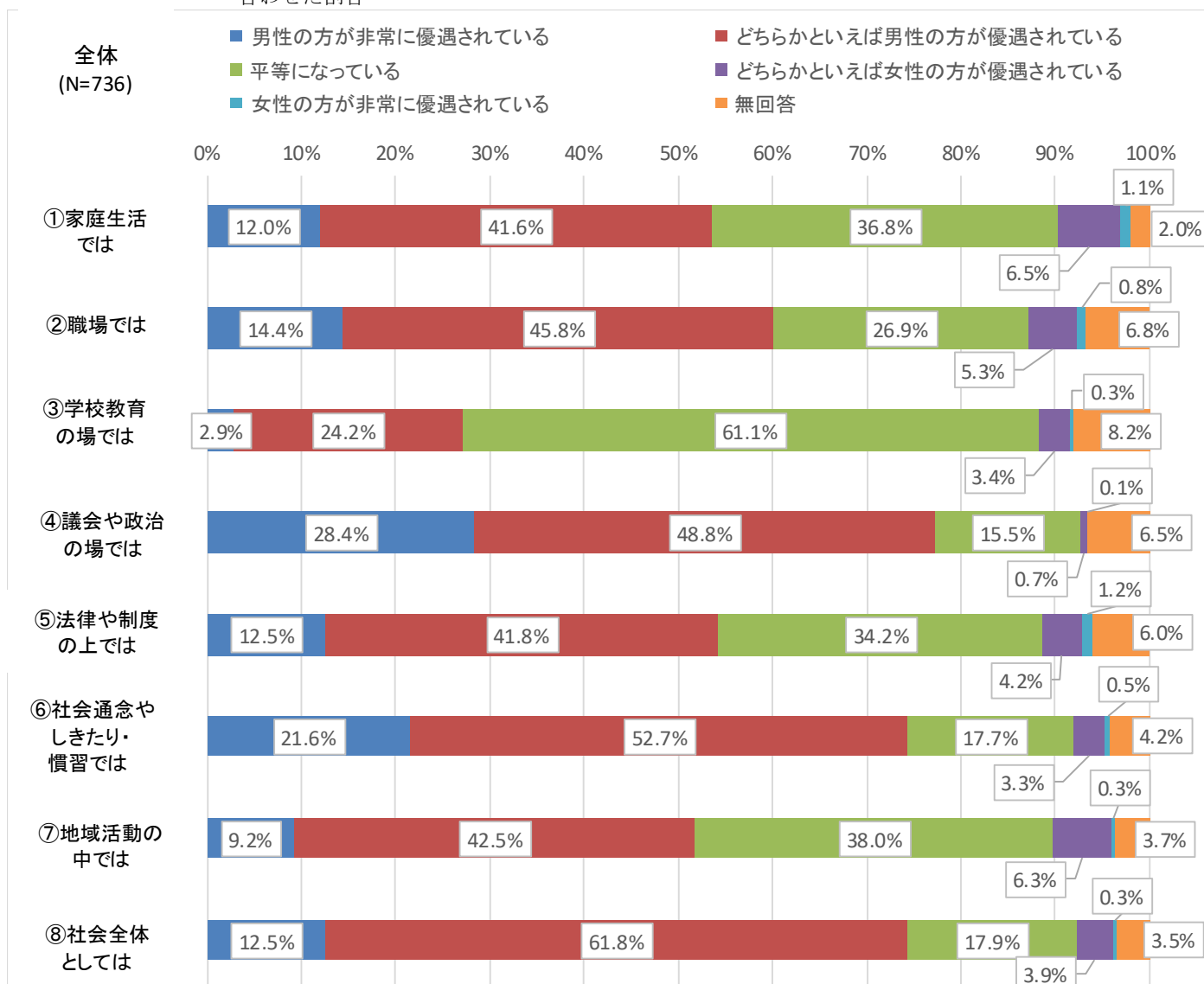
男女の地位の平等意識に関するすべての分野において、『男性優遇*』意識が『女性優遇*』意識を上回っている。

「③学校教育の場では」を除き、『男性優遇』が5割を超え、「④議会や政治の場では」(77.2%)、「⑥社会通念やしきたり・慣習では」(74.3%)、「⑧社会全体としては」(74.3%)で7割を超えている。

「平等になっている」の割合は、「③学校教育の場では」(61.1%)、「⑦地域活動の中では」(38.0%)、「①家庭生活では」(36.8%)の順に高くなっている。

※『男性優遇』…「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合

※『女性優遇』…「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合

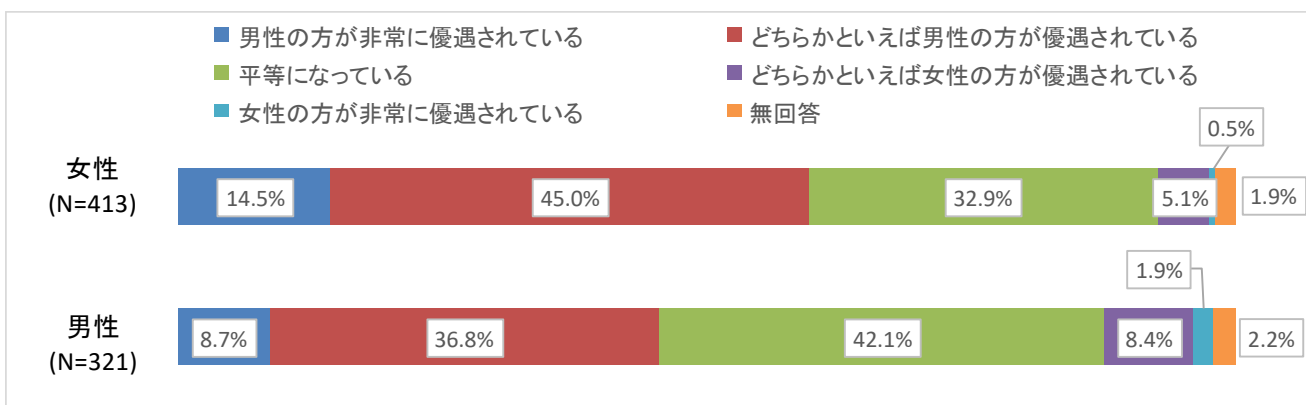


①家庭生活では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『男性優遇』は女性で高くなっており、女性（59.5%）が男性（45.5%）を14.0ポイント上回っている。「平等になっている」は男性で高くなっており、男性（42.1%）が女性（32.9%）を9.2ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では50歳代で、男性では70歳以上で高くなっている。一方、「平等になっている」は、女性では40歳代で、男性では29歳以下で高くなっている。

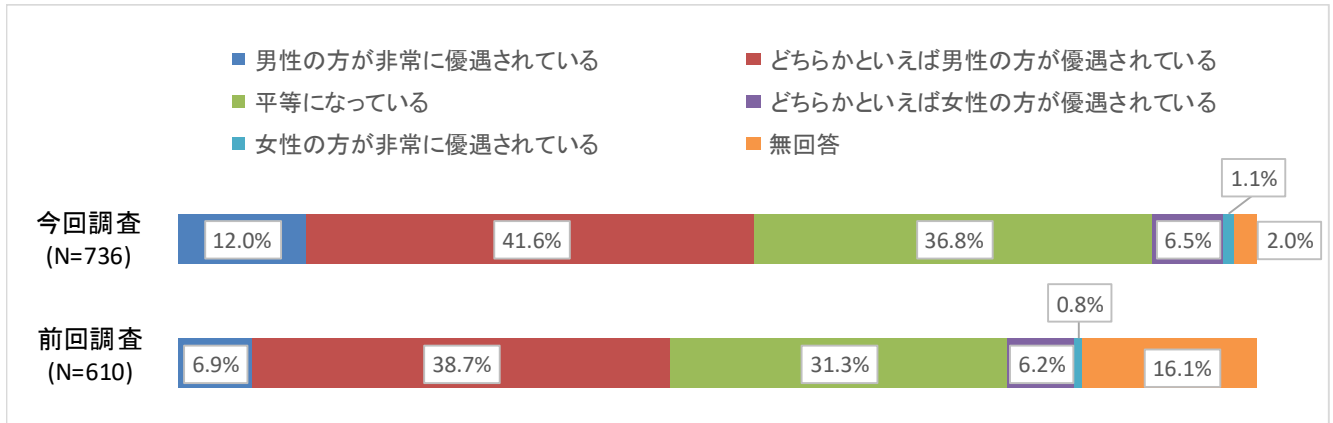


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=44)	11.4%	40.9%	36.4%	11.4%	0.0%
	30～39歳(n=45)	20.0%	44.4%	35.6%	0.0%	0.0%
	40～49歳(n=64)	14.1%	39.1%	43.8%	3.1%	0.0%
	50～59歳(n=58)	13.8%	55.2%	25.9%	3.4%	1.7%
	60～69歳(n=88)	11.4%	44.3%	40.9%	3.4%	0.0%
	70歳以上(n=106)	17.9%	49.1%	23.6%	8.5%	0.9%
男性	18～29歳(n=26)	3.8%	19.2%	65.4%	7.7%	3.8%
	30～39歳(n=22)	0.0%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%
	40～49歳(n=33)	6.1%	30.3%	54.5%	9.1%	0.0%
	50～59歳(n=47)	14.9%	36.2%	42.6%	4.3%	2.1%
	60～69歳(n=76)	9.2%	35.5%	44.7%	9.2%	1.3%
	70歳以上(n=108)	10.2%	49.1%	31.5%	8.3%	0.9%

【前回調査との比較】

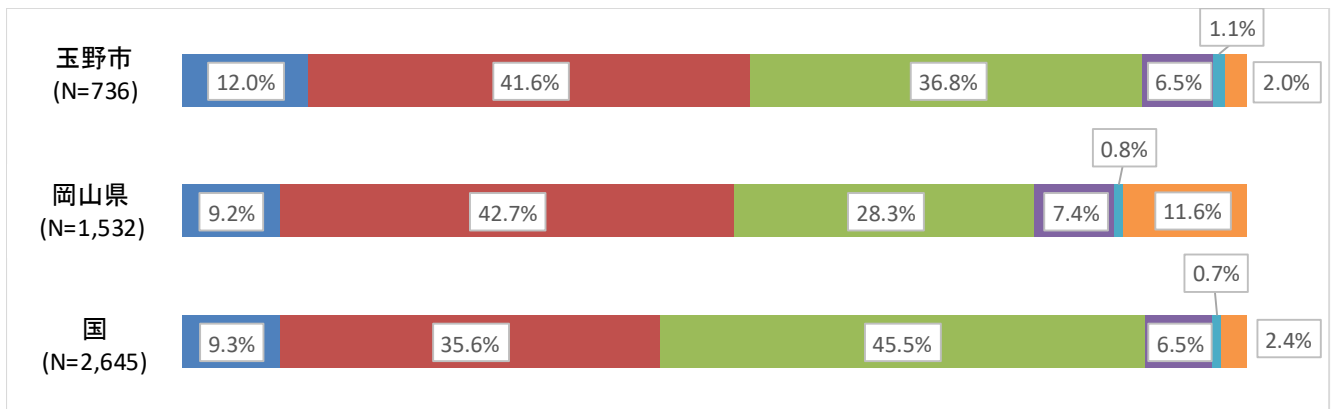
前回調査と比較すると、『男性優遇』、「平等になっている」とも増加している。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、『男性優遇』は県調査と同程度となっている。「平等になっている」は、県調査より高く、国調査より低くなっている。

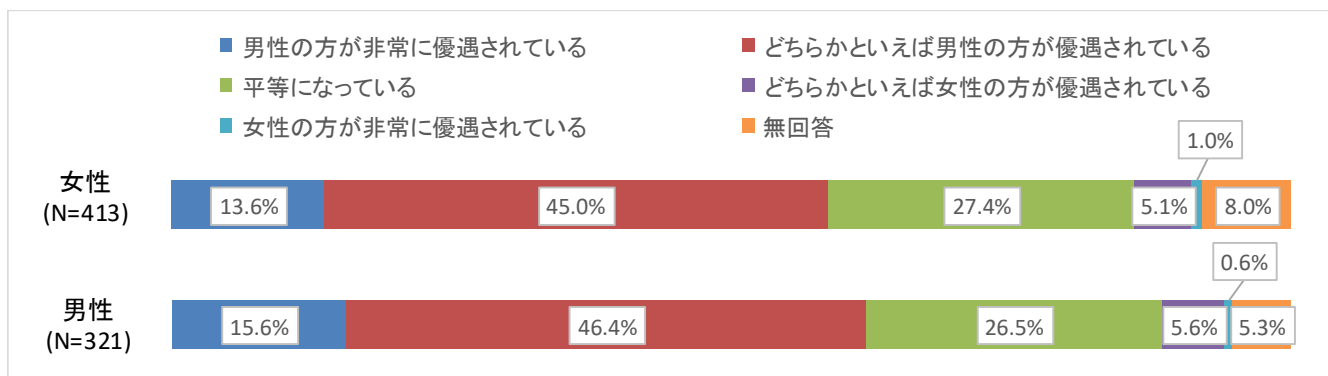


②職場では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『男性優遇』と「平等になっている」の割合について差はあまりみられない。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では70歳代、男性では60歳代で高くなっている。一方、「平等になっている」は、29歳以下の男性で高くなっている。

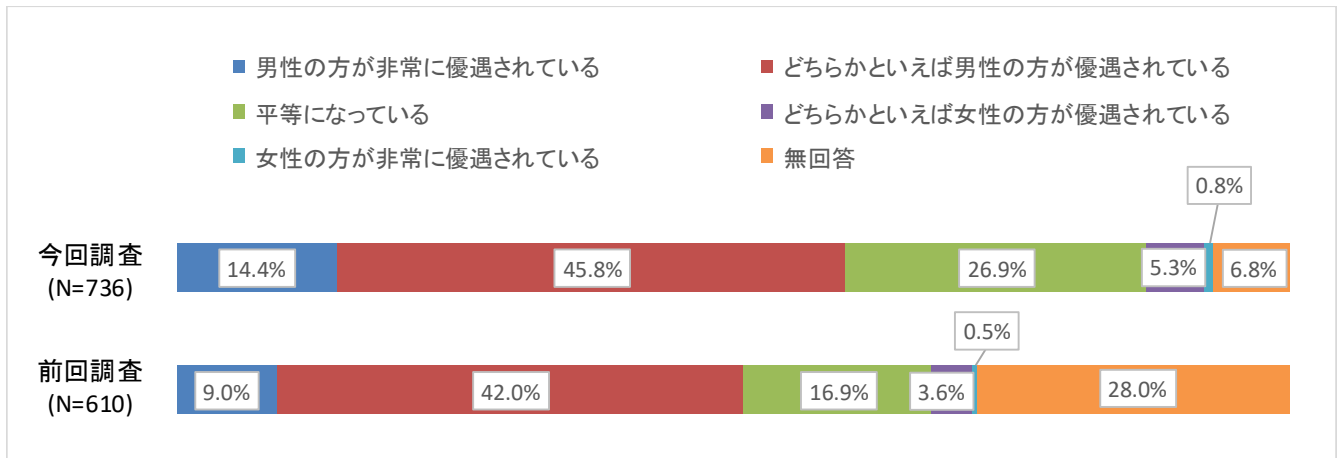


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=43)	14.0%	37.2%	44.2%	4.7%	0.0%
	30～39歳(n=44)	11.4%	27.3%	43.2%	15.9%	2.3%
	40～49歳(n=64)	14.1%	45.3%	35.9%	4.7%	0.0%
	50～59歳(n=56)	19.6%	41.1%	28.6%	8.9%	1.8%
	60～69歳(n=85)	15.3%	57.6%	22.4%	4.7%	0.0%
	70歳以上(n=88)	13.6%	64.8%	19.3%	0.0%	2.3%
男性	18～29歳(n=24)	20.8%	25.0%	50.0%	4.2%	0.0%
	30～39歳(n=22)	18.2%	45.5%	27.3%	9.1%	0.0%
	40～49歳(n=33)	21.2%	36.4%	33.3%	3.0%	6.1%
	50～59歳(n=47)	12.8%	46.8%	34.0%	6.4%	0.0%
	60～69歳(n=74)	12.2%	60.8%	23.0%	4.1%	0.0%
	70歳以上(n=102)	17.6%	52.0%	22.5%	7.8%	0.0%

【前回調査との比較】

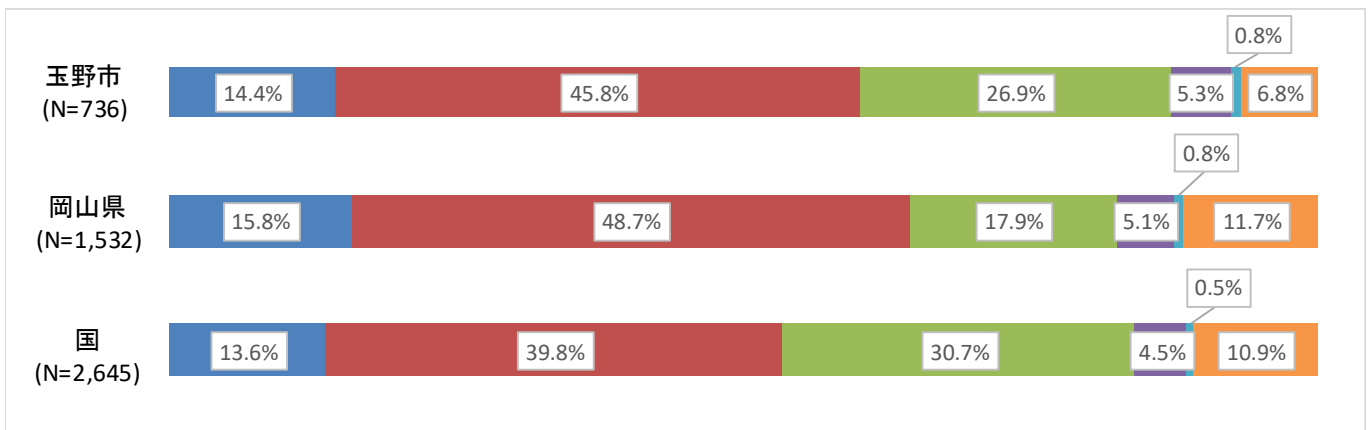
前回の調査と比較すると、『男性優遇』、「平等になっている」の割合ともに高くなっている。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、『男性優遇』は国調査より高く、県調査より低い。「平等になっている」は、県調査より高く、国調査より低くなっている。

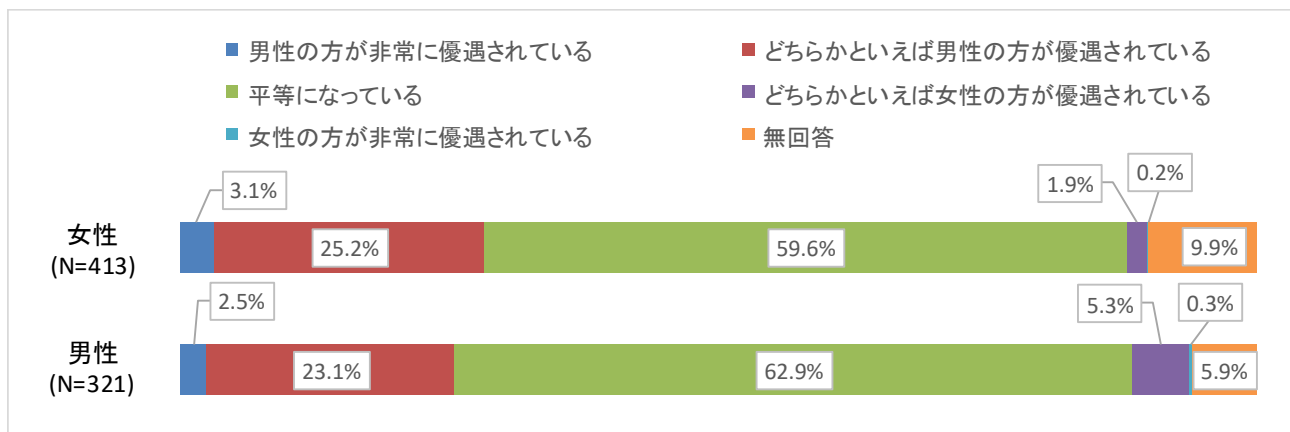


③学校教育の場では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、男女とも「平等になっている」が『男性優遇』を上回っている。

性・年齢別にみると、男女ともすべての年齢層で「平等になっている」が最も高く、29歳以下の若い年齢層で特に高くなっている。

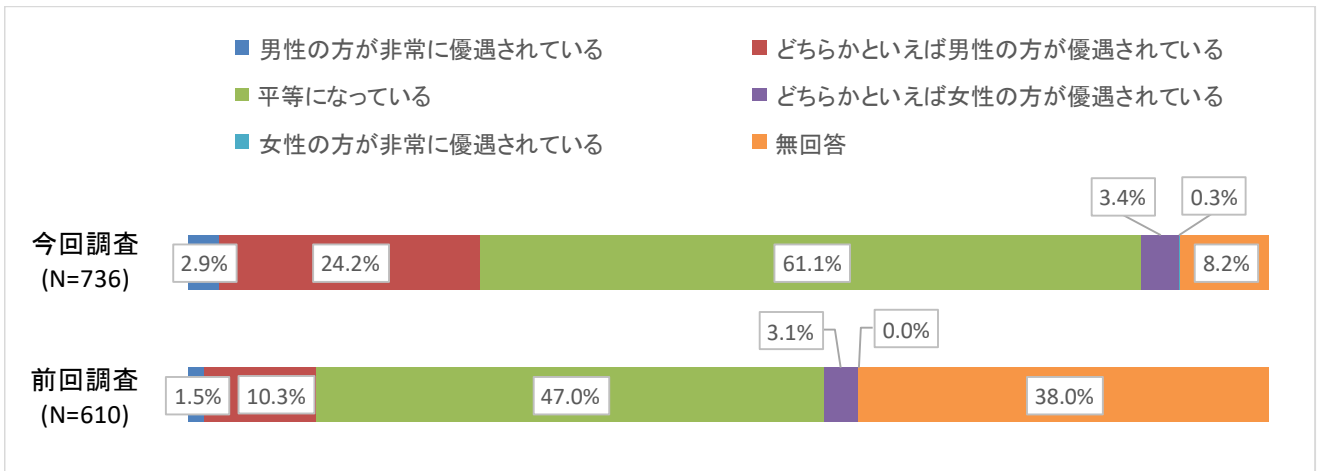


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=44)	0.0%	13.6%	79.5%	6.8%	0.0%
	30～39歳(n=43)	7.0%	18.6%	72.1%	2.3%	0.0%
	40～49歳(n=64)	1.6%	17.2%	76.6%	3.1%	1.6%
	50～59歳(n=56)	3.6%	30.4%	66.1%	0.0%	0.0%
	60～69歳(n=79)	3.8%	43.0%	50.6%	2.5%	0.0%
	70歳以上(n=86)	4.7%	32.6%	62.8%	0.0%	0.0%
男性	18～29歳(n=26)	0.0%	0.0%	88.5%	7.7%	3.8%
	30～39歳(n=22)	4.5%	27.3%	63.6%	4.5%	0.0%
	40～49歳(n=33)	9.1%	6.1%	78.8%	6.1%	0.0%
	50～59歳(n=47)	0.0%	29.8%	66.0%	4.3%	0.0%
	60～69歳(n=72)	0.0%	27.8%	69.4%	2.8%	0.0%
	70歳以上(n=100)	4.0%	31.0%	57.0%	8.0%	0.0%

【前回調査との比較】

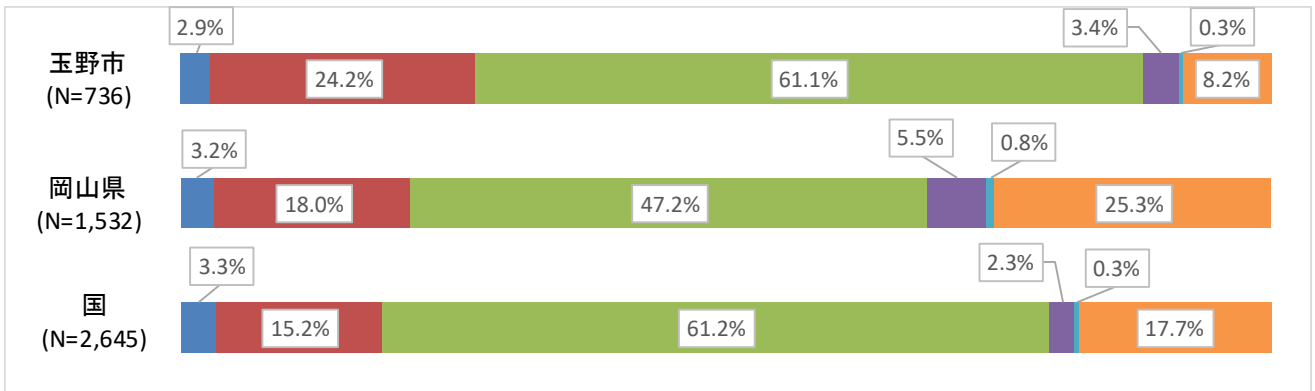
前回の調査と比較すると、「無回答」は大きく減少し、『男性優遇』は15.3ポイント、「平等になっている」は14.1ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、『男性優遇』が高い。「平等になっている」は、県調査より高く、国調査と同程度となっている。

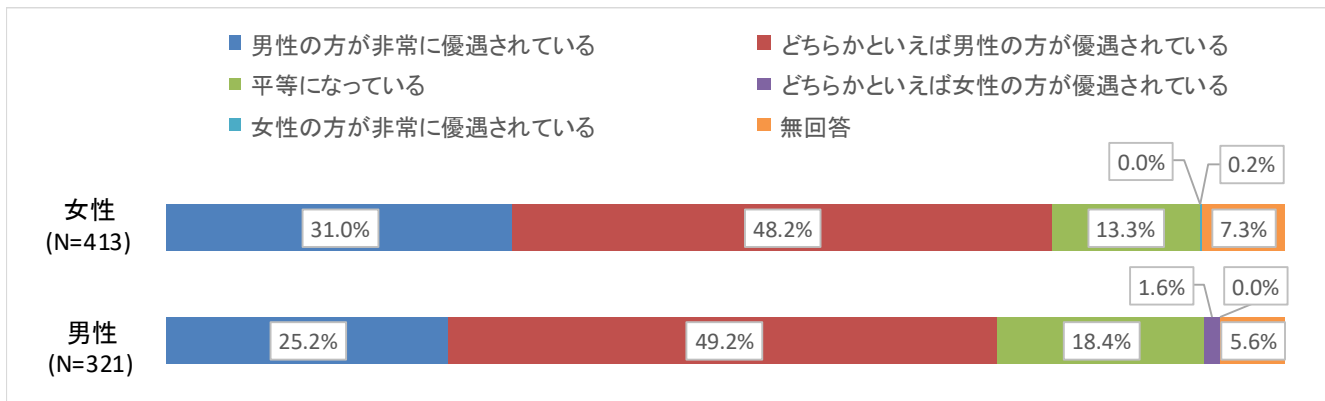


④議会や政治の場では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『男性優遇』は女性（79.2%）が男性（74.4%）を4.8ポイント上回っている。「平等になっている」は、男性（18.4%）が女性（13.3%）を5.1ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では50歳代と70歳以上で、男性では60歳代以上で高くなっている。

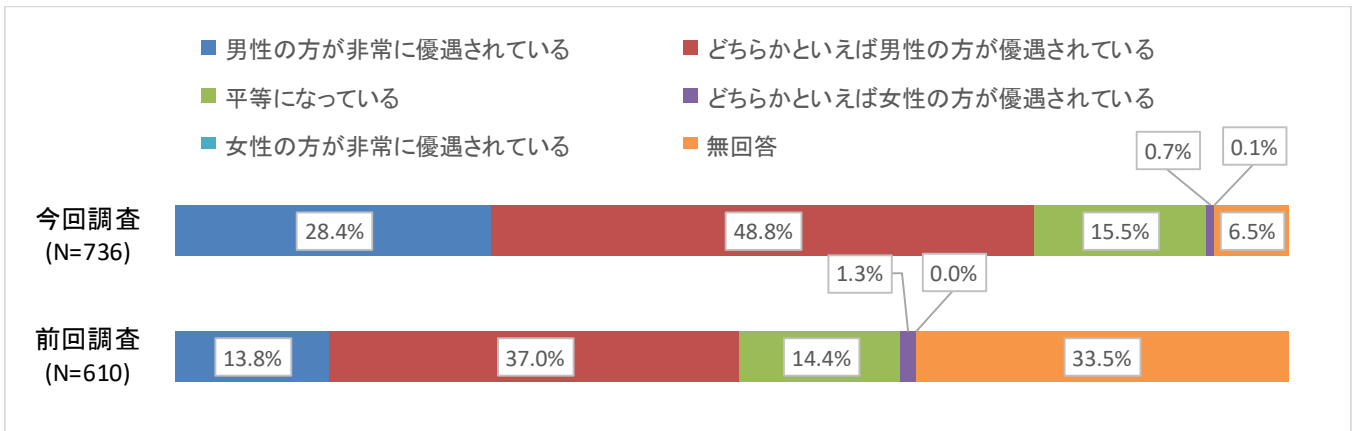


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=43)	27.9%	48.8%	23.3%	0.0%	0.0%
	30～39歳(n=44)	31.8%	56.8%	9.1%	0.0%	2.3%
	40～49歳(n=64)	46.9%	39.1%	14.1%	0.0%	0.0%
	50～59歳(n=58)	29.3%	62.1%	8.6%	0.0%	0.0%
	60～69歳(n=82)	41.5%	45.1%	13.4%	0.0%	0.0%
	70歳以上(n=92)	22.8%	59.8%	17.4%	0.0%	0.0%
男性	18～29歳(n=26)	19.2%	34.6%	46.2%	0.0%	0.0%
	30～39歳(n=22)	40.9%	45.5%	9.1%	4.5%	0.0%
	40～49歳(n=33)	27.3%	48.5%	24.2%	0.0%	0.0%
	50～59歳(n=47)	23.4%	48.9%	25.5%	2.1%	0.0%
	60～69歳(n=74)	28.4%	55.4%	16.2%	0.0%	0.0%
	70歳以上(n=99)	25.3%	58.6%	13.1%	3.0%	0.0%

【前回調査との比較】

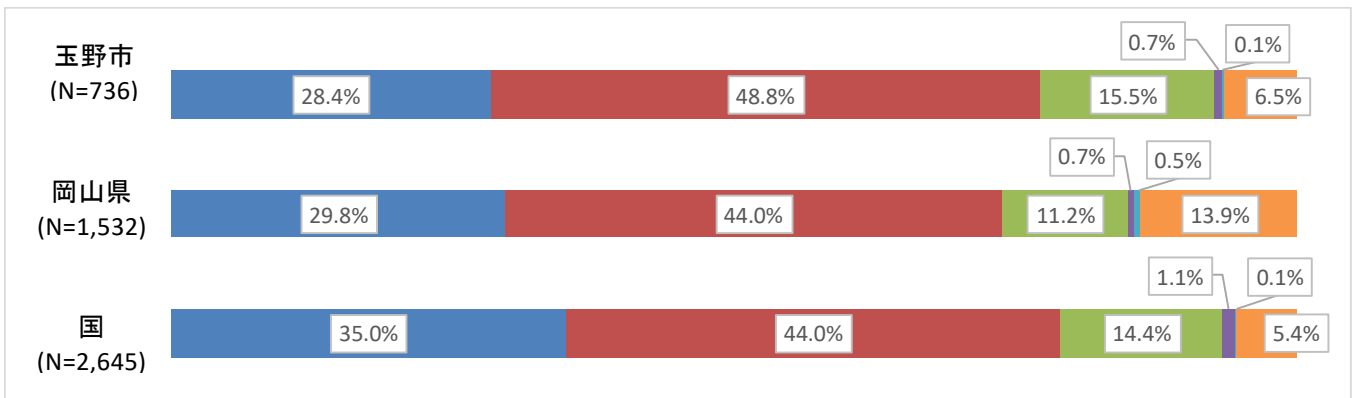
前回の調査と比較すると、「無回答」が大きく減少し、『男性優遇』が26.4ポイント高くなっている。「平等になっている」は同程度となっている。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、大きな差はみられない。

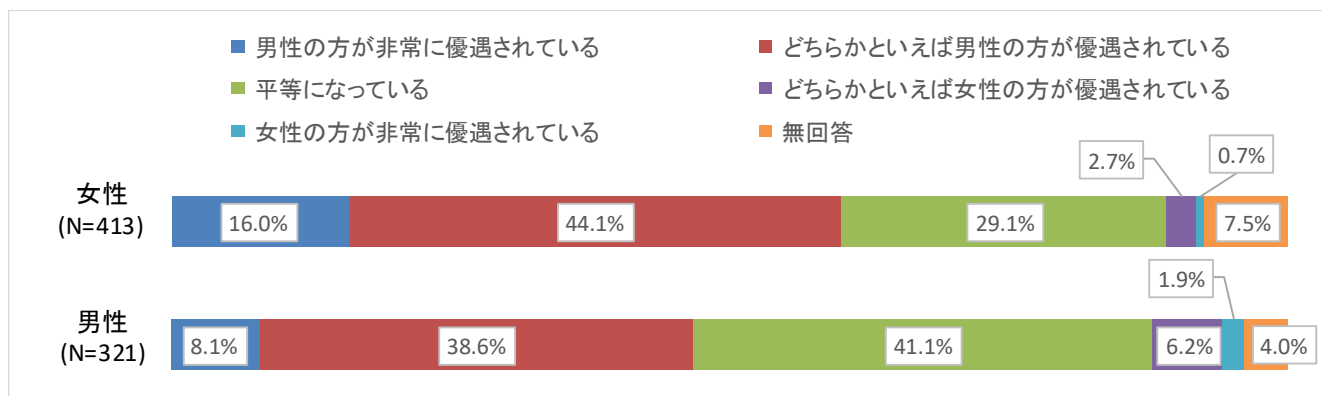


⑤法律や制度の上では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『男性優遇』は女性で高くなっており、女性（60.1%）が男性（46.7%）を13.4ポイント上回っている。「平等になっている」は、男性（41.1%）が女性（29.1%）を12.0ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では60歳代で高くなっている。一方、「平等になっている」は、女性では29歳以下、男性では29歳以下及び70歳以上で高くなっている。

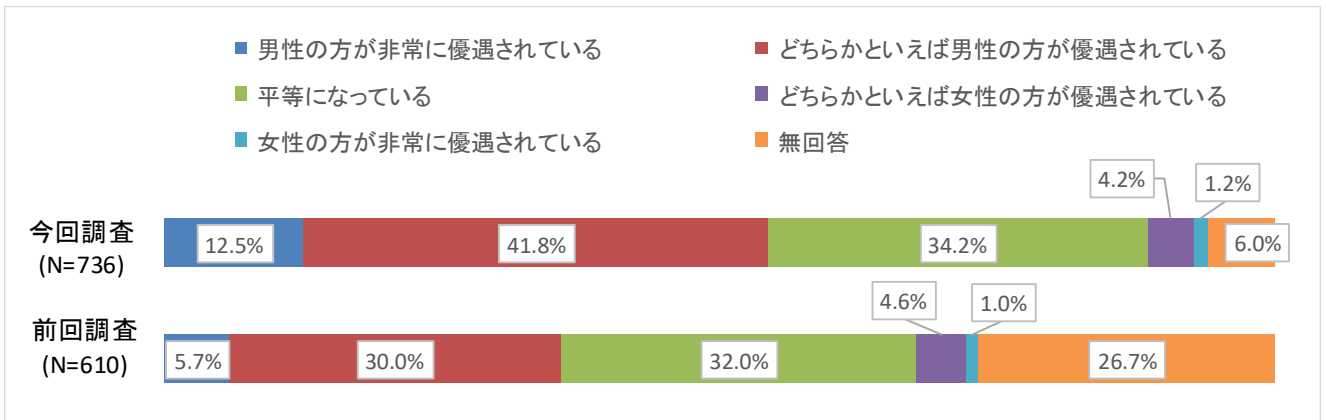


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=43)	14.0%	34.9%	46.5%	4.7%	0.0%
	30～39歳(n=43)	14.0%	51.2%	27.9%	4.7%	2.3%
	40～49歳(n=62)	21.0%	48.4%	27.4%	1.6%	1.6%
	50～59歳(n=57)	14.0%	49.1%	31.6%	3.5%	1.8%
	60～69歳(n=85)	21.2%	54.1%	22.4%	2.4%	0.0%
	70歳以上(n=92)	16.3%	44.6%	37.0%	2.2%	0.0%
男性	18～29歳(n=25)	0.0%	24.0%	48.0%	24.0%	4.0%
	30～39歳(n=22)	13.6%	36.4%	31.8%	13.6%	4.5%
	40～49歳(n=33)	18.2%	33.3%	30.3%	9.1%	9.1%
	50～59歳(n=47)	6.4%	44.7%	38.3%	10.6%	0.0%
	60～69歳(n=76)	10.5%	44.7%	42.1%	2.6%	0.0%
	70歳以上(n=103)	5.8%	40.8%	51.5%	1.0%	1.0%

【前回調査との比較】

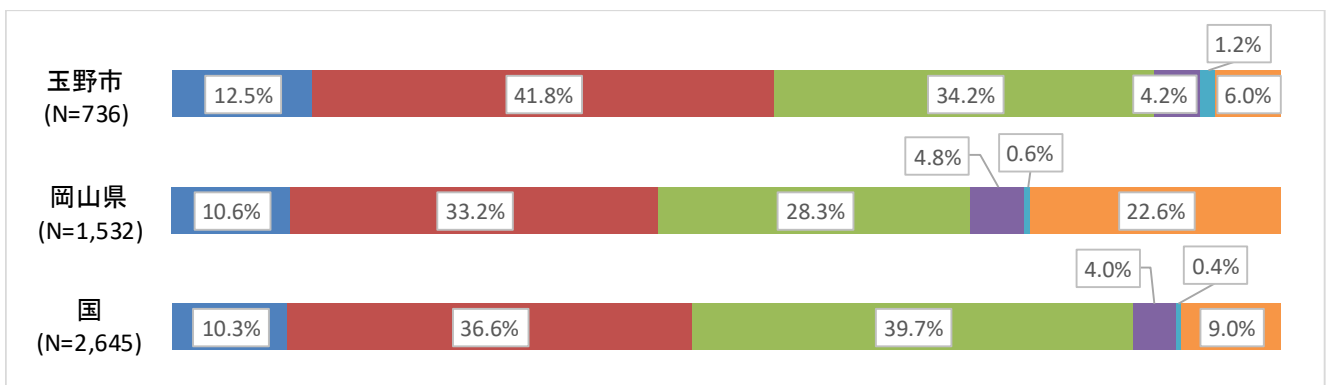
前回の調査と比較すると、「無回答」が大きく減少し、『男性優遇』が18.6ポイント高くなっている。「平等となっている」は同程度となっている。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、『男性優遇』の割合が高い。「平等となっている」は県調査より高く、国調査より低くなっている。

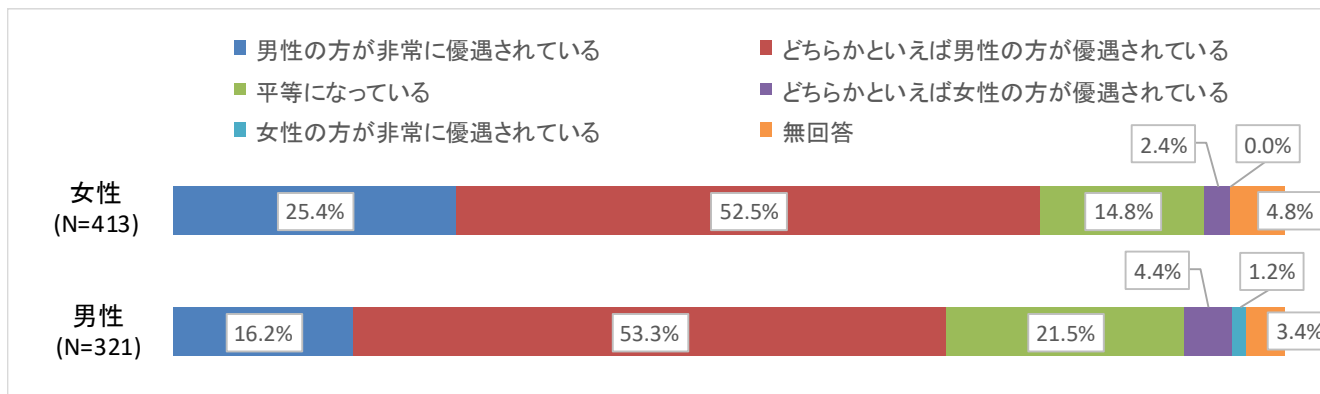


⑥社会通念やしきたり・慣習では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」は女性で高くなっており、女性（25.4%）が男性（16.2%）を9.2ポイント上回っている。「平等になっている」は、男性（21.5%）が女性（14.8%）を6.7ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では60歳代、男性では50歳代で高くなっている。「平等になっている」は、男女とも29歳以下で他の年齢層と比較して高くなっている。

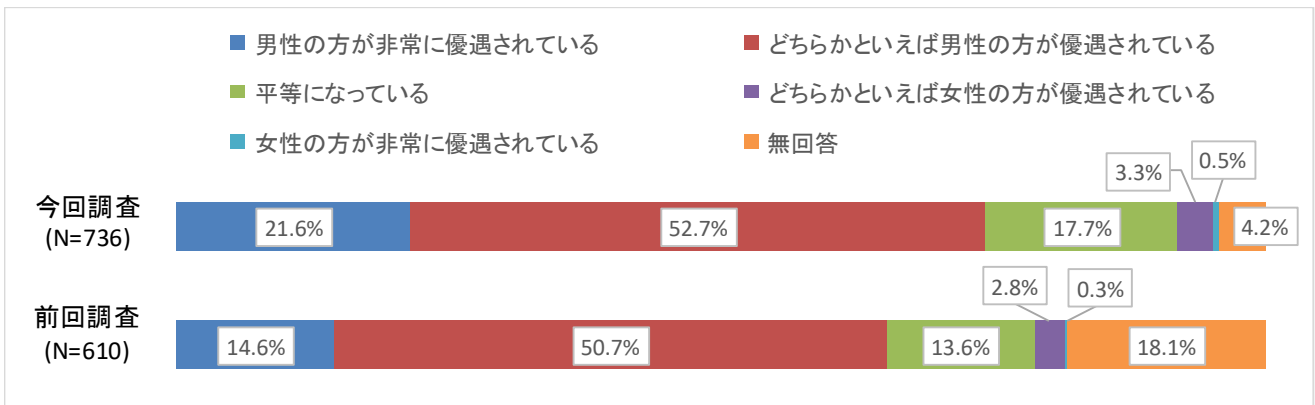


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=44)	18.2%	38.6%	43.2%	0.0%	0.0%
	30～39歳(n=45)	31.1%	53.3%	11.1%	4.4%	0.0%
	40～49歳(n=64)	35.9%	48.4%	9.4%	6.3%	0.0%
	50～59歳(n=57)	31.6%	57.9%	8.8%	1.8%	0.0%
	60～69歳(n=87)	25.3%	63.2%	11.5%	0.0%	0.0%
	70歳以上(n=96)	20.8%	59.4%	16.7%	3.1%	0.0%
男性	18～29歳(n=26)	11.5%	26.9%	53.8%	3.8%	3.8%
	30～39歳(n=22)	22.7%	36.4%	27.3%	13.6%	0.0%
	40～49歳(n=32)	21.9%	53.1%	21.9%	0.0%	3.1%
	50～59歳(n=47)	10.6%	66.0%	17.0%	2.1%	4.3%
	60～69歳(n=76)	21.1%	59.2%	15.8%	3.9%	0.0%
	70歳以上(n=105)	15.2%	58.1%	21.0%	5.7%	0.0%

【前回調査との比較】

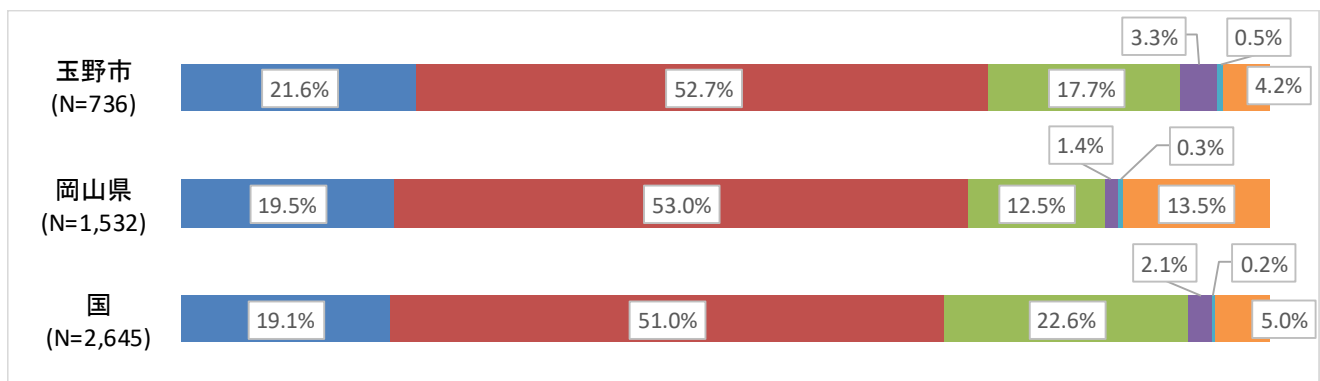
前回の調査と比較すると、『男性優遇』の割合が9.0ポイント高くなっている。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、「平等になっている」は県調査より高く、国調査より低くなっている。

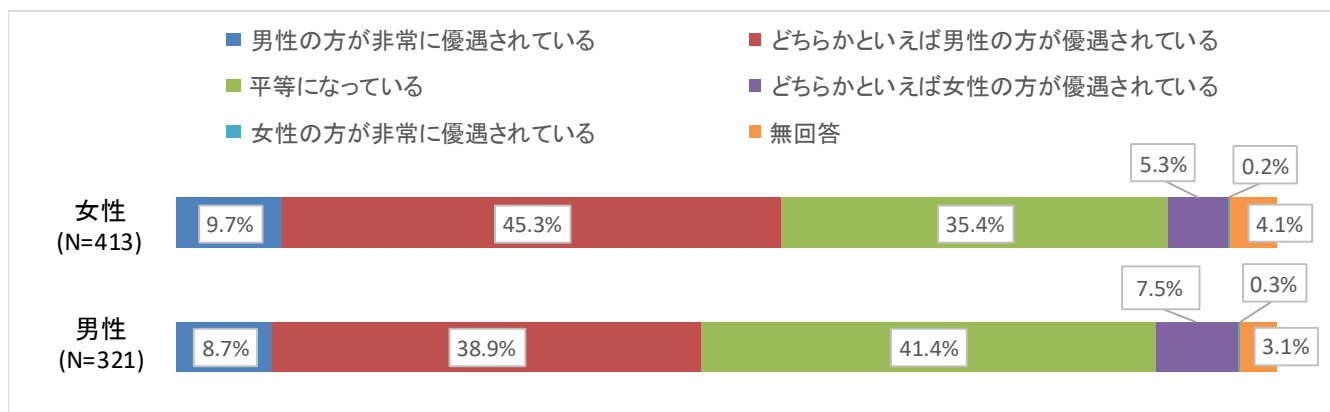


⑦地域活動の中では

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『男性優遇』は女性（55.0％）が男性（47.6％）を7.4ポイント上回っている。「平等になっている」は、男性（41.4％）が女性（35.4％）を6.0ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では60歳以上で高くなっている。「平等になっている」は、男女とも29歳以下で他の年齢層と比較して高くなっている。

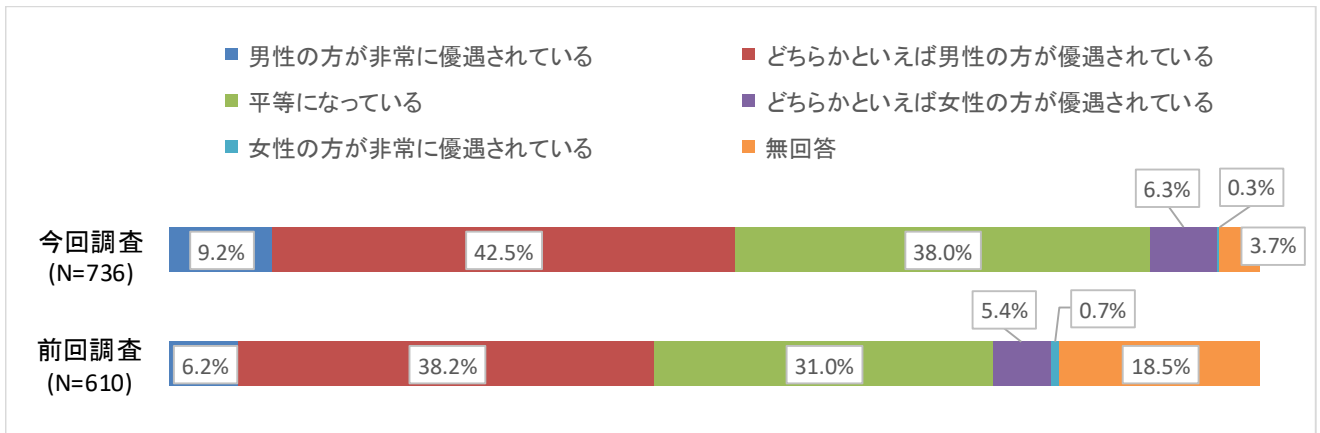


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=43)	2.3%	27.9%	67.4%	2.3%	0.0%
	30～39歳(n=45)	4.4%	46.7%	46.7%	2.2%	0.0%
	40～49歳(n=64)	20.3%	40.6%	35.9%	1.6%	1.6%
	50～59歳(n=58)	12.1%	44.8%	34.5%	8.6%	0.0%
	60～69歳(n=88)	10.2%	54.5%	28.4%	6.8%	0.0%
	70歳以上(n=98)	8.2%	55.1%	28.6%	8.2%	0.0%
男性	18～29歳(n=26)	15.4%	15.4%	65.4%	0.0%	3.8%
	30～39歳(n=22)	13.6%	40.9%	40.9%	4.5%	0.0%
	40～49歳(n=33)	9.1%	36.4%	42.4%	12.1%	0.0%
	50～59歳(n=47)	8.5%	44.7%	40.4%	6.4%	0.0%
	60～69歳(n=75)	9.3%	41.3%	42.7%	6.7%	0.0%
	70歳以上(n=106)	6.6%	44.3%	38.7%	10.4%	0.0%

【前回調査との比較】

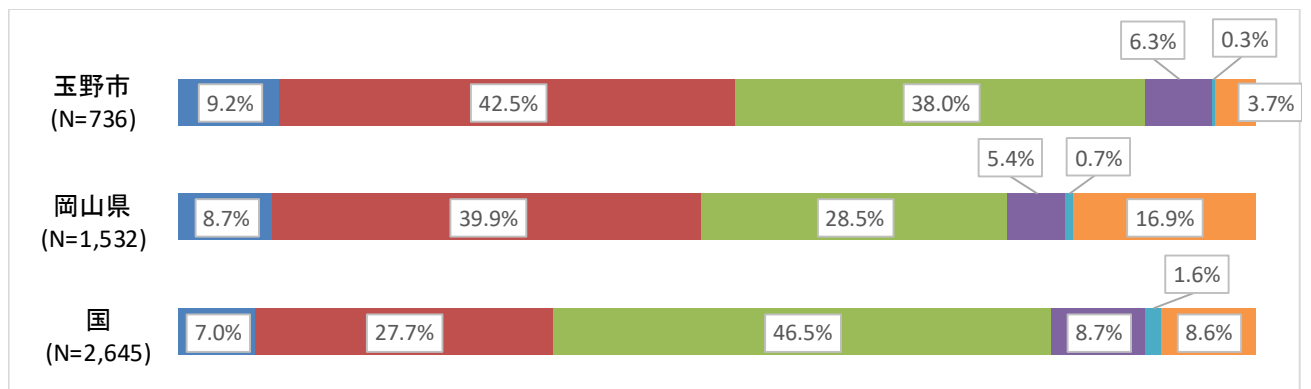
前回の調査と比較すると、「無回答」は減少し、『男性優遇』は7.3ポイント、「平等になっている」は7.0ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、『男性優遇』は県調査と同程度、国調査より高くなっている。「平等になっている」は県調査より高く、国調査より低くなっている。

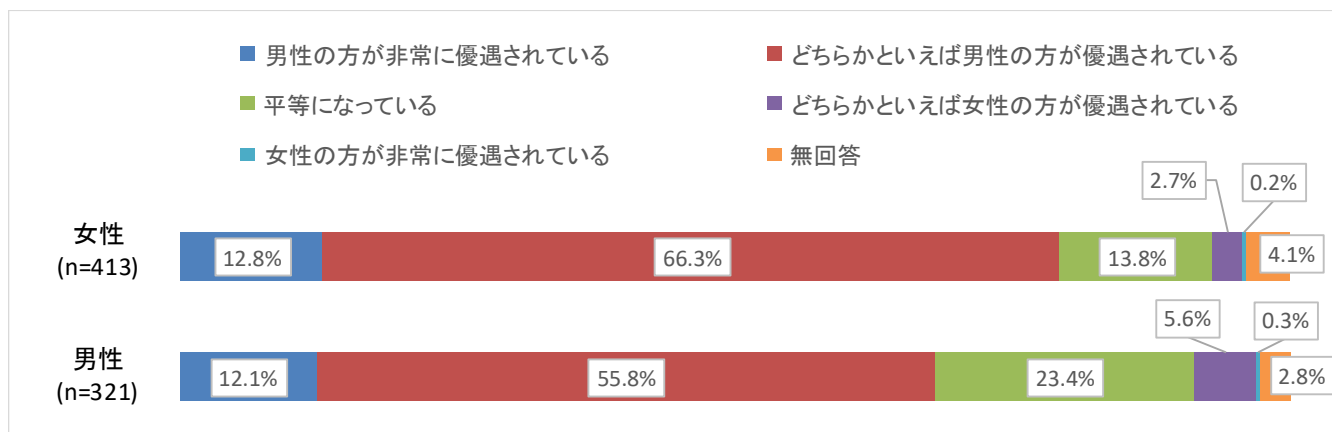


⑧社会全体としては

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は女性で高くなっており、女性（66.3%）が男性（55.8%）を10.5ポイント上回っている。「平等になっている」は、男性（23.4%）が女性（13.8%）を9.6ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、男性29歳以下を除き、男女すべての年齢層で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっている。一方、男性29歳以下では、「平等になっている」が最も高くなっている。

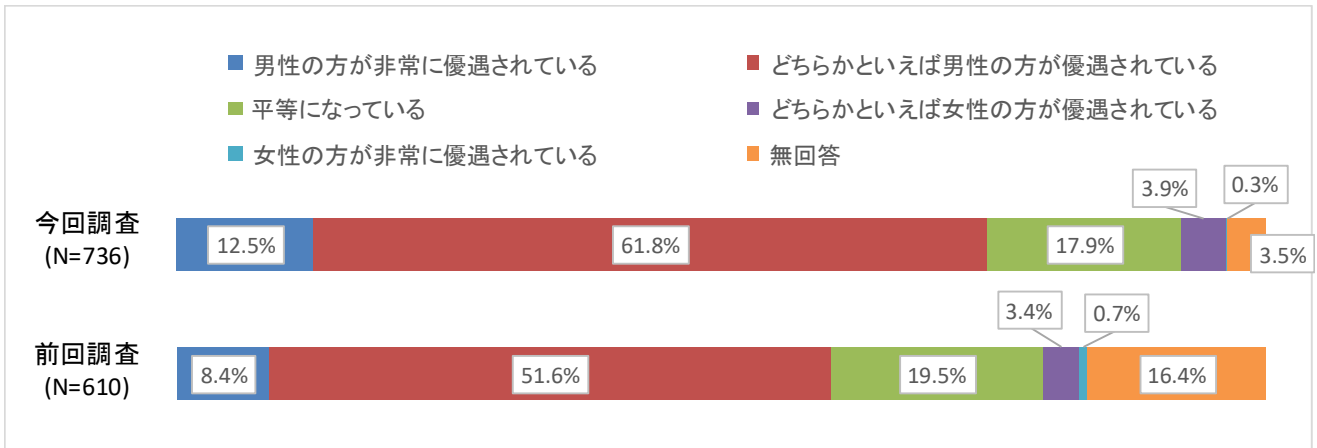


		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性	18～29歳(n=44)	9.1%	56.8%	29.5%	4.5%	0.0%
	30～39歳(n=45)	15.6%	66.7%	13.3%	2.2%	2.2%
	40～49歳(n=64)	17.2%	71.9%	7.8%	3.1%	0.0%
	50～59歳(n=58)	12.1%	72.4%	10.3%	5.2%	0.0%
	60～69歳(n=87)	10.3%	78.2%	10.3%	1.1%	0.0%
	70歳以上(n=98)	15.3%	64.3%	18.4%	2.0%	0.0%
男性	18～29歳(n=26)	11.5%	34.6%	46.2%	3.8%	3.8%
	30～39歳(n=22)	13.6%	50.0%	18.2%	18.2%	0.0%
	40～49歳(n=33)	24.2%	48.5%	12.1%	15.2%	0.0%
	50～59歳(n=47)	10.6%	66.0%	19.1%	4.3%	0.0%
	60～69歳(n=77)	13.0%	62.3%	20.8%	3.9%	0.0%
	70歳以上(n=105)	9.5%	59.0%	28.6%	2.9%	0.0%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、『男性優遇』の割合が14.3ポイント増加している。

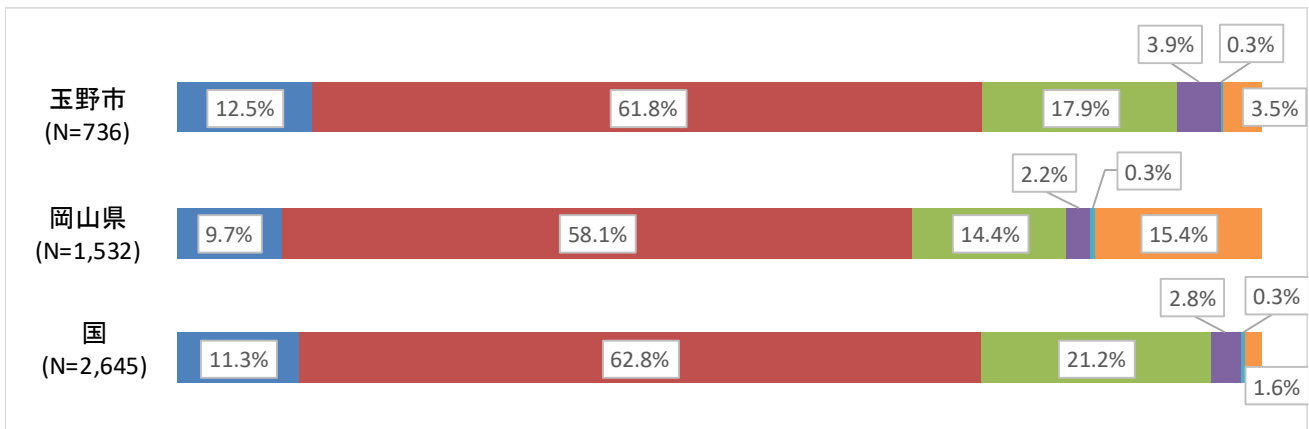
(※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、『男性優遇』は県調査より高く、国調査と同程度となっている。

「平等になっている」は県調査より高く、国調査より低くなっている。

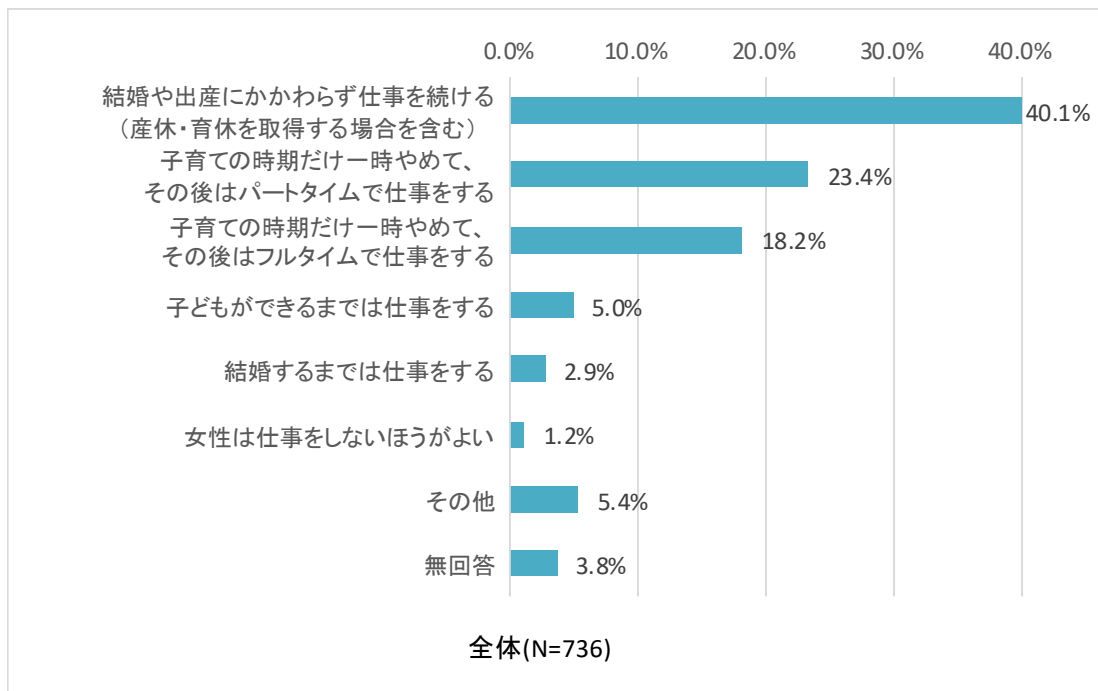


【2】職業生活について

1 望ましいと思う女性の働き方

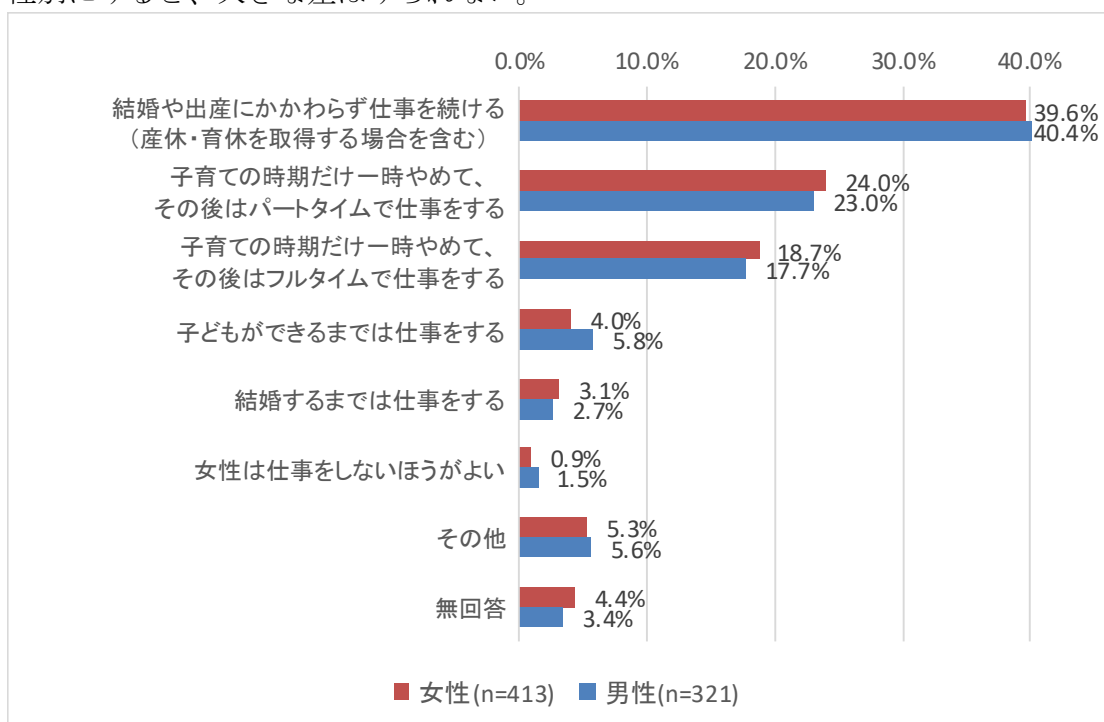
問3. 女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の望ましい働き方だと思うのはどれですか。
(○印1つ)

望ましいと思う女性の働き方について、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」(40.1%)が最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」(23.4%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」(18.2%)の順となっている。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられない。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、男性 29 歳以下を除き、男女すべての年齢層で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」が最も高くなっている。一方、男性 29 歳以下では、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」が最も高くなっている。

		結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする	子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする	子どもができるまでは仕事をする	結婚するまでは仕事をする	女性は仕事をしないほうがよい	その他
女性	18～29歳(n=44)	47.7%	9.1%	27.3%	2.3%	2.3%	0.0%	11.4%
	30～39歳(n=44)	52.3%	13.6%	22.7%	4.5%	0.0%	0.0%	6.8%
	40～49歳(n=62)	51.6%	16.1%	16.1%	6.5%	1.6%	3.2%	4.8%
	50～59歳(n=59)	42.4%	15.3%	27.1%	3.4%	1.7%	1.7%	8.5%
	60～69歳(n=87)	43.7%	19.5%	25.3%	3.4%	3.4%	0.0%	4.6%
	70歳以上(n=103)	27.2%	26.2%	24.3%	11.7%	4.9%	2.9%	2.9%
男性	18～29歳(n=26)	19.2%	23.1%	42.3%	3.8%	0.0%	0.0%	11.5%
	30～39歳(n=21)	42.9%	28.6%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%	14.3%
	40～49歳(n=32)	53.1%	9.4%	25.0%	0.0%	0.0%	3.1%	9.4%
	50～59歳(n=46)	45.7%	10.9%	32.6%	2.2%	0.0%	2.2%	6.5%
	60～69歳(n=75)	42.7%	29.3%	21.3%	2.7%	1.3%	0.0%	2.7%
	70歳以上(n=106)	40.6%	16.0%	23.6%	7.5%	8.5%	0.9%	2.8%

【未婚・既婚別】

未婚・既婚別にみると、未婚の女性で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」が高くなっている。

		結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする	子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする	子どもができるまでは仕事をする	結婚するまでは仕事をする	女性は仕事をしないほうがよい	その他
女性	未婚(n=63)	57.1%	12.7%	17.5%	0.0%	4.8%	0.0%	7.9%
	既婚(n=268)	41.4%	17.9%	24.6%	6.0%	2.2%	1.9%	6.0%
男性	未婚(n=53)	37.7%	17.0%	26.4%	7.5%	1.9%	0.0%	9.4%
	既婚(n=230)	41.3%	21.3%	24.8%	3.0%	3.5%	1.3%	4.8%

【就労状況別】

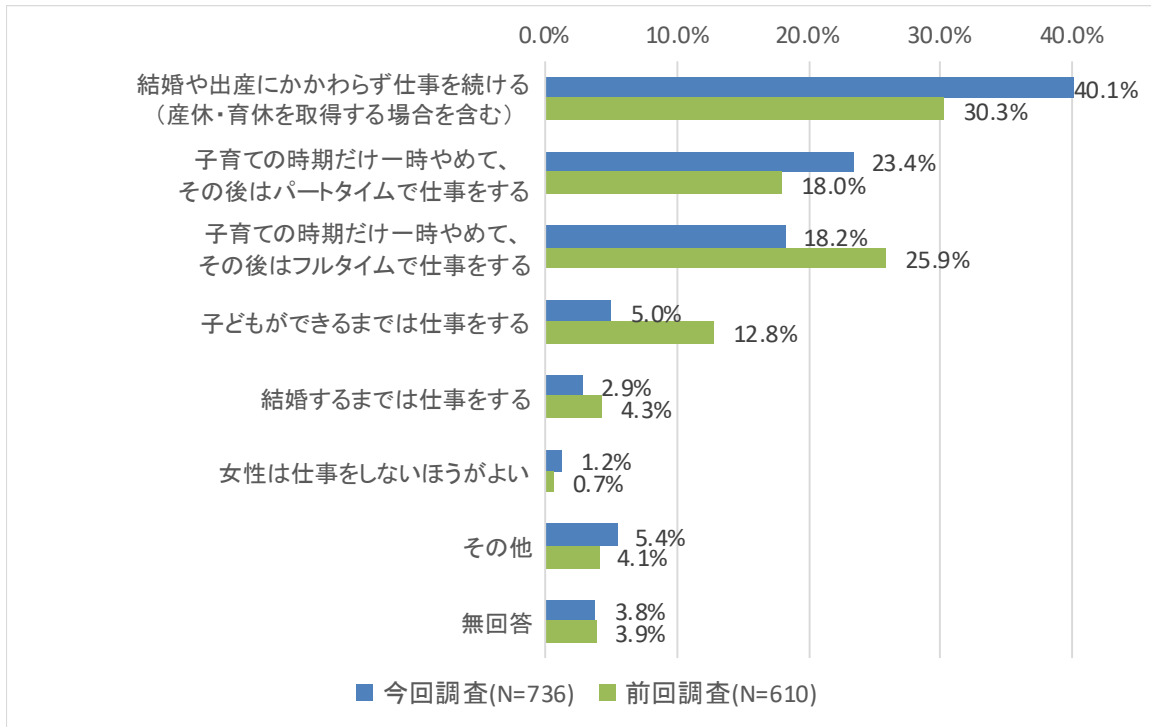
就労状況別にみると、男女とも共働き世帯で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」が高くなっている。

		結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする	子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする	子どもができるまでは仕事をする	結婚するまでは仕事をする	女性は仕事をしないほうがよい	その他
女性	共働き世帯(n=131)	48.9%	20.6%	21.4%	3.1%	0.8%	1.5%	3.8%
	非共働き世帯(n=139)	36.0%	15.1%	26.6%	8.6%	4.3%	2.2%	7.2%
男性	共働き世帯(n=94)	45.7%	23.4%	20.2%	1.1%	1.1%	1.1%	7.4%
	非共働き世帯(n=126)	38.1%	19.8%	27.0%	4.8%	5.6%	1.6%	3.2%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」は9.8ポイント、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」は5.4ポイント増加している。

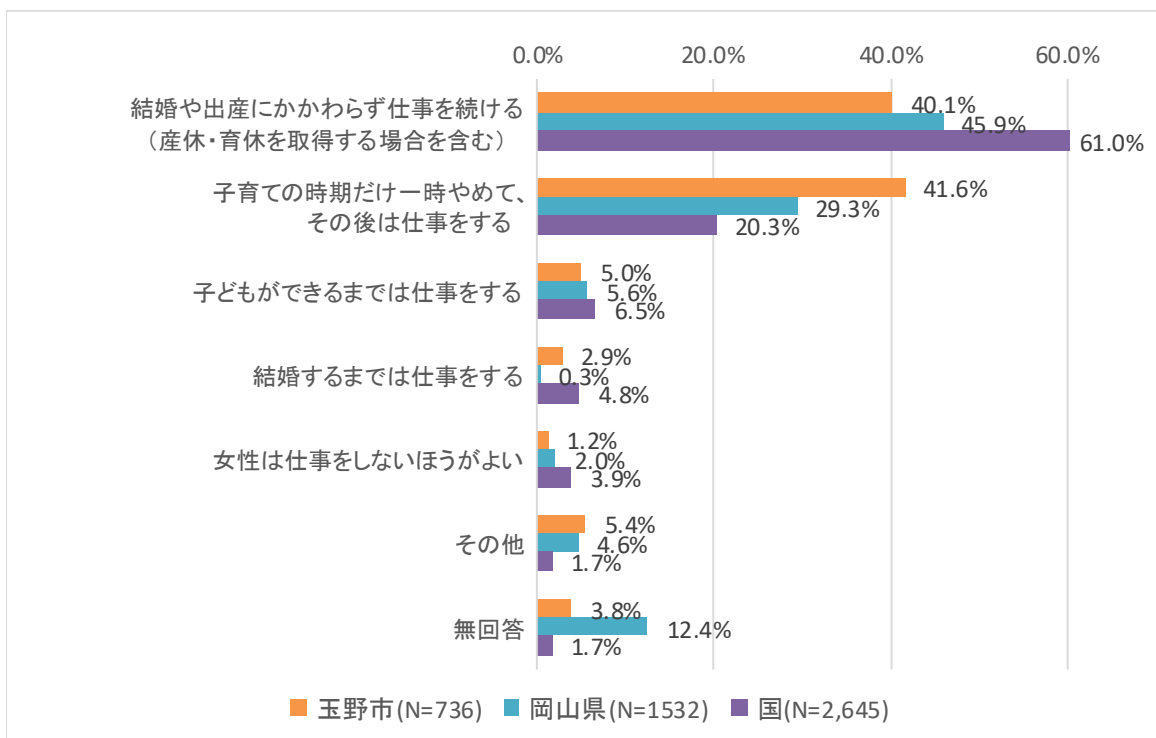
一方で、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」は7.7ポイント、「子どもができるまでは仕事をする」は7.8ポイント減少している。



【県・国調査との比較】

県・国調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」は低く（県調査比：5.8ポイント、国調査比：20.9ポイント）なっている。

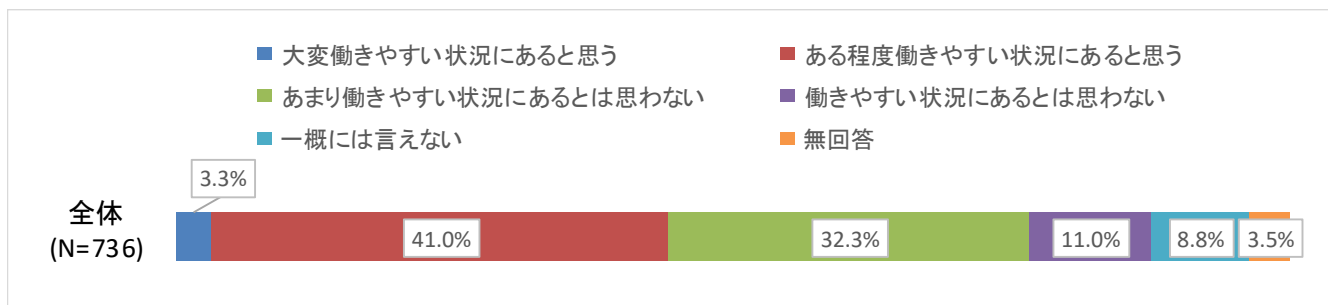
一方で、「子育ての時期だけ一時やめて、その後は仕事をする」は高くなっている（県調査比：12.3ポイント、国調査比：21.3ポイント）。



2 現在の社会の女性の働きやすさ

問4. あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○印1つ)

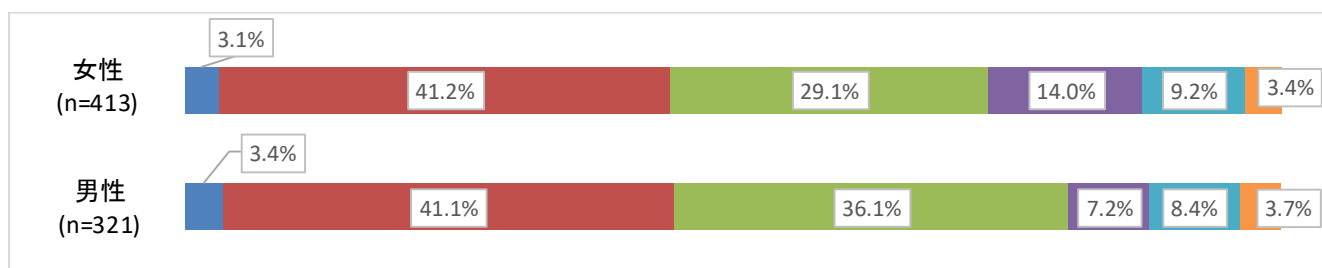
現在の社会の女性の働きやすさについて、「ある程度働きやすい状況にあると思う」が41.0%と最も高く、次いで「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」(32.3%)、「働きやすい状況にあるとは思わない」(11.0%)の順となっている。



【性別、性・年齢別】

性別にみると、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」は男性(36.1%)が女性(29.1%)を7.0ポイント上回っている。「働きやすい状況にあるとは思わない」は女性(14.0%)が男性(7.2%)を6.8ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性では、年代による大きな差はみられない。一方、男性では、40歳代で「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」が高くなっている。

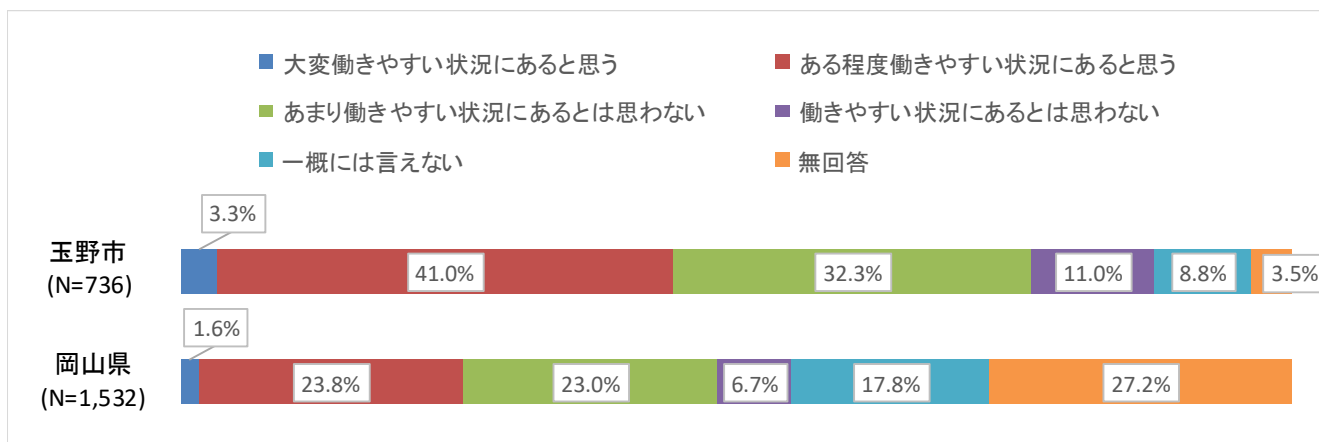


		大変働きやすい状況にあると思う	ある程度働きやすい状況にあると思う	あまり働きやすい状況にあるとは思わない	働きやすい状況にあるとは思わない	一概には言えない
女性	18～29歳(n=44)	2.3%	43.2%	29.5%	15.9%	9.1%
	30～39歳(n=44)	2.3%	43.2%	31.8%	13.6%	9.1%
	40～49歳(n=63)	1.6%	47.6%	31.7%	14.3%	4.8%
	50～59歳(n=58)	3.4%	34.5%	39.7%	10.3%	12.1%
	60～69歳(n=87)	2.3%	43.7%	29.9%	17.2%	6.9%
	70歳以上(n=103)	5.8%	42.7%	23.3%	14.6%	13.6%
男性	18～29歳(n=26)	0.0%	46.2%	19.2%	7.7%	26.9%
	30～39歳(n=21)	14.3%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%
	40～49歳(n=33)	0.0%	30.3%	54.5%	6.1%	9.1%
	50～59歳(n=47)	4.3%	42.6%	34.0%	8.5%	10.6%
	60～69歳(n=75)	5.3%	38.7%	45.3%	5.3%	5.3%
	70歳以上(n=105)	1.9%	51.4%	31.4%	7.6%	7.6%

【県調査との比較】

県調査と比較すると、「ある程度働きやすい状況にあると思う」は17.2ポイント高く、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」は9.3ポイント高くなっている。

(※県調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた数値)

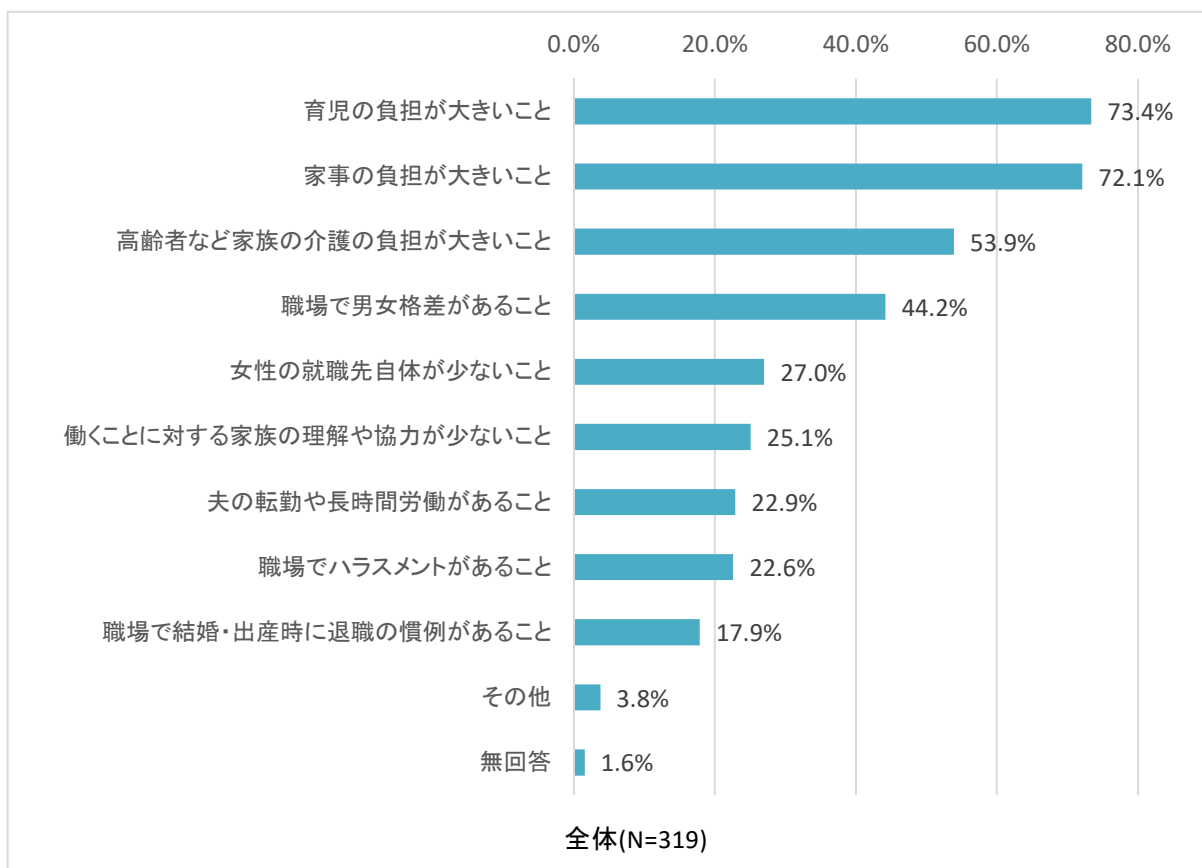


3 女性が働きにくい理由

問4で「3. あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「4. 働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた方のみお答えください。

問5. その理由は何ですか。(〇印いくつでも)

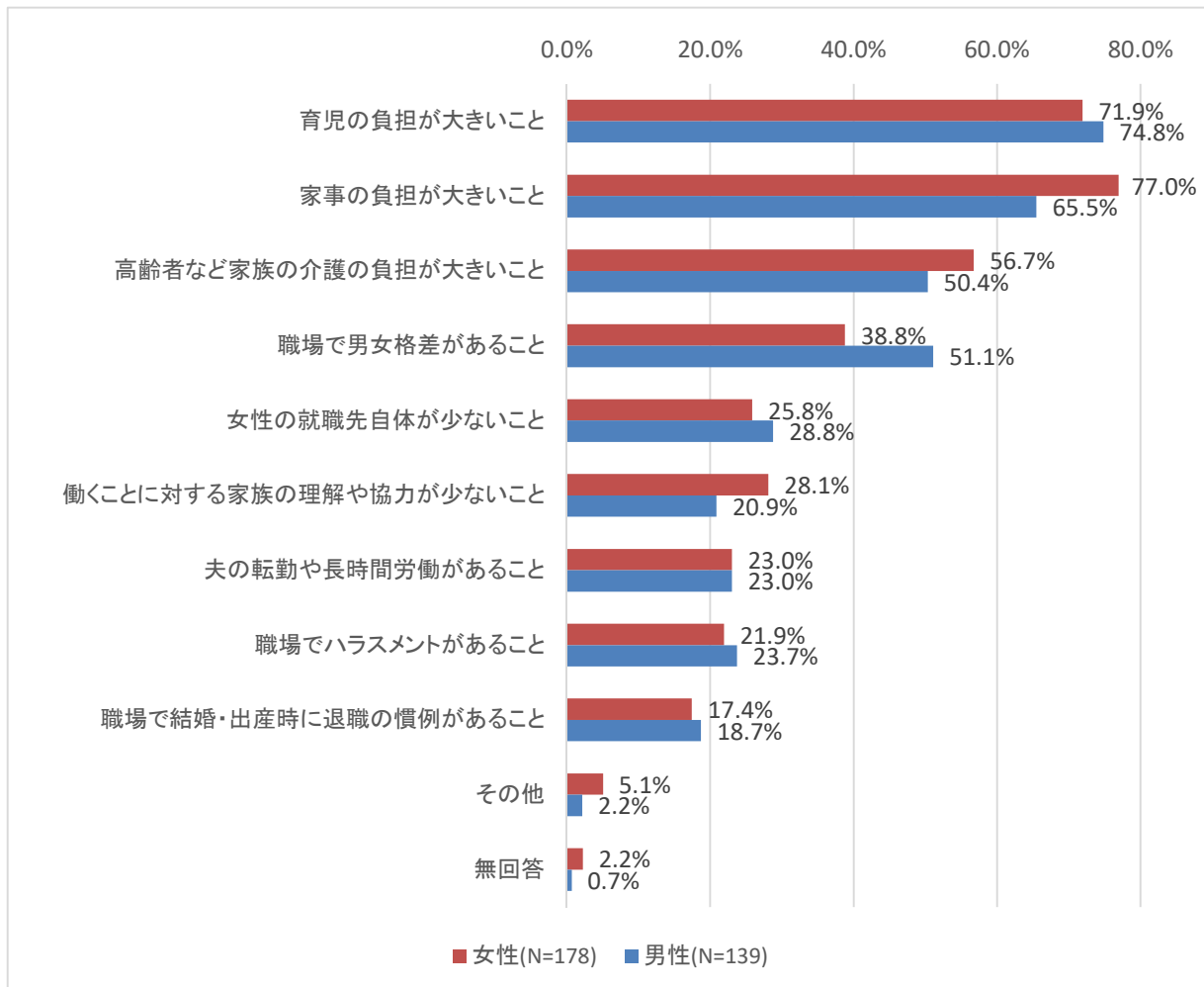
女性が働きにくい理由について、「育児の負担が大きいこと」が73.4%と最も高く、次いで「家事の負担が大きいこと」(72.1%)、「高齢者など家族の介護の負担が大きいこと」(53.9%)、「職場で男女格差があること」(44.2%)の順となっている。



【性別】

性別にみると、女性では「家事の負担が大きいこと」(77.0%)が最も高く、男性では「育児の負担が大きいこと」(74.8%)が最も高くなっている。

「家事の負担が大きいこと」は男性(65.5%)に比べて女性(77.0%)で11.5ポイント高くなっている。「職場で男女格差があること」は女性(38.8%)に比べて男性(51.1%)で12.3ポイント高くなっている。

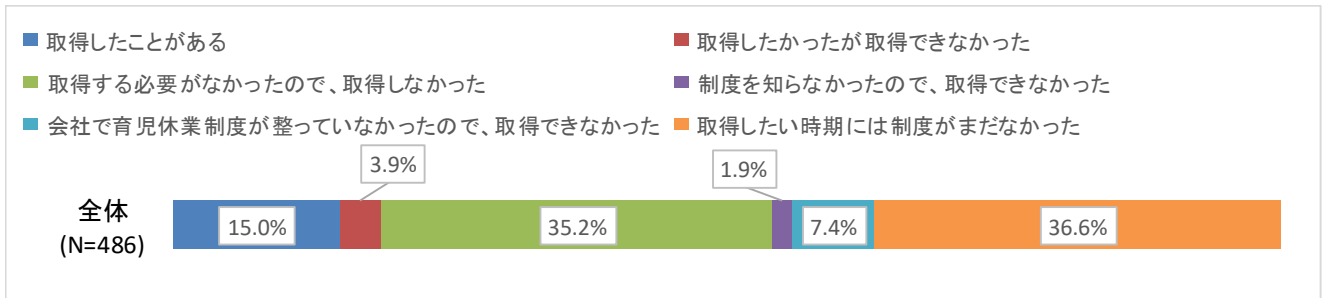


4 育児休業の取得状況

子どもがいる方のみお答えください。

問6. あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）を取得したことがありますか。（○印1つ）

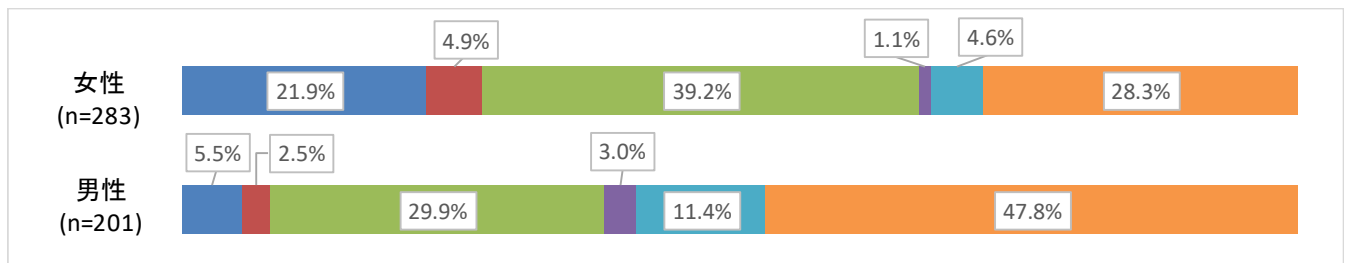
育児休業の取得について、「取得したい時期には制度がまだなかった」が36.6%と最も高く、次いで「取得する必要がなかったため、取得しなかった」（35.2%）、「取得したことがある」（15.0%）の順となっている。



【性別、性・年齢別】

性別にみると、「取得したことがある」は女性（21.9%）が男性（5.5%）を16.4ポイント上回っている。また、「取得する必要がなかったため、取得しなかった」は女性（39.2%）が男性（29.9%）を9.3ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性30歳代で「取得したことがある」が高くなっている。「取得する必要がなかったため、取得しなかった」は男女とも40歳代で高くなっている。



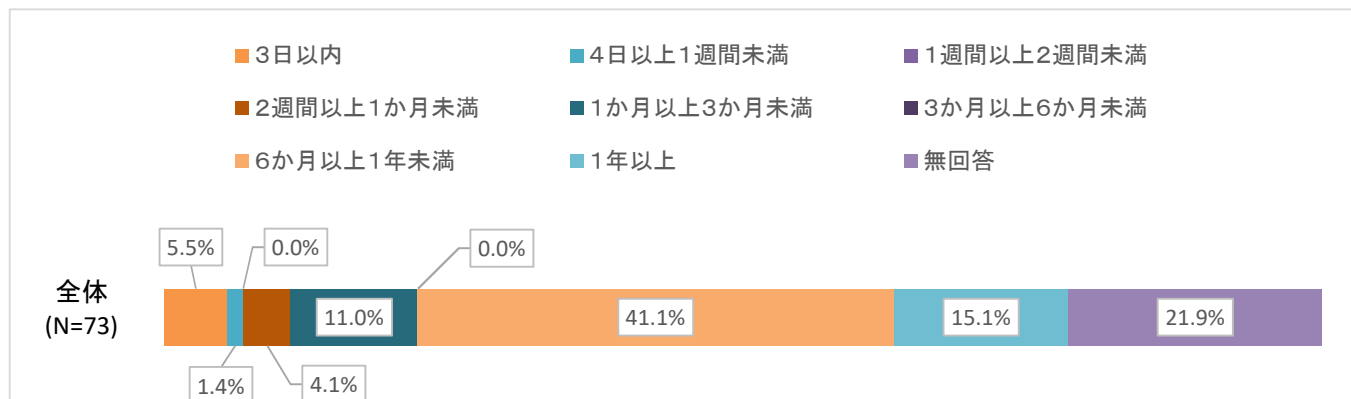
		取得したことがある	取得したかったが取得できなかった	取得する必要がなかったため、取得しなかった	制度を知らなかったため、取得できなかった	会社で育児休業制度が整っていなかったため、取得できなかった	取得したい時期には制度がまだなかった
女性	18～29歳(n=9)	22.2%	11.1%	44.4%	0.0%	11.1%	11.1%
	30～39歳(n=31)	54.8%	12.9%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	40～49歳(n=51)	29.4%	5.9%	54.9%	0.0%	5.9%	3.9%
	50～59歳(n=49)	20.4%	2.0%	40.8%	0.0%	8.2%	28.6%
	60～69歳(n=67)	14.9%	1.5%	38.8%	1.5%	4.5%	38.8%
	70歳以上(n=76)	10.5%	5.3%	30.3%	2.6%	2.6%	48.7%
男性	18～29歳(n=5)	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%
	30～39歳(n=14)	14.3%	28.6%	42.9%	0.0%	7.1%	7.1%
	40～49歳(n=22)	9.1%	4.5%	50.0%	0.0%	22.7%	13.6%
	50～59歳(n=36)	2.8%	0.0%	27.8%	2.8%	19.4%	47.2%
	60～69歳(n=52)	5.8%	0.0%	34.6%	3.8%	3.8%	51.9%
	70歳以上(n=71)	4.2%	0.0%	18.3%	4.2%	8.5%	64.8%

5 育児休業の取得期間

問6で「1. 取得したことがある」と答えた方のみお答えください。

問7. どれくらいの期間取得しましたか。(〇印1つ)

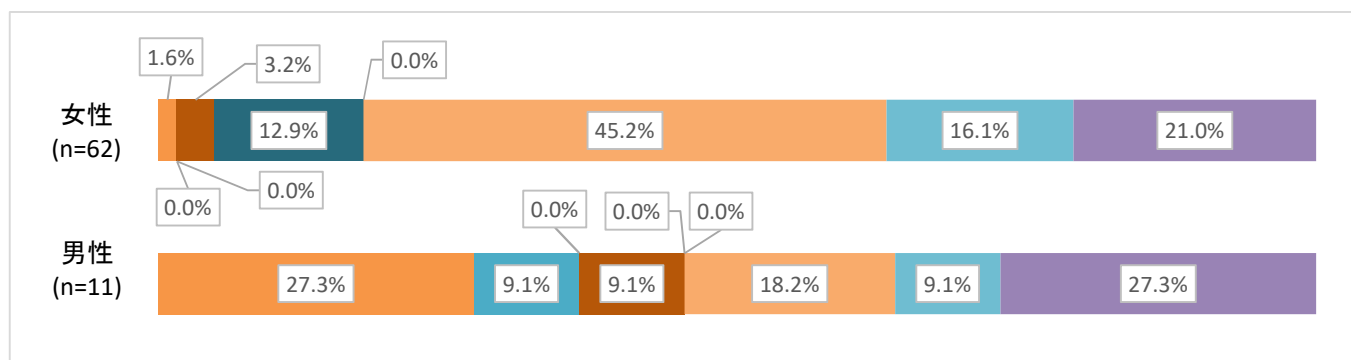
育児休業の取得について、「6か月以上1年未満」が41.1%と最も高く、次いで「1年以上」(15.1%)、「1か月以上3か月未満」(11.0%)の順となっている(「無回答」は除く)。



【性別】

性別にみると、女性は「6か月以上1年未満」が45.2% (n=28)と最も高く、次いで「1年以上」(16.1%、n=10)、「1か月以上3か月未満」(12.9%、n=8)の順となっている。

男性は「3日以内」が27.3% (n=3)と最も高い。



6 育児休業を取得できなかった理由

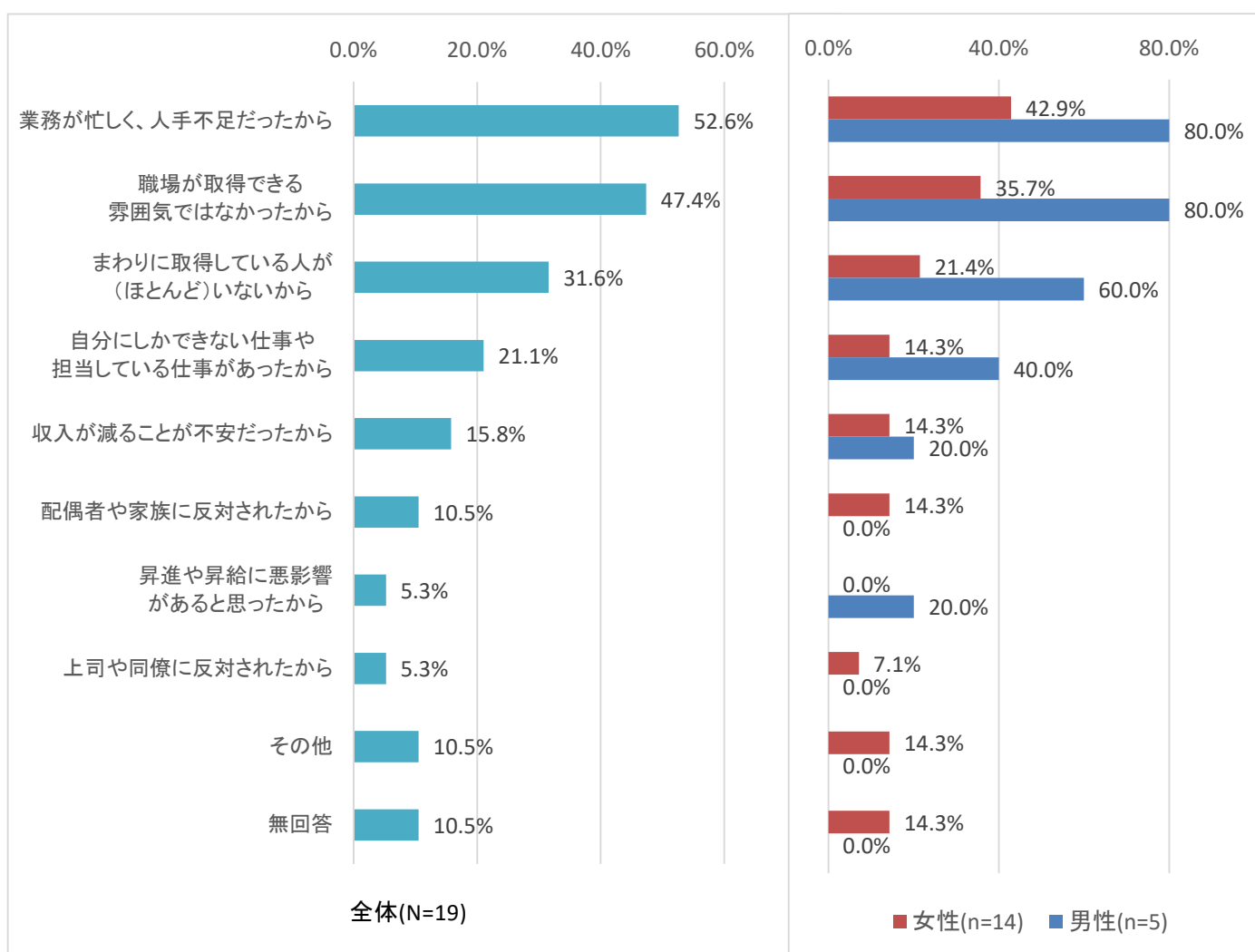
問6で「2. 取得したかったが、取得できなかった」と答えた方のみお答えください。

問8. それはなぜですか。(〇印いくつでも)

育児休業を取得できなかった理由について、「業務が忙しく、人手不足だったから」が52.6% (n=10)と最も高く、次いで「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」(47.4%、n=9)、「まわりに取得している人が(ほとんど)いないから」(31.6%、n=6)の順となっている。

【性別】

性別にみると、男性で「業務が忙しく、人手不足だったから」(80.0%、n=4)、「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」(80.0%、n=4)で高くなっている。

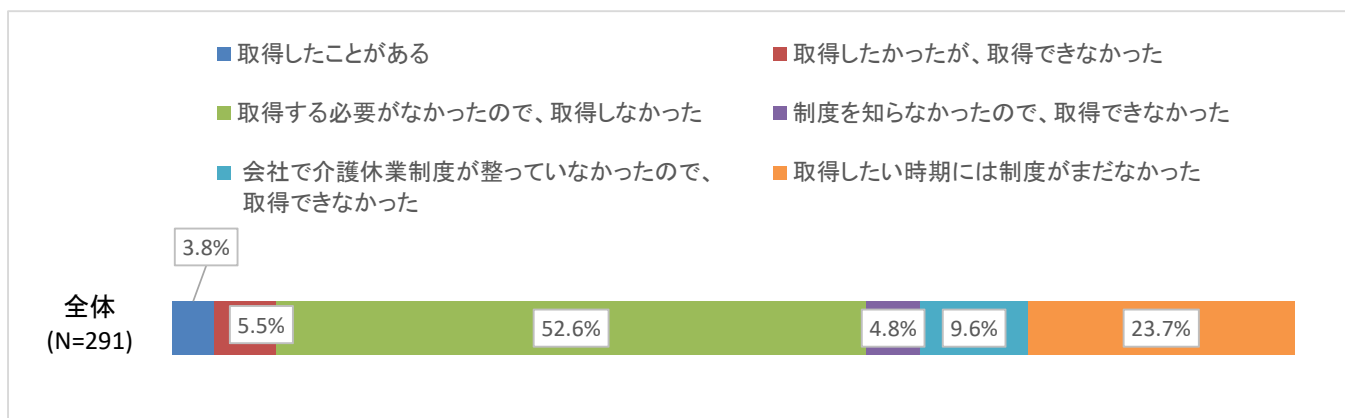


7 介護休業の取得状況

介護が必要な人がいる（いたことがある）方のみお答えください。

問9．あなたは、これまでに介護休業を取得したことがありますか。（○印1つ）

介護休業の取得状況について、「取得する必要がなかったため、取得しなかった」が52.6%と最も高く、次いで「取得したい時期には制度がまだなかった」（23.7%）、「会社で介護休業制度が整っていなかったため、取得できなかった」（9.6%）の順となっている。

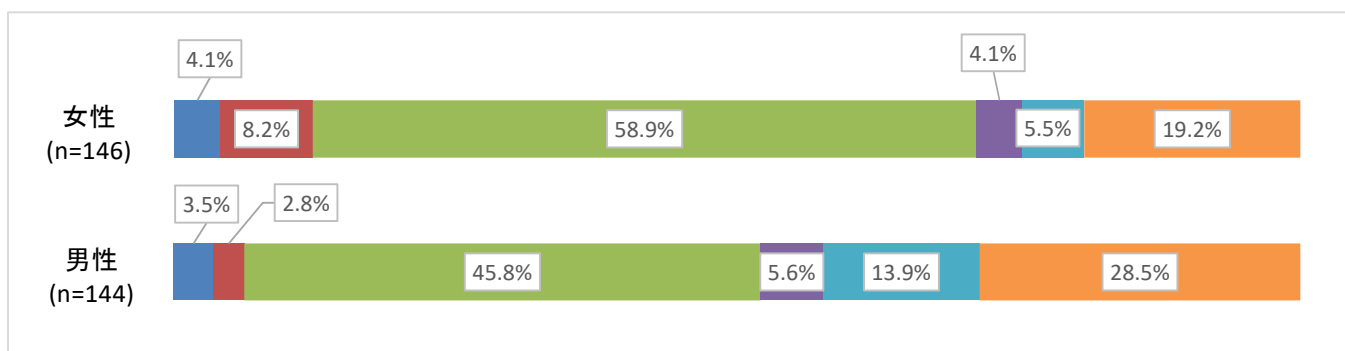


【性別】

性別にみると、女性は「取得する必要がなかったため、取得しなかった」が高く、男性は「取得したい時期には制度がまだなかった」が高くなっている。

「取得したことがある」は、男女ともごくわずかにとどまっている。

「取得したかったが、取得できなかった」は、女性で8.2%となっている。



8 介護休業を取得できなかった理由

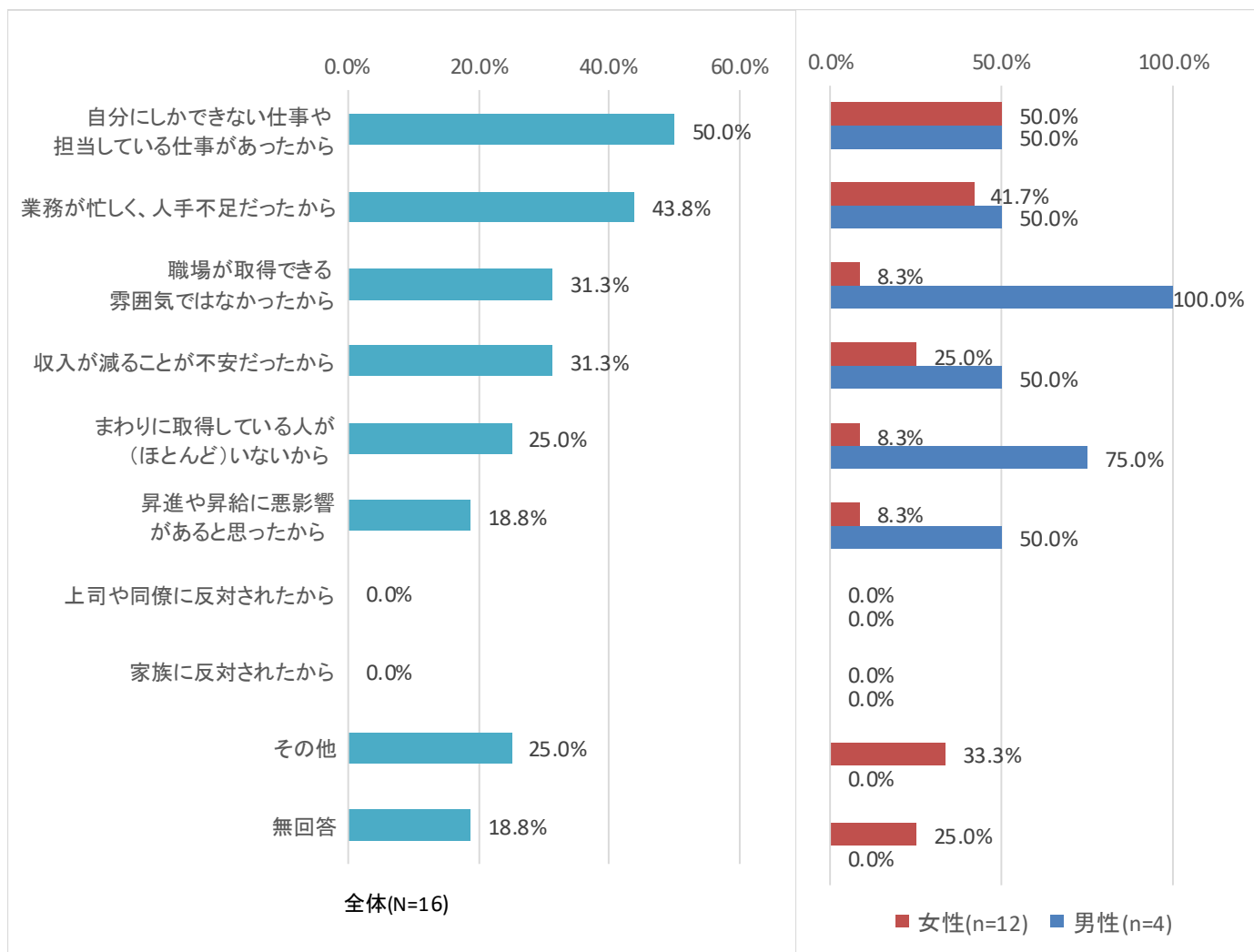
問9で「2. 取得したかったが、取得できなかった」と答えた方のみお答えください。

問10. それはなぜですか。(〇印いくつでも)

介護休業を取得できなかった理由について、「自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから」が50.0%(n=8)と最も高く、次いで「業務が忙しく、人手不足だったから」(43.8%、n=7)、「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」、「収入が減ることが不安だったから」(31.3%、n=5)の順となっている。

【性別】

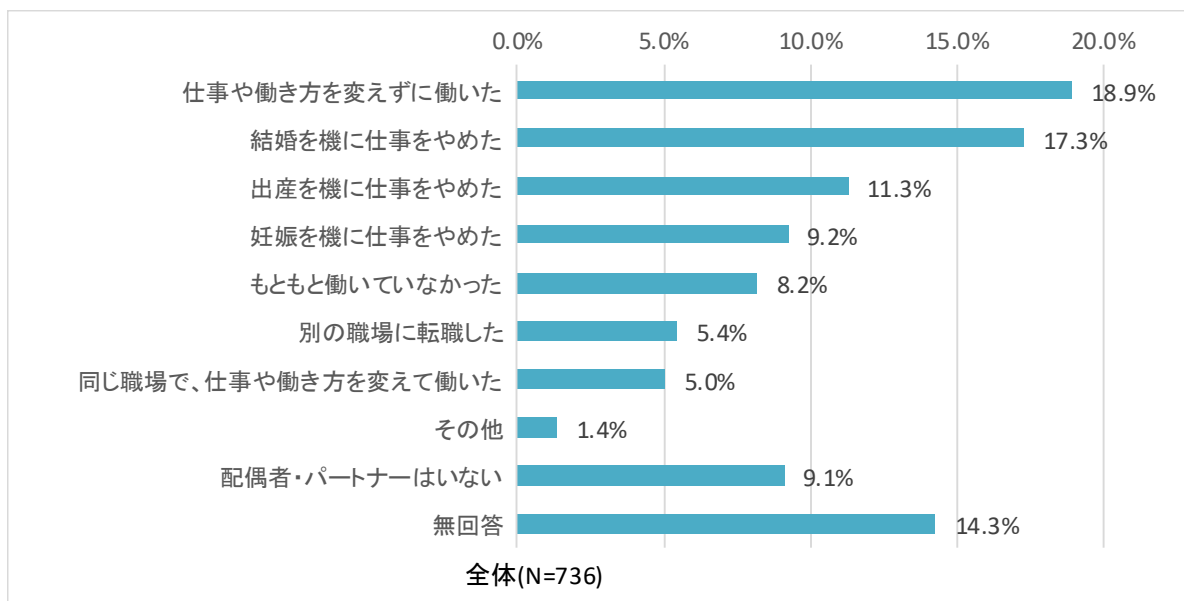
性別にみると、男性では「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」(100.0%、n=4)、「まわりに取得している人が(ほとんど)いないから」(75.0%、n=3)で高くなっている。



9 結婚や妊娠・出産に伴う働き方の変化

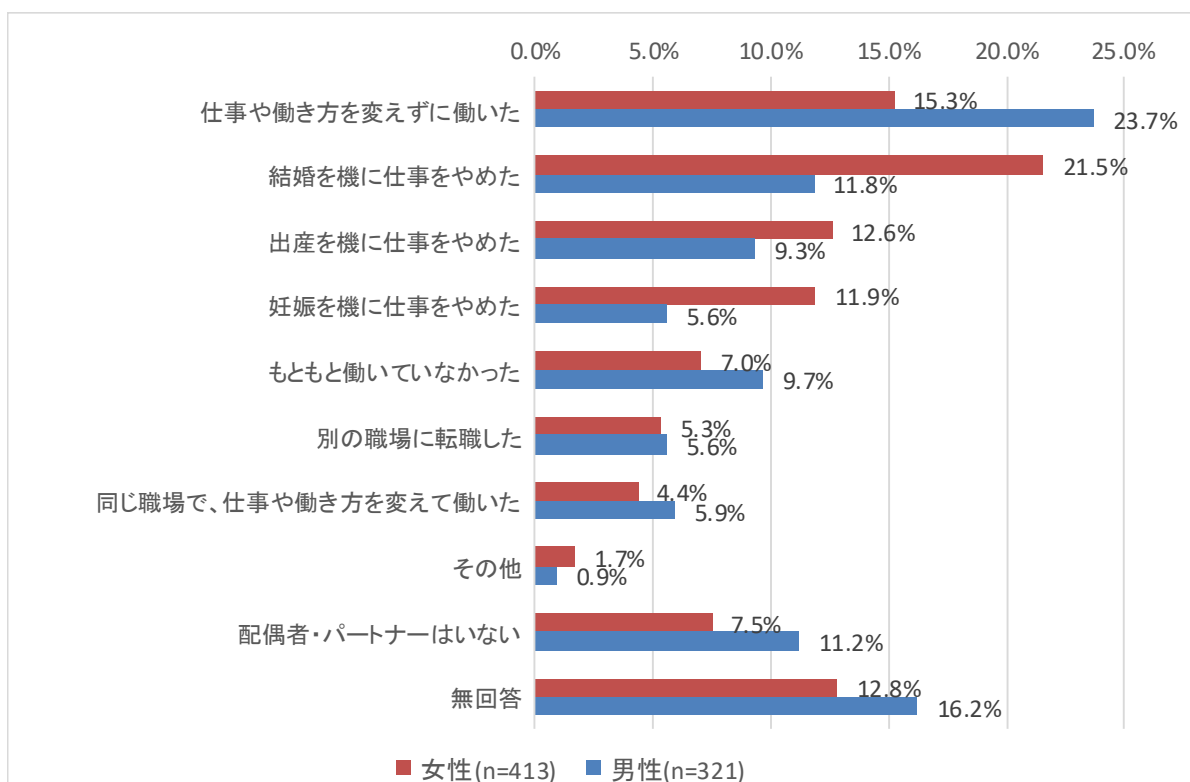
問 11. あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際に、働き方に変化がありましたか（男性の場合は配偶者・パートナーについて回答してください。）（○印1つ）

結婚や妊娠・出産に伴う働き方の変化について、「仕事や働き方を変えずに働いた」が18.9%と最も高く、次いで「結婚を機に仕事をやめた」（17.3%）、「出産を機に仕事をやめた」（11.3%）の順となっている。



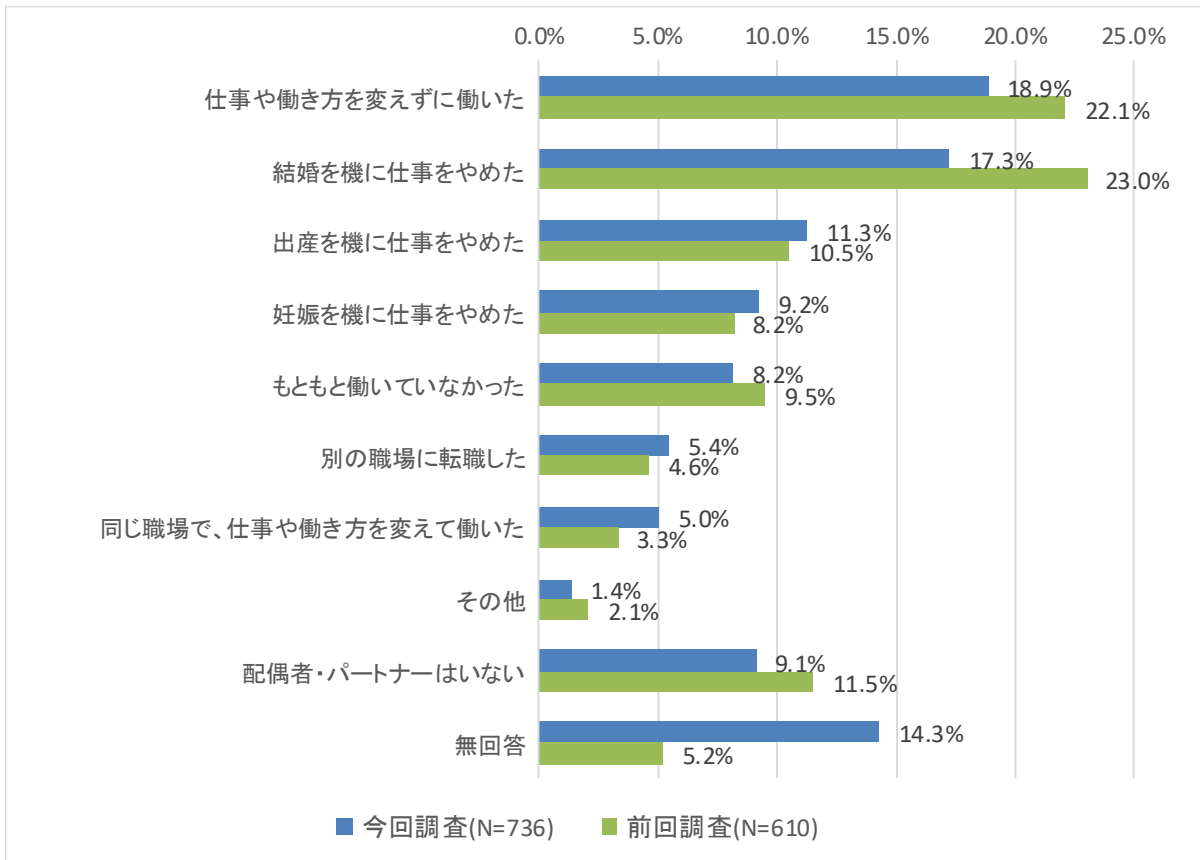
【性別】

性別にみると、女性で「結婚を機に仕事をやめた」（21.5%）、男性で「仕事や働き方を変えずに働いた」（23.7%）がそれぞれ高くなっている。



【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「結婚を機に仕事をやめた」は5.7ポイント減少している。他の項目では大きな変化はみられない。

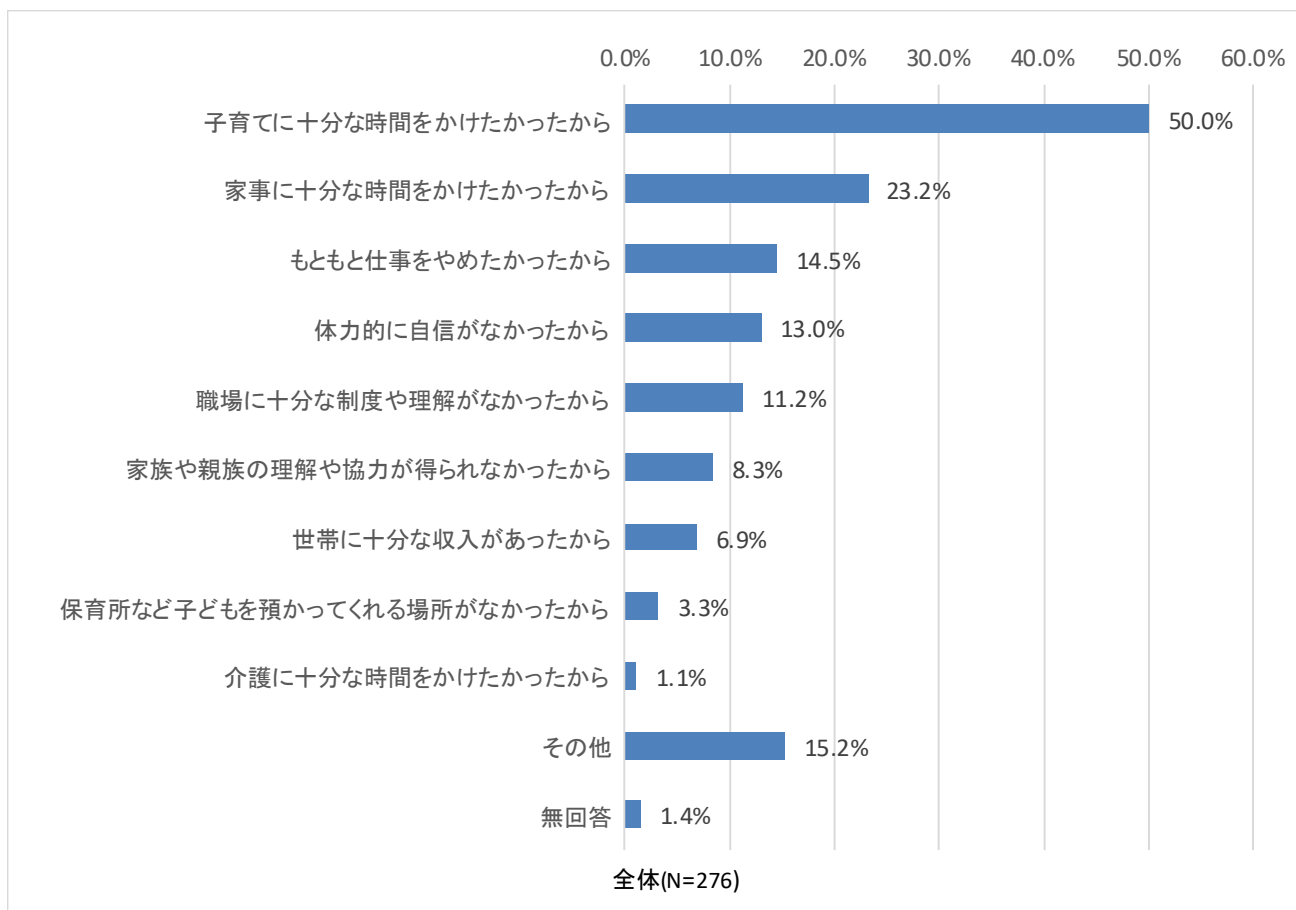


10 結婚や妊娠・出産に伴い仕事をやめた理由

問 11 で 1～3 と回答した方のみお答えください。

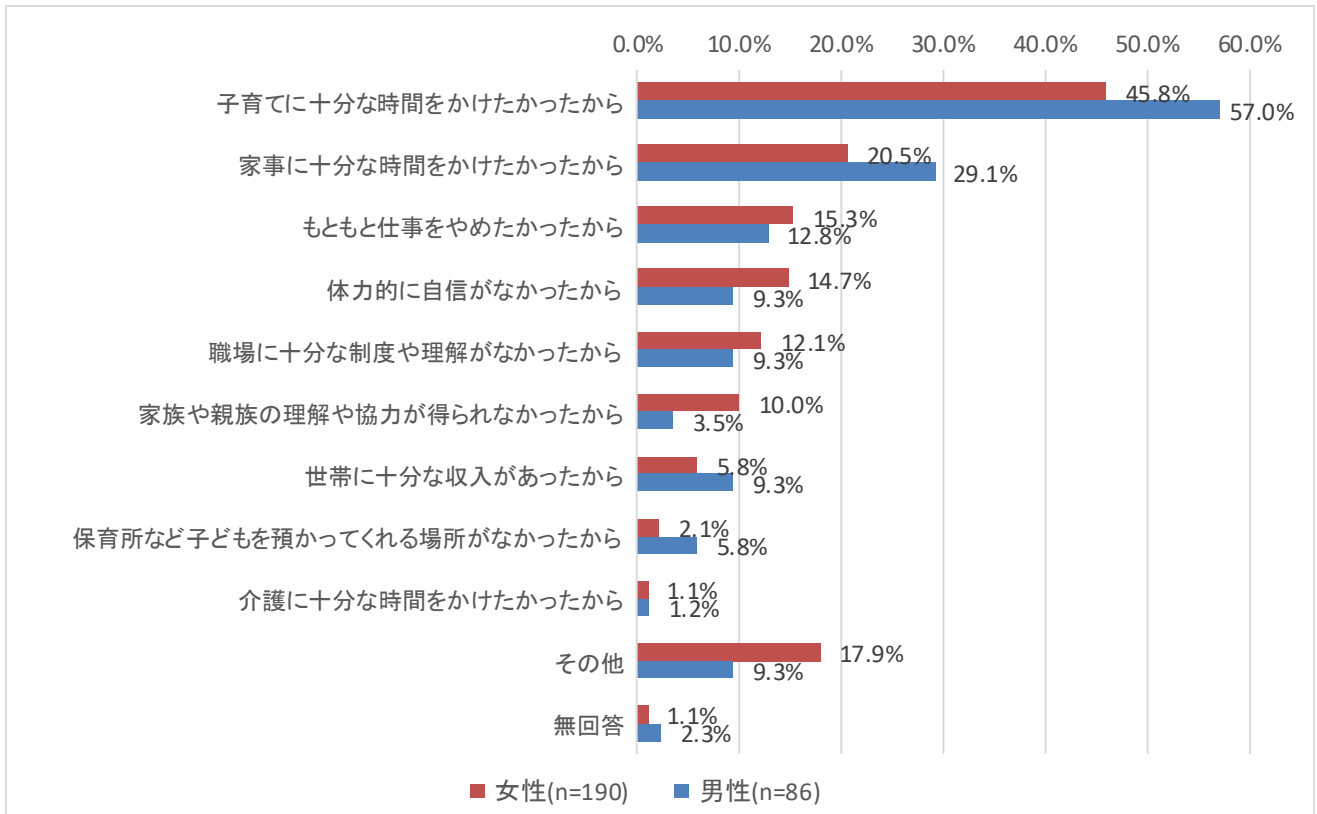
問 12. 仕事をやめた理由は何ですか。(○印いくつでも)

結婚や妊娠・出産に伴い仕事をやめた理由について、「子育てに十分な時間をかけたかったから」が 50.0% と最も高く、次いで「家事に十分な時間をかけたかったから」(23.2%)、「もともと仕事をやめたかったから」(14.5%) の順となっている。



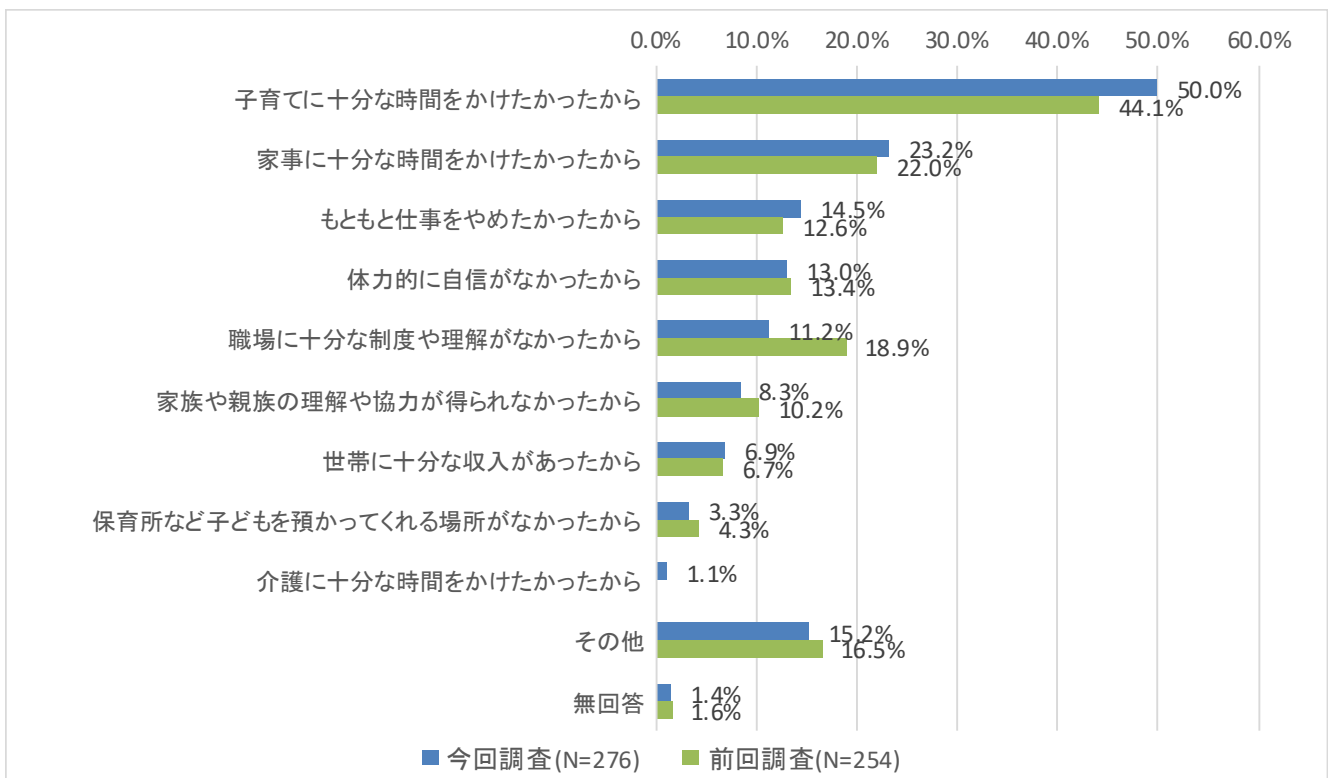
【性別】

性別にみると、男女ともに「子育てに十分な時間をかけたかったから」が最も高く、次いで「家事に十分な時間をかけたかったから」の順となっている。「子育てに十分な時間をかけたかったから」は男性（57.0%）が女性（45.8%）を11.2ポイント上回っている。



【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「子育てに十分な時間をかけたかったから」が5.9ポイント高くなっている。「職場に十分な制度や理解がなかったから」は7.7ポイント低くなっている。



11 職場における男女の扱い

現在、勤め人（一般社員・正社員、契約社員・派遣社員、パート・アルバイト、公務員・団体職員）の方のみお答えください。

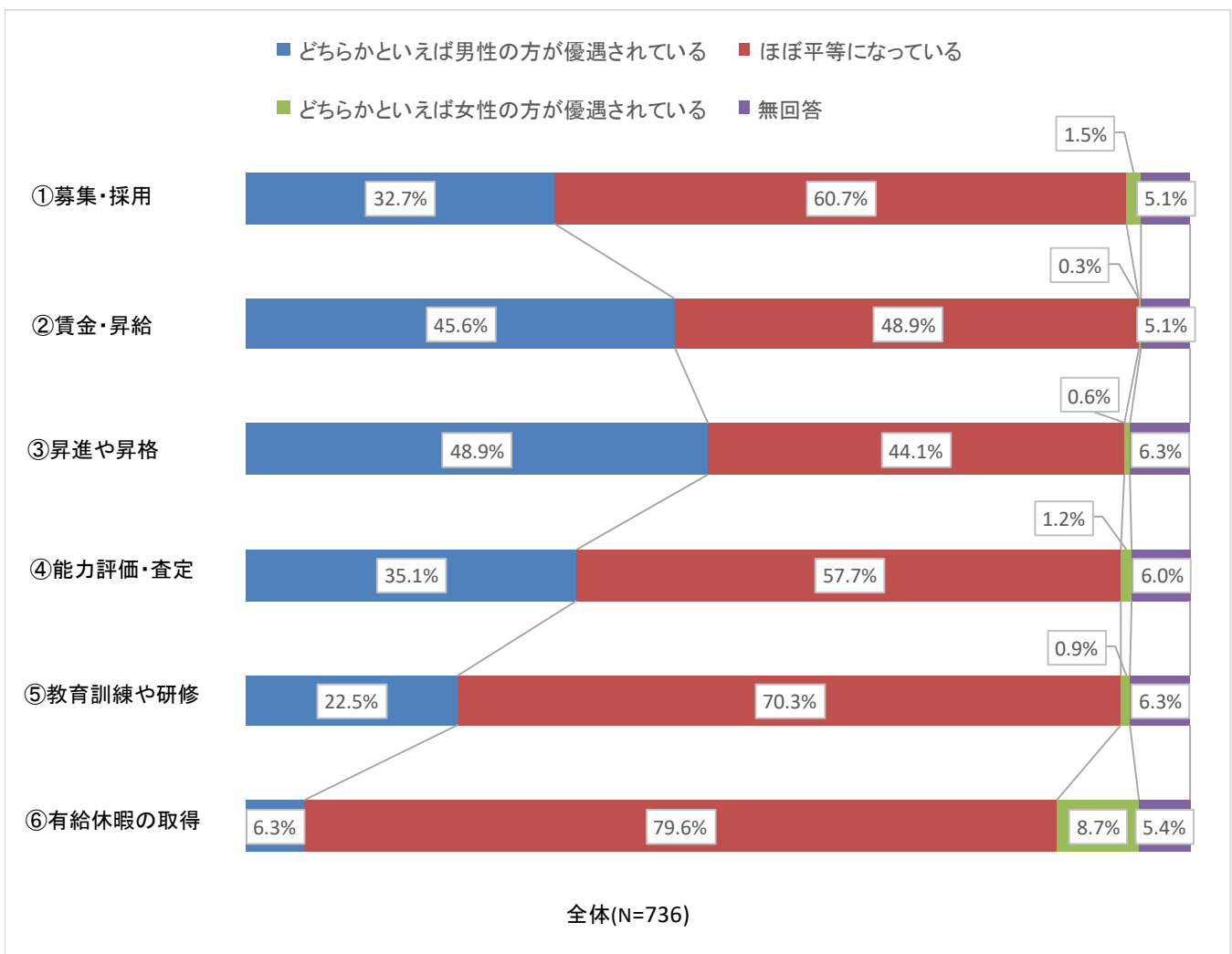
問 13. あなたは、職場での男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。①～⑥のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

職場における男女の扱いについて、「③昇進や昇格」を除いたすべての項目で、「ほぼ平等になっている」が「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を上回っている。

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、「③昇進や昇格」（48.9%）が最も高く、次いで「②賃金・昇給」（45.6%）、「④能力評価・査定」（35.1%）の順となっている。

「ほぼ平等になっている」は、「⑥有給休暇の取得」（79.6%）が最も高く、次いで「⑤教育訓練や研修」（70.3%）、「①募集・採用」（60.7%）、「④能力評価・査定」（57.7%）の順となっている。

「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は、「⑥有給休暇の取得」（8.7%）で最も高くなっているが、その他の項目ではごくわずかとなっている。



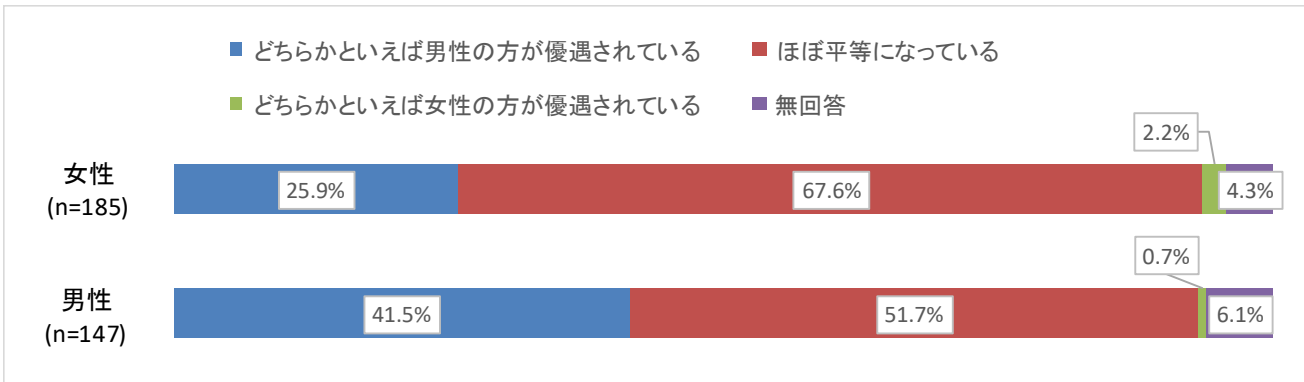
※前回調査では、対象者は全員。今回調査では、対象者は「勤め人」のみとしている。

①募集・採用

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は男性（41.5%）で高くなっている。「ほぼ平等になっている」は女性（67.6%）で高くなっている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、男性50歳代及び70歳以上で高くなっている。一方、「ほぼ平等になっている」は、女性では30歳代で、男性では29歳以下で特に高くなっている。

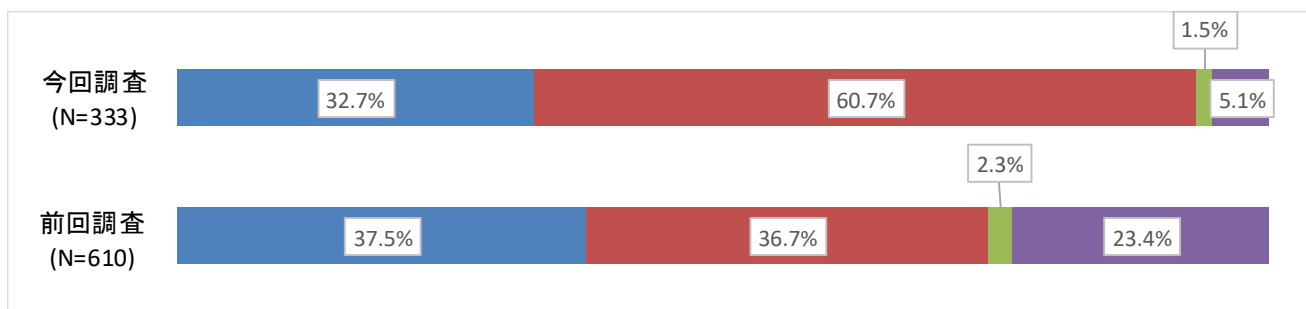


		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性	18～29歳(n=30)	30.0%	70.0%	0.0%
	30～39歳(n=34)	20.6%	79.4%	0.0%
	40～49歳(n=44)	29.5%	65.9%	4.5%
	50～59歳(n=39)	25.6%	71.8%	2.6%
	60～69歳(n=48)	39.6%	58.3%	2.1%
	70歳以上(n=23)	34.8%	65.2%	0.0%
男性	18～29歳(n=23)	21.7%	78.3%	0.0%
	30～39歳(n=21)	47.6%	52.4%	0.0%
	40～49歳(n=27)	37.0%	63.0%	0.0%
	50～59歳(n=34)	55.9%	44.1%	0.0%
	60～69歳(n=45)	48.9%	48.9%	2.2%
	70歳以上(n=28)	57.1%	39.3%	3.6%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「ほぼ平等になっている」は24.0ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値)

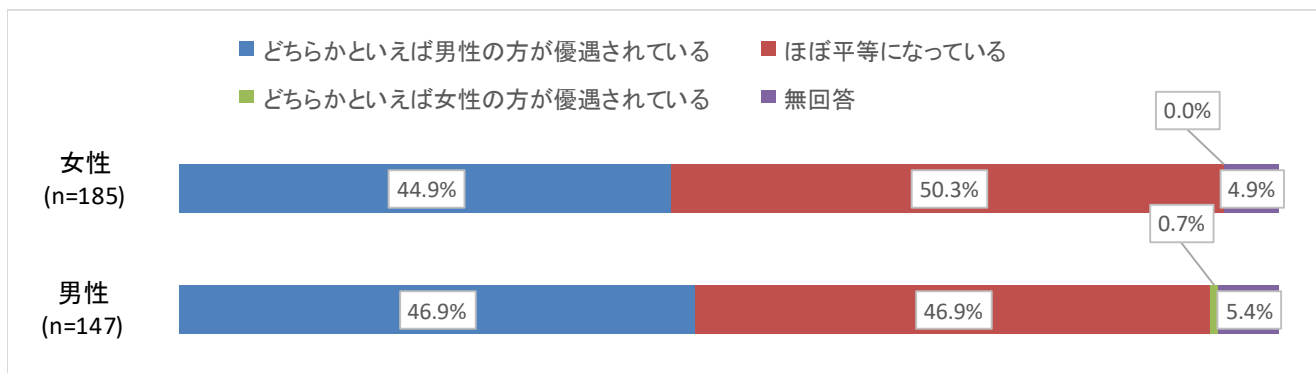


②賃金・昇給

【性別、性・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、男性60歳代以上で高くなっている。一方、「ほぼ平等になっている」は、男女とも29歳以下で特に高くなっている。

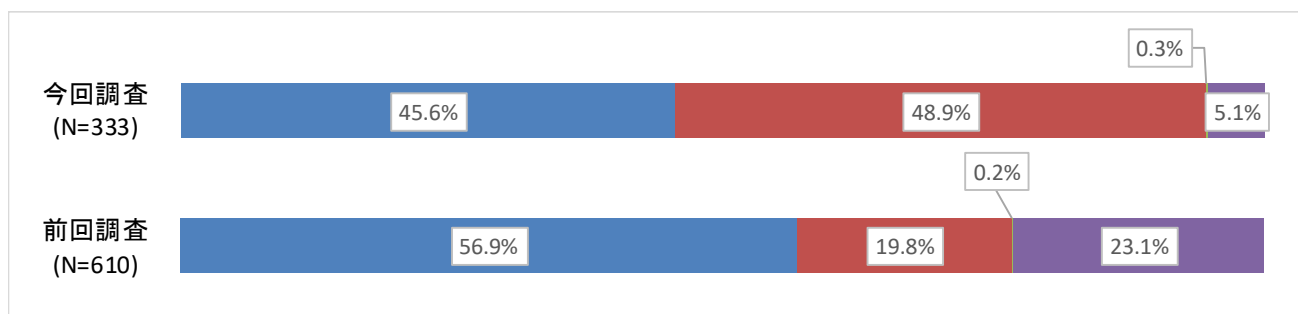


		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性	18～29歳(n=30)	36.7%	63.3%	0.0%
	30～39歳(n=34)	52.9%	47.1%	0.0%
	40～49歳(n=44)	45.5%	54.5%	0.0%
	50～59歳(n=39)	51.3%	48.7%	0.0%
	60～69歳(n=48)	56.3%	43.8%	0.0%
	70歳以上(n=23)	52.2%	47.8%	0.0%
男性	18～29歳(n=23)	21.7%	78.3%	0.0%
	30～39歳(n=21)	38.1%	61.9%	0.0%
	40～49歳(n=27)	51.9%	48.1%	0.0%
	50～59歳(n=34)	44.1%	52.9%	2.9%
	60～69歳(n=45)	73.3%	26.7%	0.0%
	70歳以上(n=29)	75.9%	24.1%	0.0%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は11.3ポイント減少し、「ほぼ平等になっている」は29.1ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値)

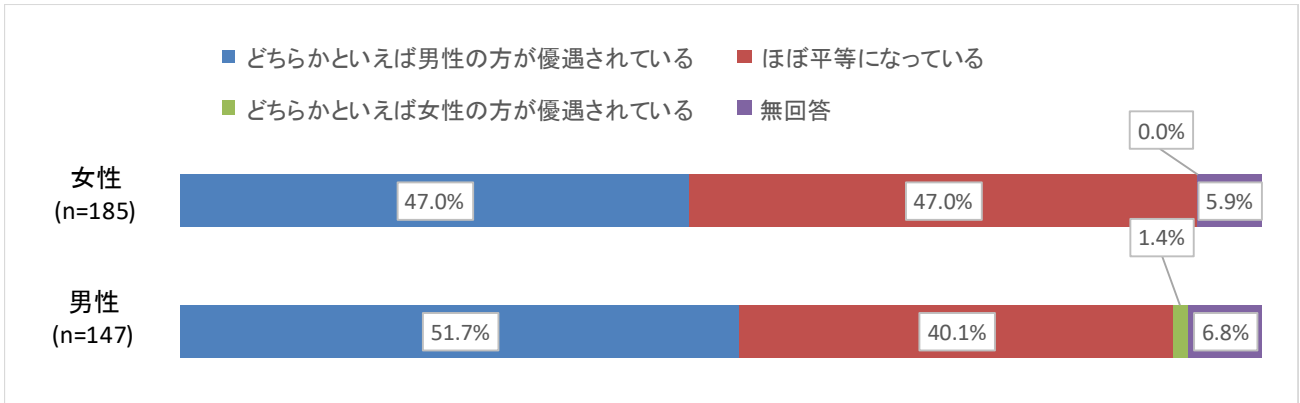


③昇進や昇格

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「ほぼ平等になっている」は女性（47.0%）で高くなっている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、女性では60歳代以上、男性では70歳以上で高くなっている。一方、「ほぼ平等になっている」は、男女とも29歳以下で特に高くなっている。

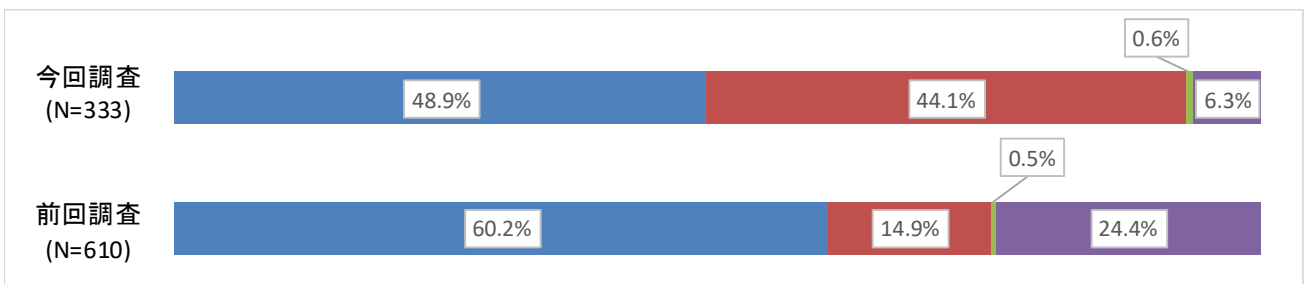


		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性	18～29歳(n=30)	40.0%	60.0%	0.0%
	30～39歳(n=34)	50.0%	50.0%	0.0%
	40～49歳(n=44)	56.8%	43.2%	0.0%
	50～59歳(n=38)	52.6%	47.4%	0.0%
	60～69歳(n=47)	63.8%	36.2%	0.0%
	70歳以上(n=22)	63.6%	36.4%	0.0%
男性	18～29歳(n=23)	26.1%	73.9%	0.0%
	30～39歳(n=21)	52.4%	47.6%	0.0%
	40～49歳(n=27)	63.0%	33.3%	3.7%
	50～59歳(n=34)	50.0%	47.1%	2.9%
	60～69歳(n=44)	72.7%	27.3%	0.0%
	70歳以上(n=27)	81.5%	18.5%	0.0%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は11.3ポイント減少し、「ほぼ平等になっている」は29.2ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値)

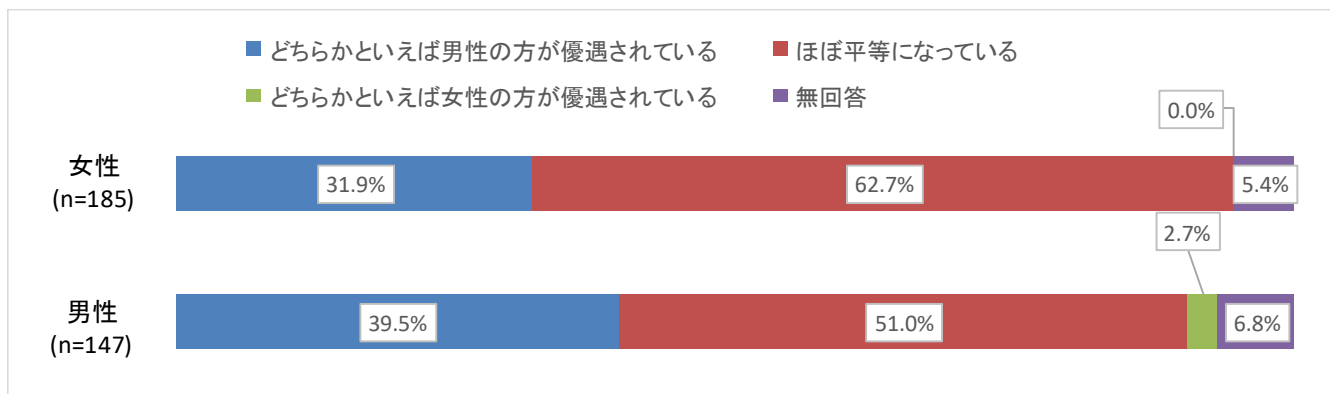


④能力評価・査定

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は男性（39.5%）で高くなっている。「ほぼ平等になっている」は女性（62.7%）で高くなっている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、男性70歳以上で特に高くなっている。一方、「ほぼ平等になっている」は、男女とも29歳以下で特に高くなっている。

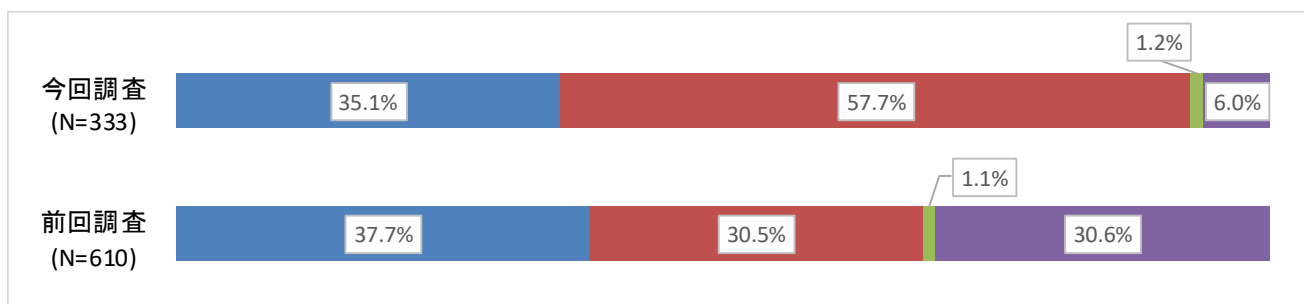


		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性	18～29歳(n=30)	20.0%	80.0%	0.0%
	30～39歳(n=34)	32.4%	67.6%	0.0%
	40～49歳(n=44)	38.6%	61.4%	0.0%
	50～59歳(n=39)	35.9%	64.1%	0.0%
	60～69歳(n=47)	46.8%	53.2%	0.0%
	70歳以上(n=22)	45.5%	54.5%	0.0%
男性	18～29歳(n=23)	13.0%	87.0%	0.0%
	30～39歳(n=21)	33.3%	66.7%	0.0%
	40～49歳(n=27)	55.6%	40.7%	3.7%
	50～59歳(n=34)	32.4%	61.8%	5.9%
	60～69歳(n=44)	59.1%	38.6%	2.3%
	70歳以上(n=27)	70.4%	29.6%	0.0%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「ほぼ平等になっている」は27.2ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値)

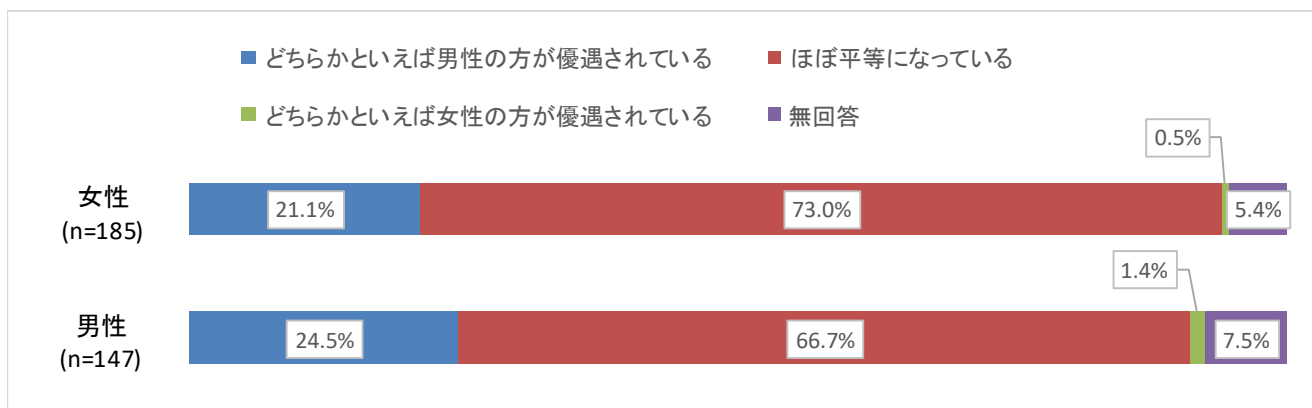


⑤教育訓練や研修

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「ほぼ平等になっている」は女性（73.0%）で高くなっている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、男性70歳以上で高くなっている。一方、「ほぼ平等になっている」は、男女とも29歳以下で特に高くなっている。

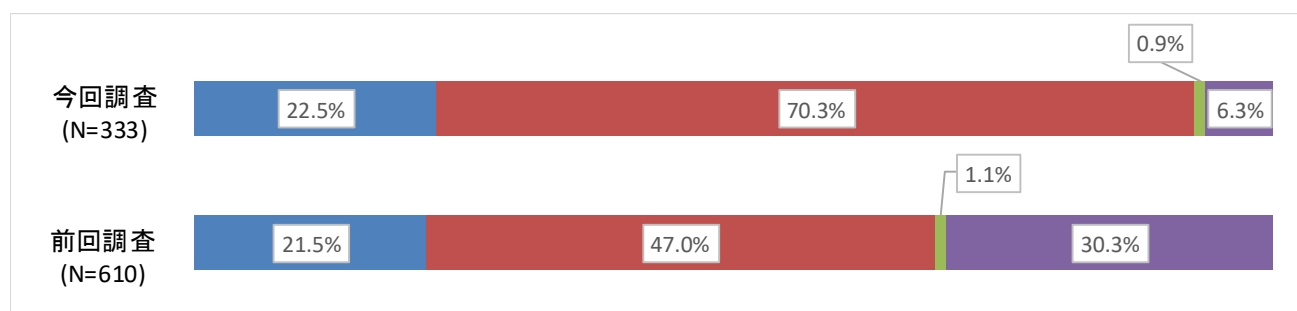


		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性	18～29歳(n=30)	10.0%	90.0%	0.0%
	30～39歳(n=34)	29.4%	67.6%	2.9%
	40～49歳(n=44)	25.0%	75.0%	0.0%
	50～59歳(n=39)	25.6%	74.4%	0.0%
	60～69歳(n=47)	21.3%	78.7%	0.0%
	70歳以上(n=22)	22.7%	77.3%	0.0%
男性	18～29歳(n=22)	9.1%	86.4%	4.5%
	30～39歳(n=21)	9.5%	90.5%	0.0%
	40～49歳(n=27)	33.3%	66.7%	0.0%
	50～59歳(n=34)	38.2%	58.8%	2.9%
	60～69歳(n=44)	34.1%	65.9%	0.0%
	70歳以上(n=27)	48.1%	48.1%	3.7%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「ほぼ平等になっている」は23.3ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値)

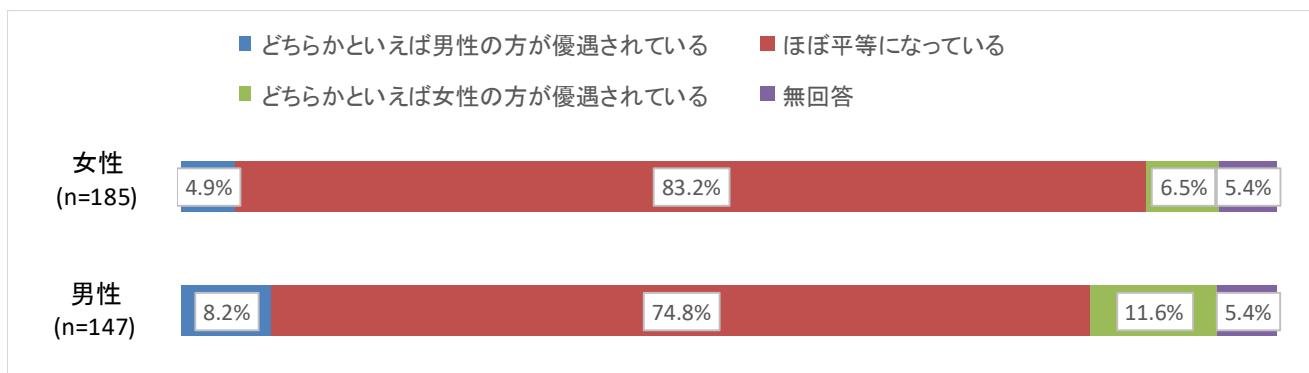


⑥有給休暇の取得

【性別、性・年齢別】

性別にみると、「ほぼ平等になっている」は女性（83.2%）で高くなっている。

性・年齢別にみると、男女ともすべての年齢層で「ほぼ平等になっている」が高くなっている。特に29歳以下では男女とも9割を超えている。

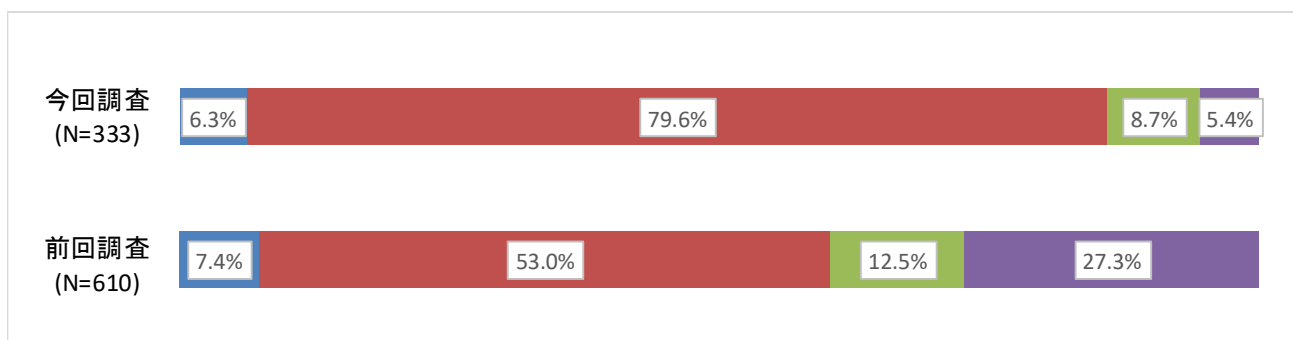


		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性	18～29歳(n=23)	0.0%	93.3%	6.7%
	30～39歳(n=21)	6.1%	78.8%	15.2%
	40～49歳(n=27)	9.1%	81.8%	9.1%
	50～59歳(n=34)	7.7%	87.2%	5.1%
	60～69歳(n=44)	4.2%	89.6%	6.3%
	70歳以上(n=30)	9.5%	81.0%	9.5%
男性	18～29歳(n=23)	4.3%	91.3%	4.3%
	30～39歳(n=21)	4.8%	76.2%	19.0%
	40～49歳(n=27)	7.4%	77.8%	14.8%
	50～59歳(n=34)	17.6%	67.6%	14.7%
	60～69歳(n=44)	6.8%	81.8%	11.4%
	70歳以上(n=30)	20.0%	66.7%	13.3%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、「ほぼ平等になっている」は26.6ポイント増加している。

(※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値)



【3】ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

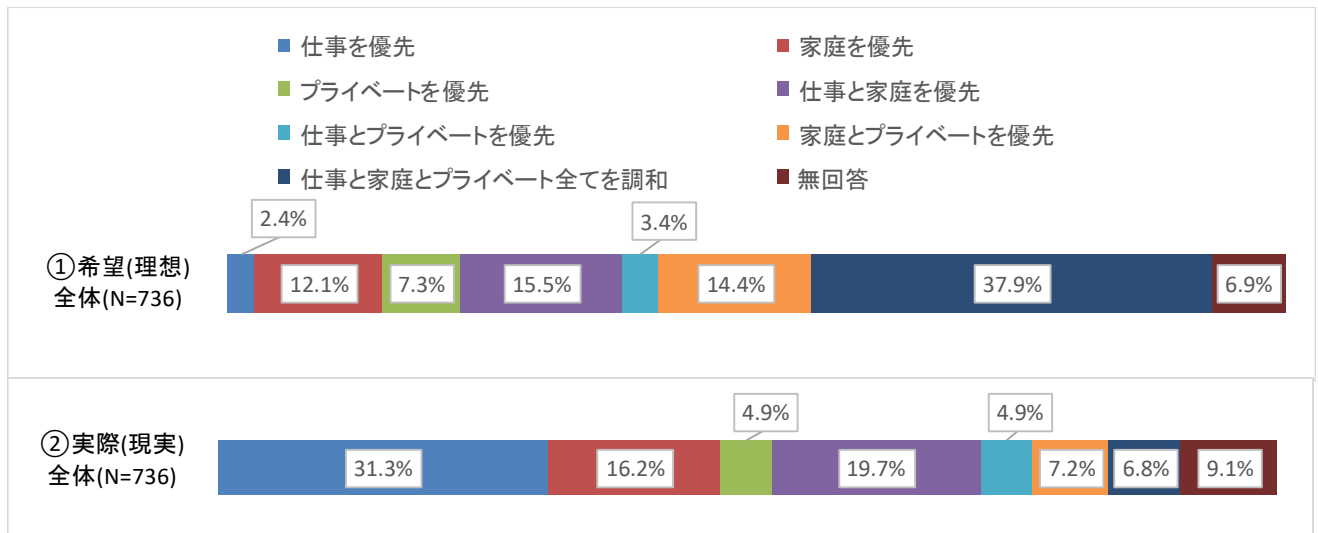
1 日常生活の理想と現実

問 14. 日常生活における、「仕事」、「家庭」、「プライベート（趣味・地域活動・学習など）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と②実際の（現実の）優先度をそれぞれお答えください。（○印1つずつ）

日常生活の＜理想＞と＜現実＞について、①希望（理想）の優先度は「仕事と家庭とプライベート全てを調和」が37.9%と最も高く、次いで「仕事と家庭を優先」（15.5%）、「家庭とプライベートを優先」（14.4%）の順となっている。

一方、②実際（現実）の優先度は「仕事を優先」が31.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭を優先」（19.7%）、「家庭を優先」（16.2%）の順となっている。

希望（理想）と実際（現実）の差は、「仕事を優先」、「仕事と家庭とプライベート全てを調和」で特に大きくなっている。



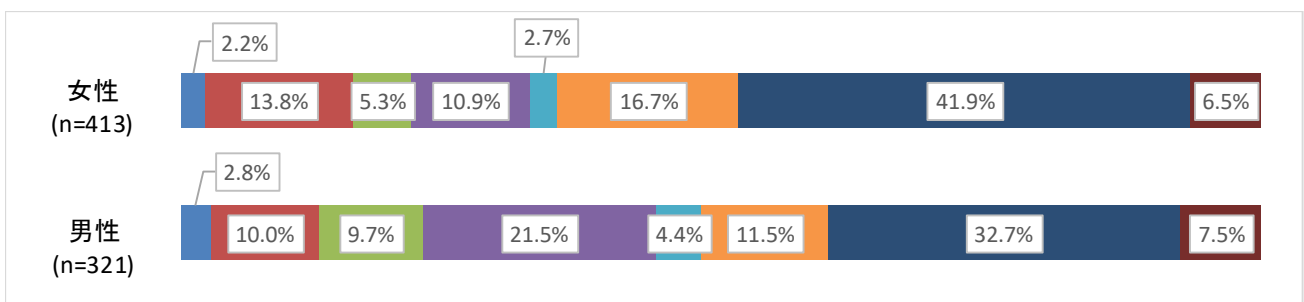
①希望（理想）

【性別】

性別にみると、男女ともに「仕事と家庭とプライベート全てを調和」（女性41.9%、男性32.7%）が最も高くなっている。

「仕事と家庭を優先」は女性（10.9%）に比べ男性（21.5%）で高くなっている。

「家庭とプライベートを優先」は男性（11.5%）に比べ女性（16.7%）で高くなっている。



【性・年齢別】

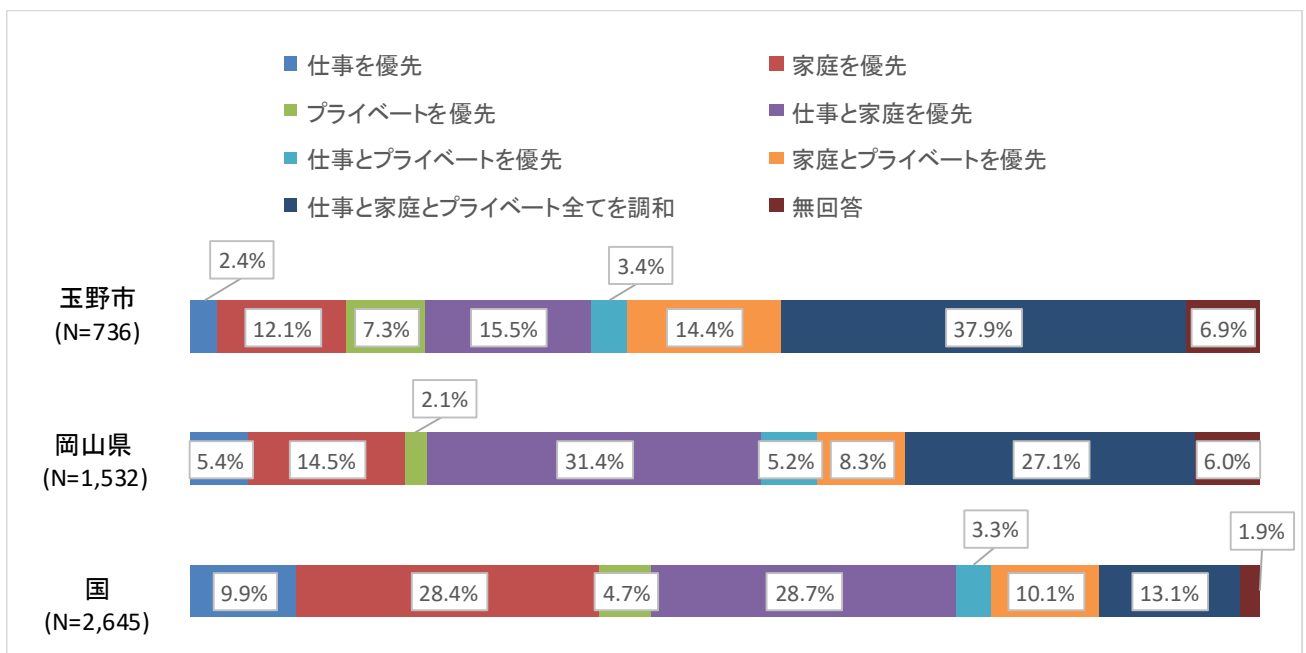
性・年齢別にみると、男性 30 歳代を除き、男女すべての年齢層で「仕事と家庭とプライベートを全てを調和したい」が最も高くなっている。

		仕事を優先	家庭を優先	プライベートを優先	仕事と家庭を優先	仕事とプライベートを優先	家庭とプライベートを優先	仕事と家庭とプライベート全てを調和
女性	18～29歳(n=44)	2.3%	9.1%	11.4%	4.5%	9.1%	13.6%	50.0%
	30～39歳(n=45)	2.2%	24.4%	6.7%	6.7%	4.4%	17.8%	37.8%
	40～49歳(n=63)	0.0%	9.5%	9.5%	4.8%	3.2%	17.5%	55.6%
	50～59歳(n=58)	1.7%	10.3%	6.9%	10.3%	0.0%	12.1%	58.6%
	60～69歳(n=85)	2.4%	16.5%	2.4%	11.8%	2.4%	21.2%	43.5%
	70歳以上(n=91)	4.4%	17.6%	2.2%	23.1%	1.1%	20.9%	30.8%
男性	18～29歳(n=26)	7.7%	7.7%	23.1%	0.0%	7.7%	7.7%	46.2%
	30～39歳(n=22)	0.0%	18.2%	13.6%	22.7%	4.5%	27.3%	13.6%
	40～49歳(n=33)	3.0%	6.1%	12.1%	27.3%	0.0%	15.2%	36.4%
	50～59歳(n=46)	2.2%	6.5%	10.9%	26.1%	10.9%	8.7%	34.8%
	60～69歳(n=73)	1.4%	15.1%	15.1%	20.5%	4.1%	8.2%	35.6%
	70歳以上(n=96)	4.2%	10.4%	2.1%	28.1%	3.1%	14.6%	37.5%

【県・国調査との比較】

県調査と比較すると、「仕事と家庭を優先」は低く、「仕事と家庭とプライベート全てを調和」は高くなっている。

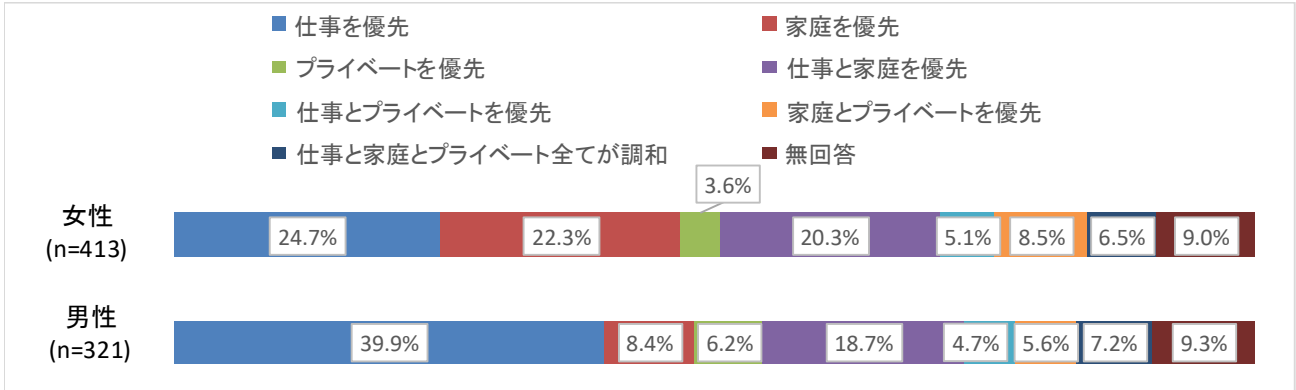
国調査と比較すると、「家庭を優先」と「仕事と家庭を優先」は低く、「仕事と家庭とプライベート全てを調和」は高くなっている。



②実際（現実）

【性別】

性別にみると、女性では「仕事を優先」（24.7%）、「家庭を優先」（22.3%）、「仕事と家庭を優先」（20.3%）が高くなっている。一方、男性では「仕事を優先」（39.9%）が高く、約4割となっている。



【性・年齢別】

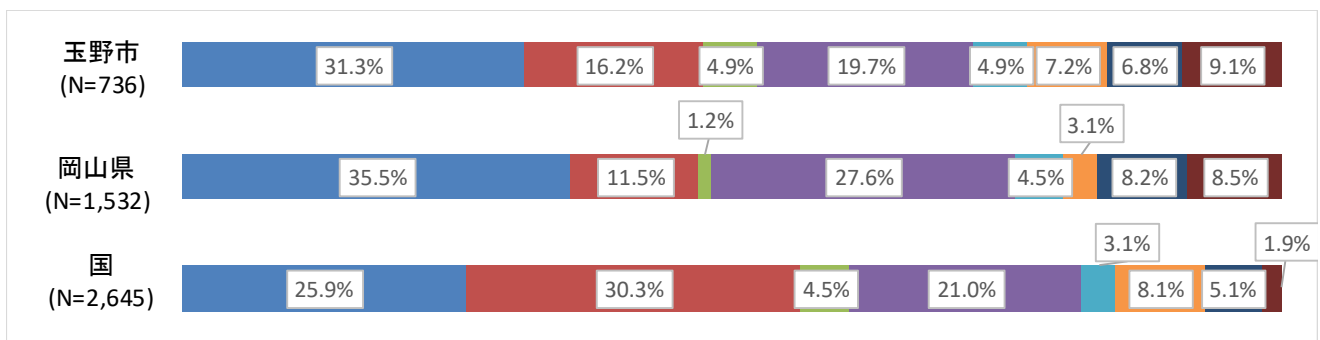
性・年齢別にみると、女性29歳以下、30歳代、60歳代及び男性のすべての年齢層で「仕事を優先」が最も高くなっている。女性50歳代では「仕事と家庭を優先」が高くなっている。

		仕事を優先	家庭を優先	プライベートを優先	仕事と家庭を優先	仕事とプライベートを優先	家庭とプライベートを優先	仕事と家庭とプライベート全てを調和
女性	18～29歳(n=43)	37.2%	9.3%	14.0%	11.6%	20.9%	2.3%	4.7%
	30～39歳(n=45)	35.6%	28.9%	0.0%	26.7%	2.2%	0.0%	6.7%
	40～49歳(n=63)	28.6%	31.7%	0.0%	25.4%	3.2%	1.6%	9.5%
	50～59歳(n=56)	21.4%	17.9%	1.8%	41.1%	3.6%	1.8%	12.5%
	60～69歳(n=82)	31.7%	25.6%	3.7%	15.9%	4.9%	13.4%	4.9%
	70歳以上(n=87)	16.1%	27.6%	5.7%	17.2%	3.4%	24.1%	5.7%
男性	18～29歳(n=26)	38.5%	7.7%	11.5%	3.8%	15.4%	0.0%	23.1%
	30～39歳(n=22)	54.5%	13.6%	4.5%	18.2%	0.0%	4.5%	4.5%
	40～49歳(n=33)	57.6%	0.0%	3.0%	21.2%	0.0%	6.1%	12.1%
	50～59歳(n=46)	41.3%	6.5%	0.0%	28.3%	8.7%	4.3%	10.9%
	60～69歳(n=74)	41.9%	10.8%	12.2%	25.7%	2.7%	4.1%	2.7%
	70歳以上(n=89)	40.4%	12.4%	6.7%	18.0%	5.6%	11.2%	5.6%

【県・国調査との比較】

県調査と比較すると、「仕事と家庭を優先」が低くなっている。

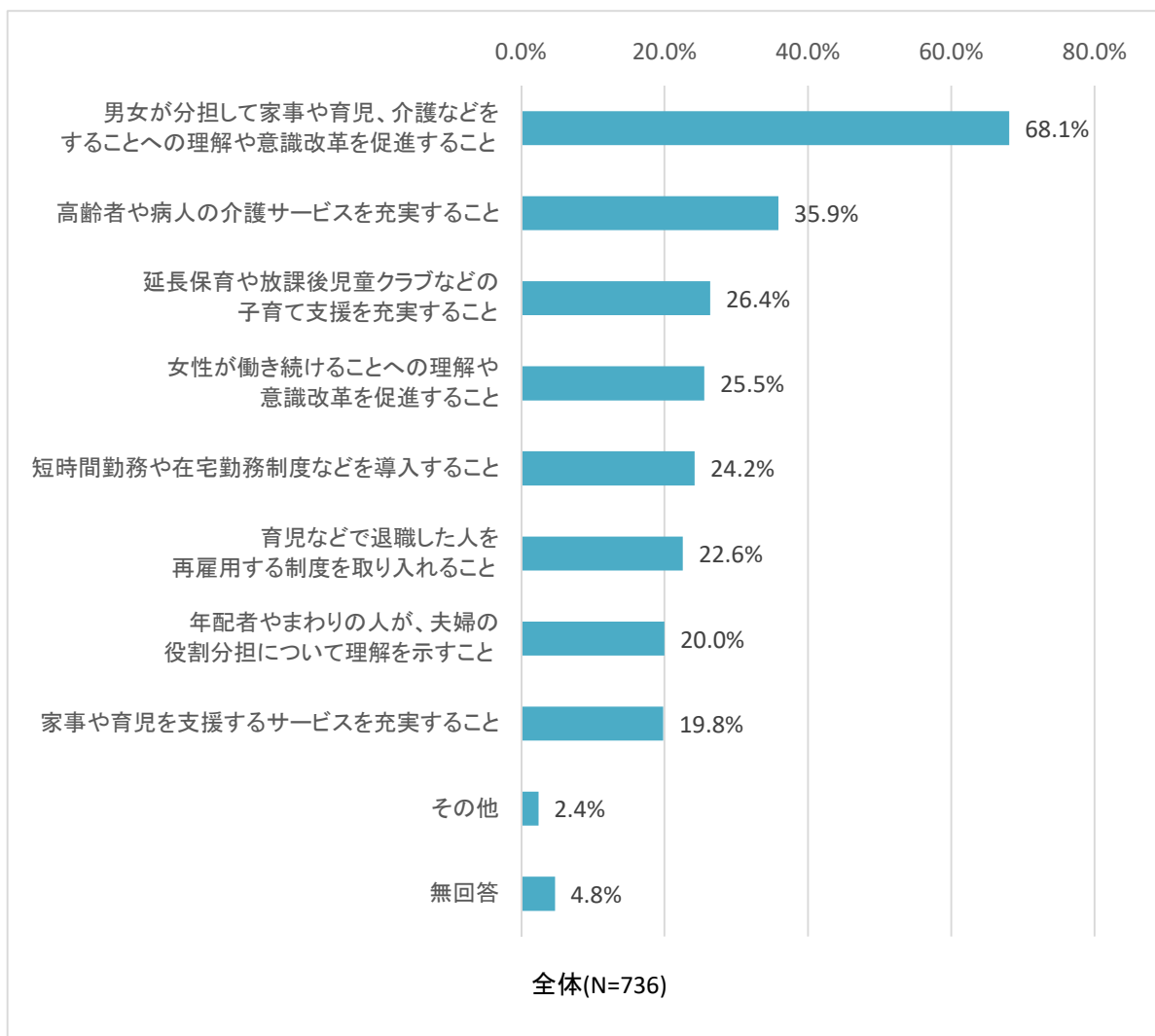
国調査と比較すると、「家庭を優先」が低くなっている。



2 ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なこと

問 15. 男女がともに、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印 3 つまで）

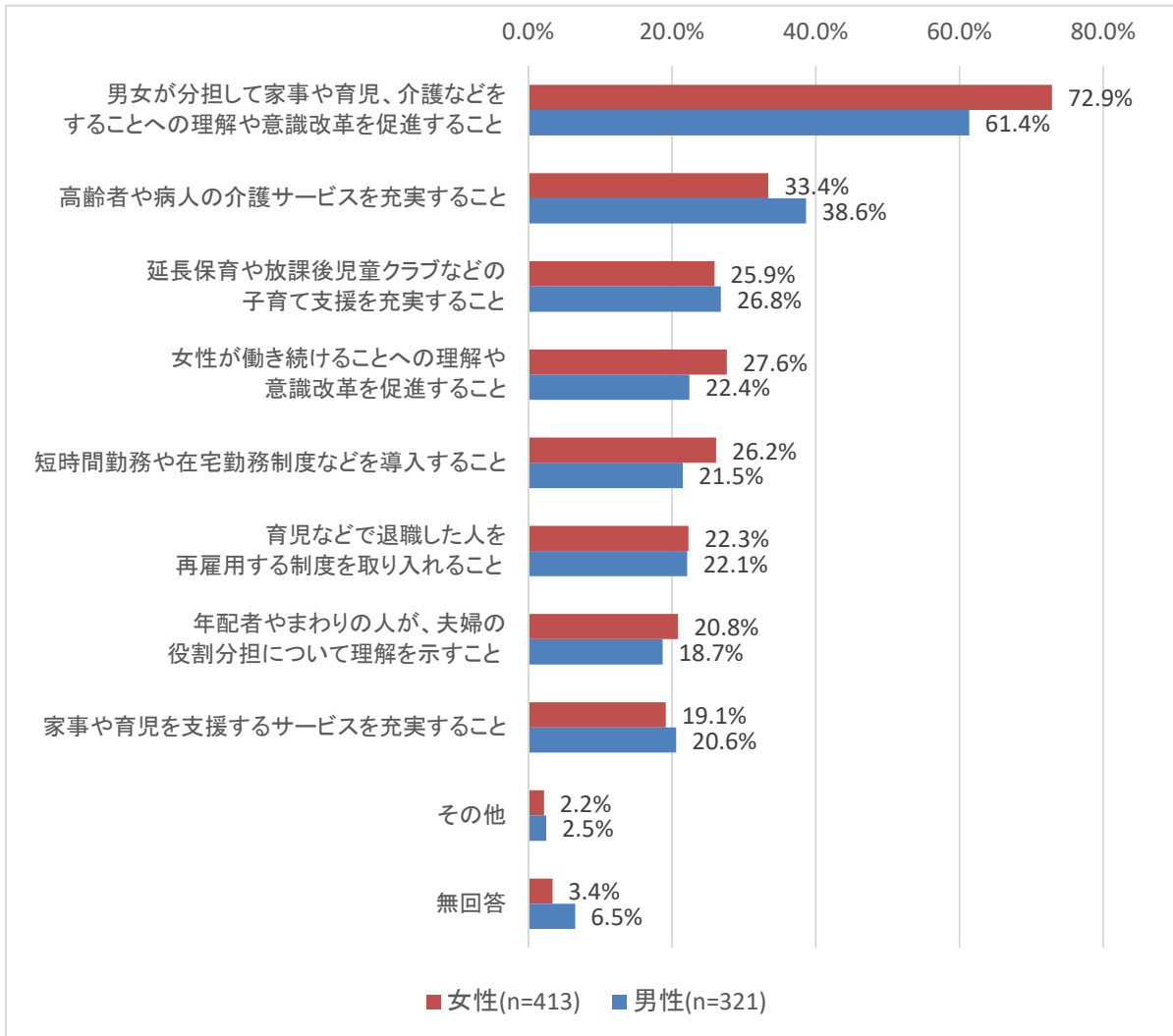
ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なことについて、「男女が分担して家事や育児、介護などを行うことへの理解や意識改革を促進すること」が68.1%と最も高く、次いで「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」（35.9%）、「延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること」（26.4%）の順となっている。



【性別、性・年齢別】

性別にみると、男女ともに「男女が分担して家事や育児、介護などを行うことへの理解や意識改革を促進すること」が高く、女性では7割、男性では6割を超えている。その他の項目では、性別による大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、男女すべての年齢層で「男女が分担して家事や育児、介護などを行うことへの理解や意識改革を促進すること」が最も高くなっている。

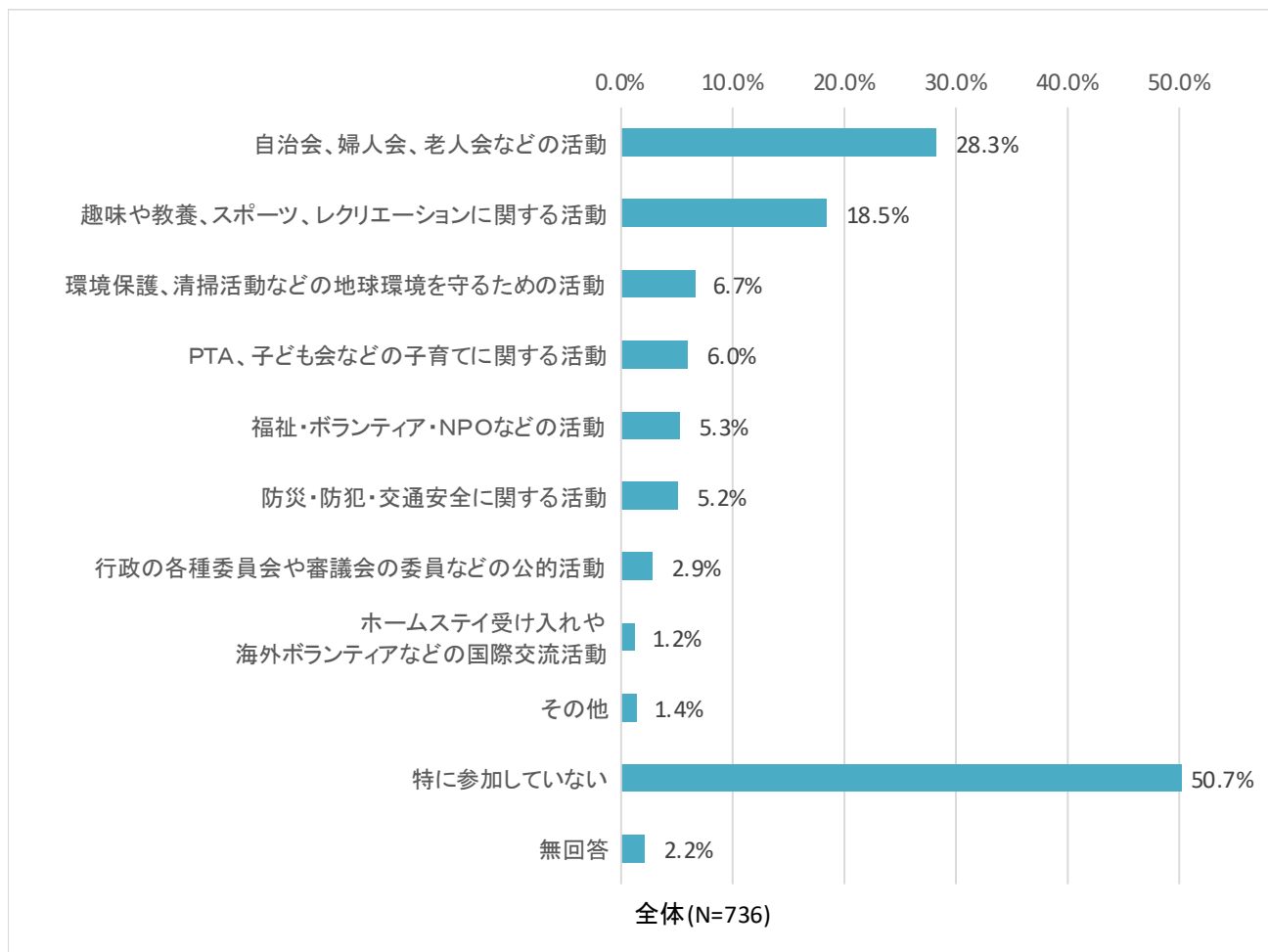


		男女が分担して家事や育児、介護などを行うことへの理解や意識改革を促進すること	女性が働き続けることへの理解や意識改革を促進すること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について理解を示すこと	延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること	家事や育児を支援するサービスを充実すること	高齢者や病人の介護サービスを充実すること	短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること	育児などで退職した人を再雇用する制度を取り入れること	その他
女性	18～29歳(n=121)	33.1%	10.7%	3.3%	10.7%	11.6%	2.5%	16.5%	11.6%	0.0%
	30～39歳(n=119)	31.1%	16.0%	7.6%	13.4%	10.1%	2.5%	11.8%	5.9%	1.7%
	40～49歳(n=174)	27.0%	12.1%	10.3%	10.3%	6.9%	10.9%	11.5%	9.2%	1.7%
	50～59歳(n=155)	29.0%	11.6%	11.6%	7.7%	7.1%	16.1%	9.7%	6.5%	0.6%
	60～69歳(n=222)	28.8%	10.4%	5.4%	10.4%	5.0%	19.8%	11.3%	8.6%	0.5%
	70歳以上(n=243)	28.0%	8.2%	10.3%	10.3%	7.8%	18.1%	5.8%	10.7%	0.8%
男性	18～29歳(n=63)	25.4%	9.5%	11.1%	9.5%	15.9%	4.8%	9.5%	11.1%	3.2%
	30～39歳(n=55)	29.1%	9.1%	7.3%	21.8%	5.5%	0.0%	10.9%	16.4%	0.0%
	40～49歳(n=87)	26.4%	10.3%	3.4%	8.0%	12.6%	10.3%	16.1%	10.3%	2.3%
	50～59歳(n=121)	25.6%	15.7%	3.3%	11.6%	8.3%	19.0%	8.3%	7.4%	0.8%
	60～69歳(n=190)	26.3%	7.9%	6.8%	10.5%	10.0%	18.9%	9.5%	9.5%	0.5%
	70歳以上(n=231)	25.5%	7.8%	12.1%	11.3%	5.6%	22.1%	6.5%	8.2%	0.9%

3 地域活動への参加状況

問 16. あなたは、現在次のような地域活動に参加していますか。(〇印いくつでも)

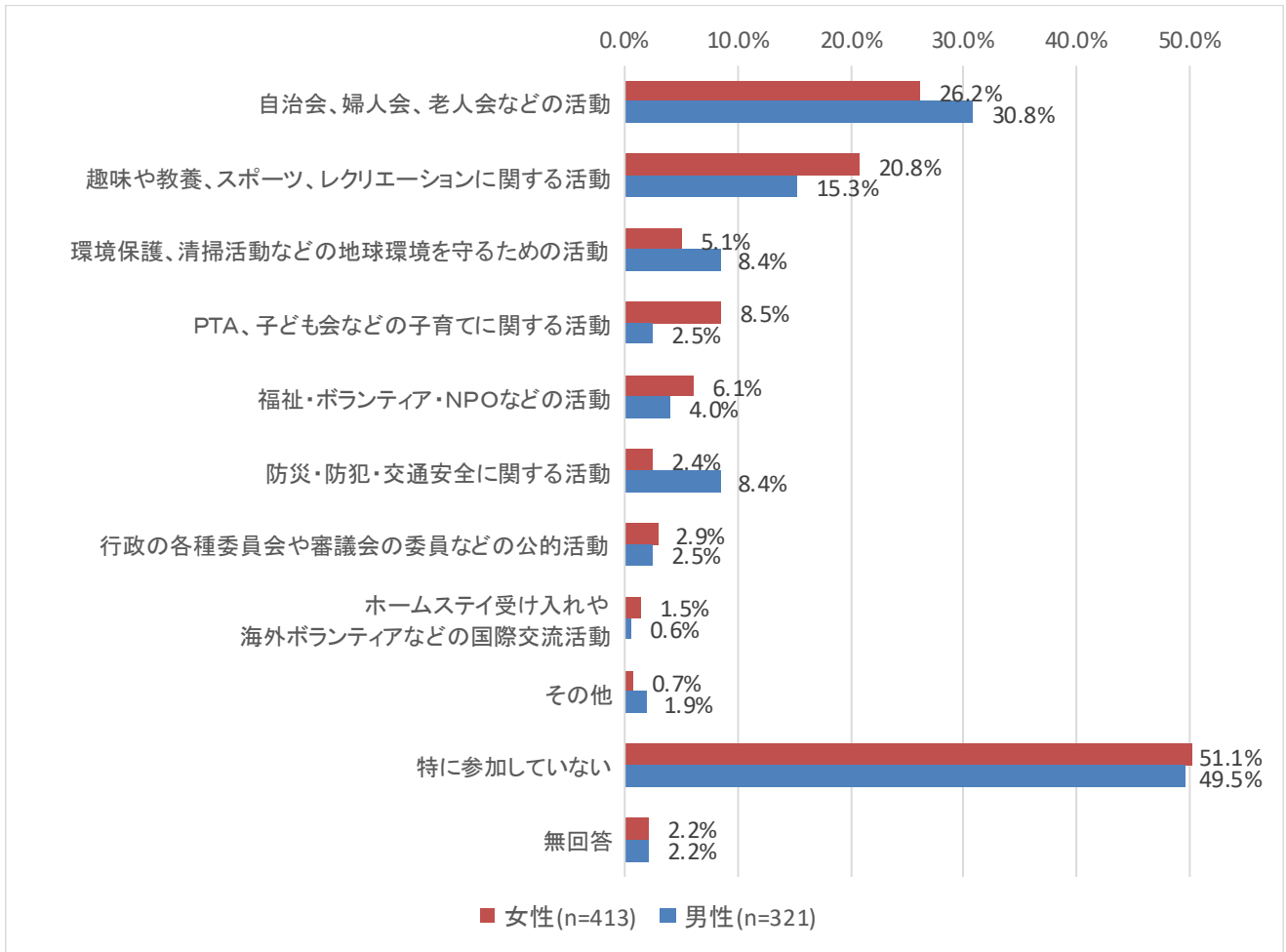
地域活動への参加状況について、「特に参加していない」が50.7%と最も高くなっている。参加活動としては、「自治会、婦人会、老人会などの活動」が28.3%と最も高く、次いで「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」(18.5%)が高くなっている。



【性別、性・年齢別】

性別にみると、男女とも「自治会、婦人会、老人会などの活動」、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」の順に高くなっている。「PTA、子ども会などの子育てに関する活動」は男性に比べて女性で、「防災・防犯・交通安全に関する活動」は女性に比べて男性で高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも40歳代以上で「自治会、婦人会、老人会などの活動」が高くなる傾向にある。女性では、30歳代と40歳代で「PTA、子ども会などの子育てに関する活動」が高く、60歳代以上で「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」が高くなっている。一方、若い年齢層ほど「特に参加していない」が高くなる傾向にある。



		自治会、婦人会、老人会などの活動	PTA、子ども会などの子育てに関する活動	趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動	環境保護、清掃活動などの地球環境を守るための活動	福祉・ボランティア・NPOなどの活動	防災・防犯・交通安全に関する活動	ホームステイ受け入れや海外ボランティアなどの国際交流活動	行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動	その他	特に参加していない
女性	18~29歳(n=44)	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	77.3%
	30~39歳(n=53)	5.7%	20.8%	9.4%	1.9%	1.9%	1.9%	3.8%	0.0%	0.0%	54.7%
	40~49歳(n=92)	22.8%	20.7%	8.7%	2.2%	4.3%	1.1%	1.1%	3.3%	0.0%	35.9%
	50~59歳(n=75)	26.7%	6.7%	9.3%	8.0%	4.0%	4.0%	2.7%	2.7%	0.0%	36.0%
	60~69歳(n=108)	20.4%	0.0%	24.1%	3.7%	3.7%	2.8%	0.0%	3.7%	0.0%	41.7%
	70歳以上(n=145)	27.6%	0.0%	24.8%	5.5%	6.2%	1.4%	0.7%	2.1%	2.1%	29.7%
男性	18~29歳(n=23)	0.0%	0.0%	8.7%	4.3%	4.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	78.3%
	30~39歳(n=31)	9.7%	6.5%	9.7%	9.7%	3.2%	6.5%	3.2%	3.2%	3.2%	45.2%
	40~49歳(n=42)	26.2%	9.5%	14.3%	2.4%	4.8%	4.8%	2.4%	2.4%	0.0%	33.3%
	50~59歳(n=53)	20.8%	1.9%	7.5%	3.8%	1.9%	13.2%	0.0%	1.9%	0.0%	49.1%
	60~69歳(n=101)	26.7%	1.0%	15.8%	5.9%	4.0%	5.0%	0.0%	1.0%	2.0%	38.6%
	70歳以上(n=145)	31.7%	0.0%	11.7%	9.7%	2.8%	6.9%	0.0%	2.8%	2.1%	32.4%

【4】家庭生活と男女の役割について

1 結婚と家庭に関する考え方

問 17. あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。

①から⑤のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、『賛成意向*』が74.2%と多数を占めている。

「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)は、『反対意向*』が73.8%と多数を占めている。

「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は『賛成意向』が52.0%となっている。

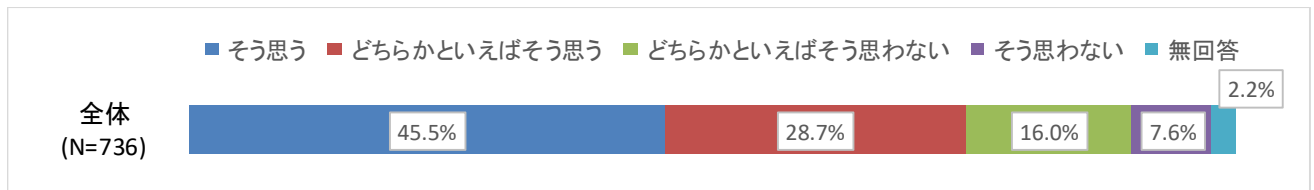
「④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである」は、『賛成意向』(49.6%)と『反対意向』(47.1%)が拮抗している。

「⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである」は、88.8%が『賛成意向』となっている。

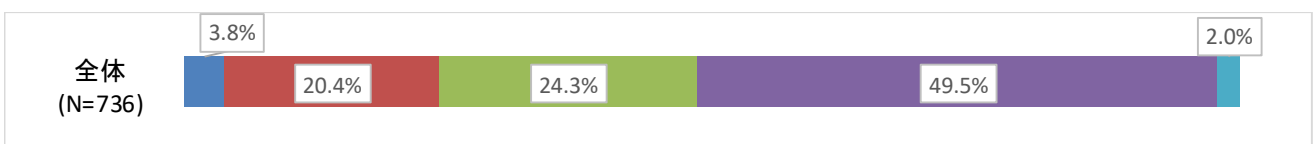
※『賛成意向』…「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合

※『反対意向』…「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合

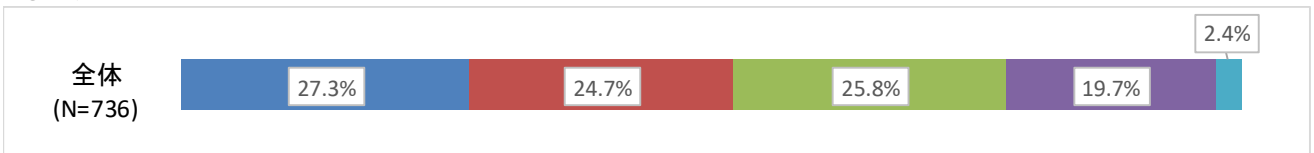
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



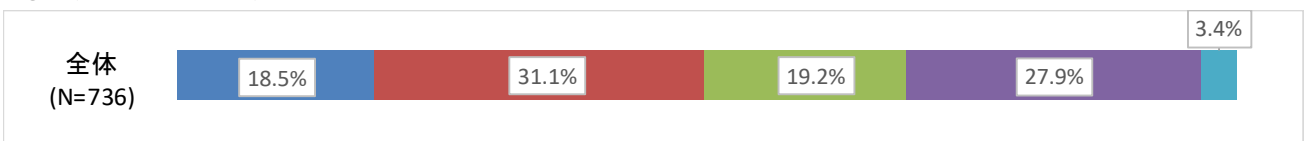
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)



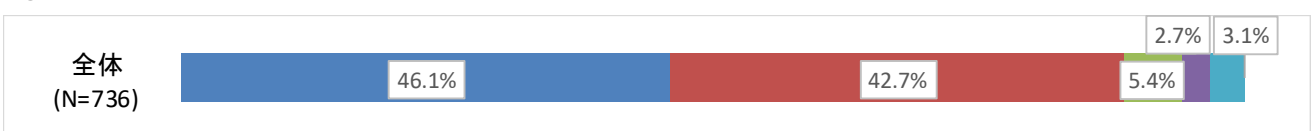
③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである



⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである

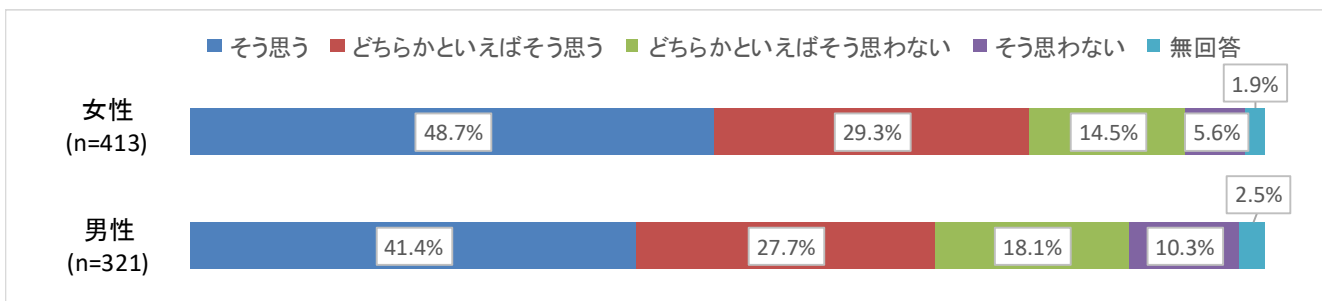


①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

【性別、性・年齢別】

性別にみると、男女とも『賛成意向』が高く、男性（69.1%）よりも女性（78.0%）で高くなっている。

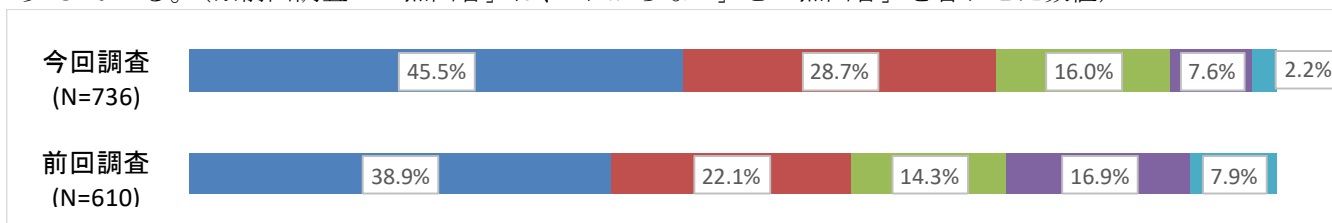
性・年齢別にみると、男女とも若い年齢層ほど「そう思う」が高くなる傾向にある。一方、年齢が上がるほど「どちらかといえばそう思わない」がおおむね高くなる傾向にある。



		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
女性	18～29歳(n=45)	62.2%	31.1%	2.2%	4.4%
	30～39歳(n=45)	80.0%	13.3%	6.7%	0.0%
	40～49歳(n=65)	70.8%	16.9%	10.8%	1.5%
	50～59歳(n=59)	32.2%	40.7%	20.3%	6.8%
	60～69歳(n=88)	47.7%	36.4%	9.1%	6.8%
	70歳以上(n=103)	29.1%	33.0%	28.2%	9.7%
男性	18～29歳(n=26)	65.4%	26.9%	3.8%	3.8%
	30～39歳(n=22)	72.7%	18.2%	4.5%	4.5%
	40～49歳(n=33)	45.5%	33.3%	9.1%	12.1%
	50～59歳(n=46)	32.6%	43.5%	23.9%	0.0%
	60～69歳(n=78)	42.3%	25.6%	21.8%	10.3%
	70歳以上(n=106)	34.9%	24.5%	22.6%	17.9%

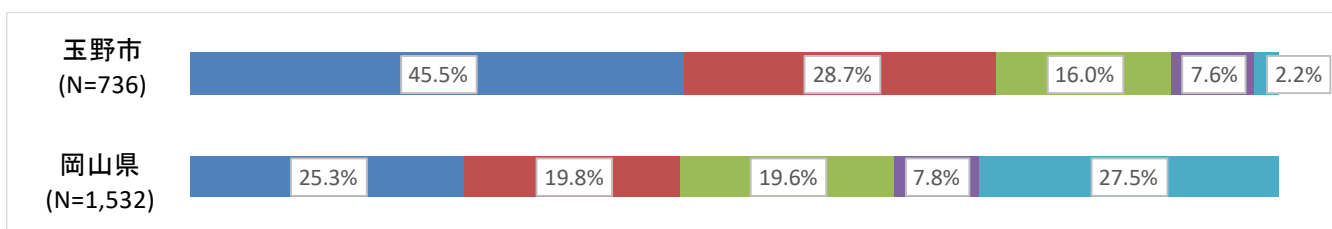
【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、『賛成意向』は13.2ポイント増加し、『反対意向』は7.6ポイント減少している。（※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値）



【県調査との比較】

岡山県の調査と比較すると、『賛成意向』は29.1ポイント高い。（※県調査の「無回答」は、「どちらともいえない」と「無回答」を合わせた数値）

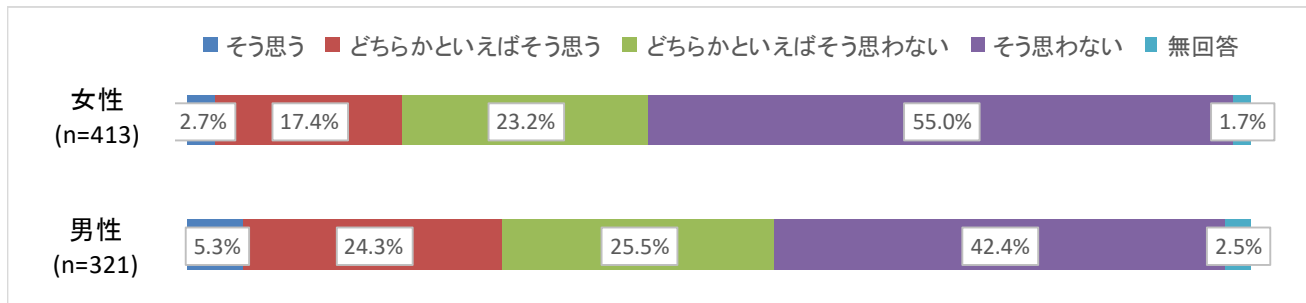


②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）

【性別、性・年齢別】

性別にみると、男女とも『反対意向』が高く、男性（67.9%）より女性（78.2%）で高くなっている。

性・年齢別にみると、男性29歳以下を除き、男女すべての年齢層で「そう思わない」が最も高くなっている。

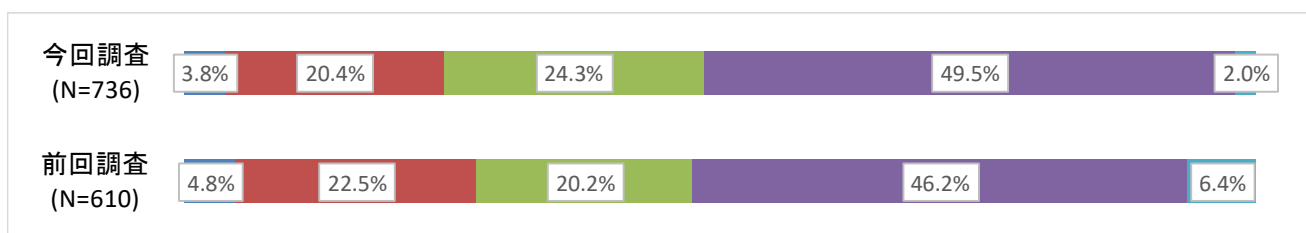


		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
女性	18～29歳(n=45)	2.2%	13.3%	28.9%	55.6%
	30～39歳(n=45)	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%
	40～49歳(n=64)	3.1%	7.8%	15.6%	73.4%
	50～59歳(n=58)	0.0%	20.7%	27.6%	51.7%
	60～69歳(n=88)	1.1%	17.0%	29.5%	52.3%
	70歳以上(n=106)	6.6%	23.6%	20.8%	49.1%
男性	18～29歳(n=26)	7.7%	34.6%	23.1%	34.6%
	30～39歳(n=21)	0.0%	14.3%	23.8%	61.9%
	40～49歳(n=33)	0.0%	12.1%	36.4%	51.5%
	50～59歳(n=46)	2.2%	19.6%	28.3%	50.0%
	60～69歳(n=78)	5.1%	21.8%	29.5%	43.6%
	70歳以上(n=107)	8.4%	33.6%	21.5%	36.4%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、『反対意向』は7.4ポイント増加している。

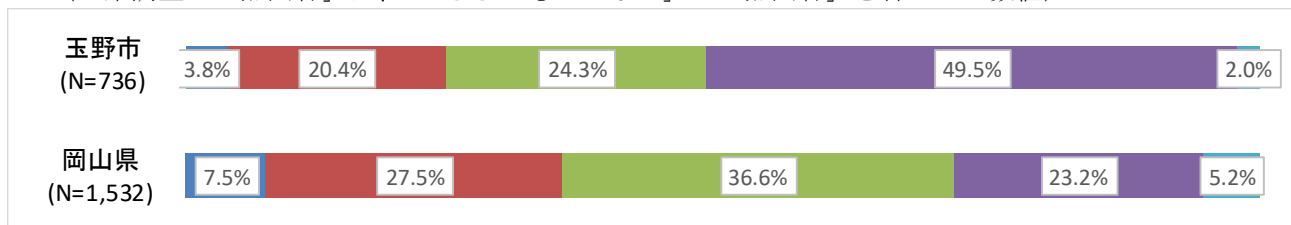
（※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値）



【県調査との比較】

県調査と比較すると、『賛成意向』は10.8ポイント低く、『反対意向』は14.0ポイント高い。

（※県調査の「無回答」は、「どちらともいえない」と「無回答」を合わせた数値）

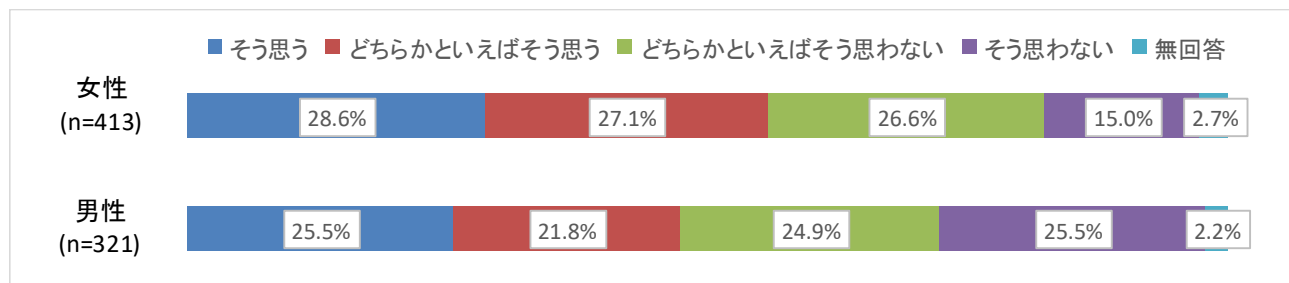


③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『賛成意向』は男性（47.3%）より女性（55.7%）で高く過半数を超えている。一方、『反対意向』は女性（41.6%）より男性（50.4%）で高くなっている。

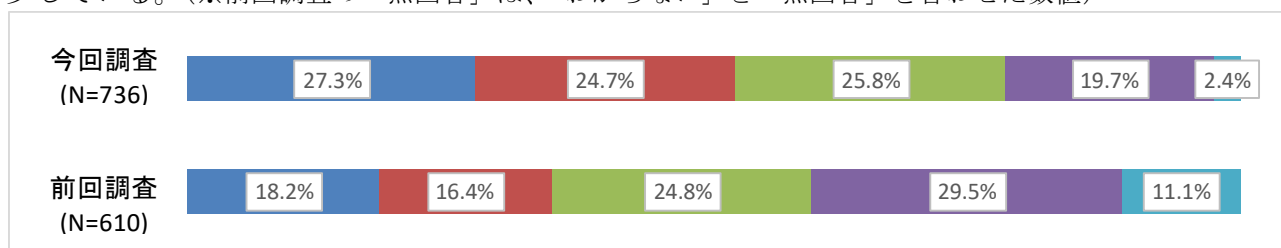
性・年齢別にみると、若い年齢層ほど「そう思う」が高くなる傾向にある。一方、年齢が上がるほど「そう思わない」が高くなる傾向にある。



		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
女性	18～29歳(n=44)	45.5%	36.4%	13.6%	4.5%
	30～39歳(n=45)	46.7%	28.9%	17.8%	6.7%
	40～49歳(n=65)	47.7%	23.1%	21.5%	7.7%
	50～59歳(n=57)	19.3%	38.6%	29.8%	12.3%
	60～69歳(n=88)	25.0%	28.4%	31.8%	14.8%
	70歳以上(n=103)	12.6%	20.4%	35.9%	31.1%
男性	18～29歳(n=26)	42.3%	38.5%	15.4%	3.8%
	30～39歳(n=21)	61.9%	14.3%	9.5%	14.3%
	40～49歳(n=33)	30.3%	24.2%	30.3%	15.2%
	50～59歳(n=46)	23.9%	17.4%	39.1%	19.6%
	60～69歳(n=78)	23.1%	24.4%	26.9%	25.6%
	70歳以上(n=108)	17.6%	20.4%	23.1%	38.9%

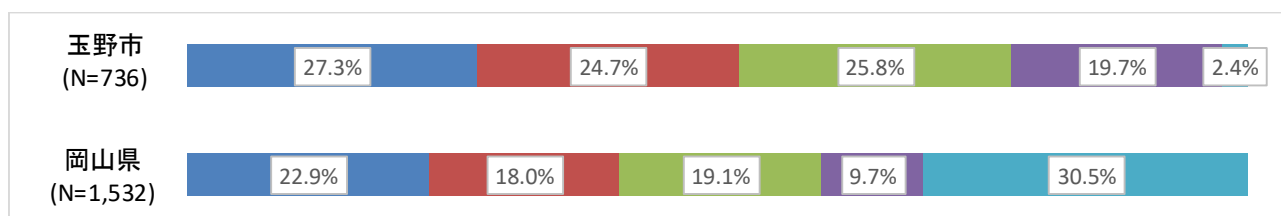
【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、『賛成意向』は17.4ポイント増加し、『反対意向』は8.8ポイント減少している。（※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値）



【県調査との比較】

県調査と比較すると、『賛成意向』は11.1ポイント、『反対意向』は16.7ポイント高くなっている。（※県調査の「無回答」は、「どちらともいえない」と「無回答」を合わせた数値）

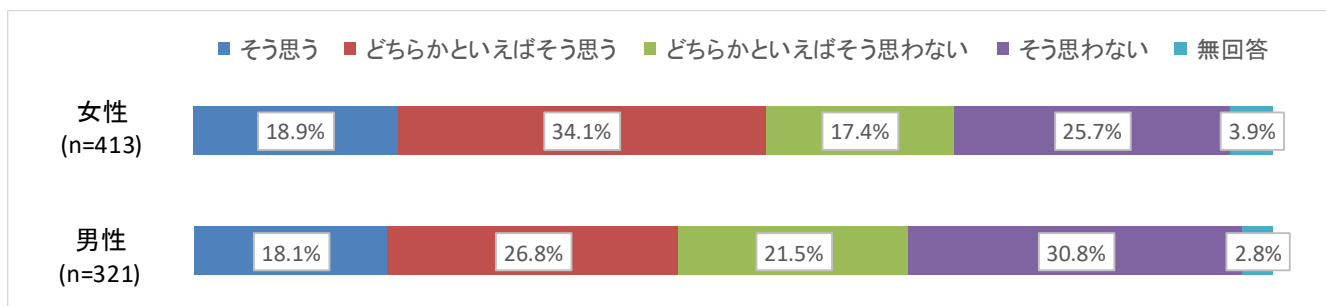


④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『賛成意向』は男性（44.9%）より女性（53.0%）で高く過半数を超えている。一方、『反対意向』は女性（43.1%）より男性（52.3%）で高く過半数を超えている。

性・年齢別にみると、「どちらかといえばそう思う」は女性29歳以下で高くなっている。一方、「そう思わない」は男性30歳代で高くなっている。

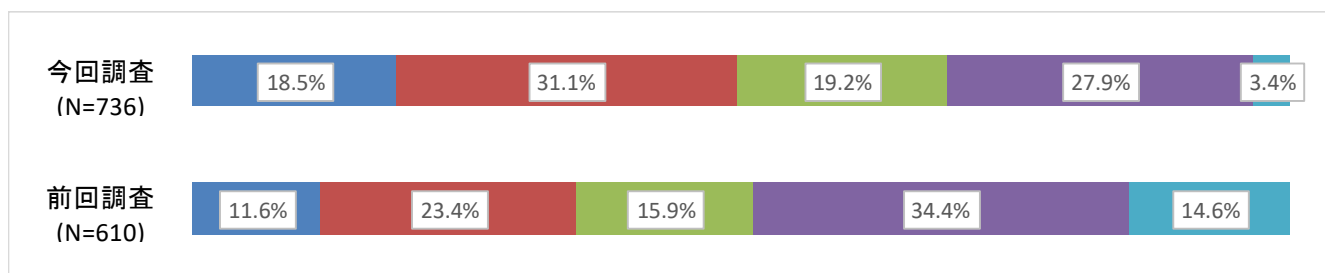


		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
女性	18～29歳(n=45)	20.0%	51.1%	13.3%	15.6%
	30～39歳(n=45)	40.0%	24.4%	17.8%	17.8%
	40～49歳(n=64)	21.9%	34.4%	17.2%	26.6%
	50～59歳(n=56)	8.9%	44.6%	28.6%	17.9%
	60～69歳(n=87)	19.5%	33.3%	12.6%	34.5%
	70歳以上(n=100)	15.0%	31.0%	20.0%	34.0%
男性	18～29歳(n=25)	20.0%	36.0%	12.0%	32.0%
	30～39歳(n=21)	9.5%	33.3%	9.5%	47.6%
	40～49歳(n=33)	30.3%	12.1%	27.3%	30.3%
	50～59歳(n=46)	13.0%	30.4%	23.9%	32.6%
	60～69歳(n=78)	16.7%	30.8%	25.6%	26.9%
	70歳以上(n=107)	20.6%	25.2%	22.4%	31.8%

【前回調査との比較】

前回の調査と比較すると、『賛成意向』は14.6ポイント増加し、『反対意向』は3.2ポイント減少している。

（※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値）

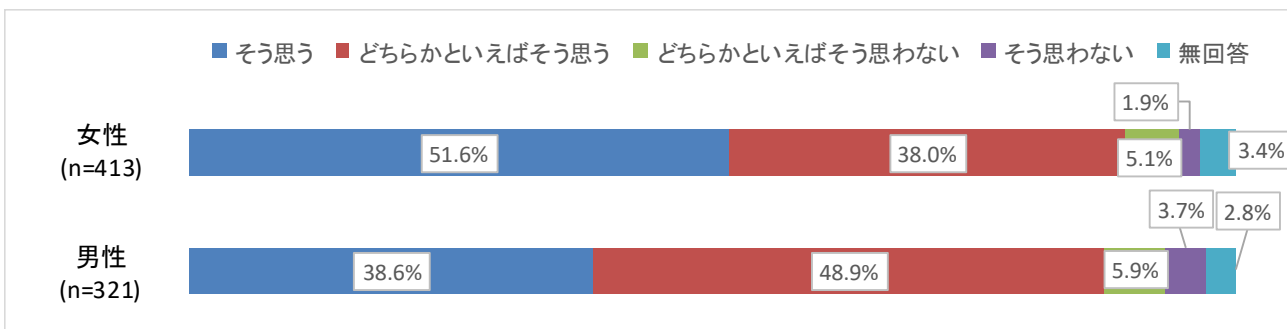


⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである

【性別、性・年齢別】

性別にみると、『賛成意向』は男女ともに8割を超えている（女性：89.6%、男性87.5%）。内訳をみると、女性は「そう思う」が高く、男性は「どちらかといえばそう思う」が高くなっている。

性・年齢別にみると、女性では50歳代を除くすべての年齢層で「そう思う」が最も高くなっている。一方、男性では40歳代を除くすべての年齢層で「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっている。

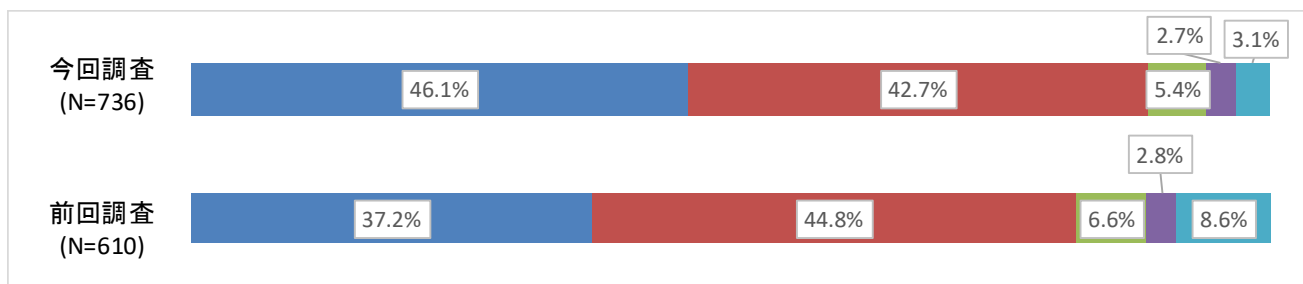


		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
女性	18～29歳(n=44)	59.1%	34.1%	6.8%	0.0%
	30～39歳(n=45)	66.7%	26.7%	4.4%	2.2%
	40～49歳(n=65)	63.1%	30.8%	6.2%	0.0%
	50～59歳(n=56)	44.6%	51.8%	1.8%	1.8%
	60～69歳(n=87)	48.3%	44.8%	5.7%	1.1%
	70歳以上(n=102)	48.0%	41.2%	5.9%	4.9%
男性	18～29歳(n=26)	42.3%	46.2%	7.7%	3.8%
	30～39歳(n=21)	38.1%	52.4%	0.0%	9.5%
	40～49歳(n=33)	51.5%	42.4%	3.0%	3.0%
	50～59歳(n=46)	34.8%	58.7%	6.5%	0.0%
	60～69歳(n=78)	38.5%	52.6%	6.4%	2.6%
	70歳以上(n=106)	39.6%	47.2%	7.5%	5.7%

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、『賛成意向』が6.8ポイント増加している。

（※前回調査の「無回答」は、「わからない」と「無回答」を合わせた数値）

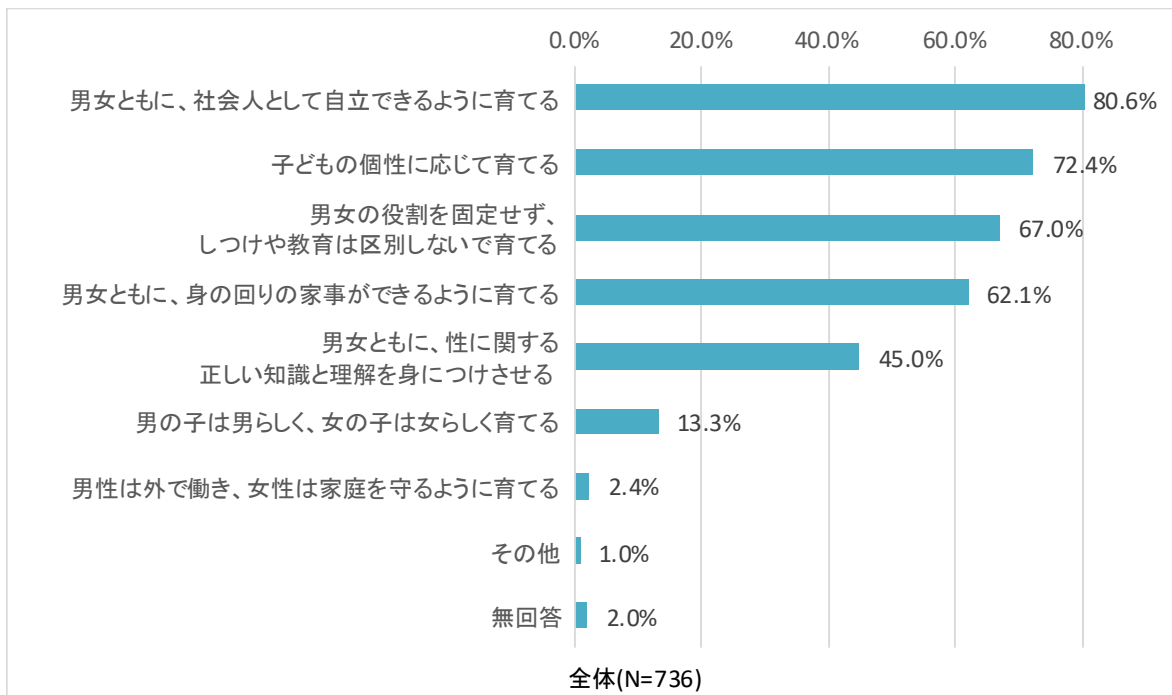


2 子育てに関する考え方

問 18. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。

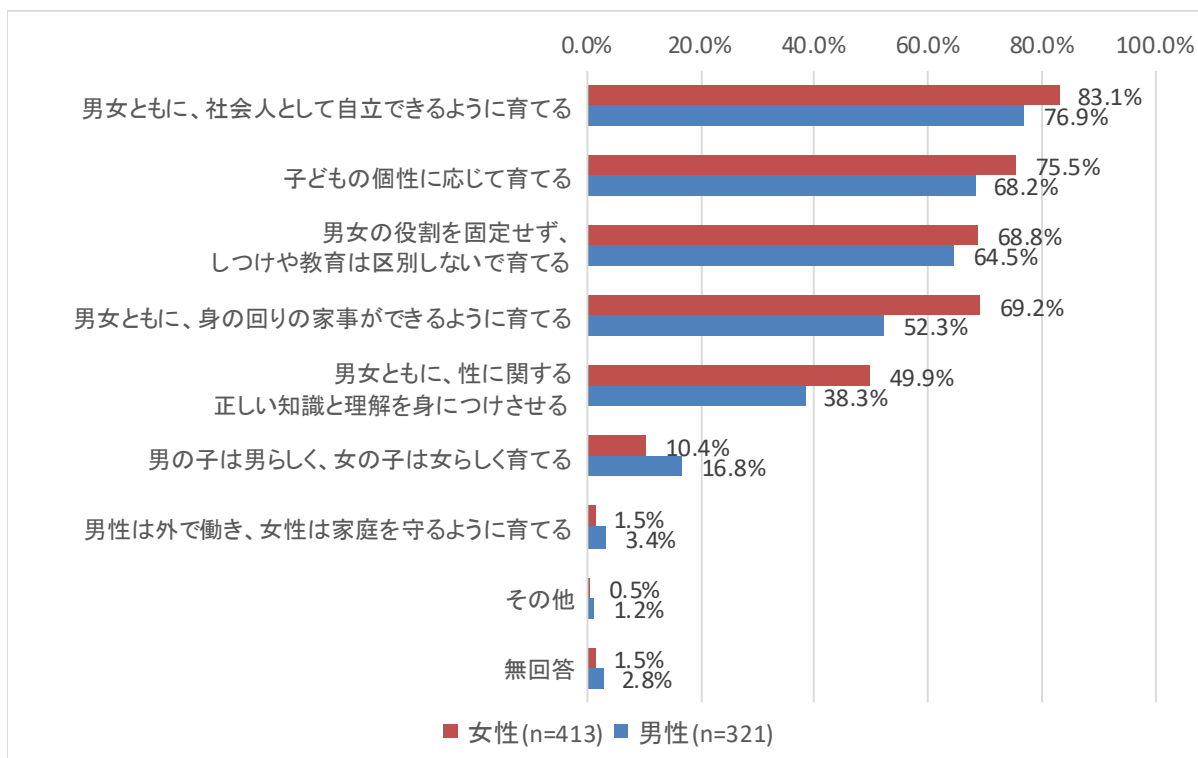
※子どもがいない方は、子どもがいると仮定してお答えください。(〇印いくつでも)

子育てに関する考え方について、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が80.6%と最も高く、次いで「子どもの個性に応じて育てる」(72.4%)、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」(67.0%)の順となっている。



【性別】

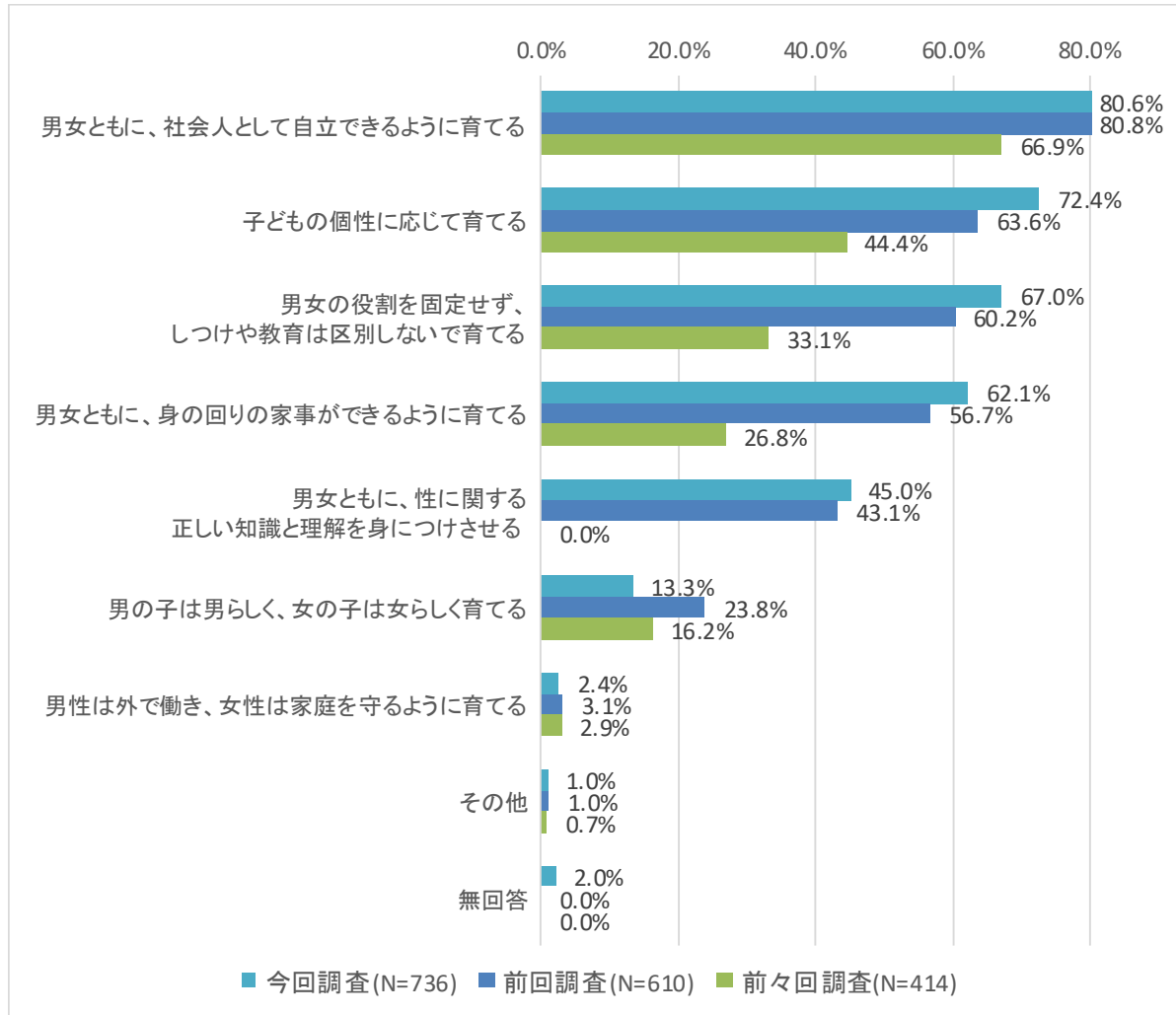
性別にみると、「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」、「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」は男性より女性で高くなっている。



【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」がすべての調査で高くなっている。

「子どもの個性に応じて育てる」、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」、「男女ともに身の回りの家事ができるように育てる」は、調査実施ごとに高くなっている。一方、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は今回調査が一番低くなっている。



※ 「性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」は前回調査からの項目

3 家庭での役割分担

問 19. あなたは、次のような家庭での役割について、主にだれが分担するのが【理想】だと思いますか。
 また、あなたの家庭では、【実際】に誰が分担していますか。
 ①～⑦のそれぞれについてお答えください。
 ※結婚されていない方は、結婚して子どもがいると仮定してお答えください。(○印1つずつ)

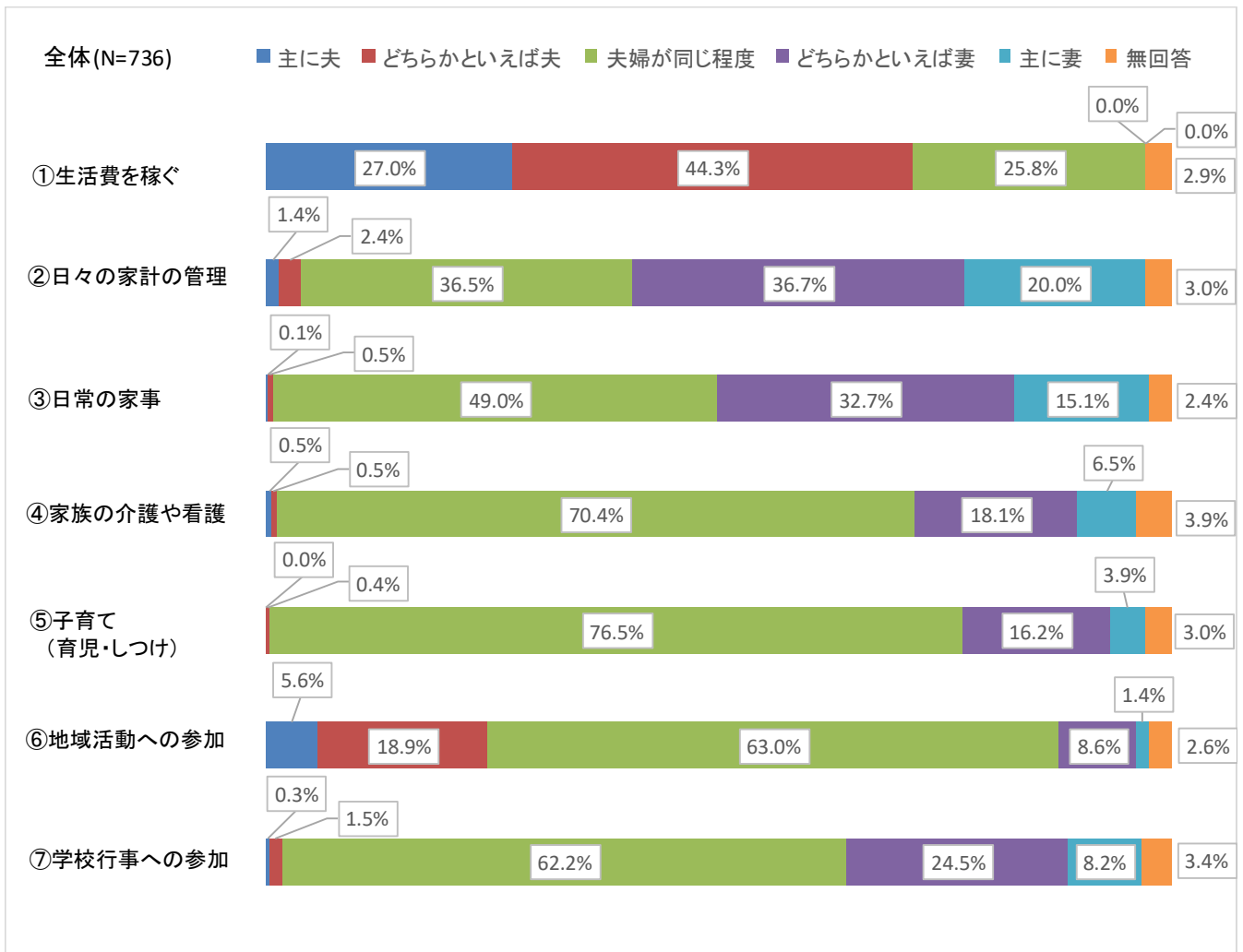
【理想】

家庭での役割分担（理想）について、「夫婦が同じ程度」は「⑤子育て（育児・しつけ）」（76.5%）が最も高く、次いで「④家族の介護や看護」（70.4%）、「⑥地域活動への参加」（63.0%）、「⑦学校行事への参加」（62.2%）の順となっている。

『夫』は、「①生活費を稼ぐ」（71.3%）、「⑥地域活動への参加」（24.5%）の順で高くなっている。その他の項目ではごくわずかにとどまっている。

『妻』は、「②日々の家計の管理」（56.7%）、「③日常の家事」（47.8%）、「⑦学校行事への参加」（32.7%）の順で高くなっている。

※『夫』…「主に夫」と「どちらかといえば夫」を合わせた割合
 『妻』…「主に妻」と「どちらかといえば妻」を合わせた割合



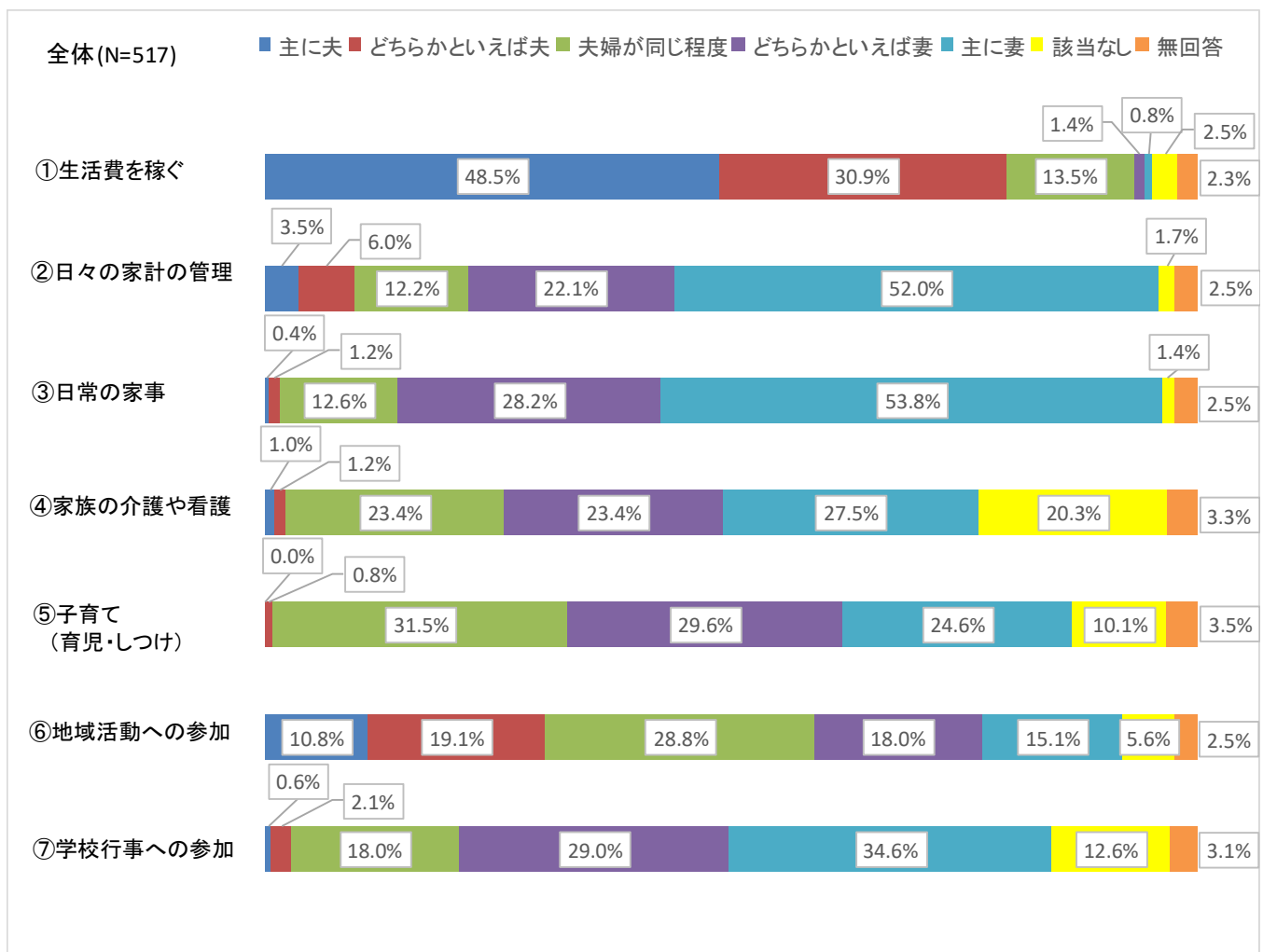
【現実】

家庭での役割分担（現実）について、「夫婦が同じ程度」は「⑤子育て（育児・しつけ）」が31.5%と最も高く、次いで「⑥地域活動への参加」（28.8%）、「④家族の介護や看護」（23.4%）の順となっている。

『夫』は、「①生活費を稼ぐ」（79.4%）で特に高くなっており、次いで「⑥地域活動への参加」（29.9%）で高くなっている。

『妻』は、「③日常の家事」（82.0%）が最も高く、8割を超えている。次いで、「②日々の家計の管理」（74.1%）、「⑦学校行事への参加」（63.6%）となっている。

「⑥地域活動への参加」では『夫』（29.9%）、『夫婦が同じ程度』（28.8%）、『妻』（33.1%）がほぼ同じ割合になっている。



【理想】と【現実】の比較

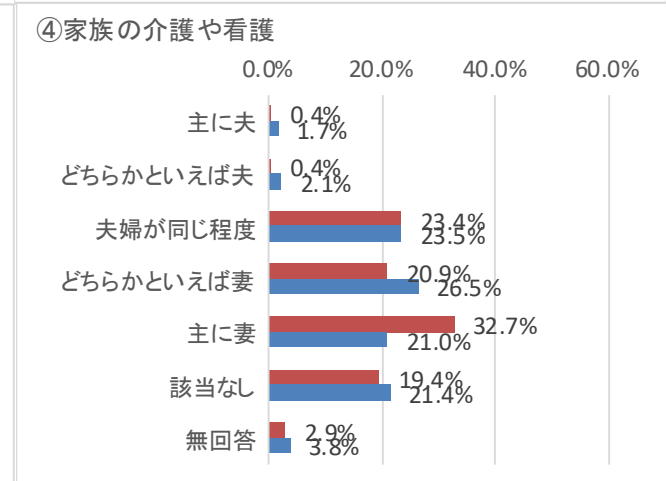
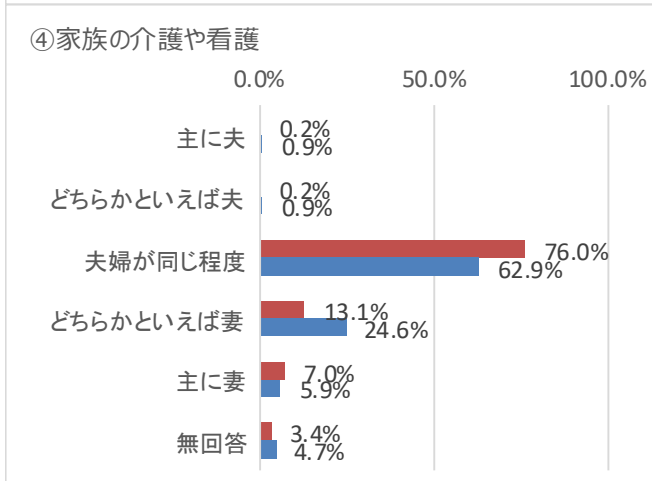
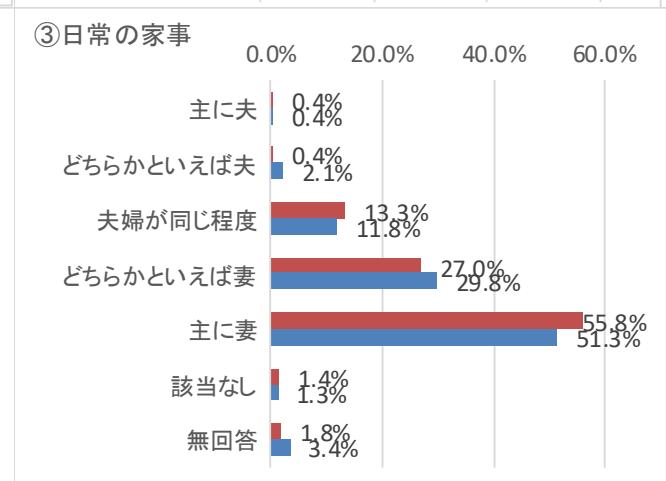
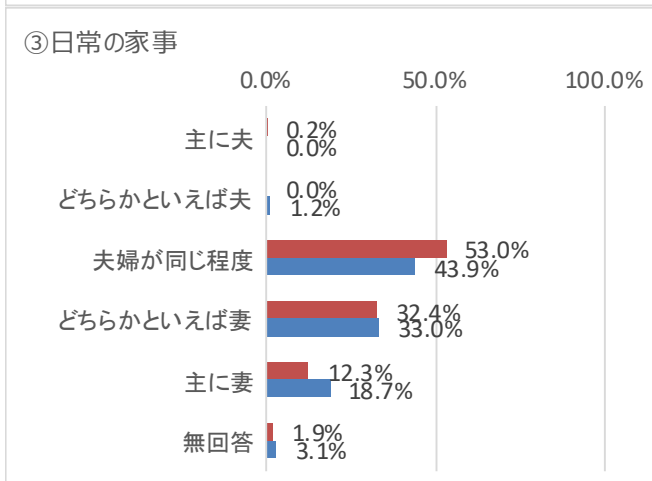
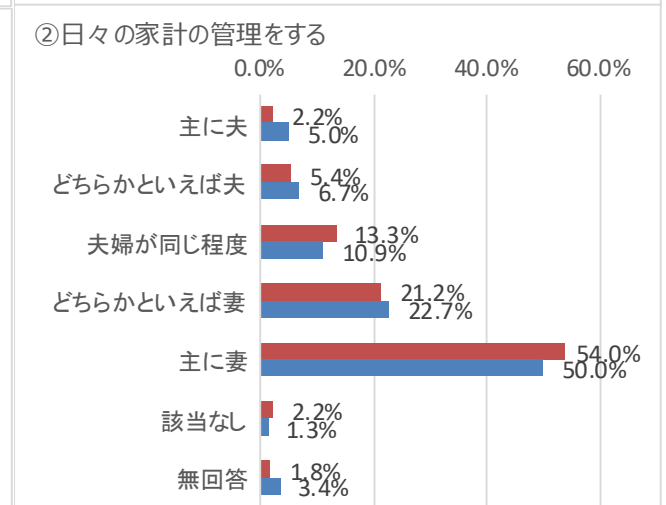
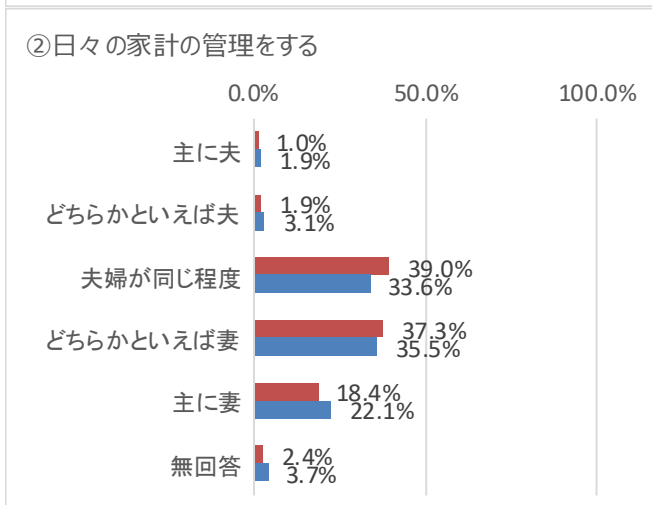
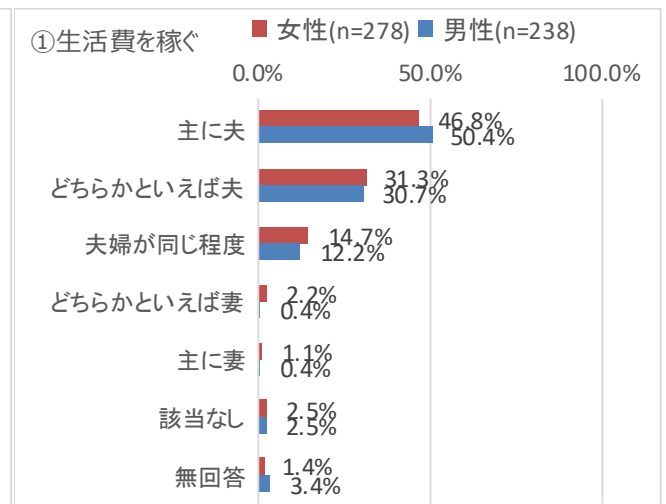
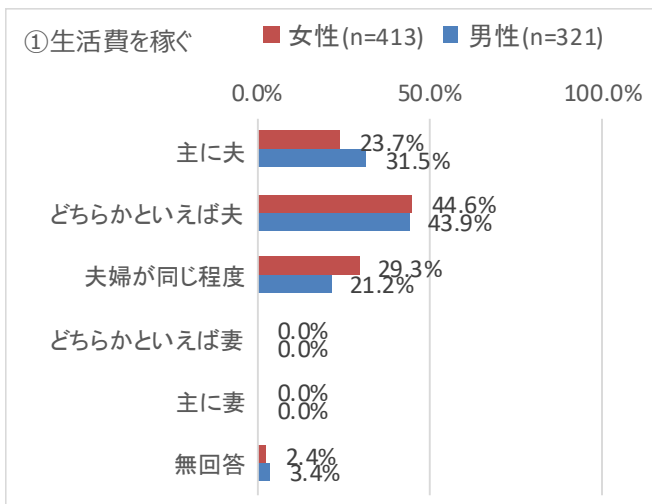
すべての項目で、「夫婦が同じ程度」は【理想】で高くなっている。

「①生活費を稼ぐ」は、【理想】に比べて【現実】で『夫』が高くなっている。

その他の項目ではすべて、【理想】に比べて【現実】で『妻』が高くなっている。

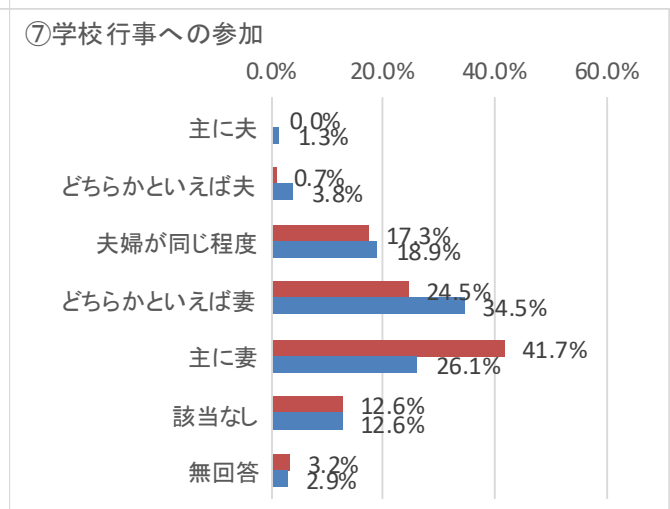
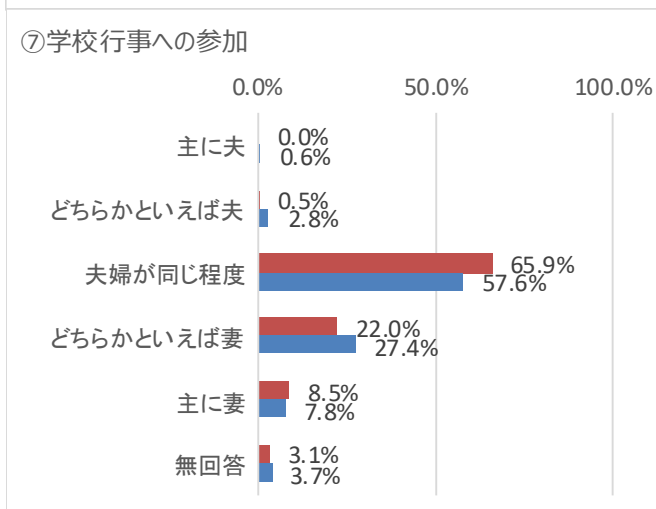
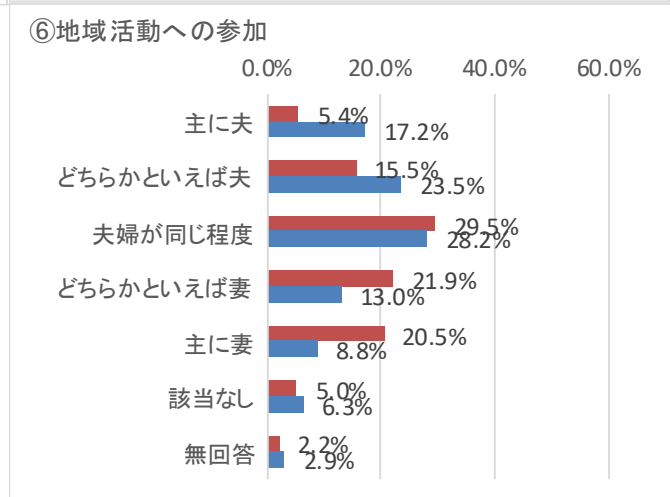
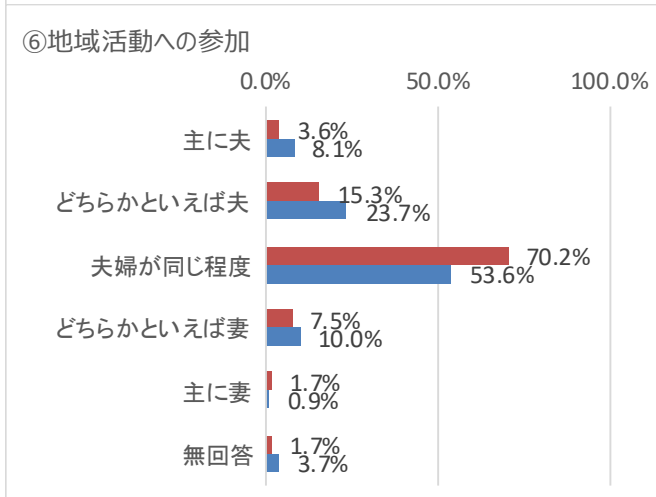
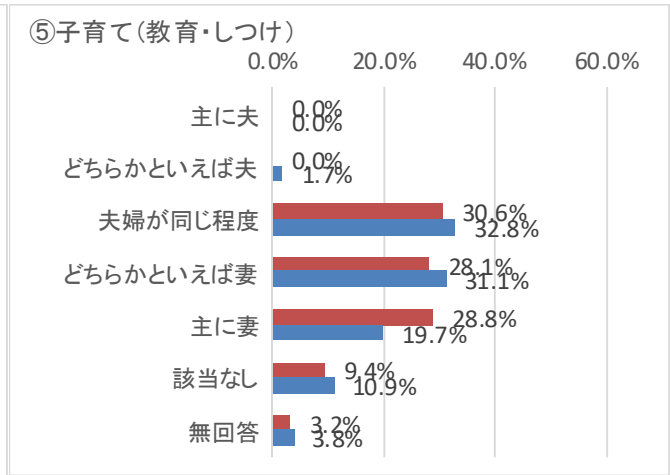
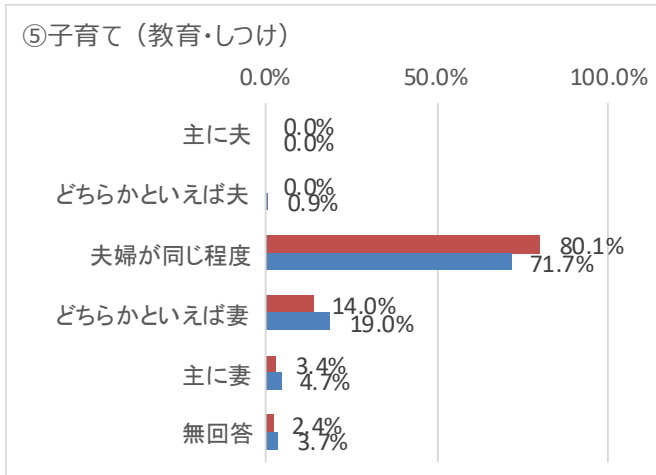
【理想】

【現実】



【理想】

【現実】



【5】人権について

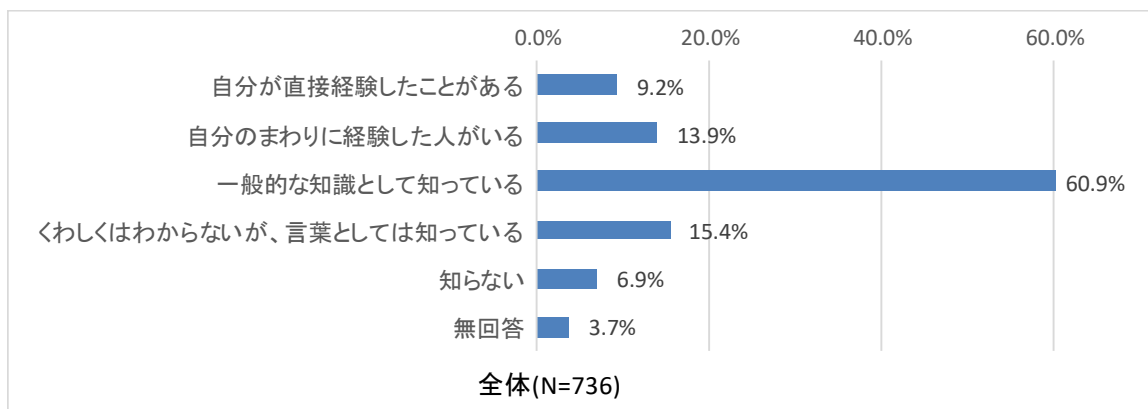
1 セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パワー・ハラスメントの経験

問 20. あなたは、身近で①セクシュアル・ハラスメント、②マタニティ・ハラスメント、③パワー・ハラスメントを経験したり、見聞きしたことがありますか。（〇印いくつかでも）

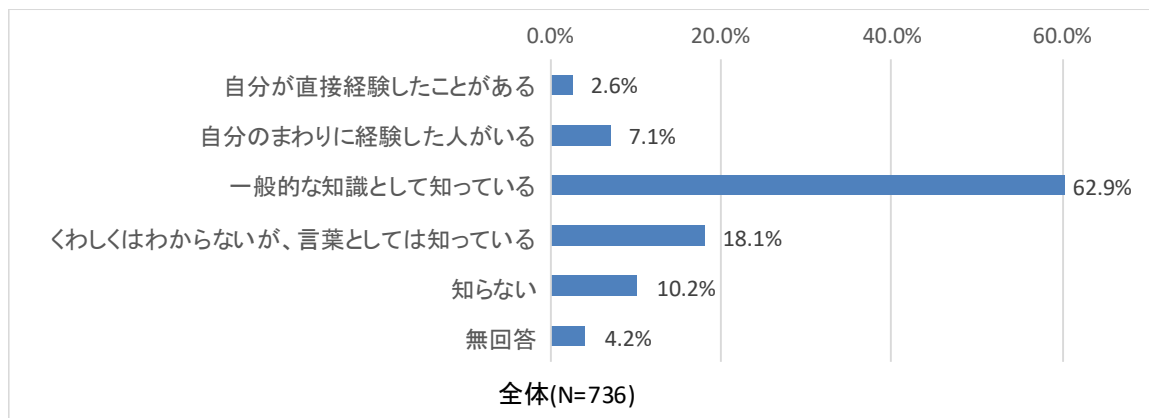
ハラスメントの経験について、「自分が直接経験したことがある」、「自分のまわりに経験した人がある」は、③パワー・ハラスメント、①セクシュアル・ハラスメント、②マタニティ・ハラスメントの順に高くなっている。

「一般的な知識として知っている」、「くわしくはわからないが、言葉としては知っている」は、②マタニティ・ハラスメント、①セクシュアル・ハラスメント、③パワー・ハラスメントの順に高くなっている。

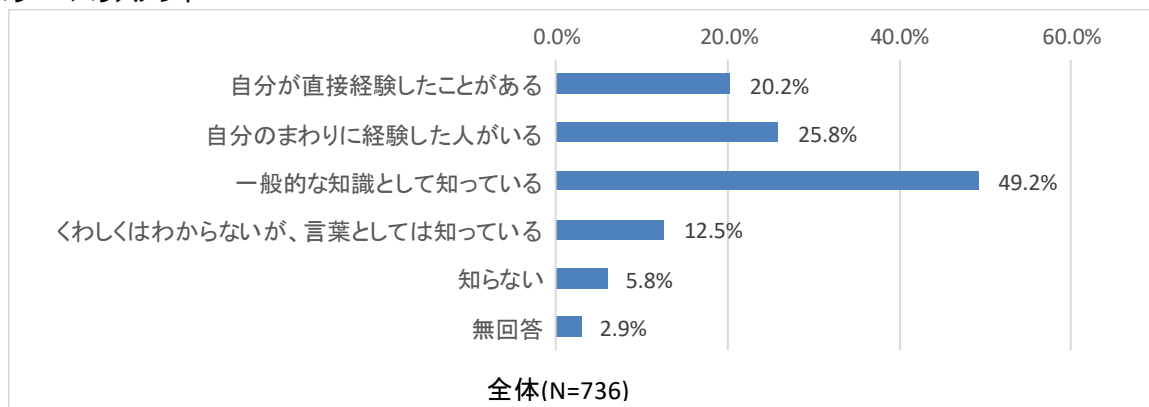
①セクシュアル・ハラスメント



②マタニティ・ハラスメント



③パワー・ハラスメント



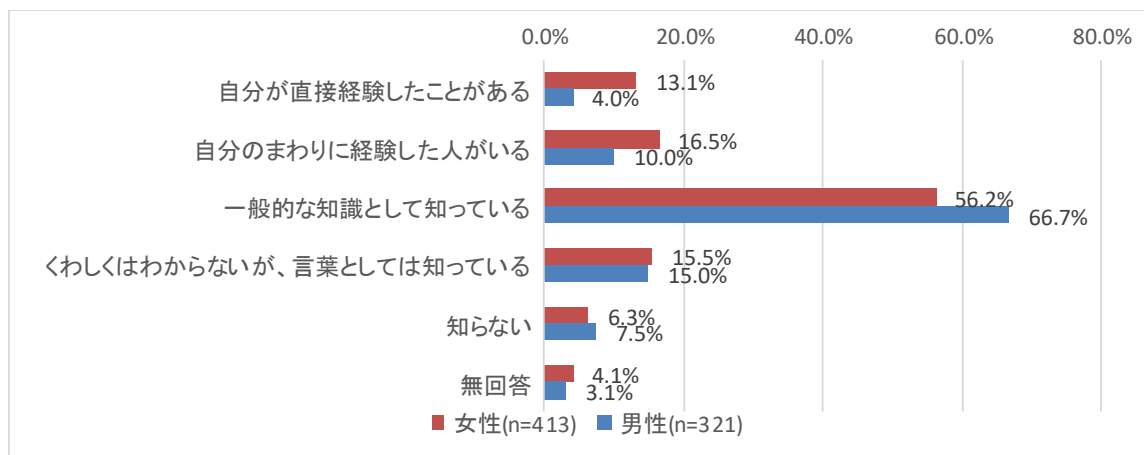
【性別】

性別にみると、①セクシュアル・ハラスメントでは、「自分が直接経験したことがある」、「自分のまわりに経験した人がある」は女性で高くなっている。「一般的な知識として知っている」は男性で高くなっている。

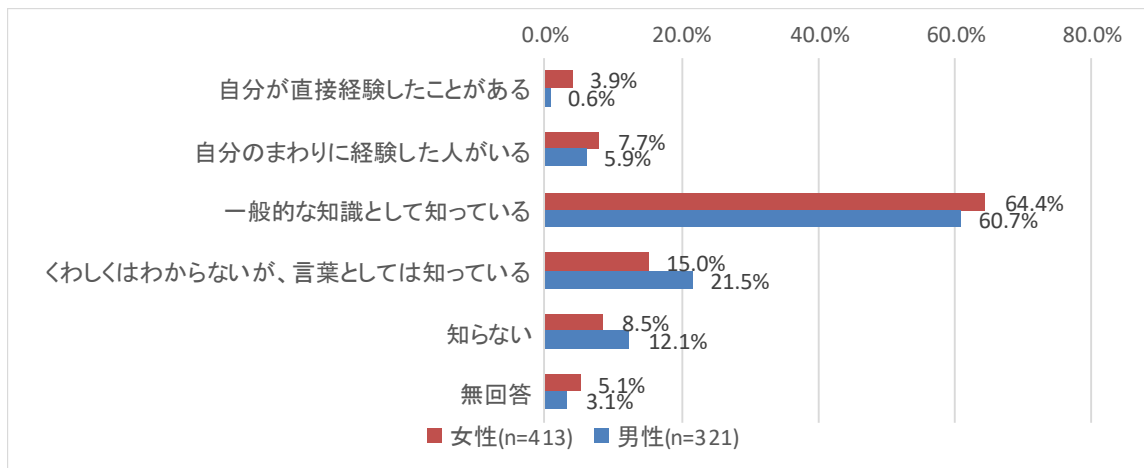
②マタニティ・ハラスメントでは、「くわしくはわからないが、言葉としては知っている」は男性で高くなっている。

③パワー・ハラスメントでは、「自分が直接経験したことがある」は女性で、「自分のまわりに経験した人がある」は男性で高くなっている。

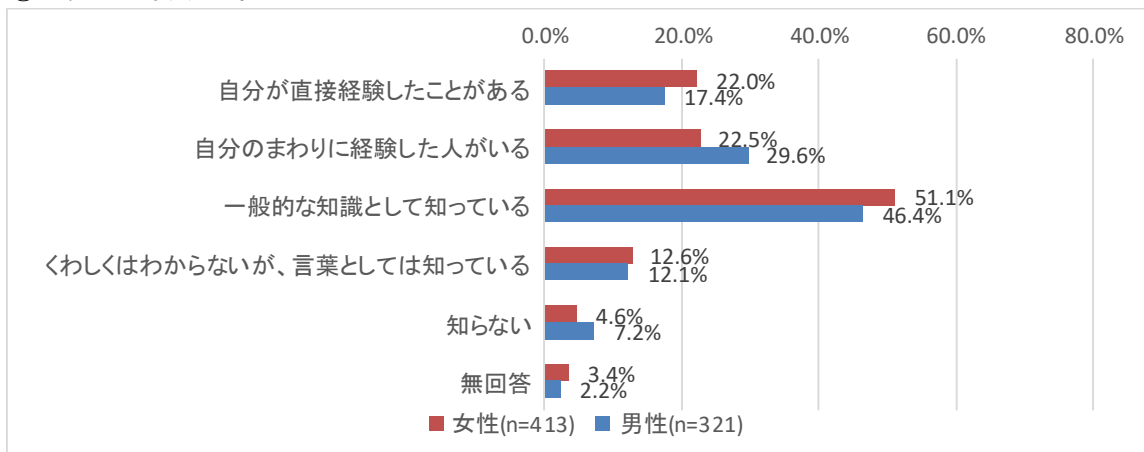
①セクシュアル・ハラスメント



②マタニティ・ハラスメント



③パワー・ハラスメント



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、①セクシュアル・ハラスメントでは、女性では年齢が若くなるほど「自分が直接経験したことがある」がおおむね高くなる傾向にある。

②マタニティ・ハラスメントでは、男女とも30歳代・40歳代・50歳代で「一般的な知識として知っている」が高くなっている。

③パワー・ハラスメントでは、男性29歳以下で「一般的な知識として知っている」が特に高くなっている。

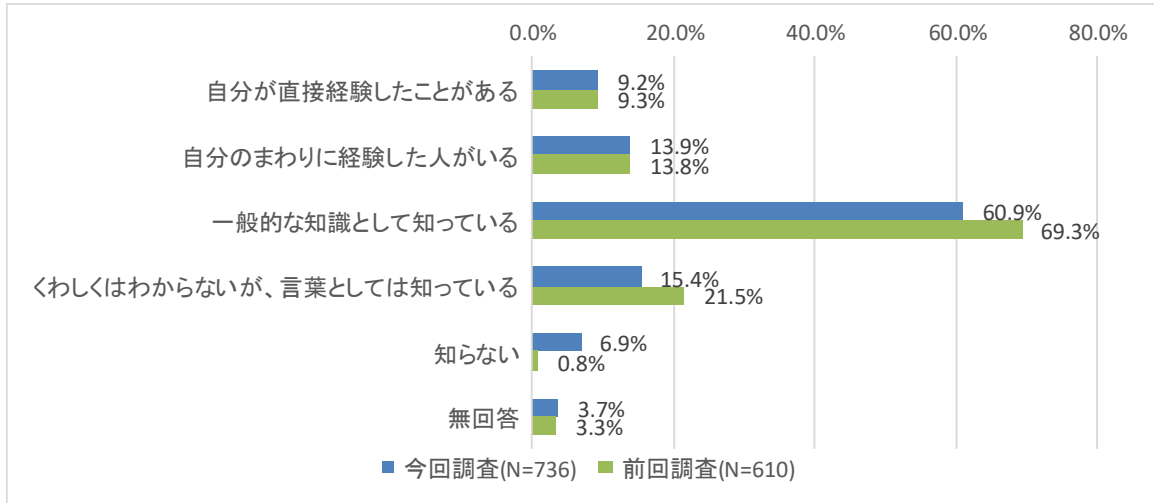
			自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がいる	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては知っている	知らない
① セクシュアル・ハラスメント	女性	18～29歳(n=48)	20.8%	16.7%	45.8%	12.5%	4.2%
		30～39歳(n=57)	17.5%	22.8%	49.1%	8.8%	1.8%
		40～49歳(n=74)	20.3%	25.7%	47.3%	2.7%	4.1%
		50～59歳(n=65)	13.8%	12.3%	60.0%	9.2%	4.6%
		60～69歳(n=94)	8.5%	18.1%	52.1%	14.9%	6.4%
		70歳以上(n=106)	1.9%	2.8%	55.7%	29.2%	10.4%
	男性	18～29歳(n=28)	7.1%	7.1%	71.4%	7.1%	7.1%
		30～39歳(n=23)	4.3%	21.7%	65.2%	0.0%	8.7%
		40～49歳(n=35)	5.7%	11.4%	68.6%	11.4%	2.9%
		50～59歳(n=45)	4.4%	11.1%	66.7%	8.9%	8.9%
		60～69歳(n=81)	4.9%	4.9%	70.4%	11.1%	8.6%
		70歳以上(n=117)	1.7%	10.3%	56.4%	24.8%	6.8%
② マタニティ・ハラスメント	女性	18～29歳(n=48)	8.7%	10.9%	58.7%	15.2%	6.5%
		30～39歳(n=57)	4.1%	10.2%	69.4%	10.2%	6.1%
		40～49歳(n=74)	7.5%	10.4%	71.6%	4.5%	6.0%
		50～59歳(n=65)	1.7%	5.0%	71.7%	13.3%	8.3%
		60～69歳(n=94)	3.4%	9.1%	63.6%	15.9%	8.0%
		70歳以上(n=106)	1.0%	4.0%	57.4%	24.8%	12.9%
	男性	18～29歳(n=28)	3.8%	3.8%	50.0%	23.1%	19.2%
		30～39歳(n=23)	0.0%	13.0%	65.2%	13.0%	8.7%
		40～49歳(n=35)	0.0%	2.9%	68.6%	20.0%	8.6%
		50～59歳(n=45)	0.0%	2.2%	78.3%	6.5%	13.0%
		60～69歳(n=81)	1.3%	7.6%	59.5%	17.7%	13.9%
		70歳以上(n=117)	0.0%	6.2%	51.3%	31.9%	10.6%
③ パワー・ハラスメント	女性	18～29歳(n=48)	20.0%	26.0%	40.0%	12.0%	2.0%
		30～39歳(n=57)	20.0%	21.8%	50.9%	5.5%	1.8%
		40～49歳(n=74)	33.3%	29.5%	35.9%	1.3%	0.0%
		50～59歳(n=65)	25.0%	25.0%	38.9%	8.3%	2.8%
		60～69歳(n=94)	15.7%	17.6%	52.0%	9.8%	4.9%
		70歳以上(n=106)	9.2%	8.3%	49.5%	23.9%	9.2%
	男性	18～29歳(n=28)	14.3%	21.4%	60.7%	0.0%	3.6%
		30～39歳(n=23)	22.2%	29.6%	37.0%	3.7%	7.4%
		40～49歳(n=35)	18.4%	31.6%	36.8%	7.9%	5.3%
		50～59歳(n=45)	14.0%	36.0%	38.0%	4.0%	8.0%
		60～69歳(n=81)	20.9%	26.4%	37.4%	8.8%	6.6%
		70歳以上(n=117)	10.3%	20.6%	42.9%	19.8%	6.3%

【前回調査との比較】

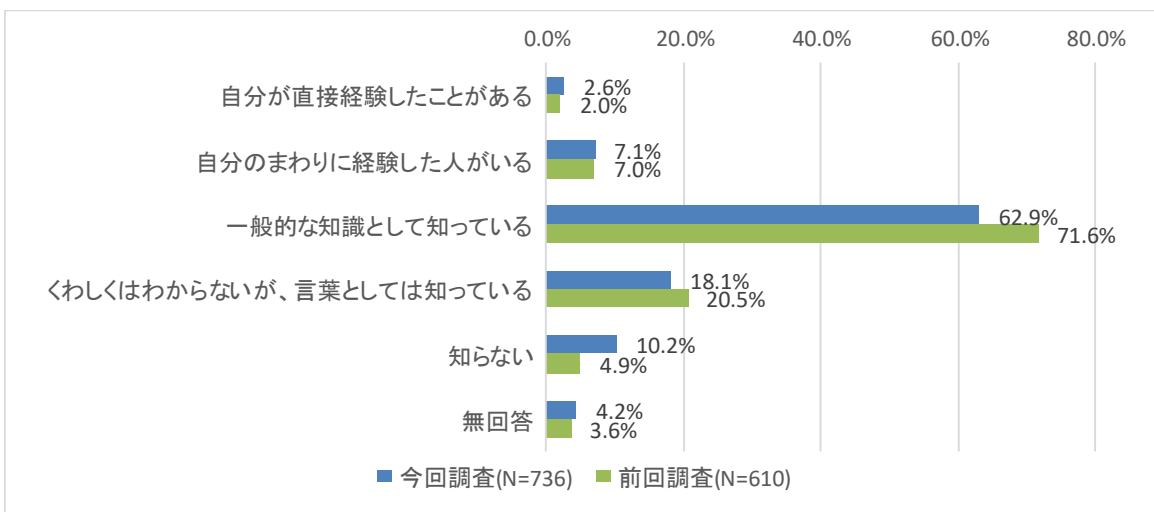
前回の調査と比較すると、すべてのハラスメントで「自分が直接経験したことがある」、「自分のまわりに経験した人がある」に大きな変化はみられない。

また、すべてのハラスメントで、「一般的な知識として知っている」、「くわしくはわからないが、言葉としては知っている」は減少し、「知らない」は増加している。

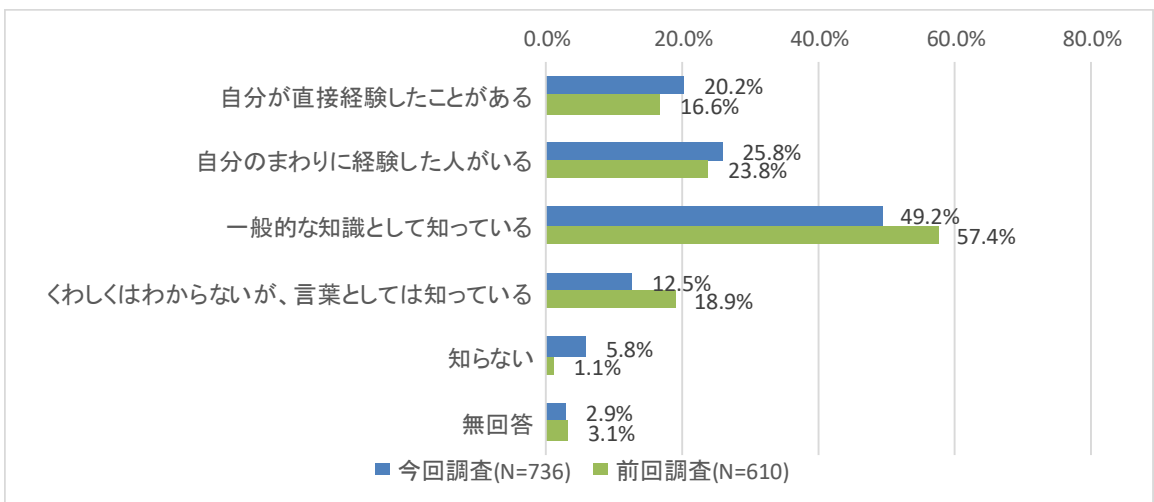
①セクシュアル・ハラスメント



②マタニティ・ハラスメント



③パワー・ハラスメント



2 DV（配偶者等からの暴力）の経験

これまでに結婚（事実婚を含む）したことのある方のみお答えください。

問 21. あなたはこれまでに、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。（ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠を共にする交際相手（同棲相手）、別居中の配偶者、元配偶者を含みます。）

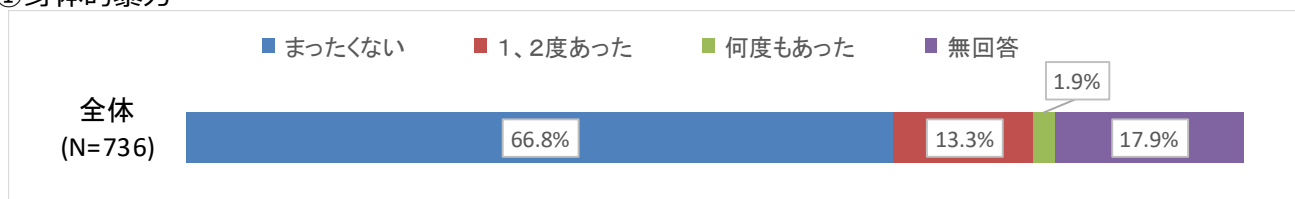
①～⑤のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

配偶者等からの暴力の経験について、『あった』は「②精神的暴力」で25.0%と最も高く、次いで「①身体的暴力」で15.2%となっている。

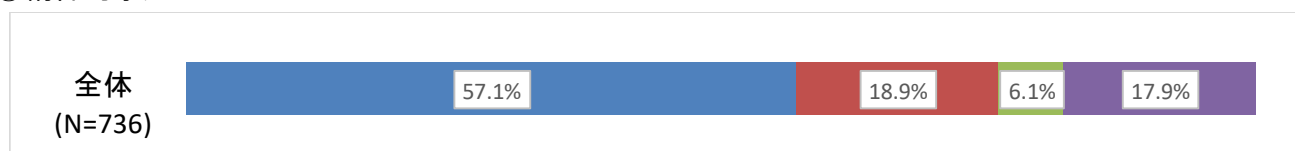
※『あった』…「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた割合

- ①身体的暴力…なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの暴力
- ②精神的暴力…人格を否定するような暴言、大声でののしる、何を言っても無視するなどの暴力
- ③経済的暴力…生活費を渡さない、収入を取り上げる、外で働くことを妨害するなどの暴力
- ④性的暴力…見たくないのにアダルトビデオ等を見せる、嫌がっているのに性的行為を強要する、避妊に協力しないなどの暴力
- ⑤社会的暴力…電話やメールをチェックする、親や友人との付き合いを制限する、外出させないなどの暴力

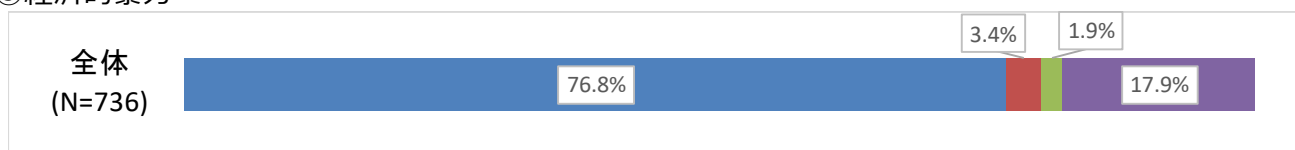
①身体的暴力



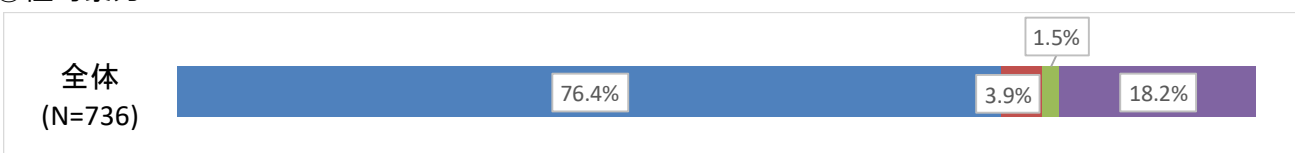
②精神的暴力



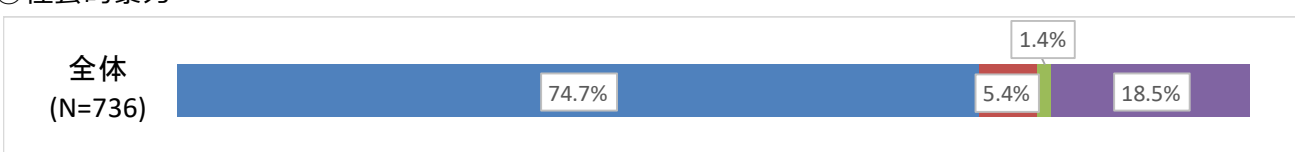
③経済的暴力



④性的暴力



⑤社会的暴力

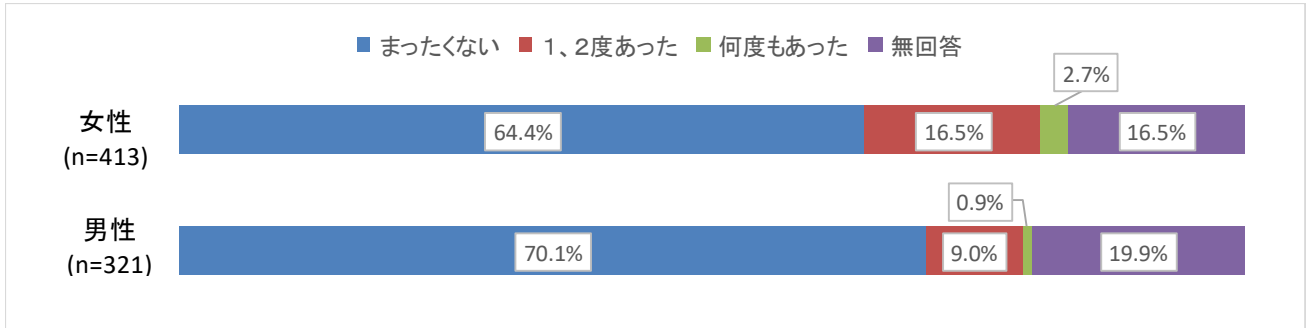


【性別】

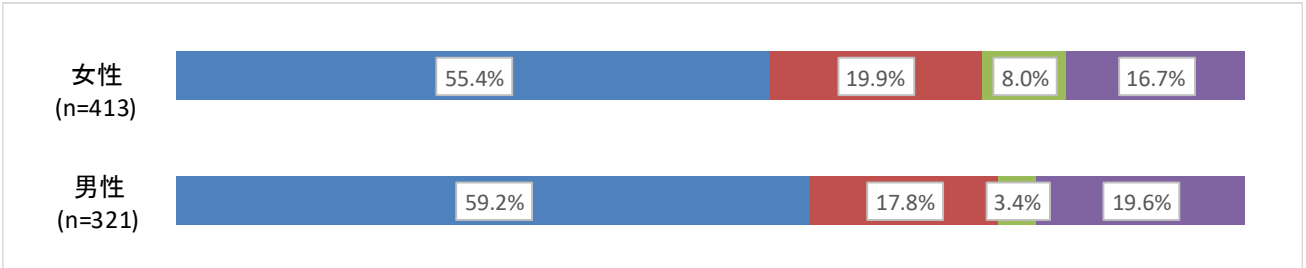
性別にみると、すべての暴力において、『あった』は男性より女性で高くなっている。

男女ともに、『あった』は「②精神的暴力」が最も高く（女性 27.9%、男性 21.2%）、次いで「①身体的暴力」（女性 19.2%、男性 9.9%）となっている。

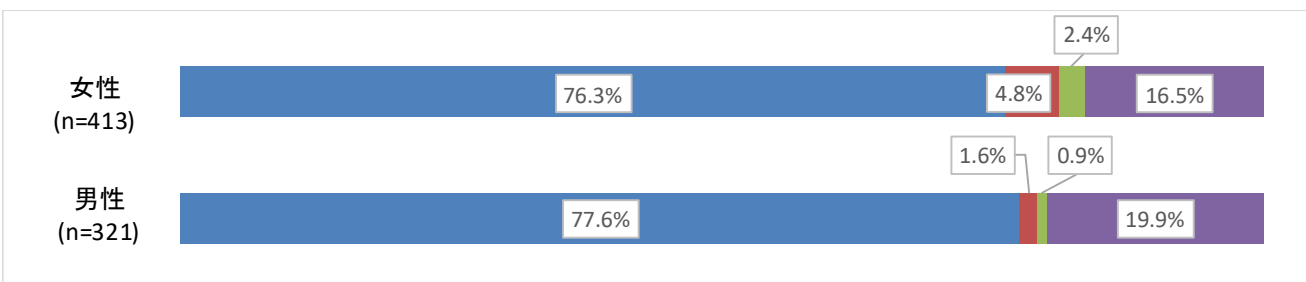
①身体的暴力



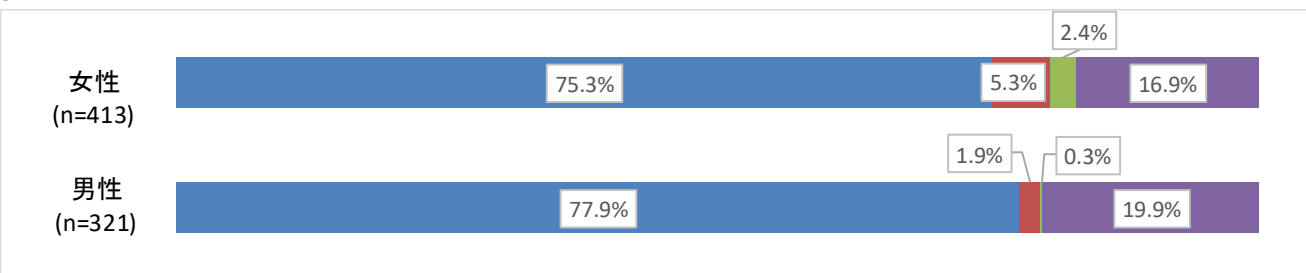
②精神的暴力



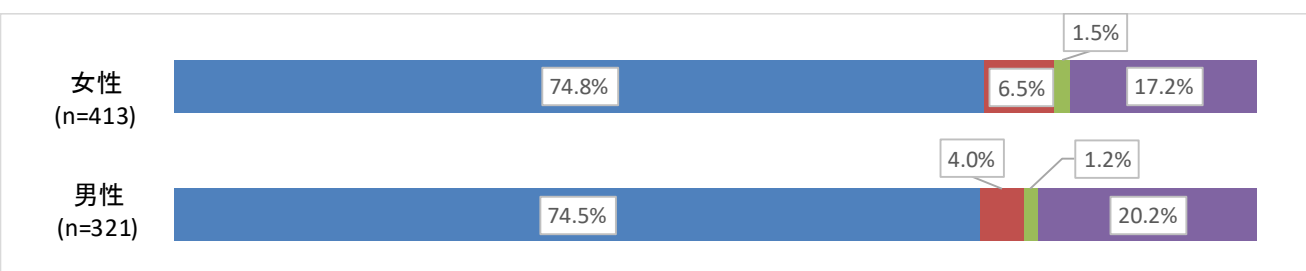
③経済的暴力



④性的暴力



⑤社会的暴力



3 デートDV（交際相手からの暴力）の経験

これまでに交際相手がい方のみお答えください。

問 22. あなたはこれまでに、**恋人や元恋人などの交際相手から**次のようなことをされたことがありますか。

①～⑤のそれぞれについてお答えください。（○印いくつでも）

デートDV（交際相手からの暴力）の経験について、『あった』は「②精神的暴力」（9.3%）が最も高く、次いで「①身体的暴力」（5.2%）、「⑤社会的暴力」（4.5%）の順となっている。

※『あった』…「10代にあった」、「20代にあった」、「30代以降にあった」を合わせた割合

①身体的暴力…なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの暴力

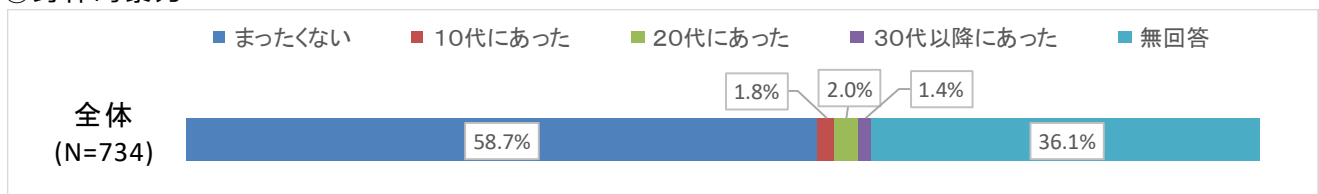
②精神的暴力…人格を否定するような暴言、大声でののしる、何を言っても無視するなどの暴力

③経済的暴力…デート代を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなどの暴力

④性的暴力…見たくないのにアダルトビデオ等を見せる、嫌がっているのに性的行為を強要する、避妊に協力しないなどの暴力

⑤社会的暴力…電話やメールをチェックする、友人や他の異性との付き合いを制限するなどの暴力

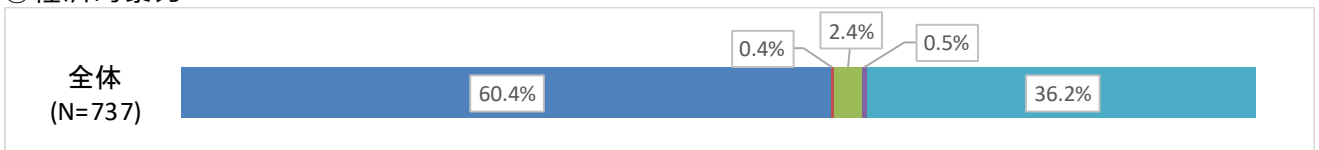
①身体的暴力



②精神的暴力



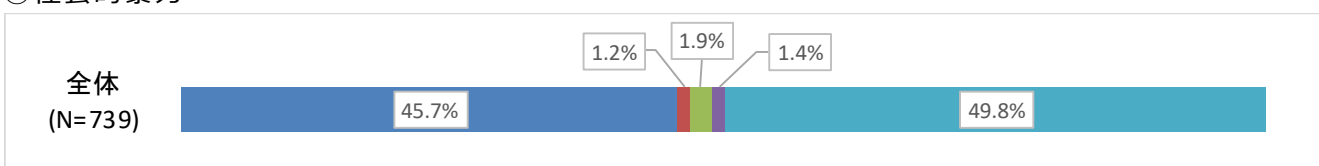
③経済的暴力



④性的暴力



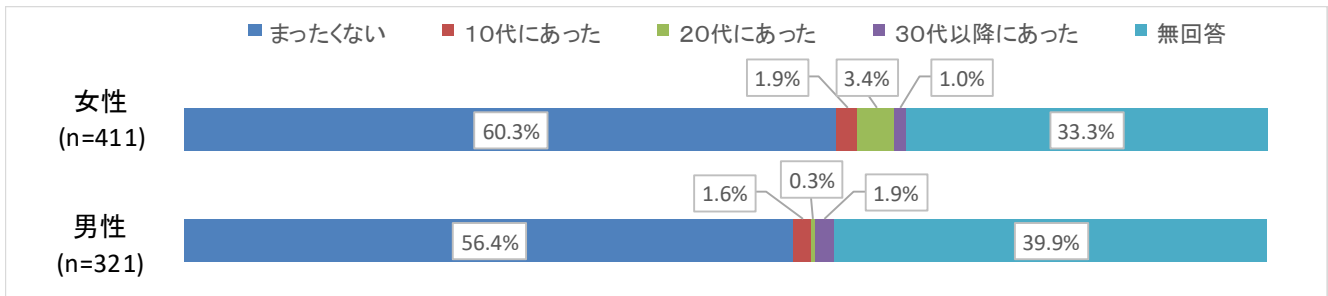
⑤社会的暴力



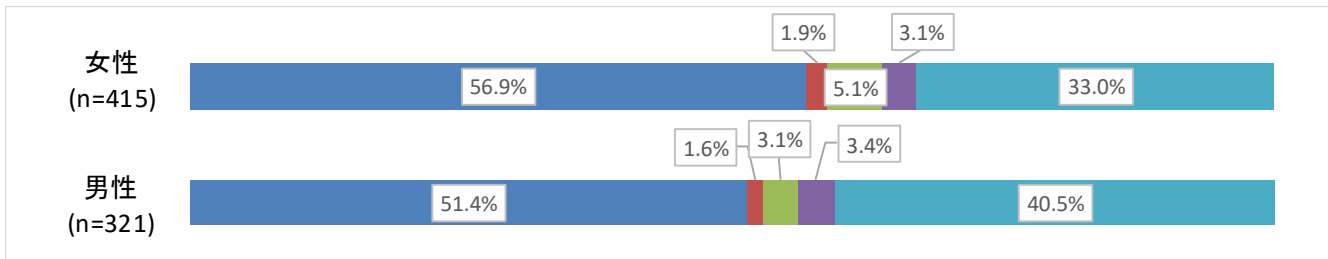
【性別】

性別にみると、男女とも『あった』は「②精神的暴力」（女性：10.1%、男性：8.1%）、「①身体的暴力」（女性：6.3%、男性：3.8%）の順に高くなっている。

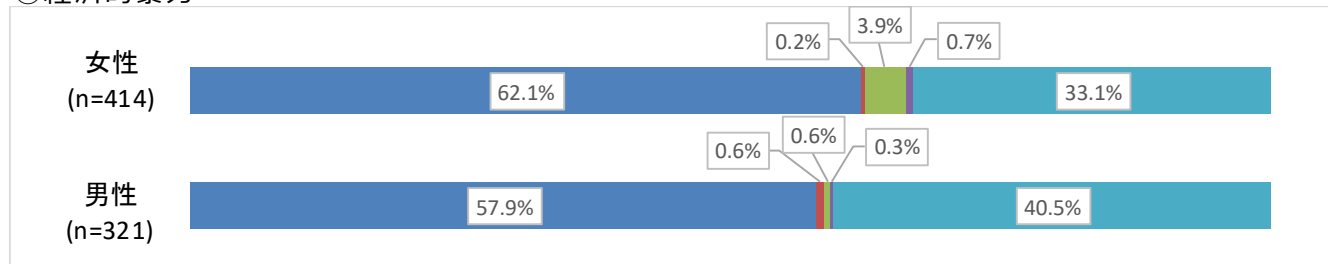
①身体的暴力



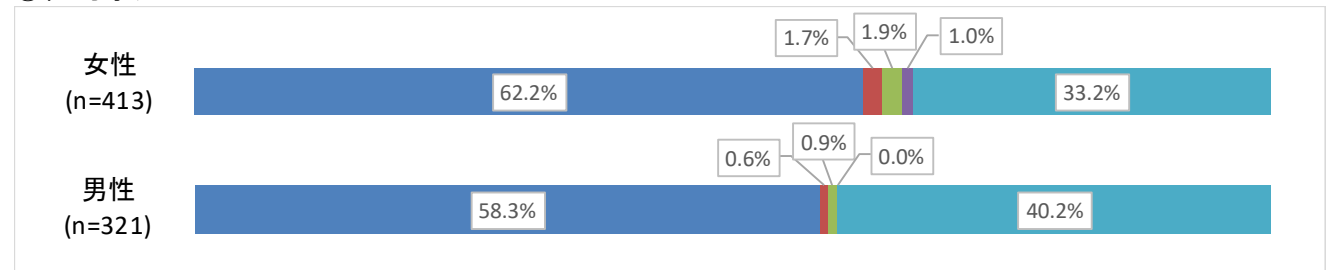
②精神的暴力



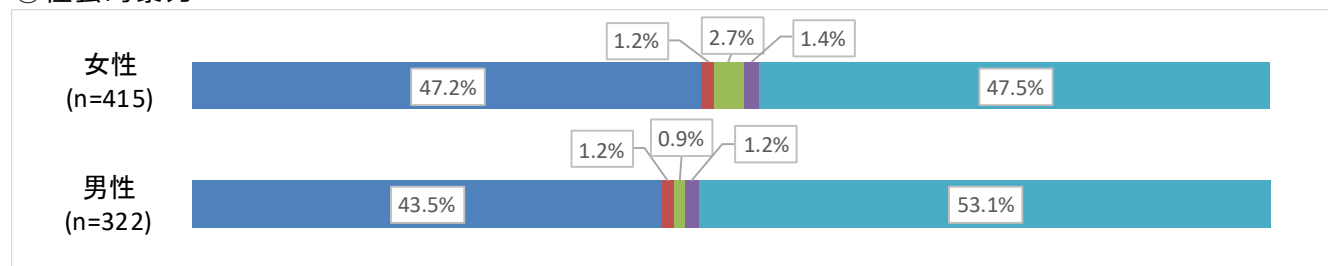
③経済的暴力



④性的暴力



⑤社会的暴力



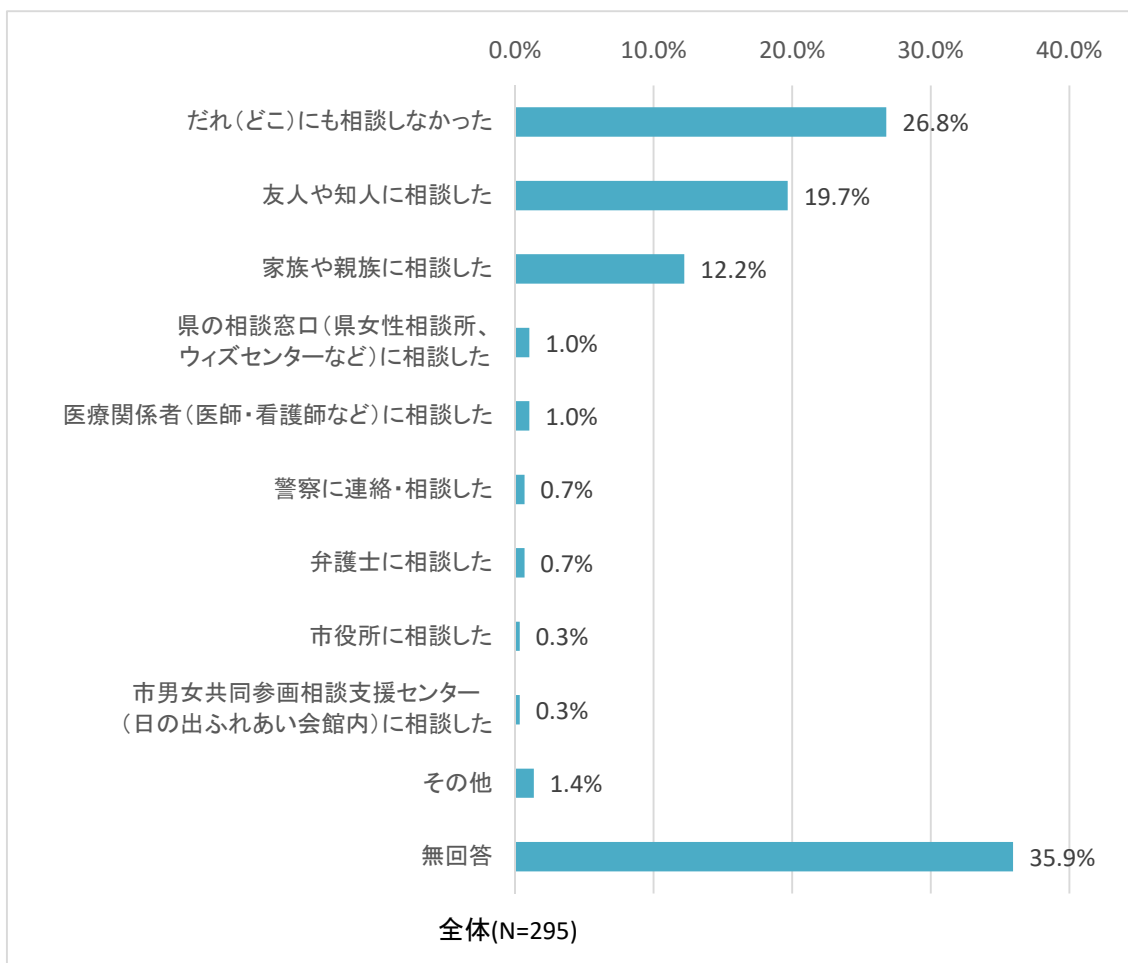
4 DVの相談状況

問 21 または 22 で、ひとつでも「まったく」以外を回答した方のみお答えください。

問 23. あなたは、その受けた行為についてだれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(○印いくつでも)

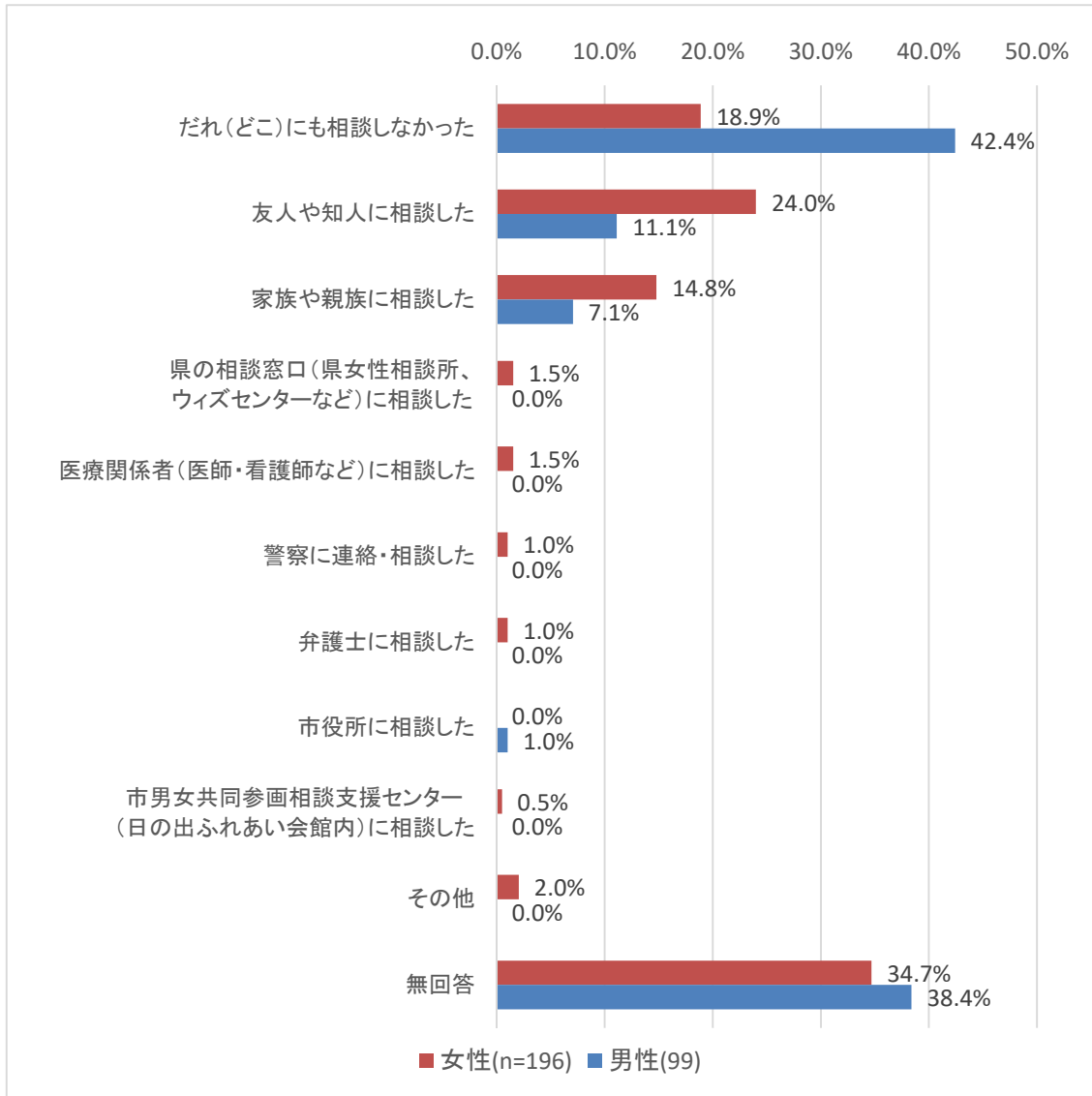
配偶者や交際相手からの暴力の相談について、「だれ（どこ）にも相談しなかった」が 26.8%と最も高く、次いで「友人や知人に相談した」（19.7%）、「家族や親族に相談した」（12.2%）の順となっている。相談機関へ相談したと回答した人は、ごくわずかにとどまっている。



【性別】

性別にみると、女性では「友人や知人に相談した」が24.0%と最も高く、次いで「だれ（どこ）にも相談しなかった」（18.9%）、「家族や親族に相談した」（14.8%）の順となっている。

一方、男性では「だれ（どこ）にも相談しなかった」（42.4%）が最も高く、女性（18.9%）と比べて高くなっている。

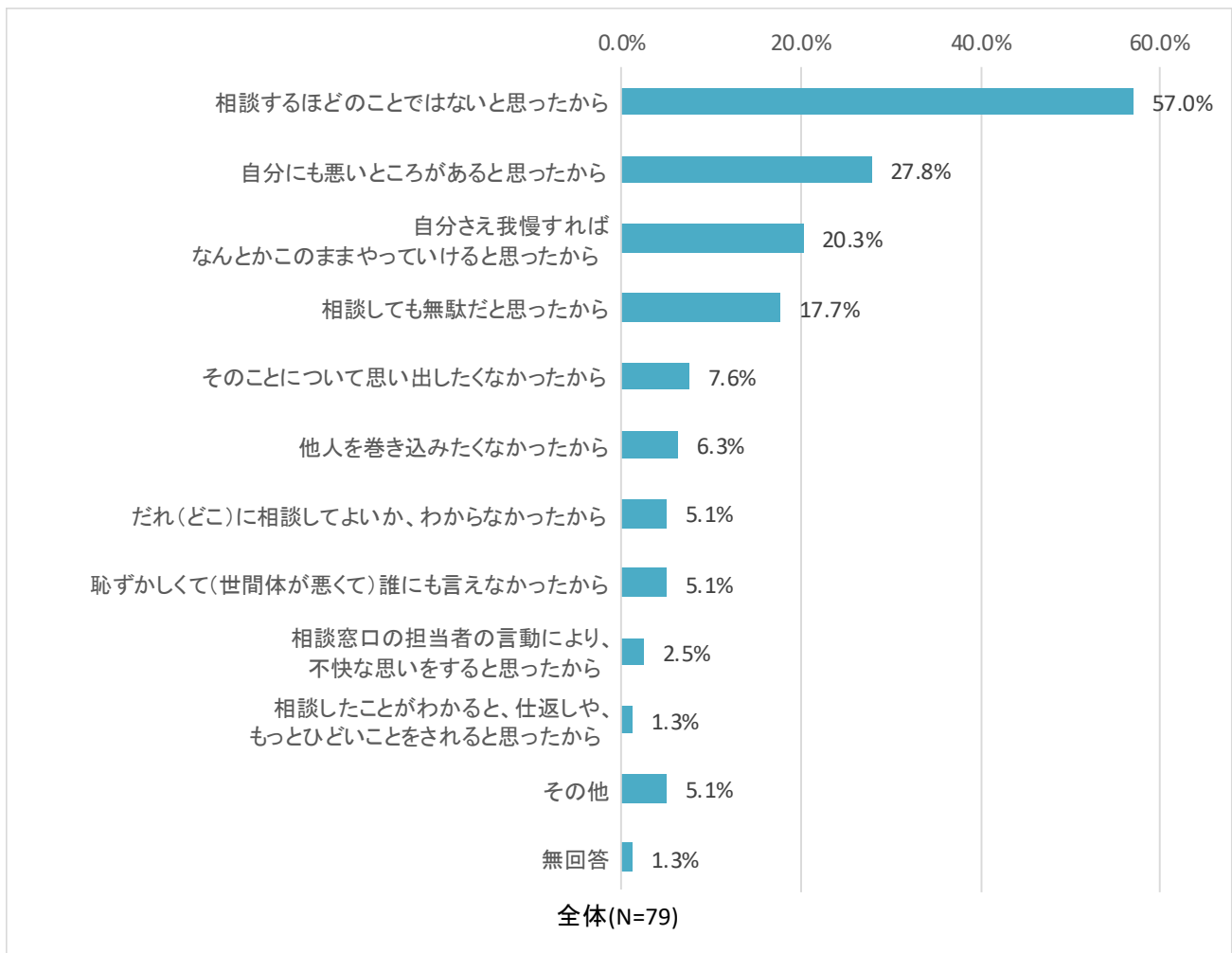


5 DVについて、だれにも相談しなかった理由

問 23 で「10. だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方のみお答えください。

問 24. だれ（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○印いくつでも）

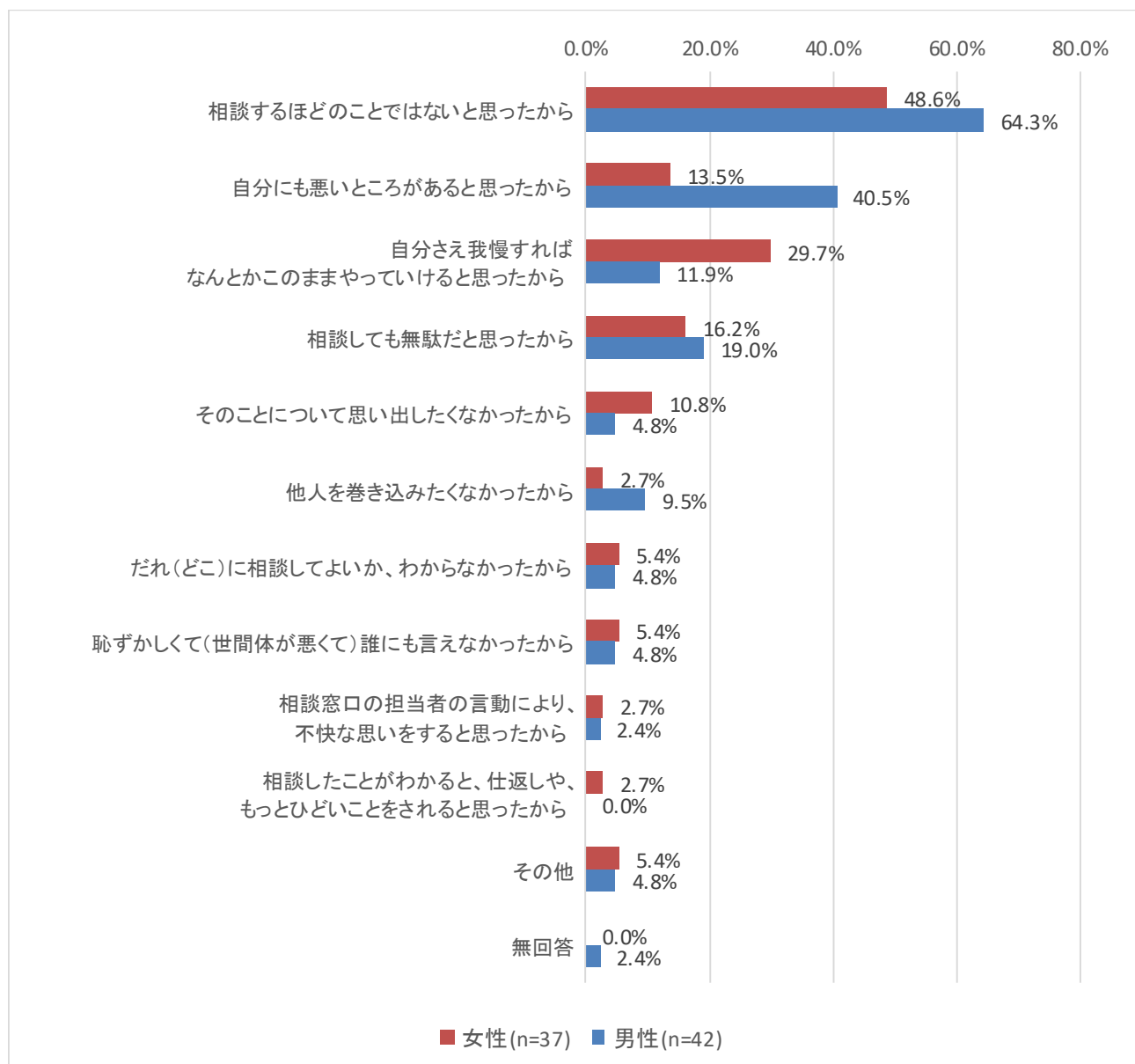
配偶者や交際相手からの暴力についてだれにも相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思ったから」が 57.0%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（27.8%）、「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」（20.3%）の順となっている。



【性別】

性別にみると、女性では「相談するほどのことではないと思ったから」が48.6%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」(29.7%)の順となっている。

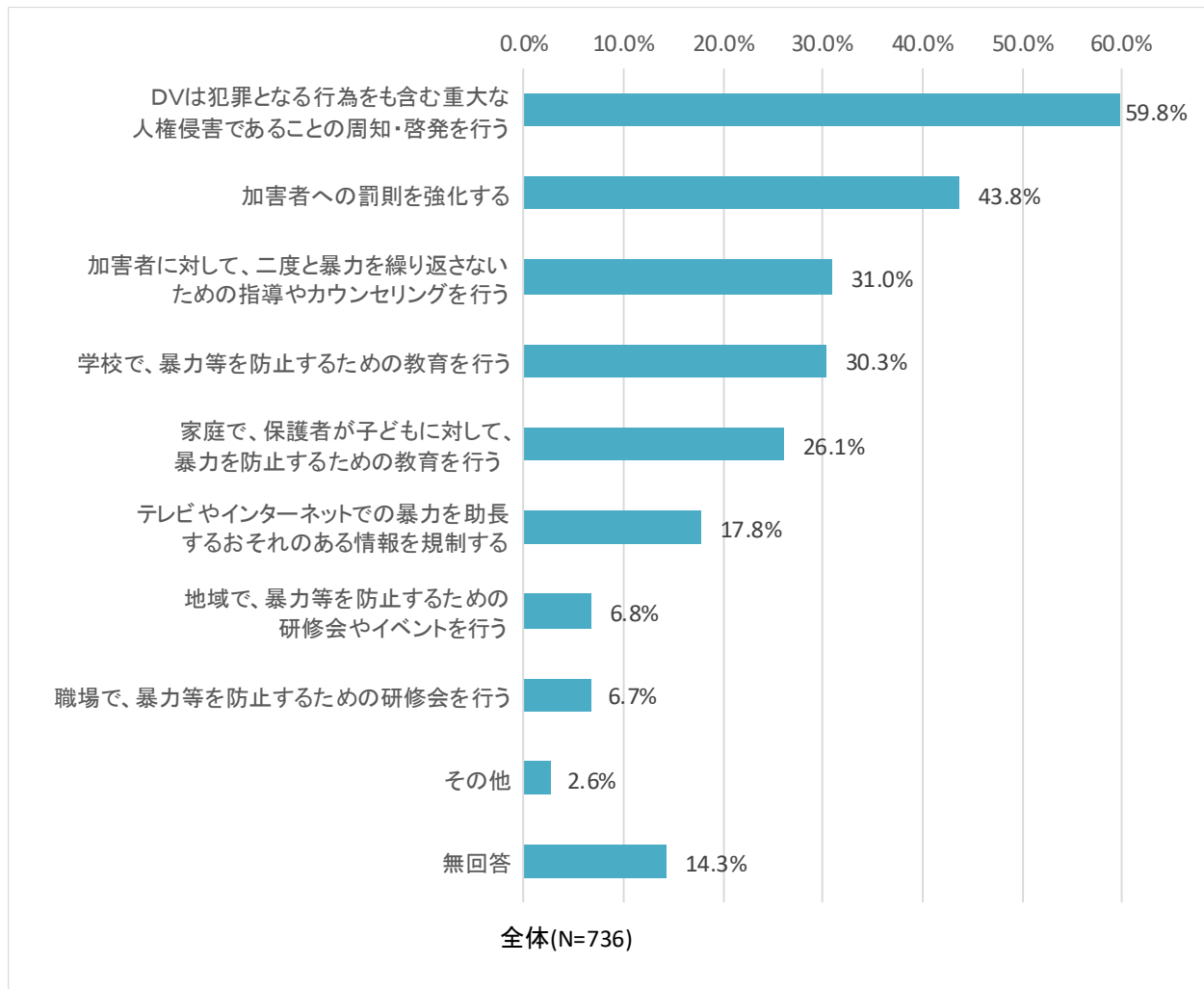
一方、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」(64.3%)が最も高く6割を超えている。次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」(40.5%)が高くなっている。



6 DVをなくすために必要な取組

問 25. 今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすために、どのような対策が必要だと思いますか。（○印3つまで）

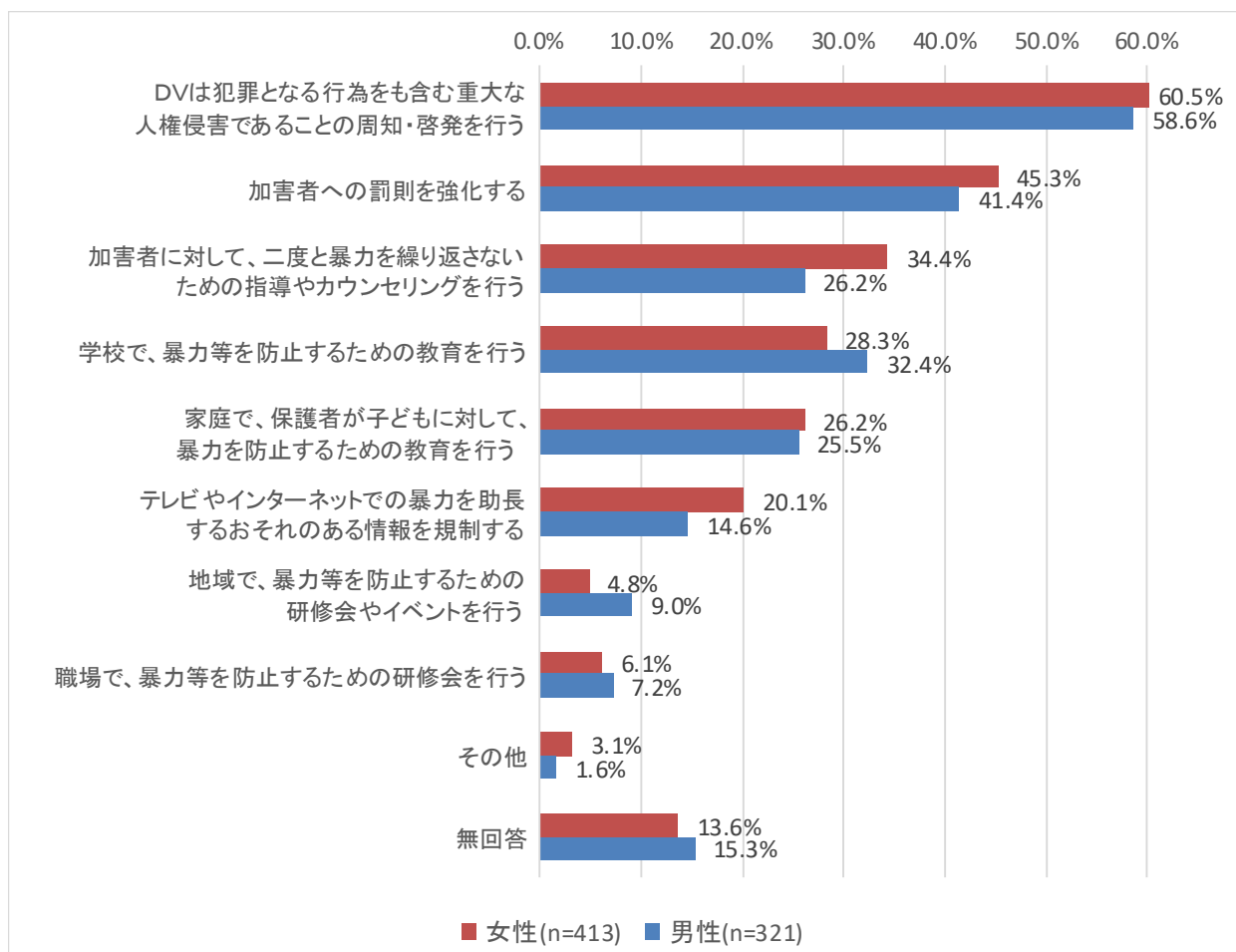
DVをなくすために必要な取組について、「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発を行う」が59.8%と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」（43.8%）、「加害者に対して、二度と暴力を繰り返さないための指導やカウンセリングを行う」（31.0%）の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発を行う」、「加害者への罰則を強化する」の順に高くなっている。

「加害者に対して、二度と暴力を繰り返さないための指導やカウンセリングを行う」は男性（26.2%）に比べ、女性（34.4%）で高くなっている。



【性・年齢別】

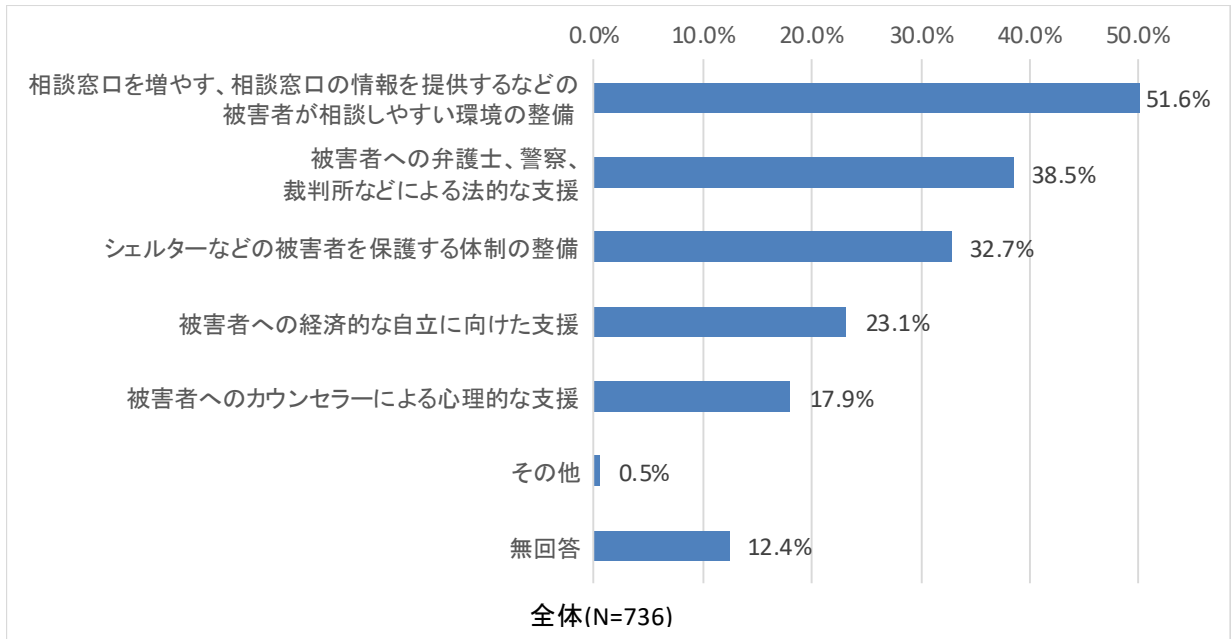
性・年齢別にみると、男性40歳代を除き、男女ともすべての年齢層で「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発を行う」が最も高くなっている。

		DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発を行う	家庭で、保護者が子どもに対して、暴力を防止するための教育を行う	学校で、暴力等を防止するための教育を行う	地域で、暴力等を防止するための研修会やイベントを行う	職場で、暴力等を防止するための研修会を行う	加害者への罰則を強化する	加害者に対して、二度と暴力を繰り返さないための指導やカウンセリングを行う	テレビやインターネットでの暴力を助長するおそれのある情報を規制する	その他
女性	18～29歳(n=93)	23.7%	15.1%	14.0%	2.2%	2.2%	20.4%	16.1%	6.5%	0.0%
	30～39歳(n=106)	25.5%	13.2%	12.3%	1.9%	2.8%	24.5%	13.2%	4.7%	1.9%
	40～49歳(n=163)	25.8%	9.8%	11.0%	0.6%	2.5%	23.3%	16.0%	6.7%	4.3%
	50～59歳(n=153)	28.1%	13.7%	11.1%	1.3%	4.6%	15.7%	14.4%	10.5%	0.7%
	60～69歳(n=207)	26.6%	9.7%	13.0%	1.9%	2.4%	18.4%	16.9%	11.1%	0.0%
	70歳以上(n=223)	27.4%	10.3%	13.0%	4.0%	1.8%	18.8%	13.5%	9.9%	1.3%
男性	18～29歳(n=47)	27.7%	4.3%	21.3%	4.3%	2.1%	21.3%	12.8%	2.1%	4.3%
	30～39歳(n=44)	31.8%	6.8%	13.6%	4.5%	4.5%	25.0%	6.8%	6.8%	0.0%
	40～49歳(n=65)	24.6%	13.8%	10.8%	1.5%	1.5%	30.8%	9.2%	7.7%	0.0%
	50～59歳(n=116)	31.0%	12.9%	11.2%	1.7%	5.2%	19.8%	11.2%	6.0%	0.9%
	60～69歳(n=182)	25.3%	13.2%	16.5%	4.9%	2.7%	17.0%	13.7%	5.5%	1.1%
	70歳以上(n=233)	26.6%	12.0%	15.9%	5.2%	3.4%	15.5%	12.9%	8.6%	0.0%

7 DV被害者のために必要な支援

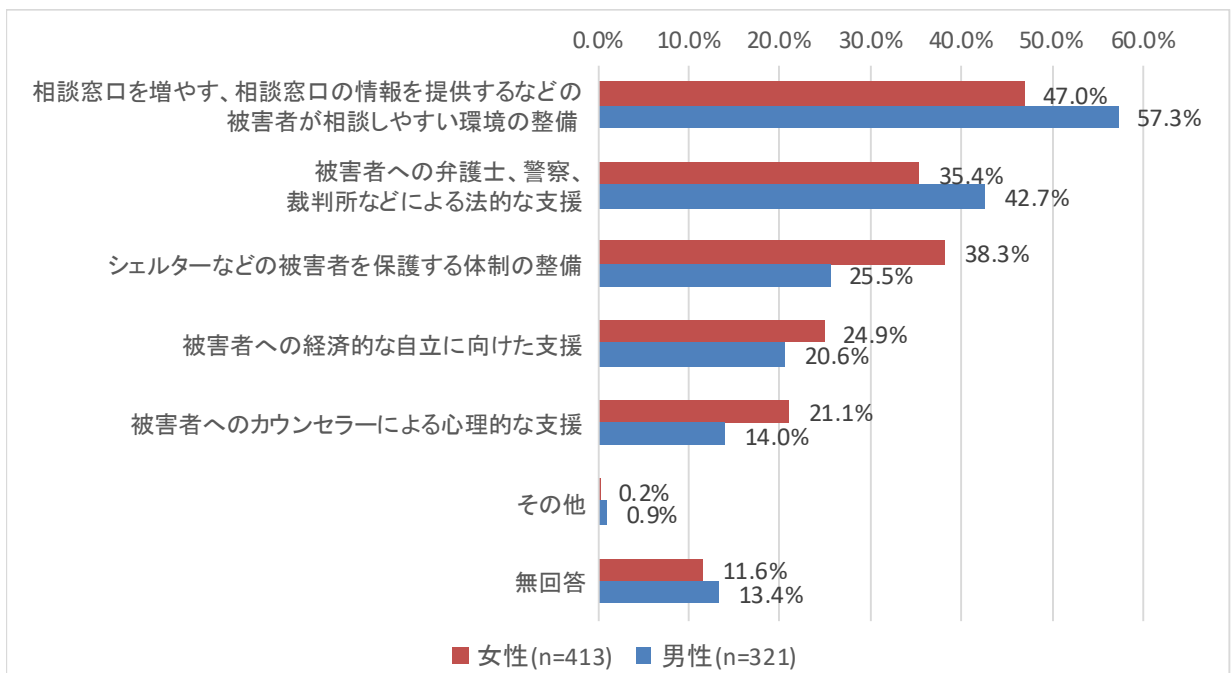
問 26. ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害者のために、どのような支援が必要だと思いますか。
（○印2つまで）

DV被害者のために必要な支援について、「相談窓口を増やす、相談窓口の情報を提供するなどの被害者が相談しやすい環境の整備」（51.6%）が最も高く5割を超えている。次いで、「被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的な支援」（38.5%）、「シェルターなどの被害者を保護する体制の整備」（32.7%）の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女とも「相談窓口を増やす、相談窓口の情報を提供するなどの被害者が相談しやすい環境の整備」が最も高くなっている。次いで、女性では「シェルターなどの被害者を保護する体制の整備」、男性では「被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的な支援」が高くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、女性30歳代～50歳代、男性40歳代を除くすべての年齢層で「相談窓口を増やす、相談窓口の情報を提供するなどの被害者が相談しやすい環境の整備」が高くなっている。

女性30歳代～50歳代では、「シェルターなどの被害者を保護する体制の整備」が高くなっている。

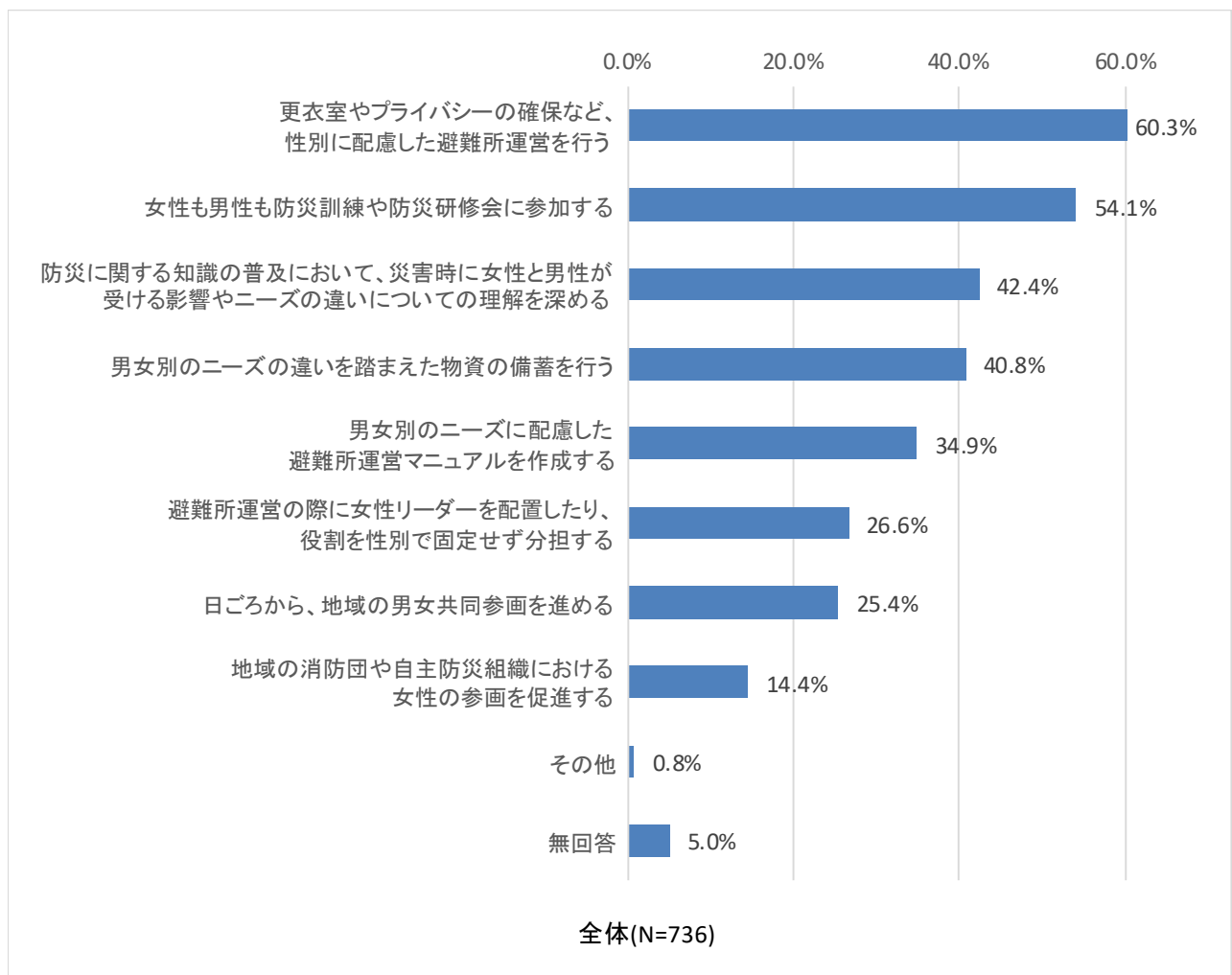
		相談窓口を増やす、相談窓口の情報を提供するなどの被害者が相談しやすい環境の整備	シェルターなどの被害者を保護する体制の整備	被害者への経済的な自立に向けた支援	被害者へのカウンセラーによる心理的な支援	被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的な支援	その他
女性	18～29歳(n=71)	26.8%	22.5%	15.5%	21.1%	14.1%	0.0%
	30～39歳(n=83)	19.3%	27.7%	21.7%	13.3%	18.1%	0.0%
	40～49歳(n=123)	22.0%	28.5%	14.6%	10.6%	24.4%	0.0%
	50～59歳(n=109)	25.7%	26.6%	17.4%	14.7%	15.6%	0.0%
	60～69歳(n=149)	33.6%	20.8%	13.4%	8.7%	22.8%	0.7%
	70歳以上(n=154)	35.1%	15.6%	11.0%	12.3%	26.0%	0.0%
男性	18～29歳(n=38)	34.2%	15.8%	10.5%	15.8%	18.4%	5.3%
	30～39歳(n=33)	33.3%	18.2%	18.2%	6.1%	24.2%	0.0%
	40～49歳(n=54)	25.9%	22.2%	7.4%	11.1%	31.5%	1.9%
	50～59歳(n=81)	38.3%	17.3%	7.4%	9.9%	27.2%	0.0%
	60～69歳(n=126)	34.1%	19.8%	11.9%	7.1%	27.0%	0.0%
	70歳以上(n=181)	39.8%	10.5%	16.0%	7.7%	26.0%	0.0%

【6】防災への取組について

1 防災における男女共同参画を推進するために必要なこと

問 27. 東日本大震災などの過去の災害の教訓から、平常時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと言われています。性別のちがいに配慮した防災・災害対応のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印いくつでも）

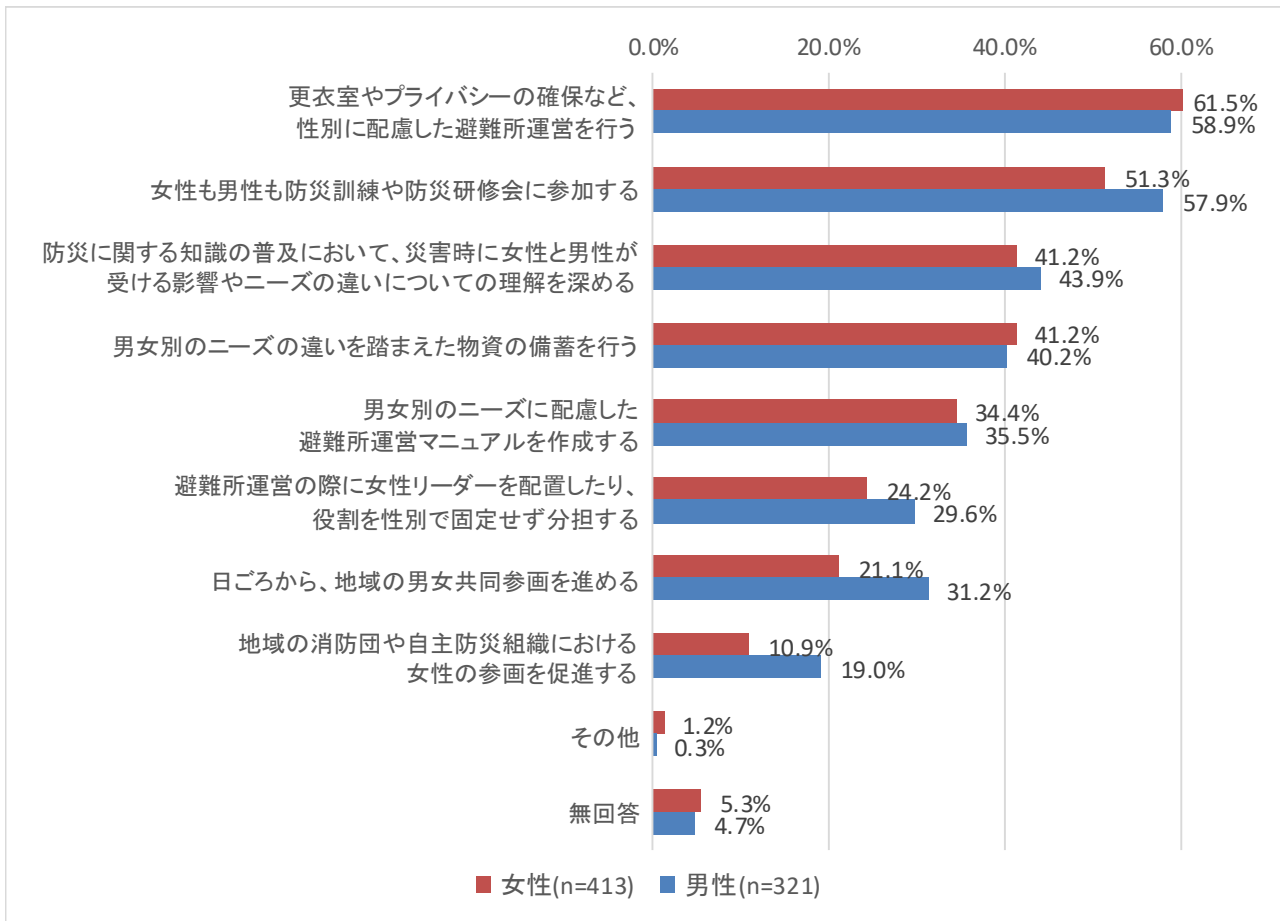
防災における男女共同参画を推進するために必要なことについて、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が60.3%と最も高く、次いで「女性も男性も防災訓練や防災研修会に参加する」（54.1%）、「防災に関する知識の普及において、災害時に女性と男性が受ける影響やニーズの違いについての理解を深める」（42.4%）の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」、「女性も男性も防災訓練や防災研修会に参加する」が高くなっている。

「日ごろから、地域の男女共同参画を進める」、「地域の消防団や自主防災組織における女性の参画を促進する」では、女性に比べ男性で高くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、70歳以上を除くすべての年齢層の女性で「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が高くなっている。

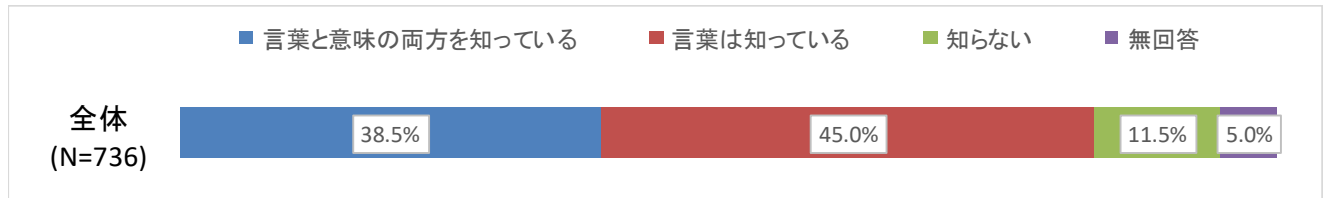
		女性も男性も防災訓練や防災研修会に参加する	日ごろから地域の男女共同参画を進める	地域の消防団や自主防災組織における女性の参画を促進する	防災に関する知識の普及において、災害時に女性と男性が受ける影響やニーズの違いについての理解を深める	男女別のニーズの違いを踏まえた物資の備蓄を行う	男女別のニーズに配慮した避難所運営マニュアルを作成する	避難所運営の際に女性リーダーを配置したり、役割を性別で固定せず分担する	更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う	その他
女性	18～29歳(n=135)	15.6%	9.6%	5.9%	13.3%	15.6%	15.6%	4.4%	20.0%	0.0%
	30～39歳(n=132)	19.7%	6.1%	3.0%	16.7%	15.9%	11.4%	7.6%	19.7%	0.0%
	40～49歳(n=225)	16.0%	4.9%	2.2%	13.3%	18.2%	12.0%	7.1%	24.4%	1.8%
	50～59歳(n=161)	16.8%	6.8%	1.9%	15.5%	15.5%	12.4%	9.9%	21.1%	0.0%
	60～69歳(n=251)	14.3%	7.6%	3.6%	16.3%	13.9%	12.4%	9.6%	21.9%	0.4%
	70歳以上(n=281)	23.5%	8.9%	5.7%	12.1%	9.6%	10.0%	10.0%	20.3%	0.0%
男性	18～29歳(n=85)	15.3%	8.2%	7.1%	12.9%	17.6%	15.3%	8.2%	15.3%	0.0%
	30～39歳(n=63)	19.0%	9.5%	4.8%	19.0%	14.3%	9.5%	7.9%	15.9%	0.0%
	40～49歳(n=126)	15.1%	10.3%	5.6%	14.3%	16.7%	9.5%	9.5%	18.3%	0.8%
	50～59歳(n=144)	17.4%	10.4%	7.6%	17.4%	12.5%	9.0%	6.9%	18.8%	0.0%
	60～69歳(n=228)	18.9%	7.5%	3.1%	14.5%	13.2%	12.3%	11.4%	19.3%	0.0%
	70歳以上(n=361)	19.9%	11.4%	7.5%	11.1%	10.0%	11.4%	9.4%	19.4%	0.0%

【7】LGBT など性的少数者について

1 LGBT など性的少数者の認知状況

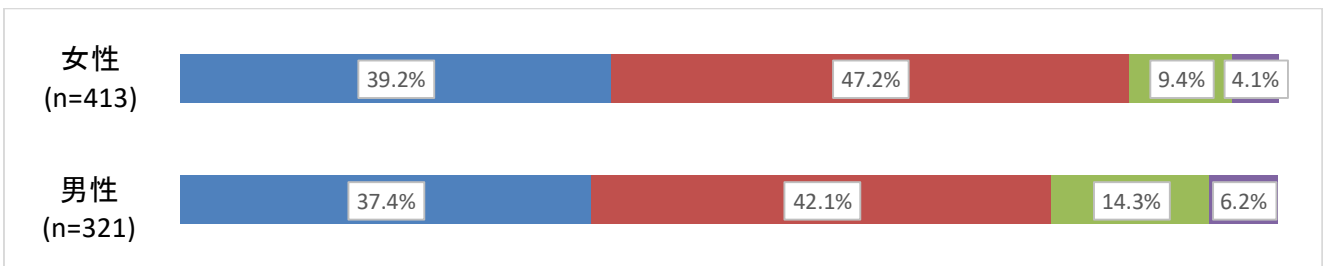
問 28. あなたは、L G B T など性的少数者について、どの程度知っていますか。（○印 1 つ）

L G B T など性的少数者の認知状況について、「言葉は知っている」が 45.0% と最も高く、「言葉と意味の両方を知っている」は 38.5%、「知らない」は 11.5% となっている。



【性別】

性別にみると、「言葉は知っている」、「言葉と意味の両方を知っている」ともに男性より女性で高くなっている。「知らない」は男性で高くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、女性では 40 歳代で、男性では 30 歳代と 40 歳代で「言葉と意味の両方を知っている」が他の年齢層に比べ高くなっている。

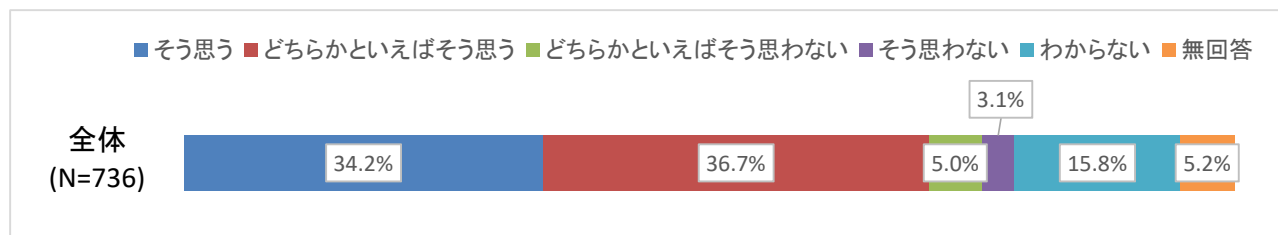
「知らない」は、男性 29 歳以下で特に高くなっている。

		言葉と意味の両方を知っている	言葉は知っている	知らない
女性	18～29歳(n=43)	55.8%	41.9%	2.3%
	30～39歳(n=45)	48.9%	51.1%	0.0%
	40～49歳(n=65)	72.3%	23.1%	4.6%
	50～59歳(n=57)	38.6%	50.9%	10.5%
	60～69歳(n=87)	35.6%	55.2%	9.2%
	70歳以上(n=99)	16.2%	62.6%	21.2%
男性	18～29歳(n=25)	36.0%	32.0%	32.0%
	30～39歳(n=21)	52.4%	38.1%	9.5%
	40～49歳(n=34)	52.9%	38.2%	8.8%
	50～59歳(n=45)	48.9%	35.6%	15.6%
	60～69歳(n=74)	36.5%	50.0%	13.5%
	70歳以上(n=100)	32.0%	52.0%	16.0%

2 LGBT など性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うか

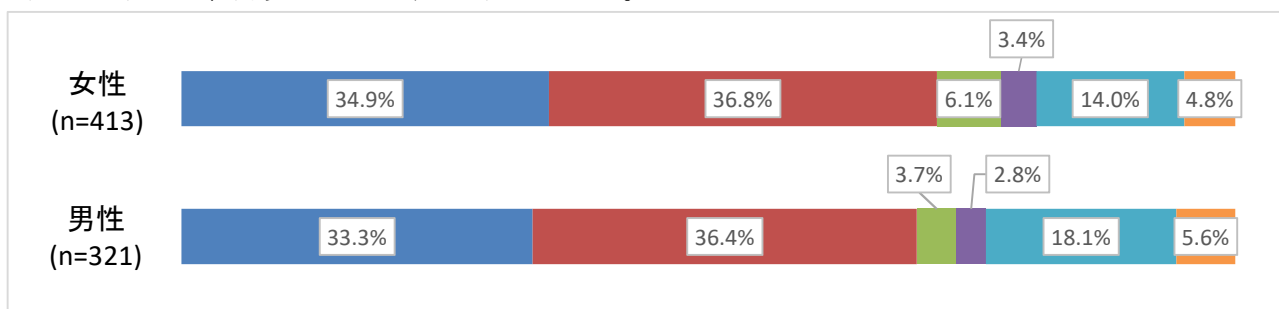
問 29. 現在の社会は、LGBT など性的少数者の方にとって、生活しづらい社会だと思いますか。
(○印1つ)

LGBT など性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うかについて、「どちらかといえば
そう思う」が 36.7%と最も高く、次いで「そう思う」(34.2%)の順となっている。
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 70.9%で7割を超えている。
「どちらかといえばそう思わない」は 5.0%、「そう思わない」は 3.1%となっている。



【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられない。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、男女ともすべての年齢層で「そう思う」または「どちらかといえば
そう思う」で最も高くなっている。

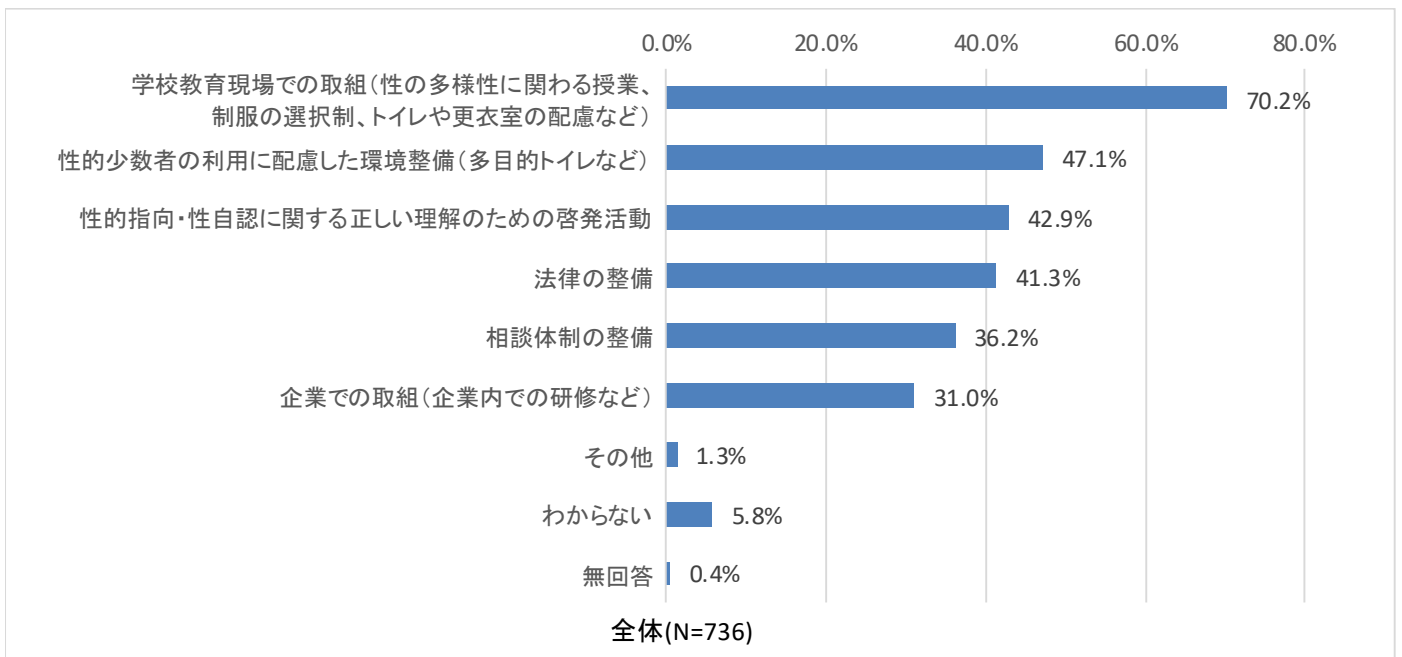
		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
女性	18~29歳(n=43)	41.9%	37.2%	14.0%	0.0%	7.0%
	30~39歳(n=45)	44.4%	44.4%	4.4%	0.0%	6.7%
	40~49歳(n=65)	38.5%	41.5%	7.7%	6.2%	6.2%
	50~59歳(n=57)	33.3%	47.4%	5.3%	5.3%	8.8%
	60~69歳(n=86)	45.3%	31.4%	5.8%	1.2%	16.3%
	70歳以上(n=97)	23.7%	36.1%	4.1%	6.2%	29.9%
男性	18~29歳(n=26)	30.8%	38.5%	0.0%	7.7%	23.1%
	30~39歳(n=22)	40.9%	40.9%	9.1%	0.0%	9.1%
	40~49歳(n=34)	38.2%	44.1%	2.9%	5.9%	8.8%
	50~59歳(n=46)	37.0%	37.0%	0.0%	4.3%	21.7%
	60~69歳(n=72)	36.1%	40.3%	4.2%	0.0%	19.4%
	70歳以上(n=102)	32.4%	36.3%	5.9%	2.9%	22.5%

3 LGBT など性的少数者が生活しやすい社会にするために必要な取組

問 29 で「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方のみお答えください。

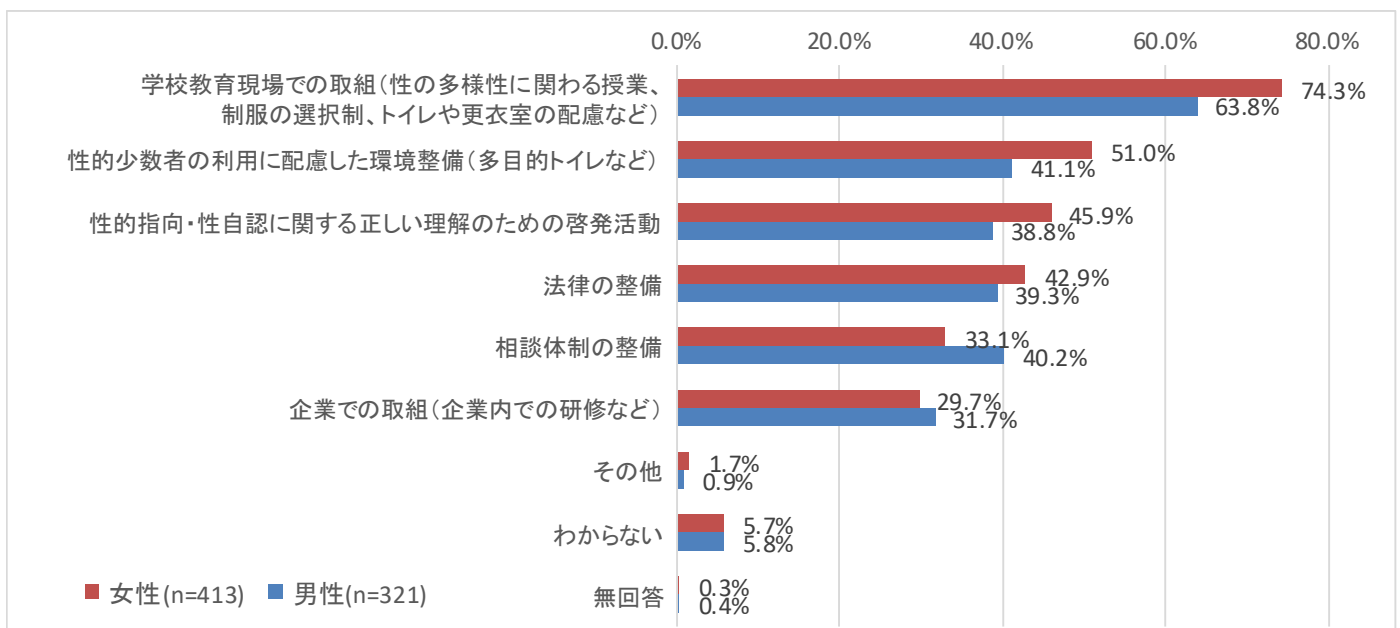
問 30. LGBT など性的少数者の方が生活しやすい社会にするためには、どのような取組が必要だと思いますか。(○印いくつでも)

LGBT など性的少数者が生活しやすい社会にするために必要な取組について、「学校教育現場での取組(性の多様性に関わる授業、制服の選択制、トイレや更衣室の配慮など)」(70.2%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「性的少数者の利用に配慮した環境整備(多目的トイレなど)」(47.1%)、「性的指向・性自認に関する正しい理解のための啓発活動」(42.9%)の順となっている。



【性別】

性別にみると、「学校教育現場での取組(性の多様性に関わる授業、制服の選択制、トイレや更衣室の配慮など)」、「性的少数者の利用に配慮した環境整備(多目的トイレなど)」は、男性に比べて女性で特に高くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、男女ともすべての年齢層で「学校教育現場での取組」が最も高くなっている。

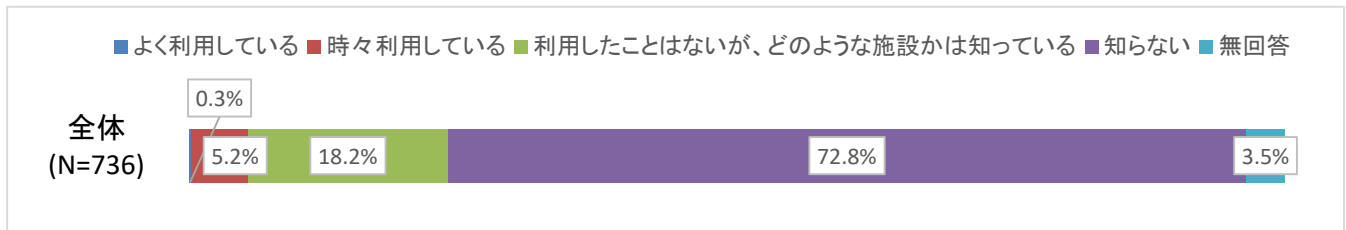
		学校教育現場での取組	企業での取組	相談体制の整備	性的指向・性自認に関する正しい理解のための啓発活動	性的少数者の利用に配慮した環境整備（多目的トイレなど）	法律の整備	その他	わからない
女性	18～29歳(n=100)	29.0%	7.0%	9.0%	19.0%	21.0%	12.0%	2.0%	1.0%
	30～39歳(n=120)	28.3%	9.2%	10.0%	15.0%	20.0%	15.8%	0.8%	0.8%
	40～49歳(n=170)	24.7%	13.5%	10.6%	16.5%	18.2%	15.9%	0.0%	0.6%
	50～59歳(n=118)	28.0%	10.2%	8.5%	16.9%	18.6%	14.4%	0.8%	2.5%
	60～69歳(n=196)	23.0%	9.7%	15.8%	14.8%	16.8%	17.3%	0.5%	2.0%
	70歳以上(n=153)	26.8%	10.5%	13.7%	14.4%	13.7%	13.1%	0.0%	7.8%
男性	18～29歳(n=55)	27.3%	9.1%	10.9%	18.2%	18.2%	12.7%	1.8%	1.8%
	30～39歳(n=54)	24.1%	11.1%	22.2%	11.1%	16.7%	11.1%	0.0%	3.7%
	40～49歳(n=97)	21.6%	18.6%	13.4%	13.4%	15.5%	16.5%	1.0%	0.0%
	50～59歳(n=87)	26.4%	9.2%	11.5%	17.2%	16.1%	16.1%	0.0%	3.4%
	60～69歳(n=135)	25.2%	11.9%	12.6%	14.8%	14.1%	19.3%	0.0%	2.2%
	70歳以上(n=174)	23.0%	11.5%	19.5%	14.4%	16.1%	10.9%	0.0%	4.6%

【8】男女共同参画を推進するための取組について

1 玉野市男女共同参画推進センターの利用状況

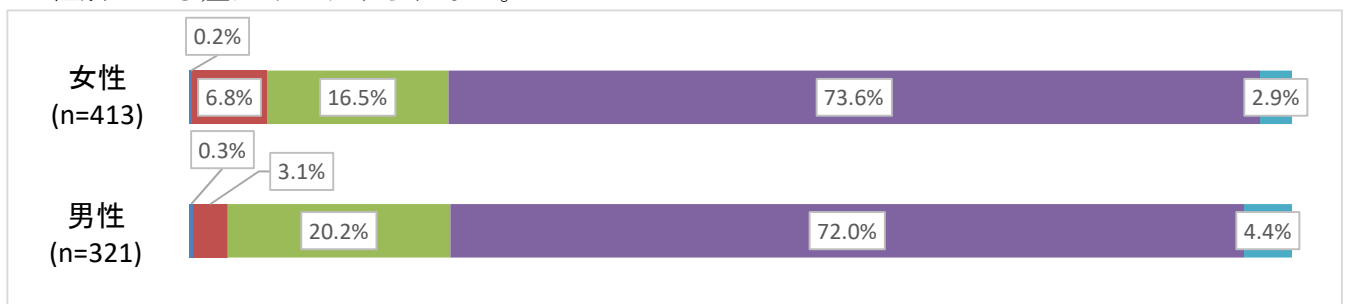
問 31. あなたは、玉野市男女共同参画推進センター（日の出ふれあい会館内）を利用したことがありますか。（○印1つ）

玉野市男女共同参画推進センターについて、7割以上が「知らない」（72.8%）と回答している。「よく利用している」（0.3%）と「時々利用している」（5.2%）を合わせた割合は5.5%と1割を切っている。



【性別】

性別による差はあまりみられない。



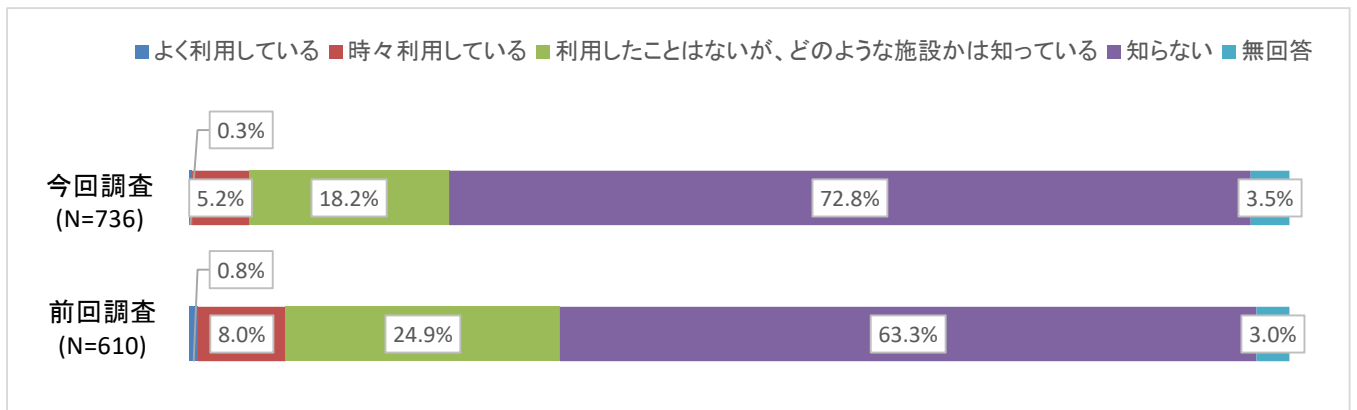
【性・年齢別】

性・年齢別にみると、女性では50歳代で「時々利用している」が他の年齢層と比較して高くなっている。また、男女ともすべての年代で「知らない」が最も高く、若年層ほどおおむね高い傾向にある。

		よく利用している	時々利用している	利用したことはないが、 どのような施設かは 知っている	知らない
女性	18～29歳(n=45)	0.0%	0.0%	8.9%	91.1%
	30～39歳(n=45)	0.0%	4.4%	13.3%	82.2%
	40～49歳(n=64)	1.6%	4.7%	14.1%	79.7%
	50～59歳(n=59)	0.0%	13.6%	10.2%	76.3%
	60～69歳(n=87)	0.0%	6.9%	19.5%	73.6%
	70歳以上(n=101)	0.0%	8.9%	25.7%	65.3%
男性	18～29歳(n=25)	0.0%	4.0%	16.0%	80.0%
	30～39歳(n=22)	0.0%	4.5%	4.5%	90.9%
	40～49歳(n=31)	0.0%	9.7%	9.7%	80.6%
	50～59歳(n=47)	0.0%	2.1%	27.7%	70.2%
	60～69歳(n=74)	0.0%	1.4%	21.6%	77.0%
	70歳以上(n=106)	0.9%	2.8%	26.4%	69.8%

【前回調査との比較】

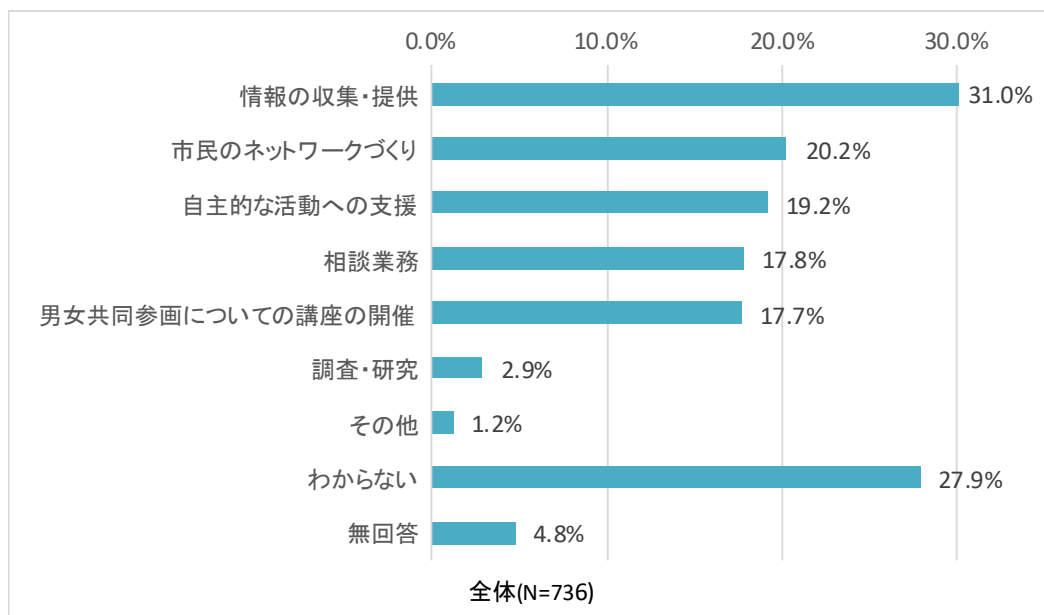
前回調査と比較すると、「知らない」は9.5ポイント増加し、「利用したことはないが、どのような施設かは知っている」は6.7ポイント減少している。



2 玉野市男女共同参画推進センターで推進すべき取組

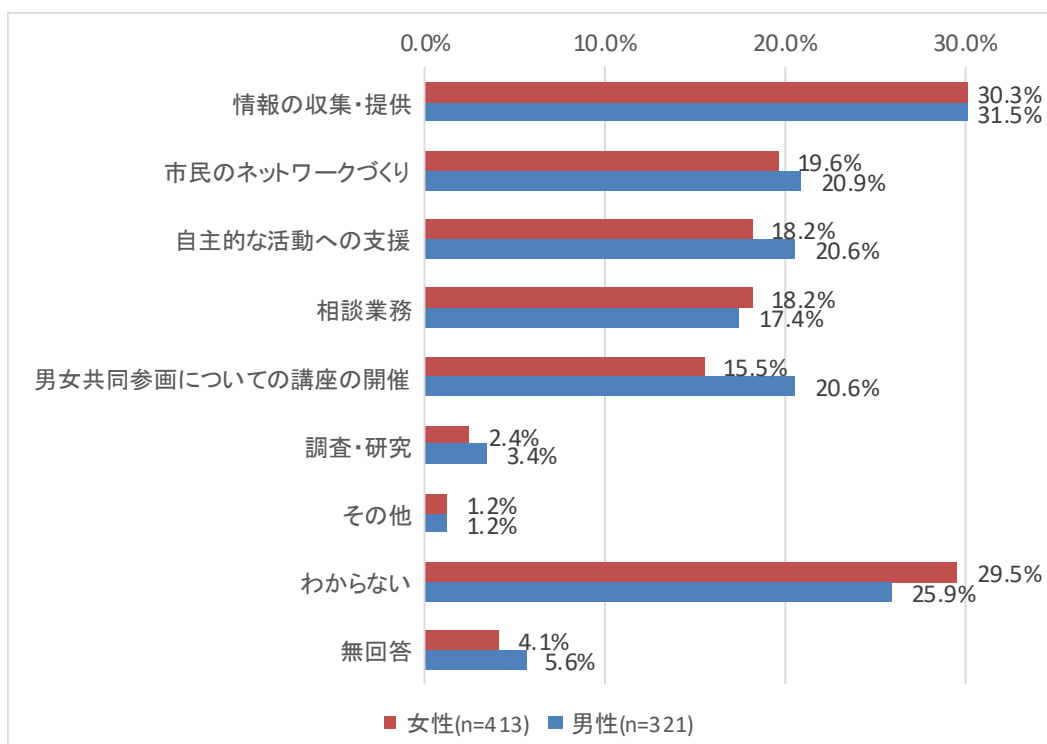
問 32. 玉野市男女共同参画推進センターでは、男女共同参画に関する啓発事業や相談事業などを行っています。あなたが特に推進すべきだと思う取組は何ですか。(○印2つまで)

玉野市男女共同参画推進センターで推進すべき取組について、「情報の収集・提供」(31.0%)が最も高くなっている。「市民のネットワークづくり」(20.2%)、「自主的な活動への支援」(19.2%)、「相談業務」(17.8%)、「男女共同参画についての講座の開催」(17.7%)はほぼ同じ割合となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「情報の収集・提供」が最も高くなっている。「男女共同参画についての講座の開催」では女性に比べ男性で5.1ポイント高くなっている。



【性・年齢別】

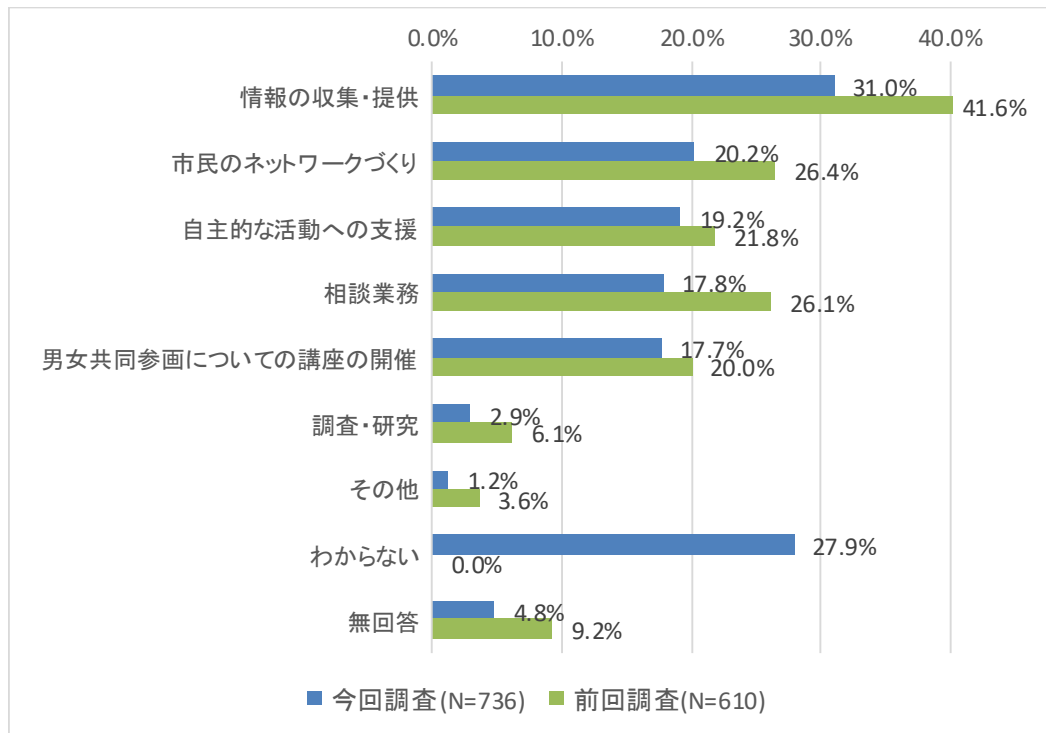
性・年齢別にみると、男女とも29歳以下で「情報の収集・提供」が高くなっている。

		自主的な活動 への支援	男女共同参画 についての 講座の開催	市民のネット ワークづくり	情報の収集 ・提供	相談業務	調査・研究	その他	わからない
女性	18～29歳(n=55)	14.5%	9.1%	7.3%	32.7%	14.5%	3.6%	0.0%	18.2%
	30～39歳(n=65)	20.0%	3.1%	21.5%	16.9%	16.9%	3.1%	1.5%	16.9%
	40～49歳(n=82)	9.8%	2.4%	17.1%	28.0%	19.5%	1.2%	2.4%	19.5%
	50～59歳(n=83)	8.4%	15.7%	14.5%	20.5%	16.9%	3.6%	1.2%	19.3%
	60～69歳(n=130)	12.3%	13.8%	14.6%	25.4%	13.1%	0.8%	0.8%	19.2%
	70歳以上(n=139)	16.5%	17.3%	12.9%	16.5%	6.5%	0.7%	0.0%	29.5%
男性	18～29歳(n=38)	15.8%	10.5%	15.8%	31.6%	7.9%	2.6%	0.0%	15.8%
	30～39歳(n=33)	27.3%	9.1%	15.2%	21.2%	12.1%	3.0%	3.0%	9.1%
	40～49歳(n=56)	16.1%	12.5%	21.4%	17.9%	17.9%	3.6%	3.6%	7.1%
	50～59歳(n=66)	9.1%	15.2%	9.1%	22.7%	19.7%	0.0%	0.0%	24.2%
	60～69歳(n=112)	13.4%	12.5%	14.3%	25.9%	12.5%	3.6%	0.0%	17.9%
	70歳以上(n=147)	14.3%	18.4%	14.3%	19.0%	8.2%	2.0%	0.7%	23.1%

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、すべての項目で減少している。

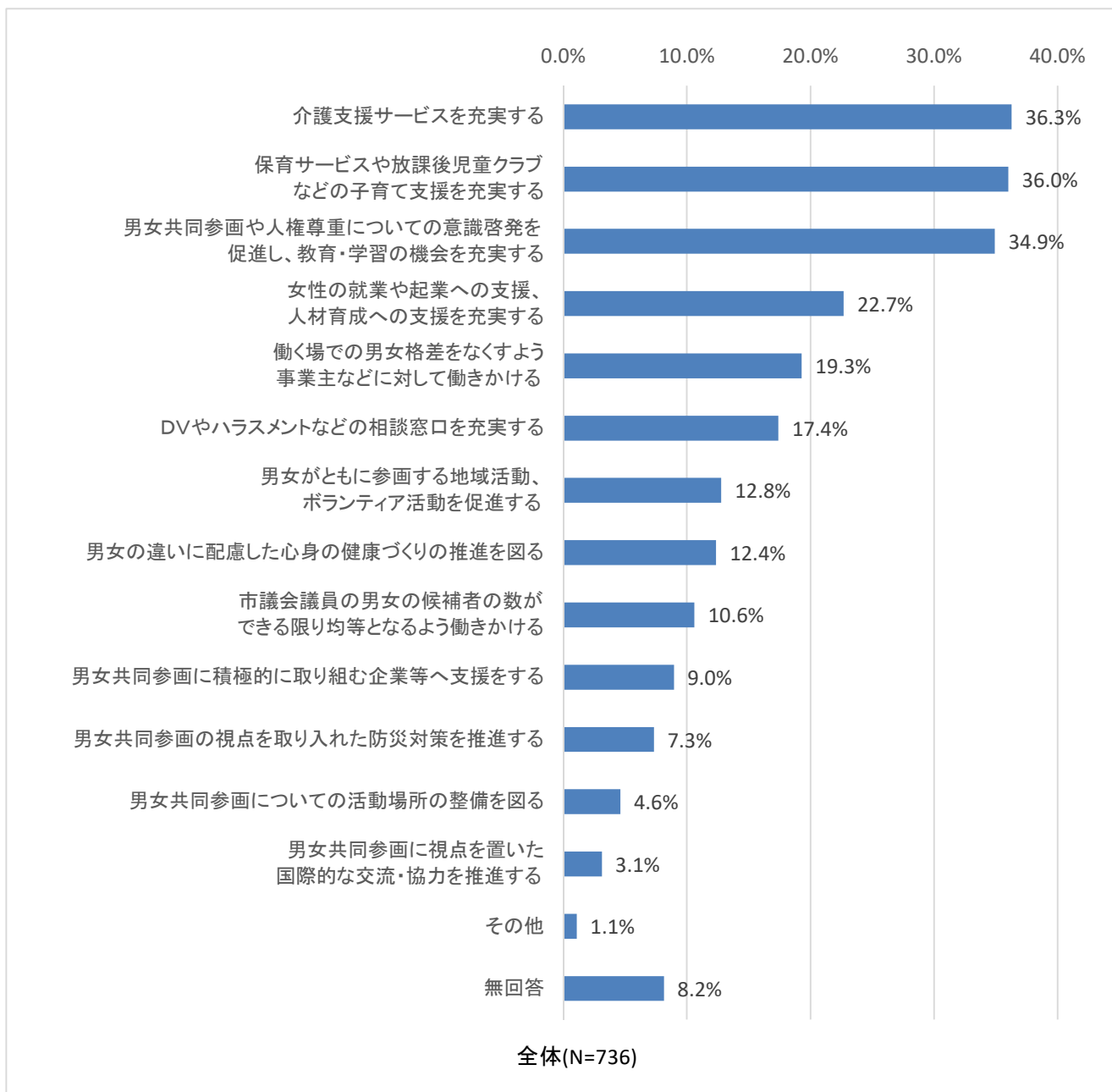
※「わからない」は今回調査からの追加項目



3 男女共同参画の推進に必要なと思う施策

問 33. 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、玉野市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○印3つまで)

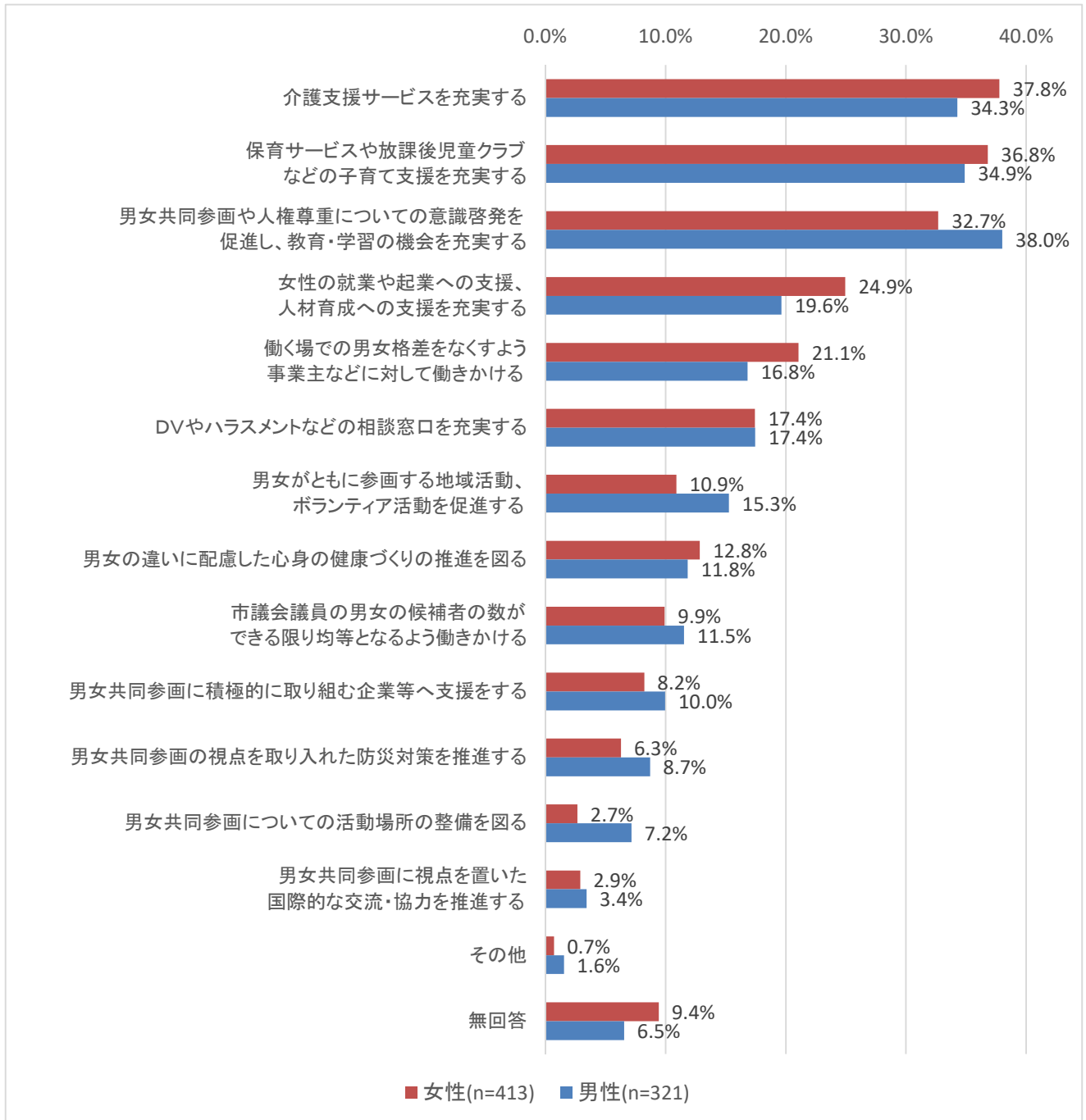
男女共同参画の推進に必要なと思う施策について、「介護支援サービスを充実する」(36.3%)、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援を充実する」(36.0%)、「男女共同参画や人権尊重についての意識啓発を促進し、教育・学習の機会を充実する」(34.9%)がほぼ同じ割合で高くなっている。



【性別】

性別にみると、女性では「介護支援サービスを充実する」、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援を充実する」で特に高くなっている。

一方、男性では「男女共同参画や人権尊重についての意識啓発を促進し、教育・学習の機会を充実する」が最も高くなっている。

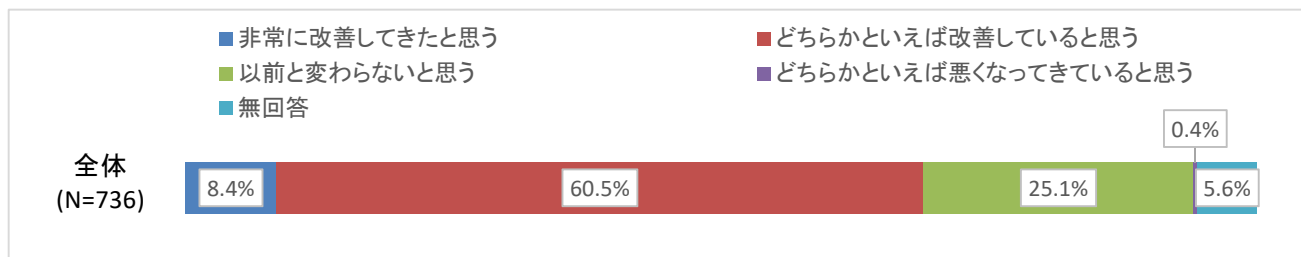


4 女性に対する人権意識や女性の地位の改善状況

問 34. 10 年前と比べて、女性に対する人権意識や女性の地位は、どの程度改善してきたと思いますか。(○印1つ)

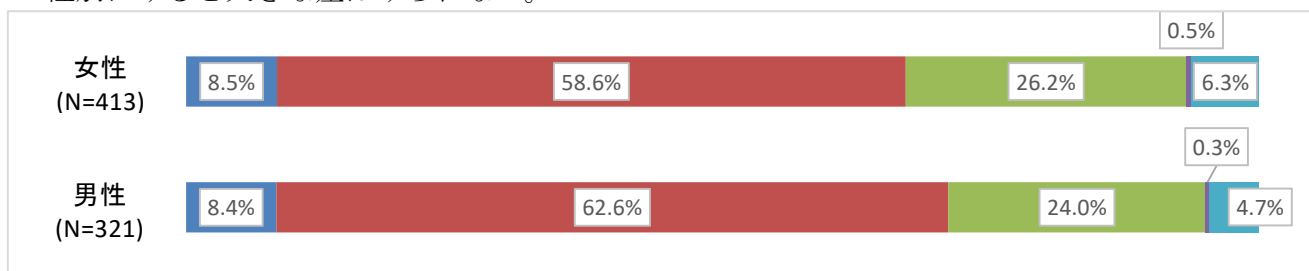
女性に対する人権意識や女性の地位の改善状況について、『改善してきた』は68.9%、「以前と変わらないと思う」は25.1%となっている。「どちらかといえば悪くなってきていると思う」(0.4%)はほとんどみられない。

※『改善してきた』…「非常に改善してきたと思う」と「どちらかといえば改善していると思う」を合わせた割合



【性別】

性別にみると大きな差はみられない。



【性・年齢別】

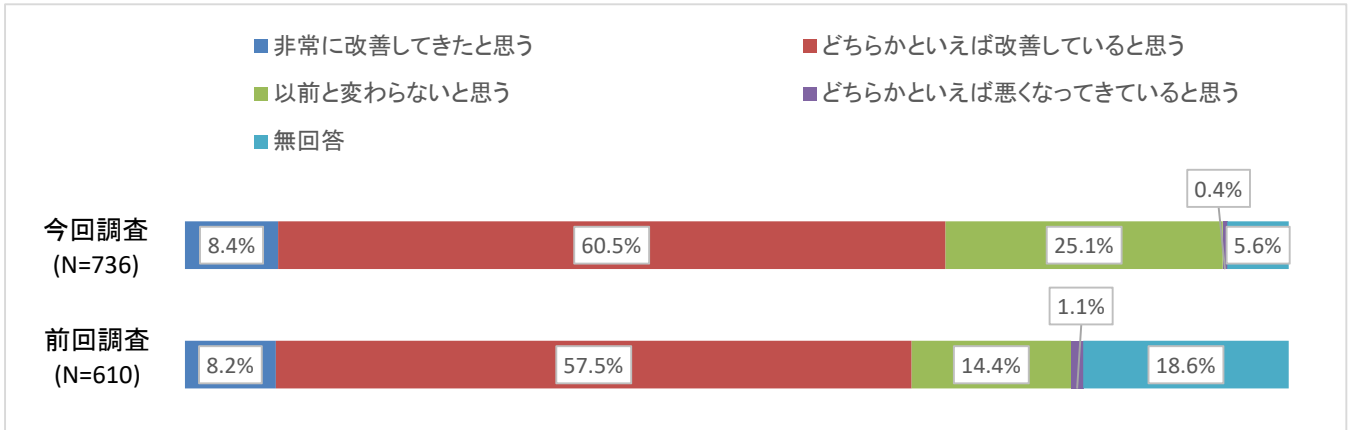
性・年齢別にみると、男女ともすべての年齢層で「どちらかといえば改善していると思う」が最も高くなっている。女性では、若年層よりも高齢層で「以前と変わらないと思う」が高い傾向にある。一方、男性では、若年層になるにつれ「非常に改善してきたと思う」がおおむね高くなる傾向にある。

		非常に改善してきたと思う	どちらかといえば改善していると思う	以前と変わらないと思う	どちらかといえば悪くなってきていると思う
女性	18～29歳(n=43)	20.9%	58.1%	18.6%	2.3%
	30～39歳(n=45)	6.7%	71.1%	22.2%	0.0%
	40～49歳(n=63)	9.5%	69.8%	20.6%	0.0%
	50～59歳(n=59)	5.1%	59.3%	35.6%	0.0%
	60～69歳(n=84)	3.6%	61.9%	33.3%	1.2%
	70歳以上(n=93)	11.8%	58.1%	30.1%	0.0%
男性	18～29歳(n=25)	16.0%	48.0%	36.0%	0.0%
	30～39歳(n=22)	18.2%	54.5%	27.3%	0.0%
	40～49歳(n=33)	12.1%	60.6%	24.2%	3.0%
	50～59歳(n=47)	6.4%	74.5%	19.1%	0.0%
	60～69歳(n=74)	5.4%	67.6%	27.0%	0.0%
	70歳以上(n=103)	7.8%	68.9%	23.3%	0.0%

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、『改善してきた』は大きな変化はみられない。「以前と変わらないと思う」は10.7ポイント増加している。

※前回調査の「無回答」は「わからない」と「無回答」を合わせた割合



IV 自由意見回答結果

さいごに、あなたが日頃、家庭、学校、職場、地域などで男女平等や男女共同参画について感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

【女性 29 歳以下】

- ・学校でLGBTについての講演会がありましたが、皆ふせて寝ているなどして正直無駄な時間でした。
- ・共働きであっても、家事・育児は女性の役割だという社会の風潮が根強く、女性の負担が大きい。将来、結婚・出産を望むとすれば、そのことを考慮した就職先を決めなければならなかった。
- ・子どもが熱を出したりして仕事を休まざるをえない。
- ・働きたい人は働き、働きたくない人は好きなことが出来、学びたい人は学べる社会が当然だと思う。学校に行く人は若い人、という仕組みも差別だと思う。学校に行きたいときに無料で行かせてくれたり、働きたい、奉仕したいと思った時できる本当の意味での自由や愛がある世の中にしていくために、公務員の方も日々頑張っているのだと思うので、感謝しかないです。
- ・働きたいと思うけれど、小さい子供が2人もいて身近に頼れる人もおらずどうにもできない状況です。子供がいても働きやすい職場がもっと増えると嬉しいです。子育てしやすい地域になってほしい。
- ・もう少し単純な質問にされるとよい。
- ・昔に比べると改善されたが、まだまだ男女平等には遠いと思いますし、完全に平等になることは今のままでは難しいと思います。
- ・男性と女性の収入格差
- ・男女差別というものは、昔に比べると男は外で仕事をし、女は家で家事をして守るという考え方は薄れてきたように思われるが、日常的に男なんだから！であったり、女のくせにといったような言葉を耳にする機会も少なくはない。そういった固定概念や偏見が少しでも緩和されるためにも、意識改革や、常識と思っていることに対する見直しが必要であると考えている。

【男性 29 歳以下】

- ・異性と関わった経験が少ない人ほど、男女のトラブルを起こしてしまうと感じています。
- ・男女問わず個性を認めあうことができれば、それぞれの良さが生き、よりよい社会になると思う。男女の平等を第一に考えるのではなく、全体のバランスや調和を大切にしつつ、一人一人の人間の良さなどを生かすことができる社会になればいいなと思う。

- ・男女平等とは、全ての場面では不可能なことだと思う。男性も女性も役割があつて、お互いに経験することで、お互いの気持ちを理解することができるようになって初めて協力できることだと思う。男らしく、女らしく、という言葉(特に団塊世代以上の人に多い。言い過ぎて違和感がある)は他人に言う言葉ではなく、自分自身の価値観で感じるもので、表に出して要求してはいけなし、そのこと自体がハラスメントではないだろうか。よいものは残し、よくないことは減らしていくことで、住みやすい毎日になることはほとんどの人がわかっているはずなのに、実行できていないのはどうしてだろうか。
- ・確かに男女共同も大切だが最近男性も生きづらくなっていると思う。例えば電車でのしていないセクハラを訴えられたりするなどの事件があります。

【女性 30 歳代】

- ・玉野市の子育て世帯への支援を充実させること。病院(経営的などの問題もあるが)設備を整えること。玉野市への医師の派遣の充実をさせること。不明確な金銭の扱いの透明さを見せること。強く言っていくこと。
- ・最近のお父さんは、家事育児を手伝うイクメンが増えてきました。昔と比べると今は女性も働きやすくなっています。良く言えばです。実際は働かなければ生活できないからする。家事は結局母親への負担が大きい。女性は月に1度体調がすぐれないときがある。いろいろと不満はあります。これからの時代を背負っていく今の子どもたちへの教育の場で男性と女性の違いを理解し、相手を思いやる心を育ててほしいと思います。
- ・未だ40代男性以上の方は家庭の家事や育児に協力的でないと思っています。男性に家事の協力を上手にお願いする方法や分担する方法など提案をたくさんしてほしいと思います。そうすることにより女性はもっと外で働くことができ、豊かになっていくと思っています。
- ・もっと女性が働きやすく、また男女平等の賃金へ。今はまだ同じ時間働いても男性の方が稼げるのは不平等。女性のみ(シングルマザー)でも生活水準を下げない生活ができるようになれば良いと思う。
- ・家庭において、家事の負担が減ればいいのですが、難しいのが現状です。
- ・玉野市は他市に比べて子育て支援をたくさんして下さっているのも、助かっています。育休制度は女性を取ることができますが、男性はなかなか他者や会社に理解されず、取りづらい風潮にあると思います。今後、その問題が少しでも改善されれば良いと思います。
- ・男女という分け方自体が少し古臭いなどと思ってしまうのですが、玉野市は子育てしやすい、地域で支えてくれていると感じます。どのような環境、状況でも、自分の子供が性に囚われることなく個人を大切に過ごすことのできる社会であればありがたいなと思います。
- ・10年前と比べれば、女性の管理職が増えたり、起業しやすくなったり、共働きの社会認知が高くなっていたりと、改善してきていると思う。出産後も働く女性が増えた分、保育園の受け入れ態勢が追いつかず、待機児童が出る状況になっていると思う。このように、意識が変わってきたら起こり得る課題を先回りして検討し、整備していく必要があると考えます。

【男性 30 歳代】

- ・人口が減っているのは、子供が少ないのと結婚しない人が増えていることと一般の会社の収入が少なく結婚しにくくなっている為と思う。収入が多くない人でも人間として良い人はたくさんるので、そんな人が結婚しやすいサポートを市がしてほしい。たとえばオンライン見合ができるパソコンを市の図書館に5台程設置して会員を集め気軽に交流できるようにしてもらいたい。
- ・男女平等といっても、仕事の面では力仕事や汚れる仕事になると女性はほとんどいない。最低でも汚れにくいようになれば、こういった仕事でも女性の就業率はほんの少し上昇すると思う。
- ・設問が女性視点のものがなかった。女性が多い職場や地域活動もあり、少人数で意見が言えない状況や相談できない状況もある。

【女性 40 歳代】

- ・男性だからできる仕事、女性だからできる仕事も数多くあると思いますが、賃金差がまだあるのが現状。女性でも家庭を守る賃金がほしいです。男性が働けなくなったりした時に困らないように。助け合って生活していけるように。お金をたくさん持っていたり、地位がある方々ばかりの話を聞くのではなく、一般庶民の話を多くの方から聞いてほしいです。
- ・体の作りの違い、体力の違いなど、現実には男女は完全平等は難しいが、互いに尊重し合う考え方が大切だといつも思いぶつかる。
- ・①教育の場では、男女の違い、LGBTなどのマイノリティーの人たちのことも子供の頃から教えた方が良いと思う。（体の違いだけでなく、脳 or 精神的な違いを含めて）
②子供がいる男性には、育児に参加しやすい環境（休みをとりやすい等）を与えるべき。若いお父さんは最近子育てに興味がある人が多いので、女性だけでなく男性の職場改革が必要。少子化は女性だけの問題ではない。男性が子育てに参加しやすい環境を整備すべき。
- ・男女の体力の違い、能力の違いを理解し、男だから女だから…という考えを少しずつでもなくしていくことが大切。他府県から来たのですが、玉野は「高齢者」とその方々以外の考え方に違いが大きいと思います。固定観念や自分さえ良ければ…などの意識が強い。だからコロナで、いじめなど陰口など言われる方が多いのだと思います。まずは、年齢ではないと思わせてくれるような考えの方々が増えてくれるとうれしいです。
- ・日本人に染み付いている男女差別は、国会でもわかるように、女性をバカにしている男性は変わらず多いと思います。日本人特有なのであれば、結果変わらないと思うので、男性に真正面から向かっていってもムダだと思う。女は女らしくなど、差別か区別をする言葉を未だに使うようでは、この国は変わらない。アンケートなど取らなくても女性たちは皆、男を利用すれば良いと思います。
- ・不登校の子、その親が情報交換ができる場所があったら、一人で悩まず辛いことも話ができると思います。経験した人の話が聞けたら参考になるので、私もそんな場所があったらいいなと思いました。すごく悩んだので夜間中学校とか昼間家から出られないことが多かったので、夜に集まる場所があったらいいなと思いました。

- ・男なんだからしっかりしなさい！等は令和になったのでそろそろやめたらいいと思う。男ツライ→女はラク→女ズルイ→女性蔑視の流れは女性としてもメンドクサイ。価値観や男女LGBTQに対する考え方がどんどん変わっていく中で大変なお仕事かと思います。人権・男女共同参画係の皆様、心身にお気を付けてがんばって下さい。
- ・結婚していない女性はとても不利益がかかっていると思います。何かあれば残業、手当ても低く、どちらかと言うとLGBTの人の気持ちに近いのではないかと思います。働けるのに手当てをもらえるから働かず、低所得を選んでいるシングルマザーもいるのを見してきました。それでも1人の女性は何の制度もありません。何かあれば死ぬしかないです。
- ・男女共同参画という言葉は聞いたことはあるが、何をやっているところなのか知らない。具体的に、どういうことをやったのか報告があればよかった。
- ・共働きでも、子供に関しては母親が見るという傾向がまだ強い。母親がパートの立場でも責任を持って仕事をしているので、子供の体調不良などですぐに休めるとは思わないで欲しい。男性は、給料を多く稼いでいる方が偉いという意識がまだまだ根強い為、父親が子供の体調不良の為に会社を休められない雰囲気になっている気がする。

【男性 40 歳代】

- ・まだまだ認知されるまで時間がかかると思いますが、地道な努力で頑張って頂きたいと思います。
- ・教育の場で、子どもの頃から分かりやすく男女共同参画のことを積極的に教えてやってほしいと思いました。家庭環境も各々違うので、個々の考え方はなかなか変わることはないかもしれませんが、少しでも子どもの頃から植え付けることも大切かと思います。
- ・男女平等と言うと女性蔑視に偏りがちだが、男性に対する固定概念は改善されておらず、男女平等を謳う裏で男性に対する差別、区別、思想は社会的に改善されていない。男女平等を謳うのであれば、身体的な相違以外は、一個人、人としての対応が必要。男女平等と言っている時点で区別、差別は無くならないのでは？
- ・問 19 の理想は、答えられません。各々の家庭で理想は異なります。
- ・料理、家事ができない人が多い（男・女ともに）ので、学校でも家庭科の授業がありますが、授業の時間を取りましたと言うのではなく、もっと、ボランティア等をつけて本気で教えてほしいです。
- ・男女共同参画に対して理解されていないことが多々有ると思うので、積極的に力を入れていくべきだと思う。
- ・難しい問題。そもそも人類は子孫を増やすための行動をしている。そこに知恵を持っているため色々と発展してきたのであって、潜在的なものを変えるのは難しい問題。

- ・議員に女性が少ないとかアホなこと言う人がいるが、能力さえあれば全員女でもいい。逆もしかり。平等、人権、差別と魔法の呪文のように使う輩はダメだ。機会は平等であるべきですが、あとは仕事も能力次第。
- ・女性に男性と同等の機会を与えることは重要。ただし、職場で女性登用を重視するあまり、能力的に適任でないにもかかわらず、女性を無理に昇進させることもあるように感じる。

【女性 50 歳代】

- ・介護の面で女性の負担が大きい。
- ・日本全体では改善していると思われるが、玉野市においては以前と変わらないと感じる。女性といっても幅があり、我々50代・60代の女性も活躍している人が多い玉野市は、年齢制限があるように思われる。問 33②において、支援・充実できることを願う。
- ・男性の自覚があまり。
- ・男女共同参画という言葉が難しく意味内容がよく分からない。今までどう効果があったかも伝わってこない。
- ・男女平等というよりも、その場所に居て楽しいと思えるように、個人個人が努力していけばよいのではないかと思う。楽しい家庭、楽しい学校、楽しい職場、楽しい地域をみんなで創っていく、一人一人が雄一無二の存在で、お互いに相手を尊重しあい励ましあって、町全体が一つの家族ととらえ、不平、不満、ぐち、泣き言、文句言わず、笑顔で生きられるよう、できることから取り組んでいけたらすばらしい未来になるのではないのでしょうか。
- ・男女という区分にこだわらず、すべての人がお互いに助け合う世の中であってほしい。区分するから問題も出るのかもしれない・・・とは思いますが。
- ・男女平等が良いか悪いか、それすら個人により考えが違うので、私の意見を回答するのがとても心苦しいですので、回答出来なかったところが多々あります。
- ・今まであまり気にしていなかったことですが、アンケートを記入するうえで、これからはいろいろなことに目を向けつつ住みやすい、生活しやすい社会になるよう希望します。
- ・男女平等は大切なことだと思いますが、それぞれにしかできないことも多々あるので、お互いが認めあい、助け合う心が大切だと思います。子育てについては、核家族が増えていることにも理由があるように思うので、なるべくなら、父母、義父母、兄弟、義兄弟、姉妹、義姉妹などが頼れる状況にあることが大切かと思っています。仕事の忙しさに波があり、きちんとした回答ができてなくて申し訳ありません。
- ・男女と言っていることが間違いだと思います。男女に関係なく平等では？
- ・時給差があり、やらざるを得ない仕事をして、時給は最低賃金。男の人は、しなくても頂け、しんどくない仕事っぷり。見てて嫌になる…。

- ・自分が子育てをしていた頃と比べると(20年位前)今の若い親御さんは夫婦揃って学校行事に参加したり、男性の家庭での家事への参加率は高くなってきていると思う。働く女性が増えてきているのは良いことですが、それに対する支援は仕事内容、職場環境によって違うので、今でも女性の方が働き方を選びながら仕事をしていると思う。自分もそうだが、女性がして当たり前ではない、男性がしてもいいんだという環境になることを望みます。そのためには子供の頃からの教育で教えていく必要があると思う。

【男性 50 歳代】

- ・LGBTについては、科学的・医学的根拠が必要。欧米の主張や個人的な趣向に流されてはいけない。根拠のない個人的な事情であれば、法的に特に保護する必要はないと思う。但し個人の自由は尊重されるべき。
- ・働く女性が増えている中でも、家事・子育てもしなくてははいけないうえに、平日の学校行事も出なくてはならない。男性(父親)が参加できやすいように、行事の曜日や時間を配慮してもらえたらいい。家事も賃金をもらわないけど仕事だと思う。男性ももっと家事に参加できるように、料理・家事教室があるといいです。
- ・この国が近代国家として成立した時から男性がすべてを構築してきているので、10~20年で変化できる問題ではないと考えています。このようなアンケートが来ること自体が変化の始まりなので、コツコツあきらめず続ける。何が正解かは今はわかりませんが、こうして行動することが一番大切だと考えます。
- ・私は共働きですが、女性にはきついと思います。仕方ないです。職場も、男女平等になんとかです。やはりこの世の中なので仕方ないと思います。私の近くに男女共同参画推進センターがあるのは心強いです。家族にも教えてあげたいと思います。
- ・女性がいないのでわかりません！
- ・仕事ができる女性は役職を男性同様に上げるべきと思う。
- ・女性の場合、結婚、出産、育児が色々な活動参加の妨げになりがちだと思います。家族の協力、地域サービスを積極的に利用して、前向きに取り組むことが必要かと思います。

【女性 60 歳代】

- ・私はもう60才を終えた人間です。男女平等ということも大切でしょう。これから先の残りの人生それはどうにかなるようにはそれぞれあるでしょう。少し望むなら、私には障害を持つ娘がおります。生まれて沢山の学校・子育てで本当に大変でした。でも親は、その子をどう自分で一人で地に足をつけていくことができるだろう、私達以上にその子が生きて行かねばなりません。沢山の障害を持った人達がよりよくスムーズに生きて行ける世の中を希望致します。
- ・年金で年を取って働かなくてもいい暮らしがしたい。

- ・若い時は、男性の方が給料も多く良いなあと思っていたが、今は健康の為に働いているし、男女同じなのでうれしい。短時間ですが、年金と給料少しでも、こづかいとして子供や孫にしてあげられると幸せを感じます。
- ・若い頃は夫は非協力的で、共働きで子供を育てながら夫の両親の介護をして働いて大変でした。子供の時から家事・子育ては夫婦で協力してするものということをしっかり教え込んでもらいたいです。
- ・女性が声を上げると、特異な者を見るような雰囲気は少なくなってきました。女性も男性の収入に頼ってしまうという負い目をつい感じてしまいがちですが、妊娠・出産・授乳がある以上、男性と同じではないのです。子どもの世話やお年寄りの介護の困難は、やった者でないと分かりません。どちらも簡単で楽に見えますが、実際はストレスにまみれており、家庭の苦労は評価されず無給です。困っている人を見かけたら、親切にしてあげるということで、解決できるような気がします。
- ・シングルマザーが多くなりました。なぜでしょうか？
- ・息子世代をみて夫にも見習わせたい。
- ・70代より上の年齢の人はやはり、男性の方が上で女性が男性を支えるという考えがあり、男性もそれを当たり前のように考えていると思う。地域の中でもその考えがあり、ひとり意見を言うとなんか敬遠されるような空気がありそのまま流されてしまっている。
- ・男女は体も考え方も異なるため平等も難しい部分があると思う。男女で給与も差がある職業が多いことも家庭、職場で平等でなくなる。学校でも、男性教師と女性教師に対する子供の接し方が異なったり、地域でも役付の男性が上の層の役目をするなど、すべて平等な社会ではないのが現実。
- ・社会においては、男女平等がかなり改善されていると思うが、家庭内での家事の負担は、はるかに女性の方が多いと思っています。男の子の育て方でしょうか？それとも、家事に非協力的な父親を見て育つからでしょうか？これでは、なかなか改善されないですね。
- ・コロナ禍の影響で人との関わりが希薄になっているように思います。地域、職場、学校…もっと連携のとれる社会を目指して取り組んで欲しいです。
- ・女性の置かれた状況はさまざまですが、どのような状況にあっても、仕事のスキルアップと経済力をつける努力を怠らないことが大切だと思います。

【男性 60 歳代】

- ・近頃の報道で思うこと、子供の事故が多すぎると思う。親の身勝手に死亡事故をよく知ります。本当のことかと思うこと。アルコール中毒かと思うこと。残念です。家庭内もきっと目茶なことだと想像します。

- ・他の市町村の取り組み方を調査し、良い点を玉野市でも採用していく。また、特にヨーロッパ(外国)の進んだ国の現状を調査し、今後県・国レベルに提案していく。
- ・特にはありませんが、部分的に見たら女性が優遇されている部分もあり、バランスは取りにくいと思いますが、バランスを取れる管理者(リーダー的な人)が必要ではないかと思いますが。性別による考え方も必要かと思いますが、原点に戻り、人としての考え方が必要だと私は思っています。
- ・女性の再就職支援の強化。男女とも非正規雇用労働者をなるべく少なくできたら良い社会になると思います。同一労働同一賃金の強化。
- ・地区の行事とか催しなどに、女性の参加も以前よりも数的には増えているように感じますが、昔からの習わしなのか、とても弱いと感じます。地区のPTAなどを見ていると、男性は女性任せにしてあまり会合などにはめんどくさいと思っているのか、女性が8割方を占めています。果たしてこれで良いのかと疑問に思うことが多々あります。男女共同参画はとても良いことだと思いますが、まだまだ浸透していないのが現状だと感じています。これから男女共同参画を進めていくには、もっともっと社会のニーズが増えていくことがとても大切なことだと痛感しています。

【女性 70 歳以上】

- ・男女共同参画という言葉はよく聞きますし、知っています。しかし、実際に具体的なことはあまり知りません。女性の社会参加をうながすことでしょうか。家庭内では男性より女性の方が上位の場合が多いと思います。これはこれで良いのではと思います。
- ・子供の虐待のニュースが多く、心が痛みます。
- ・高齢者中心の地域グループ活動にも色々な情報の伝達があればと望んでいます。
- ・年を重ねているので今の若者のこと、社会のことが一部しか分からず申し訳ありません。時々若い人に出会うことがあり、礼儀正しく嬉しくてホッとすることがあります。
- ・市の男女共同参画の大会が毎年すこやかセンターであると思うのですが、女性団体の主体でしていると思うのですが、一般の人にはあまり知らされていないような気がします。早めに広報にでも載っているのでしょうか？見落とししているのでしょうか。
- ・このアンケートは、私にとっては50年前の勤めていた頃と今とがあり、回答に迷うことがありました。
- ・昔に比べ随分と社会の中で女性の地位は向上し、保護されてきているのでは？多くの場面で女性を保護するあまり、男性が萎縮してきているのではないかと思うのはまちがいですか？格差を鑑みた本当の意味での男女平等が望ましいです。女性が忌憚なく活動活躍できる世の中が来ることが望みです。
- ・以前より進歩していると思います。

- ・必ず何事も相手の立場に立って考え直すこと。助け合う心が大切！
- ・体が不自由になって思うことは、自分がいつまで動けるか。してもらわないといけない時はお願いして最後まで助けてもらって生きること。してもらうばかりではダメ。何かで協力すれば幸せに暮らせると思う。その人の価値は、その人がどう生きるかで決まる。感謝の気持ちがあれば生きていけます。目があまり見えなくなり、乱筆でごめんなさい。私は現在幸せですよ！
- ・皆様の日頃より、御尽力、惜しまない労に感謝を致します。良く分からない私が申し上げるのは、と考へましたが、不思議と思ひ、また、色々削減になるのではないかと思ひ書かせて頂きます。男女共同参画、民生委員、愛育委員、協働員…他、多くの部署があります。根本的には同じことを目指しているのだと思ひます。人数分の報酬金を払っていると思うのですが、窓口を1つにまとめればと思うのですが…勿体ないと思ひます。それ程多くの人が必要でしょうか…。
- ・女性が働きやすい環境を推進してほしいと思ひます。
- ・日頃、テレビを観ていて、小さい子供に親が暴力をふるい死に至らしめたニュースは胸が痛くなります。名前をつける時には、幸せに大きくなってほしいと願って名づけをしたと思うのに、夜泣きをしたから、イライラしたと一ヶ月の子供を死に至らしめたニュースがありましたが、赤ちゃんは泣くのが仕事と考へ、もっと大きな気持ちで末永く育てていく我が子を見守れないでしょうか。
- ・人には持つて生まれた特性（男、女、能力 etc.）があり、その違ひがあるからこそ人間としての生活が成立する。なにが上か下か？男だ女だ共同だ…ではなく、みんなが生まれて来た意味を感じ、すべての個人が大切にされ、自分の適正に応じて力を発輝し、お互いを認め合つて理解し力を合わせなければ、これからの日本は、人口減少災害多発の時代は乗り切つていけない。これは国際的にも同じで、自分主義で利益追求した結果のコロナ禍は、地球がもたないと悲鳴をあげているようです。
- ・80歳を過ぎる夫は、女は家事をするものとの考へが抜けず、台所仕事は一さいしません。令和を生きる若い人達は男女を問はず、家事、育児を協働していつてもらいたいと思ひます。
- ・これ（アンケート調査）を機会に、私ももっと関心を高めさせてもらった！！一人一人の意識、まずは身の辺りの家族に、改めて考へさせたい！！と思ひています。
- ・結婚で玉野に来て、ちょうど50年になります。私自身は結婚後5年間、幼稚園に勤務しましたが、第二子（長女）出産後、退職し、以来ずっと専業主婦です。その中で、ある団体に入り、「家庭は、労力も経済的にも、男も女も、年寄りも子どももみんなで平等に力を出し合つて作つてゆくもの」という思想に出会い、共感して、3人の子どもたち（男・女・男）は男女に関係なくできる家事を「お手伝い」でなく「仕事」として分担し成長しました。今40代半ばから後半の3人の子どもたちの家庭は3家ともフルタイム共働きのです。それぞれ様子は異なりますが、どの家庭も夫と妻で力を出し合つて忙しい毎日を乗りこえています。特に二男の家庭（共に高校教員）は夫も1年間育休を取りました。夫婦で家計簿も記入しているようです。まだまだ女性が働く環境が整っていない職場もどんどんよくなって、男女共同参画が進んでいつてほしいです。

- ・理想は男女平等と言われていますが、家庭、地域においても、現実には、男性の位置はまだまだ上位にあると思います。でも私は、それで良いと思っています。
- ・男性はもっと家事を分担するべきですが、年配の人は今までの育ち方、環境で無理だと思います。本人が自覚して、少しでもするようにしたいと思います。配偶者が先に亡くなった場合、困るのは自分自身ですから。

【男性 70 歳以上】

- ・疑問に思うこと、積極的に行いたいことに対する相談窓口・支援を行うこと。
- ・戦後教育を受けた世代の私たちは男女の平等意識は比較的良いと思っている。しかし、日常の何気ない言動に、親世代から自然と受けた差別的なことをしている自分があることに気づくことがある。これから先、新しい考えを持った世代が増えていくことで、平等意識は当たり前のことになっていくと思う。子供たちへの教育は、学校はもちろんだが、家庭での日常生活を通じて親の影響が大きいと思う。両親は、やさしい子供達の為に良いお手本であってほしい。
- ・男女共同参画に協力したいと思っています。
- ・学生の制服は、男子はスラックス、女子はスカートが定番のようですが、女子もスラックス採用のところがあるようです。玉野市の実情がよく分かりませんが、全校採用でもいいのではないのでしょうか？職場にもよりますが、女性のハイヒールの義務付けも廃止すべきと思います。
- ・国・県・市議員の男女割合で分かると思います。全て男の方が多いです。そこを変えなければ、色んなことを進めても絵に描いた餅だと思います。
- ・地域活動に女性の参加をうながすこと、女性の力を支援すること。
- ・他市と比べ、催しものや行事が少なく、啓発もおとなし過ぎる傾向にあると思われます。TVや新聞などで総社市の片岡市長は率先して市民を牽引して行く姿が羨ましくてなりません。現在の市活動は衰退しかならず、市長の中心的存在感は見えてこないのが現状だと思われます。市が掲げた文言については、改定しない限り啓発や掲示、そして催しものと積極的に行うようにしていただきたい。義務教育の場でも正しく教えれば理解できる子供達が育ちます。まだまだパワハラやワーク・ライフ・バランス等は絵に描いた餅しかならず、経営者や個人の都合にしかとらわれていません。若い方とお年寄りに温度差（理解されているかどうか）が生じる結果になりかねません。全ての市民に理解をいただくように努力を惜しまない心と継続が必要です。
- ・男女共同参画も大切で、女性の進出を進めているが、母親が実子を育てることが大切だと思う。毎日のようにテレビ・新聞に載る子どもの虐待、死亡、実の親の殺害等は加害者の教育が悪いためである。生まれてすぐ保育所等に預け、働きに出る、遊びに走る等では、良い子育ては出来ないと思う。
- ・共同参画の意味がわかりづらい、なじめない。

- ・封建的な男尊女卑の考え方、行為は根深く、男は勿論のこと、女性でもそれをよしとする（面倒だから逆らわない）場面をよく見かける。親族の寄り合い、地域や公的行事などにおいて。勤務上でも公的活動でもほとんどの場におけるリーダーは独占的に男だ。50年前、20年前に比べれば、男女平等での進歩変化はあるが、微々たるものと言わざるをえない。どうするか？社会を運営する代表を男女同数に法制化するのが先進諸国からの教訓と考えます。玉野市が意識的に率先して男女平等、真の男女共同参画を実現する唯一の近道でもあらうと考えます。
- ・課題は山積していると思いますが、それぞれの課題に対して、「是々非々」で対応できればと思う。
- ・男女共同参画係があり、どの様な行動等をしてきたか全く知らなかったので諸活動不足では？
- ・物指向から、人間性指向の社会になって欲しい。動物としての人間社会、性による違い（体力、出産他）を素直に出せる社会になっていくのが良い。0～6才までは、母親と子供と一緒に居れる時間をできるだけ長く取れる制度（例えば収入20万円／年までの女性に子供6才までは10万円／月支給）にして、落ち着いた社会にしたいものである。子育てしなかった人が、老後、他人の子や孫にのうのうと介護してもらうのはいかなものか。
- ・男女を意識せず、何事も同じように扱うこと。男だ、女だと言っていると、その時点で男女差別だと思えます。

資料／調査票

玉野市男女共同参画に関するアンケート調査へのご協力をお願い

平素から、玉野市の男女共同参画行政の推進について、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

玉野市では、誰もがいきいきと自分らしく生きていくことのできる男女共同参画社会をめざした「第4次たまの男女共同参画プラン」に基づいて、さまざまな施策を推進しているところです。このたび、計画期間の満了にともない、新しい計画の策定に取り組んでいます。

この調査は、市民のみなさまの男女共同参画に関する意識やご意見をおうかがいし、今後の計画づくりのための基礎的な資料とさせていただくことを目的に実施するものです。

今回、市内にお住まいの18歳以上の方の中から1,500人を無作為に選ばせていただき、ご回答いただく方として、あなた様にご協力をお願いすることになりました。

この調査は無記名で行い、個人が特定されることはありません。また、お答えいただいた内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することは決してありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年（2020年）9月

玉野市長 黒田 晋

ご記入にあたってのお願い

1. 封筒のあて名のご本人がお答えください。ご本人の記入が難しい場合は、他の方に代筆をしていただいてもかまいません。
2. 黒のボールペンでご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。回答数は、各質問文に（○印1つ）、（○印3つまで）、（○印いくつでも）などと指定してありますので、それにしたがってお答えください。
4. 質問によっては、該当する番号に○印をつけた方だけに答えていただくものもありますので、その説明にしたがってお答えください。
5. 回答が「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
6. ご不明な点がありましたら、下記までお問合せください。

調査のお問い合わせ先

玉野市 総務部総務課 人権・男女共同参画係
〒706-8510 岡山県玉野市宇野 1-27-1(電話:0863-32-5547)

記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて
10月20日（火）までに投函してください。

2 男女平等意識についておたずねします

問2. あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①から⑧のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている
①家庭生活では	1	2	3	4	5
②職場では	1	2	3	4	5
③学校教育の場では	1	2	3	4	5
④議会や政治の場では	1	2	3	4	5
⑤法律や制度の上では	1	2	3	4	5
⑥社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5
⑦地域活動の中では	1	2	3	4	5
⑧社会全体としては	1	2	3	4	5

3 職業生活についておたずねします

問3. 女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の望ましい働き方だと思うのはどれですか。(○印1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(産休・育休を取得する場合を含む)
2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする
3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする
4. 子どもができるまでは仕事をする
5. 結婚するまでは仕事をする
6. 女性は仕事をしないほうがよい
7. その他()



© いいひみさいち

問4. あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。（〇印1つ）

- | | |
|------------------------|------|
| 1. 大変働きやすい状況にあると思う | →問6へ |
| 2. ある程度働きやすい状況にあると思う | →問6へ |
| 3. あまり働きやすい状況にあるとは思わない | →問5へ |
| 4. 働きやすい状況にあるとは思わない | →問5へ |
| 5. 一概には言えない | →問6へ |

問4で「3. あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「4. 働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた方のみお答えください。

問5. その理由は何ですか。（〇印いくつでも）

1. 家事の負担が大きいこと
2. 育児の負担が大きいこと
3. 高齢者など家族の介護の負担が大きいこと
4. 働くことに対する家族の理解や協力が少ないこと
5. 職場で男女格差があること
6. 職場で結婚・出産時に退職の慣例があること
7. 夫の転勤や長時間労働があること
8. 女性の就職先自体が少ないこと
9. 職場でハラスメント（セクシュアル・ハラスメント※1、マタニティ・ハラスメント※2、パワー・ハラスメント※3など）があること
10. その他（具体的に： _____）

※1 セクシュアル・ハラスメント…相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要等をいう

※2 マタニティ・ハラスメント…働く女性が妊娠・出産を理由として解雇されることや、職場で受ける精神的・肉体的な苦痛を与えるような行為をいう

※3 パワー・ハラスメント…職務上の地位や権限を利用し、業務上の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えるような行為をいう

子どもがいる方のみお答えください。

問6. あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）を取得したことがありますか。（〇印1つ）

- | | |
|----------------------------------|------|
| 1. 取得したことがある | →問7へ |
| 2. 取得したかったが、取得できなかった | →問8へ |
| 3. 取得する必要がなかったので、取得しなかった | →問9へ |
| 4. 制度を知らなかったので、取得できなかった | →問9へ |
| 5. 会社で育児休業制度が整っていなかったので、取得できなかった | →問9へ |
| 6. 取得したい時期には制度がまだなかった | →問9へ |



問6で「1. 取得したことがある」と答えた方のみお答えください。

問7. どれくらいの期間取得しましたか。(〇印1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 3日以内 | 5. 1か月以上3か月未満 |
| 2. 4日以上1週間未満 | 6. 3か月以上6か月未満 |
| 3. 1週間以上2週間未満 | 7. 6か月以上1年未満 |
| 4. 2週間以上1か月未満 | 8. 1年以上 |

問6で「2. 取得しなかったが、取得できなかった」と答えた方のみお答えください。

問8. それはなぜですか。(〇印いくつでも)

1. 業務が忙しく、人手不足だったから
2. 自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから
3. 職場が取得できる雰囲気ではなかったから
4. まわりに取得している人が(ほとんど)いないから
5. 収入が減ることが不安だったから
6. 昇進や昇給に悪影響があると思ったから
7. 上司や同僚に反対されたから
8. 配偶者や家族に反対されたから
9. その他(具体的に: _____)

介護が必要な人がいる(いたことがある)方のみお答えください。

問9. あなたは、これまでに介護休業を取得したことがありますか。(〇印1つ)

- | | |
|----------------------------------|-------|
| 1. 取得したことがある | →問11へ |
| 2. 取得しなかったが、取得できなかった | →問10へ |
| 3. 取得する必要がなかったため、取得しなかった | →問11へ |
| 4. 制度を知らなかったため、取得できなかった | →問11へ |
| 5. 会社で介護休業制度が整っていなかったため、取得できなかった | →問11へ |
| 6. 取得したい時期には制度がまだなかった | →問11へ |

問9で「2. 取得しなかったが、取得できなかった」と答えた方のみお答えください。

問10. それはなぜですか。(〇印いくつでも)

1. 業務が忙しく、人手不足だったから
2. 自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから
3. 職場が取得できる雰囲気ではなかったから
4. まわりに取得している人が(ほとんど)いないから
5. 収入が減ることが不安だったから
6. 昇進や昇給に悪影響があると思ったから
7. 上司や同僚に反対されたから
8. 家族に反対されたから
9. その他(具体的に: _____)



問 11. あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際に、働き方に変化がありましたか（男性の場合は配偶者・パートナーについて回答してください）。（○印1つ）

1. 結婚を機に仕事をやめた	→	<input type="checkbox"/> 問 12 へ
2. 妊娠を機に仕事をやめた	→	<input type="checkbox"/> 問 12 へ
3. 出産を機に仕事をやめた	→	<input type="checkbox"/> 問 12 へ
4. 仕事や働き方を変えずに働いた	→	<input type="checkbox"/> 問 13 へ
5. 同じ職場で、仕事や働き方を変えて働いた	→	<input type="checkbox"/> 問 13 へ
6. 別の職場に転職した	→	<input type="checkbox"/> 問 13 へ
7. もともと働いていなかった	→	<input type="checkbox"/> 問 13 へ
8. その他（	→	<input type="checkbox"/> 問 13 へ
9. 配偶者・パートナーはいない	→	<input type="checkbox"/> 問 13 へ

問 11 で 1～3 と回答した方のみお答えください。

問 12. 仕事をやめた理由は何ですか。（○印いくつでも）

1. もともと仕事をやめたかったから
2. 家事に十分な時間をかけたかったから
3. 子育てに十分な時間をかけたかったから
4. 介護に十分な時間をかけたかったから
5. 職場に十分な制度や理解がなかったから
6. 体力的に自信がなかったから
7. 家族や親族の理解や協力が得られなかったから
8. 保育所など子どもを預かってくれる場所がなかったから
9. 世帯に十分な収入があったから
10. その他（具体的に： _____）

現在、勤め人（一般社員・正社員、契約社員・派遣社員、パート・アルバイト、公務員・団体職員）の方のみお答えください。

問 13. あなたは、職場での男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。

①～⑥のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	ほぼ平等に なっている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている
①募集・採用	1	2	3
②賃金・昇給	1	2	3
③昇進や昇格	1	2	3
④能力評価・査定	1	2	3
⑤教育訓練や研修	1	2	3
⑥有給休暇の取得	1	2	3

4 ワーク・ライフ・バランス※⁴についておたずねします

※4 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）…

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たしながら家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方・暮らし方が選択・実現できること

問 14. 日常生活における、「仕事」、「家庭」、「プライベート（趣味・地域活動・学習など）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と②実際の（現実の）優先度をそれぞれお答えください。（○印1つずつ）

<p>①理想 (○印1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事を優先したい 2. 家庭を優先したい 3. プライベートを優先したい 4. 仕事と家庭を優先したい 5. 仕事とプライベートを優先したい 6. 家庭とプライベートを優先したい 7. 仕事と家庭とプライベート全てを調和したい
<p>②現実 (○印1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事を優先している 2. 家庭を優先している 3. プライベートを優先している 4. 仕事と家庭を優先している 5. 仕事とプライベートを優先している 6. 家庭とプライベートを優先している 7. 仕事と家庭とプライベート全てが調和している

問 15. 男女がともに、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのようなことが必要だと思えますか。（○印3つまで）

1. 男女が分担して家事や育児、介護などを行うことへの理解や意識改革を促進すること
2. 女性が働き続けることへの理解や意識改革を促進すること
3. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担について理解を示すこと
4. 延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること
5. 家事や育児を支援するサービスを充実すること
6. 高齢者や病人の介護サービスを充実すること
7. 短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること
8. 育児などで退職した人を再雇用する制度を取り入れること
9. その他（具体的に： _____）



問 16. あなたは、現在次のような地域活動に参加していますか。（〇印いくつでも）

1. 自治会、婦人会、老人会などの活動
2. P T A、子ども会などの子育てに関する活動
3. 趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動
4. 環境保護、清掃活動などの地球環境を守るための活動
5. 福祉・ボランティア・N P Oなどの活動
6. 防災・防犯・交通安全に関する活動
7. ホームステイ受け入れや海外ボランティアなどの国際交流活動
8. 行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動
9. その他（具体的に： _____）
10. 特に参加していない

5 家庭生活と男女の役割についておたずねします

問 17. あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。

①から⑤のそれぞれについてお答えください。（〇印1つつ）

	そう 思う	そう 思う い え ば	ど ち ら か と	そ う 思 わ な い い え ば	ど ち ら か と	そ う 思 わ な い
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4		
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）	1	2	3	4		
③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4		
④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである	1	2	3	4		
⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである	1	2	3	4		

問 18. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。

※子どもがいない方は、子どもがいると仮定してお答えください。（〇印いくつでも）

1. 男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる
2. 男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる
3. 男女ともに、社会人として自立できるように育てる
4. 男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる
5. 男性は外で働き、女性は家庭を守るように育てる
6. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
7. 子どもの個性に応じて育てる
8. その他（具体的に： _____）

問 19. あなたは、次のような家庭での役割について、主にだれが分担するのが【理想】だと思いますか。また、あなたの家庭では、【実際に】誰が分担していますか。

①～⑦のそれぞれについてお答えください。

※結婚されていない方は、結婚して子どもがいると仮定してお答えください。(○印1つずつ)

理 想	主に夫	どちらかといえは夫	夫婦が同じ程度	どちらかといえは妻	主に妻
①生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5
②日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5
③日常の家事	1	2	3	4	5
④家族の介護や看護	1	2	3	4	5
⑤子育て（教育・しつけ）	1	2	3	4	5
⑥地域活動への参加	1	2	3	4	5
⑦学校行事への参加	1	2	3	4	5

※結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。(○印1つずつ)

現 実	主に夫	どちらかといえは夫	夫婦が同じ程度	どちらかといえは妻	主に妻	該当なし
①生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
②日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5	6
③日常の家事	1	2	3	4	5	6
④家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6
⑤子育て（教育・しつけ）	1	2	3	4	5	6
⑥地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
⑦学校行事への参加	1	2	3	4	5	6



6 人権についておたずねします

問 20. あなたは、身近で①セクシュアル・ハラスメント*1、②マタニティ・ハラスメント*2、
③パワー・ハラスメント*3を経験したり、見聞きしたことがありますか。(○印いくつでも)

※1 セクシュアル・ハラスメント…相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要等をいう

※2 マタニティ・ハラスメント…働く女性が妊娠・出産を理由として解雇されることや、職場で受ける精神的・肉体的な苦痛を与えるような行為をいう

※3 パワー・ハラスメント…職務上の地位や権限を利用し、業務上の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えるような行為をいう

<p>①セクシュアル・ハラスメント (○印いくつでも)</p>	<p>1. 自分が直接経験したことがある 2. 自分のまわりに経験した人がいる 3. 一般的な知識として知っている 4. くわしくはわからないが、言葉は知っている 5. 知らない</p>
<p>②マタニティ・ハラスメント (○印いくつでも)</p>	<p>1. 自分が直接経験したことがある 2. 自分のまわりに経験した人がいる 3. 一般的な知識として知っている 4. くわしくはわからないが、言葉は知っている 5. 知らない</p>
<p>③パワー・ハラスメント (○印いくつでも)</p>	<p>1. 自分が直接経験したことがある 2. 自分のまわりに経験した人がいる 3. 一般的な知識として知っている 4. くわしくはわからないが、言葉は知っている 5. 知らない</p>



© いいひみさいち



© いいひみさいち

これまでに結婚（事実婚を含む）したことのある方のみお答えください。

問 21. あなたはこれまでに、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

（ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠を共にする交際相手（同棲相手、別居中の配偶者、元配偶者を含みます。）

①～⑤のそれぞれについてお答えください。（○印1つつ）

	まったく ない	あ った 1、 2 度	何 度 も あ っ た
①なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体的暴力を受けた	1	2	3
②人格を否定するような暴言、大声でののしる、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた	1	2	3
③生活費を渡さない、収入を取り上げる、外で働くことを妨害するなどの経済的暴力を受けた	1	2	3
④見たくないのにアダルトビデオ等を見せる、嫌がっているのに性的行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた	1	2	3
⑤電話やメールをチェックする、親や友人との付き合いを制限する、外出させないなどの社会的暴力を受けた	1	2	3

これまでに交際相手がいた方のみお答えください。

問 22. あなたはこれまでに、恋人や元恋人などの交際相手から次のようなことをされたことがありますか。①～⑤のそれぞれについてお答えください。（○印いくつでも）

	ま っ た く な い	十 代 に あ っ た	二 十 代 に あ っ た	三 十 代 以 降 に あ っ た
①なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体的暴力を受けた	1	2	3	4
②人格を否定するような暴言、大声でののしる、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた	1	2	3	4
③デート代を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなどの経済的暴力を受けた	1	2	3	4
④見たくないのにアダルトビデオ等を見せる、嫌がっているのに性的行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた	1	2	3	4
⑤電話やメールをチェックする、友人や他の異性との付き合いを制限するなどの社会的暴力を受けた	1	2	3	4

問 21 または 22 で、ひとつでも「まったくない」以外を回答した方のみお答えください。

**問 23. あなたは、その受けた行為についてだれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○印いくつでも)**

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1. 家族や親族に相談した | →問 25 へ |
| 2. 友人や知人に相談した | →問 25 へ |
| 3. 警察に連絡・相談した | →問 25 へ |
| 4. 県の相談窓口（県女性相談所、ウィズセンターなど）に相談した | →問 25 へ |
| 5. 市役所に相談した | →問 25 へ |
| 6. 市男女共同参画相談支援センター（日の出ふれあい会館内）に相談した | →問 25 へ |
| 7. 医療関係者（医師・看護師など）に相談した | →問 25 へ |
| 8. 弁護士に相談した | →問 25 へ |
| 9. その他（具体的に： _____） | →問 25 へ |
| 10. だれ（どこ）にも相談しなかった | →問 24 へ |

問 23 で「10. だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方のみお答えください。

問 24. だれ（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○印いくつでも）

- | |
|--|
| 1. だれ（どこ）に相談してよいか、わからなかったから |
| 2. 恥ずかしくて（世間体が悪くて）誰にも言えなかったから |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから |
| 4. 相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから |
| 5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから |
| 6. 自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから |
| 7. 他人を巻き込みたくなかったから |
| 8. そのことについて思い出したくなかったから |
| 9. 自分にも悪いところがあると思ったから |
| 10. 相談するほどのことではないと思ったから |
| 11. その他（具体的に： _____） |

問 25. 今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）^{※5}をなくすために、どのような対策が必要だと思えますか。（○印3つまで）

※5 ドメスティック・バイオレンス（DV）とは…

配偶者やパートナーからの暴力のことで、なぐる、けるなどの身体的暴力だけでなく、言葉による精神的暴力、性的暴力などいろいろなかたちがある。

- | |
|---|
| 1. DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発を行う |
| 2. 家庭で、保護者が子どもに対して、暴力を防止するための教育を行う |
| 3. 学校で、暴力等を防止するための教育を行う |
| 4. 地域で、暴力等を防止するための研修会やイベントを行う |
| 5. 職場で、暴力等を防止するための研修会を行う |
| 6. 加害者への罰則を強化する |
| 7. 加害者に対して、二度と暴力を繰り返さないための指導やカウンセリングを行う |
| 8. テレビやインターネットでの暴力を助長するおそれのある情報を規制する |
| 9. その他（具体的に： _____） |

問 26. ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害者のために、どのような支援が必要だと思いますか。（○印2つまで）

1. 相談窓口を増やす、相談窓口の情報を提供するなどの被害者が相談しやすい環境の整備
2. シェルターなどの被害者を保護する体制の整備
3. 被害者への経済的な自立に向けた支援
4. 被害者へのカウンセラーによる心理的な支援
5. 被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的な支援
6. その他（具体的に： _____）

7 防災への取組についておたずねします

問 27. 東日本大震災などの過去の災害の教訓から、平常時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと言われています。性別のちがいに配慮した防災・災害対応のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印いくつでも）

1. 女性も男性も防災訓練や防災研修会に参加する
2. 日ごろから、地域の男女共同参画を進める
3. 地域の消防団や自主防災組織における女性の参画を促進する
4. 防災に関する知識の普及において、災害時に女性と男性が受ける影響やニーズの違いについての理解を深める
5. 男女別のニーズの違いを踏まえた物資の備蓄を行う
6. 男女別のニーズに配慮した避難所運営マニュアルを作成する
7. 避難所運営の際に女性リーダーを配置したり、役割を性別で固定せず分担する
8. 更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う
9. その他（具体的に： _____）

8 LGBT※6など性的少数者※7についておたずねします

※6 LGBTとは…

性的少数者の一部である「レズビアン（女性の同性愛者）」「ゲイ（男性の同性愛者）」「バイセクシュアル（両性愛者）」「トランスジェンダー（身体の性と心の性の不一致）」の頭文字を並べた略称

※7 性的少数者とは…

「性的指向（どの性別を恋愛・性愛の対象とするか）」あるいは「性自認（自己の性をどの性別と認識するか）」に関する少数派のことを指す

問 28. あなたは、LGBTなど性的少数者について、どの程度知っていますか。（○印1つ）

1. 言葉と意味の両方を知っている
2. 言葉は知っている
3. 知らない



問 29. 現在の社会は、LGBTなど性的少数者の方にとって、生活しづらい社会だと思いますか。（○印1つ）

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. そう思う | →問 30 へ |
| 2. どちらかといえばそう思う | →問 30 へ |
| 3. どちらかといえばそう思わない | →問 31 へ |
| 4. そう思わない | →問 31 へ |
| 5. わからない | →問 31 へ |

問 29 で「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方のみお答えください。

問 30. LGBTなど性的少数者の方が生活しやすい社会にするためには、どのような取組みが必要だと思いますか。（○印いくつでも）

- | | |
|--|---|
| 1. 学校教育現場での取組（性の多様性に関わる授業、制服の選択制、トイレや更衣室の配慮など） | |
| 2. 企業での取組（企業内での研修など） | |
| 3. 相談体制の整備 | |
| 4. 性的指向・性自認に関する正しい理解のための啓発活動 | |
| 5. 性的少数者の利用に配慮した環境整備（多目的トイレなど） | |
| 6. 法律の整備 | |
| 7. その他（具体的に： | ） |
| 8. わからない | |

9 男女共同参画を推進するための取組についておたずねします

問 31. あなたは、玉野市男女共同参画推進センター（日の出ふれあい会館内）を利用したことがありますか。（○印1つ）

- | |
|------------------------------|
| 1. よく利用している |
| 2. 時々利用している |
| 3. 利用したことはないが、どのような施設かは知っている |
| 4. 知らない |

問 32. 玉野市男女共同参画推進センターでは、男女共同参画に関する啓発事業や相談事業などを行っていますが、あなたが特に推進すべきだと思う取組は何ですか。（○印2つまで）

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 自主的な活動への支援 | |
| 2. 男女共同参画についての講座の開催 | |
| 3. 市民のネットワークづくり | |
| 4. 情報の収集・提供 | |
| 5. 相談業務 | |
| 6. 調査・研究 | |
| 7. その他（具体的に： | ） |
| 8. わからない | |

問 33. 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、玉野市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇印3つまで）

1. 男女共同参画や人権尊重についての意識啓発を促進し、教育・学習の機会を充実する
2. 女性の就業や起業への支援、人材育成への支援を充実する
3. 保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援を充実する
4. 介護支援サービスを充実する
5. 働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける
6. 男女共同参画に積極的に取り組む企業等へ支援をする
7. 男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する
8. 男女共同参画の視点を取り入れた防災対策を推進する
9. 市議会議員の男女の候補者の数ができる限り均等となるよう働きかける
10. DVやハラスメントなどの相談窓口を充実する
11. 男女共同参画についての活動場所の整備を図る
12. 男女共同参画に視点を置いた国際的な交流・協力を推進する
13. 男女の違いに配慮した心身の健康づくりの推進を図る
14. その他（具体的に： _____）

問 34. 10年前と比べて、女性に対する人権意識や女性の地位は、どの程度改善してきたと思いますか。（〇印1つ）

1. 非常に改善してきたと思う
2. どちらかといえば改善していると思う
3. 以前と変わらないと思う
4. どちらかといえば悪くなってきていると思う

さいごに、あなたが日頃、家庭、学校、職場、地域などで男女平等や男女共同参画について感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

～ご協力ありがとうございました～

記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて
10月20日（火）までに投函してください。

